ICOM

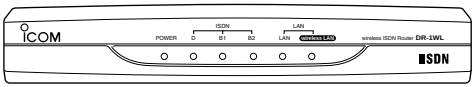
取扱説明書

11Mbps

WAVEMASTER

Wireless ISDN Router

DR−1WL



この取扱説明書は、最初にお読みください。
開梱してから、本製品を設置し、実際にインターネットにアクセスするまでの基本的な接続や設定方法を説明しています。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LAN機能を備えたWireless ISDN Routerです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。
Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。
Copyright(C) Open Loop Inc.
Copyright(C) Nippon Unisoft Corporation.
This product includes software developed at the Information Technology Division,
US Nanval Research Laboratory.
This product includes software developed by Eric Young(eay@mincom.oz.au).
Open LoopおよびSecured by OPENLOOPのロゴは、株式会社オープンループの商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

はじめに

本製品の概要について

◎本製品の設定は、すべてWWWブラウザから行えます。

◎無線LAN機能として、無線アクセスポイント(ローミングを含む)機能とルーター間無線通信機能を搭載しています。

◎お手持ちのDSU(デジタルサービスユニット)やDSU内蔵型TA(ターミナルアダプター)を接続できます。

◎DSUを装備するモデルは、ISDNや専用回線(OCN)に直接接続できます。また、そのDSUを切り離して、市販のDSUやDSU内蔵型TAと接続できます。

◎DSUを装備しないモデルには、DSUユニット(UX-153)を別売品に用意しています。

◎不慮の停電に備えて、停電対策用電池BOXを別売品に用意しています。

◎すべての弊社製無線通信LANカードに対応しています。

(2000年7月現在)

本製品の意図しない自動接続に注意!!

ISDNダイヤルアップ接続において、自動接続をするように設定すると、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長期接続されたり、意図しない自動接続を行ってしまうことがありますので、自動接続を設定したときは、本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプの状態および通信記録を確認するようにしてください。

本製品の構成について

■DSUなしモデル

DSUは搭載せず、ルーター、無線LAN機能を搭載するモデルです。

■DSUありモデル

DSU、ルーター、無線LAN機能を搭載するモデルです。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ずご返送ください。
ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

無線通信LANカードについて

本製品に使用する無線通信LANカードが11Mbps対応で、本製品の通信チャンネル(☞拡張機能ガイド)の設定を14チャンネル以外でご使用になるときは、つぎに示す「電波干渉に関するご注意」を必ずお読みください。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

1.この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

2.万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。

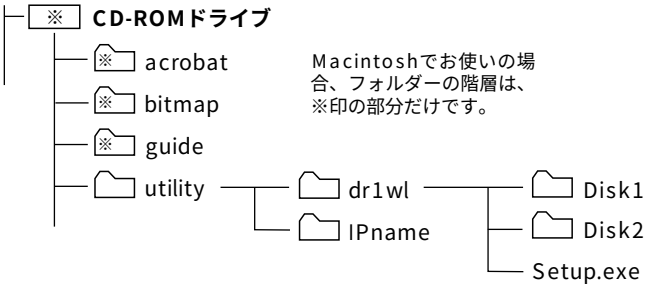
3.その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社　サービス課　06-6792-4949

付属CD-ROMの収録内容について

■フォルダーの階層

付属のCD-ROMには、本製品で使用するソフトウェアなどが、以下の階層で保存されています。
使用方法については、「CD-ROMの使いかた」(12章☞P90)をご覧ください。



■フォルダーの内容

acrobat (Windows/Macintosh用☞P90)
guideフォルダーに納められた活用ガイドをご覧になるために必要なソフトウェアです。

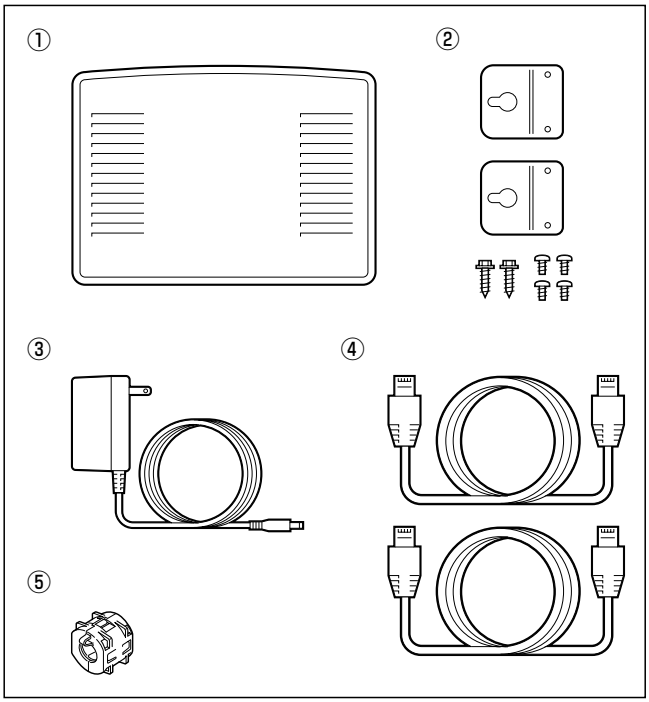
bitmap (Windows/Macintosh用)
弊社のオリジナル壁紙集がご利用になれます。

guide (Windows/Macintosh用☞P90)
本製品の設定例集と各種設定画面を説明する活用ガイドです。

utility (Windows用☞P90)
本製品の設定や設定内容初期化、ファームウェアの更新、DNSサーバー機能の設定に便利な4つのソフトウェアが納められています。

標準構成品

DSUなしモデル

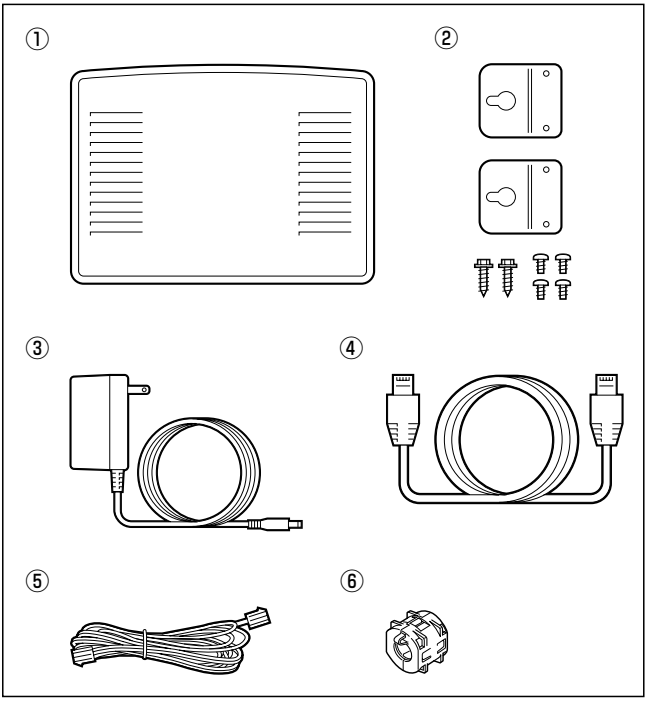


①DR-1WL(DSUなし)……1台
②本体固定用金具 ……1式
③ACアダプター(BC-123)……1個
④ETHERNETケーブル ……2本
※[ETHERNET]および[ISDN S/T]ポート接続用
※本製品に付属するETHERNETケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、どちらにも使用可能です。 (☞P108)
⑤フェライトコア(必ず装着してください。☞P10) ……1個
◎取扱説明書
◎CD-ROM(使いかた☞P90)
◎ユーザーサポート用愛用者カード
◎保証書

- このモデルには、DSUは内蔵されていません。
- 無線LAN機能をご使用の場合は、弊社別売品の無線通信LANカード(SL-1100/SL-1105)を別途ご用意ください。

標準構成品

DSUありモデル



①DR-1WL(DSUあり)……1台
②本体固定用金具 ……1式
③ACアダプター(BC-123)……1個
④ETHERNETケーブル ……1本
※[ETHERNET]ポート接続用
※本製品に付属するETHERNETケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、[ISDN S/T]ポートにも使用可能です。 (☞P108)
⑤6pinモジュラーケーブル……1本
※[ISDN U]ポート接続用
⑥フェライトコア(必ず装着してください。☞P10) ……1個
◎取扱説明書
◎CD-ROM(使いかた☞P90)
◎ユーザーサポート用愛用者カード
◎保証書

- このモデルには、DSUを内蔵しています。
- 無線LAN機能をご使用の場合は、弊社別売品の無線通信LANカード(SL-1100/SL-1105)を別途ご用意ください。

目　次

1. 安全上のご注意(必ずお読みください) ——— 1
2. 各部の名称と機能 ——— 6
2-1.前面パネル……6
2-2.後面パネル……7
2-3.底面パネル……9
3. 接続の前に ——— 10
3-1.フェライトコアの装着 ……10
3-2.設置場所 ……10
3-3.無線通信LANカードの装着 ……11
■装着時のご注意 ……11
3-4.設置方法 ……12
1.金具を本製品に固定する ……12
2.本製品を固定する ……12
3-5.接続時のご注意 ……14
3-6.ディップスイッチについて ……15
3-7.内蔵抵抗の設定 ……16
Ⓐ DSUなしモデル ……16
【DSUを外付けするには】 ……16
Ⓑ DSUありモデル ……16
【内蔵のDSUを使うには】 ……16
【DSUを外付けするには】 ……17
■設定時のご注意 ……17
4. 接続のしかた ——— 18
4-1.回線への接続 ……18
Ⓐ DSUなしモデル ……18
【市販のDSUと接続する】 ……18
Ⓑ DSUありモデル ……18
【内蔵のDSUと接続する】 ……18
【市販のDSUと接続する】 ……19
■回線接続時のご注意 ……19
4-2.コンピューターへの接続 ……20
4-3.HUBへの接続……21
4-4.そのほかの接続 ……22
5. コンピューターの設定 ——— 23
5-1.ネットワークの設定について ……23
Ⓐ ETHERNETカードの確認 ……23
Ⓑ プロトコルの確認……23
Ⓒ TCP/IPを設定する ……23
Ⓒ-1 Windows95/98の設定 ……24
Ⓒ-2 WindowsNT4.0(WorkStation)の設定 …27
Ⓒ-3 Windows2000(Professional)の設定……31
Ⓒ-4 Mac OSの設定 ……38

目　次

5-2.設定時のアドバイス ……39
5-3.ネットワークの設定値を確認するには ……40
6. Wireless ISDN Routerの設定——43
6-1.設定の前に ……43
6-2.有線端末から設定するには ……43
Ⓐ 接続のしかた ……43
Ⓑ 起動のしかた ……43
6-3.無線端末から設定するには ……44
Ⓐ 接続のしかた ……44
Ⓑ 無線端末の設定 ……44
Ⓒ 起動のしかた ……47
6-4.設定画面にアクセスするには ……48
6-5.[初期設定]画面からの設定 ……49
6-6.管理者IDの設定(初期設定-1) ……49
6-7.本体名称と内部時計の設定(初期設定-2) ……50
6-8.無線動作モードの設定(初期設定-3) ……51
6-9.無線LANセキュリティーの設定(初期設定-4) ……52
6-10.使用する回線の選択(初期設定-5) ……53
6-11.[初期設定-6]画面の設定
(ISDNダイヤルアップインターネット接続用) ……55
6-12.[初期設定-6]画面の設定
(ISDNダイヤルアップLAN間接続用) ……57
6-13.[初期設定-6]画面の設定(64kbps専用回線用) ……59
6-14.[初期設定-6]画面の設定(128kbps専用回線用)……61
6-15.[初期設定-6]画面の設定(OCNエコノミー用) ……63
6-16.[初期設定]画面の登録(初期設定-完了)……65
7. 回線接続試験をする ——66
7-1.ISDNダイヤルアップ接続の場合 ……66
7-2.専用回線の場合 ……67
7-3.OCNエコノミーの場合……68
7-4.ご参考に ……69
■ 回線を自動接続する ……69
■ 回線の自動切断時間を変更する ……70
■ IPアドレスを変更する ……71
■ 自動割り当て開始アドレスを変更する ……72
■ 自動割り当て開始アドレス変更時のご注意 ……73
■ 接続先を追加する ……73
8. Wireless ISDN Routerの拡張機能——74
8-1.無線アクセスポイント機能を使う ……74
Ⓐ 無線端末の設定 ……75
Ⓑ 本製品の設定 ……75

……次ページへ

目　次

Ⓒ本製品の無線LANの設定を行うには ……75
8-2.ローミング機能を使う ……77
8-3.ルーター間無線通信機能を使う ……78
■IPアドレスについて……78
■設定について……79
■「Router-1」の無線LANの設定を行うには ……79
■「Router-2」の無線LANの設定を行うには ……81
9. 設定の保存と書き込み ——82
9-1.[設定保存]画面について ……82
9-2.設定内容の保存 ……83
9-3.設定内容の書き込み ……84
10. 設定内容の初期化 ——85
Ⓐディップスイッチを使う ……85
Ⓑ設定画面を使う ……87
11. ファームウェアの更新 ——89
12. CD-ROMの使いかた ——90
13. 付属ソフトウェアについて ——91
13-1.Utilityとは ……91
13-2.インストールのしかた ……91
13-3.Utilityの使いかた ……92
Ⓐディップスイッチの変更 ……92
Ⓑコンピューターの接続 ……92
Ⓒ Utilityの起動 ……92
Ⓓ操作のしかた ……93
Ⓓ-1 設定内容の初期化操作 ……93
Ⓓ-2 ファームウェアの更新操作 ……94
13-4.IP Nameとは ……97
14. 設定画面の構成 ——98
15. 設定項目の初期値について ——99
16. 機能一覧表 ——100
17. 別売品について ——101
17-1.別売品について……101
17-2.停電対策用電池BOXについて ……101
17-3.DSUユニットについて ……102
18. 保守について ——103
19. お問い合わせについて ——104
20. 定格 ——105
21. 各種ポート仕様 ——108
22. 用語解説 ——109

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- **ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために､守っていただきたい事項を示しています。**
- **次の『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。**
- **お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。**

■Wireless ISDN Routerについて

⚠ 警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎付属品のACアダプター以外は使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎指定以外の付属品、および別売品は使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎設置する場合は、必ずアース線を接続してください。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。
火災、感電の原因になります。

◎完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎ACコードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。
感電、けがの原因になります。

◎水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。

◎通気口をふさがないでください。
発熱などにより、火災、感電、故障の原因になります。

◎接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。
そのまま使用すると､火災、感電、故障の原因になります。
すぐに本製品の電源を切り、本製品に接続するACコードのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

1 安全上のご注意

⚠ 注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。**

◎屋外に設置しないでください。
故障の原因になることがあります。

◎ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。
故障の原因になることがあります。

◎直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。

◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。

◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。

◎落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

◎近くに雷が発生したときは、ACアダプターを接続しているコンセントから抜いて、ISDN S/Tケーブルを取り外して、ご使用をお控えください。
ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。
火災、感電の原因になることがあります。

◎結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。

◎長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■無線通信LANカードについて

⚠ 警告　**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎取り付けや取り外しは、必ずWireless ISDN Routerと、接続する周辺機器の電源を切ってから行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎取り付けや取り外し、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かない場所で行ってください。
けが、感電の原因になります。

◎分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎水や海水につけたり、ぬらさないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。

⚠ 注意　**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。**

◎PCMCIAスロットに差し込むときは、無線通信LANカードの裏と表をまちがえないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。

◎上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。

◎落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。

◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎Wireless ISDN Routerを運用中に、取扱説明書の指示を無視して、本製品を取り外さないでください。
故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。

◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1 安全上のご注意

■DSUについて(DSUありモデルまたはUX-153別売品をご使用の場合)

⚠ 警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎説明とは異なる接続をしないでください。また、ケーブルや設定を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になります。

◎DSUの取り付けや取り外しは、手を挟んだり、手を切ったりしないように十分注意してください。
けがの原因になります。

◎その他の機器で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎このユニットは完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

■ACアダプターについて

⚠ 警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎AC 100V以外の電源電圧で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎その他の機器で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎ACコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎ACコードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎ACコードを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎ぬれた手でACプラグや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になります。

◎ACコードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

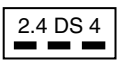
取り扱い上のご注意

◎動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクターをしっかり接続して、動作中は、コネクターの接続部に触れないでください。
◎コンピューターおよびその他の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。
◎本製品に付属するCD-ROM(ファームウェアアップデート用ユーティリティー)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。
◎本製品の設定データファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
◎本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。
◎本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

電波法上のご注意

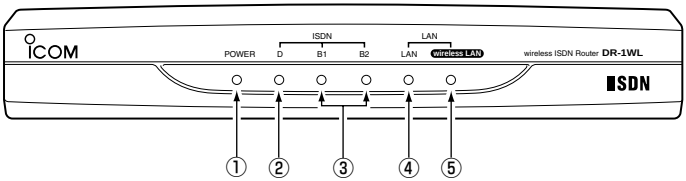
※本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合があるので、使用できません。
※無線通信LANカードは、技術基準適合証明および電気通信端末機器の技術的条件適合認定を受けた弊社製品を、ご使用ください。
上記以外の無線通信LANカードを使用して、公衆電話回線に接続することは、法律で禁じられています。
カード本体には、右図のような技適証明マークと技適証明番号および認定番号が印刷されたシールが貼られていることを確認してからご使用ください。

カード本体に、右図のようなシールが貼られているときは、必ず本書巻頭の「電波干渉に関するご注意」をお読みください。



2 各部の名称と機能

2-1 前面パネル



①[POWER]ランプ …… 本製品の電源を入れたとき、[ISDN U]ポート、または市販のDSUやDSU内蔵型TAを介して、[ISDN S/T]ポートに正しく回線が接続されていると点灯し、回線の未接続や異常があるときは、ゆっくり点滅します。 (☞P 19)
メール着信通知機能使用時、プロバイダーのメールサーバーに電子メールが到着すると、はやく点滅します。
(詳細☞活用ガイド)

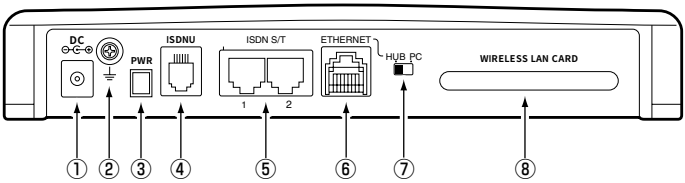
②[D]ランプ …… 将来の機能拡張用として設けられており、現在は機能していません。

③[B1/B2]ランプ …… 64kbps(Bチャンネル×1)モードで接続中は、使用中の[B1]ランプまたは[B2]ランプが点灯して、データ通信を開始すると点滅します。
128kbps(Bチャンネル×2)モードで接続中は、両方のランプが点灯して、データ通信を開始すると点滅します。

④[LAN]ランプ …… 有線LAN(ETHERNET)による接続が正常であるとき点灯し、通信中は点滅します。
[ETHERNET]ポートが接続を認識できないときは、消灯しますので、結線および[HUB/PC]スイッチの設定を確認してください。 (☞P 8、20、21)

⑤ wireless LAN ランプ … Wireless ISDN Routerの拡張機能(8章☞P 74)によるワイヤレス接続が正常であるとき点灯し、異常があると消灯します。
無線端末が認識できないときは、消灯しますので、無線端末の[Network Mode]および[ESS ID]を確認してください。 (☞P 44～46)
※確認方法は、無線通信LANカードに付属の取扱説明書にも詳しく記載しています。

2-2 後面パネル



① DCジャック …… フェライトコア(付属品)が装着(☞P10)された付属のACアダプター(BC-123)を接続します。

② アース端子 …… アース線を接続する端子です。
アース線は、市販のものをご用意ください。

③ [PWR]スイッチ …… 本製品の電源を「ON/OFF」するスイッチです。
スイッチはロック式で、押し込むと電源が「ON」します。

④ [ISDN U]ポート …… **【DSUなしモデルの場合】**
未使用ポートのため、機能しません。
【DSUありモデルの場合】
付属の6pinモジュラーケーブルを使って、ISDN回線または専用回線(OCN)のモジュラーコネクターと接続します。

⑤ [ISDN S/T 1]、[ISDN S/T 2]ポート デジタル通信機器を接続するポート(RJ-45型)です。
デジタル電話機やG4ファクシミリ、TAやDSUなどのデジタル機器を接続します。

⑥ [ETHERNET]ポート イーサネットポート(RJ-45型)です。
付属のETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、コンピューターやHUBを接続します。
※100BASE-TX(高速有線LAN)通信も可能です。
※100BASE-TX通信を行うには、本製品に付属するようなカテゴリー5以上のETHERNETケーブルを使う必要があります。
カテゴリーの低いものを同じLAN上に混用すると、一番低いグレードに全体のレベルが低下するので、ご注意ください。

……次ページへつづく

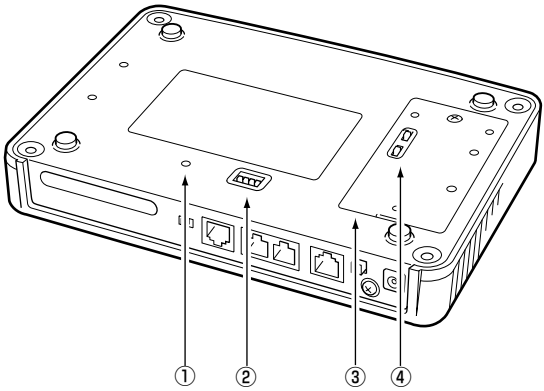
2-2 後面パネル(つづき)

※電源投入後、本製品を有線LANに接続した状態で、[LAN]ランプが点灯しないときは、[HUB/PC]スイッチを切り替えてください。 (☞P 20、21)

⑦ **[HUB/PC]スイッチ…** ETHERNETの極性を反転させるスイッチです。
ETHERNETケーブルの結線の違いや、接続に使用するHUBのポートに応じて以下のように切り替えます。
「HUB」側：[ETHERNET]ポート内部でストレート(記号:=)結線になります。
ETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、HUBのクロスポート(記号:×)と接続する場合など (☞P 21)
「PC」側：[ETHERNET]ポート内部でクロス(記号:×)結線になります。
ETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、HUBのストレートポート(記号:=)またはコンピューターのETHERNETカード側のポート(記号:=)と接続する場合など (☞P 20)

⑧ **PCMCIAスロット……** 弊社製無線通信LANカードの挿入口です。 (☞P 11)
2000年７月現在、発売されているすべての弊社製無線通信LANカードに対応します。
※無線通信LANカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
※**本製品とそのクライアントに装着する無線通信LANカードは、すべて弊社製の同機種をご使用ください。**

2-3 底面パネル



① **[RESET]ボタン**……　ペン先などで短く押すと、本製品を再起動(電源投入直後の状態)します。
※電源を入れなおしても、同じ状態になります。

② **ディップスイッチ**……(☞P 15)　スイッチ番号１と２は、S/T点を内蔵の抵抗(100Ω)で終端する(ON)かしない(OFF)かの選択をします。
スイッチ番号３は、電源投入時、Utility使用データ更新モードで起動する(OFF)かしない(ON)かの選択をします。
スイッチ番号４は、電源投入時、設定初期化モードで起動する(OFF)かしない(ON)かの選択をします。

③ **DSU**……　[ISDN U]ポートに接続されたISDN回線または専用回線(OCN)をISDN網に接続するための装置です。
※[DSUなしモデル]には搭載していません。

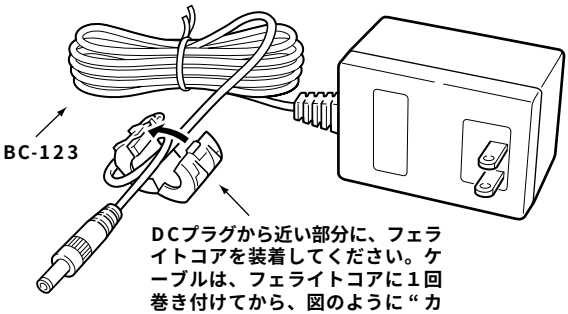
④ **[DSU]スイッチ**……　[DSUありモデル]に内蔵されたDSUを、本製品から電気的に切り離すか切り離さないかを切り替えます。
市販のDSUやDSU内蔵型TAを接続するときは、このスイッチを「OFF」にしてください。

④ **[ISDN U]スイッチ**…　[ISDN U]ポートの極性を反転させるスイッチです。
※通常は、「NOR」側で使用しますが、ISDN回線または専用回線(OCN)を接続した状態で電源を入れたとき、[POWER]ランプがゆっくり点滅するときは、「REV」側に切り替えてください。

3 接続の前に

3-1 フェライトコアの装着

図の位置に、本製品に付属のフェライトコアを付属のACアダプターに取り付けてからご使用ください。
取り付けないと、電波障害を引き起こすことがあります。



3-2 設置場所

【ご参考】
伝送距離は、設置場所によって多少異なりますが、無線通信LANカードにSL-1100またはSL-1105を使用する場合、以下の見通し距離を参考に設置してください。
屋内：約　50m
屋外：約150m(見通し)
伝送速度=11Mbps時
屋内：約30m
屋外：約70m(見通し)

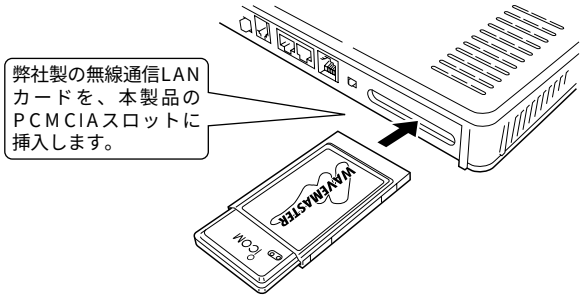
Wireless ISDN Routerの拡張機能(8章☞P74)を使う場合、設置場所に注意しないと通信範囲や速度に影響します。このときの設置条件は、次のとおりです。

◎室内で、なるべく見通しの良い(高い)場所
◎振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所
◎その他、以下のことを考慮して、設置してください。

- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かない。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。

3-3 無線通信LANカードの装着

Wireless ISDN Routerの拡張機能(8章☞P 74)を使用して、ワイヤレス接続するときは、本製品の電源を切ってから、無線通信LANカードを本製品に装着してください。
また、取り外すときも同様にして、カード部分を持って引き抜いてください。



■装着時のご注意

◎無線通信LANカードの取り付けや取り外しは、本製品の電源が切れている状態で、行ってください。
電源を入れた状態で行うと、故障の原因になることがあります。

◎本製品には、無線通信LANカードの専用ドライバーを組み込む必要はありません。

◎本製品とそのクライアントに装着する無線通信LANカードは、すべて弊社製の同じ機種をご使用ください。

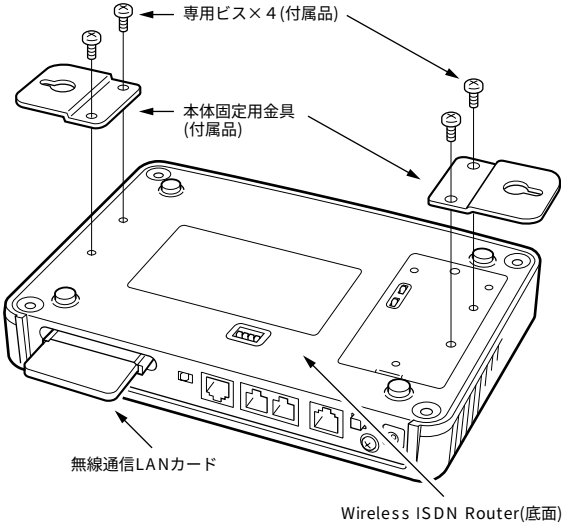
◎他社製のPCMCIAカードを本製品に装着しないでください。
装着すると、故障の原因になることがあります。

3-4 設置方法

本製品を壁面や棚などに固定するときは、次の図を参考に付属の固定用金具を取り付けてからご使用ください。

1.金具を本製品に固定する

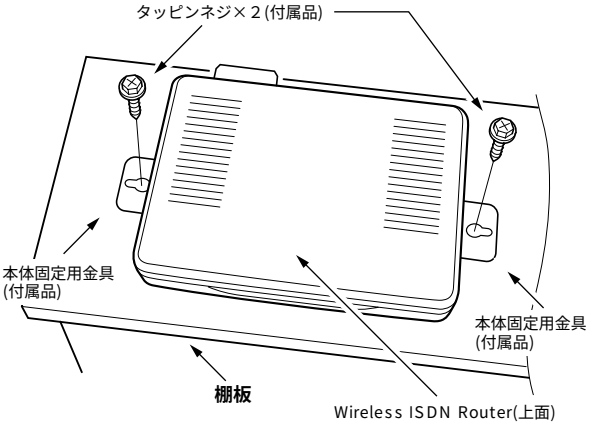
【おことわり】
[DSUありモデル]の図を使って説明しています。



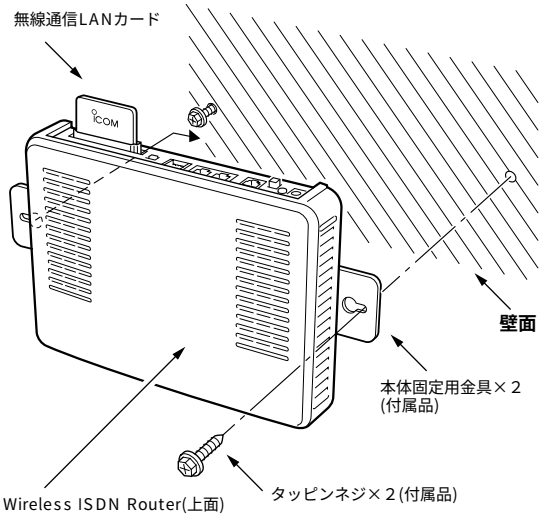
2.本製品を固定する

【棚板の上に固定する場合】

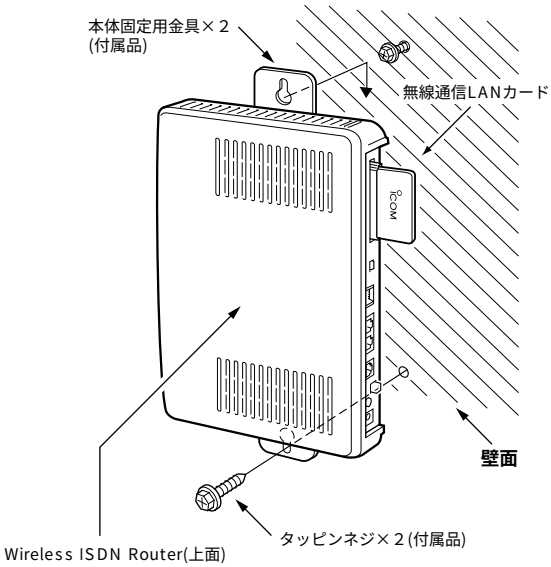
棚の上に置いた場合、本製品に接続されたACコードや接続ケーブルが、人体に触れるおそれがあるときは、落下防止のため、次の図のように、本体を付属の固定用金具で固定してください。



【壁面に、横向きにして固定する場合】



【壁面に、縦向きにして固定する場合】



3-5 接続時のご注意

◎本製品にワイヤレス接続するコンピューター(Windows)には、本製品に装着する無線通信LANカードと同じ機種の無線通信LANカードが必要です。

◎弊社指定以外の無線通信LANカードとの通信は、できません。

◎弊社製無線通信LANカードは、Macintoshに対応していません。

◎[DSUありモデル]に搭載のDSUを使うときは、市販のDSUを接続しないでください。
市販のDSUを接続すると、故障の原因になります。

◎市販のDSUやDSU内蔵型TAを外付けして回線を接続するときは、本製品の[ISDN S/T]ポートに接続してください。このとき、[DSUありモデル]に搭載のDSUは、底面パネルの[DSU]スイッチを「OFF」に設定してください。
「ON」に設定すると、故障の原因になります。 (☞P 17)

◎内蔵抵抗の設定にご注意ください。
接続のしかたによって、各機器の内蔵抵抗の設定をやりなおす必要があります。また、専用線、OCNエコノミーなどを使用する場合は、本製品の内蔵抵抗を常に終端する設定にしてください。 (☞P 16、17)

◎コンピューターやHUBは、[ETHERNET]ポートに接続してください。
ETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、コンピューターを本製品の[ETHERNET]ポートに接続するときは、[HUB/PC]スイッチを「PC」側に切り替えてください。 (☞P 8、20)

◎[ETHERNET]ポートに接続するコンピューターや、HUBに接続するコンピューターには、ETHERNETカード(ボード)が必要です。

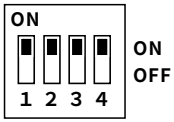
◎[ETHERNET]ポートと[ISDN S/T]ポートは、同一形状のRJ-45型モジュラージャックが装備されているため、市販のDSUやDSU内蔵型TAなどに付属するISDN S/Tケーブルを[ETHERNET]ポートに誤って接続すると、本製品が故障するおそれがあります。

◎本製品に付属するETHERNETケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN S/Tケーブルとして、[ISDN S/T]ポートに接続できます。

3-6 ディップスイッチについて

底面パネルにディップスイッチがあります。(☞P 9)
次の図は、工場出荷時の状態(ON)です。

1.受信信号終端スイッチ
2.送信信号終端スイッチ
3.Utility使用データ更新スイッチ
4.設定初期化スイッチ



【内蔵抵抗の設定】(設定方法☞P 16、17)
本製品に接続する機器に応じて、ディップスイッチ番号1と2の設定をそれぞれ同じ設定に変更してから、各種機器を接続してください。

内蔵抵抗の設定	スイッチ番号 1、2
S/T点を内蔵の抵抗(100Ω)で終端する	ON
S/T点を内蔵の抵抗(100Ω)で終端しない	OFF

【Utility使用データ更新モード】(操作方法☞P 92)
通常のご使用では、ディップスイッチ番号3を変更しないでください。また、変更後は、電源を再投入してください。

Utility使用データ更新モードでの起動	スイッチ番号 3
普通に使う状態で起動する	ON
Utility使用データ更新モードで起動する	OFF

【設定初期化モード】(操作方法☞P 85)
通常のご使用では、ディップスイッチ番号4を変更しないでください。また、変更後は、電源を再投入してください。

設定初期化モードでの起動	スイッチ番号 4
普通に使う状態で起動する	
設定初期化モードで起動する	OFF

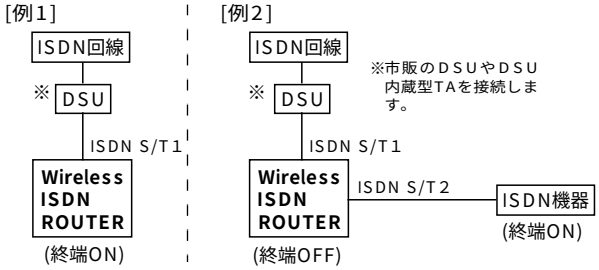
3-7 内蔵抵抗の設定

本製品をほかのISDN機器に接続するときは、次のブロック図(破線より右側)を参考にして、底面パネルのディップスイッチ(☞ P 9)をご使用に適した設定にしてください。
破線より左側のブロック図は、ほかのISDN機器を接続しない場合の設定(工場出荷時)です。

A DSUなしモデル

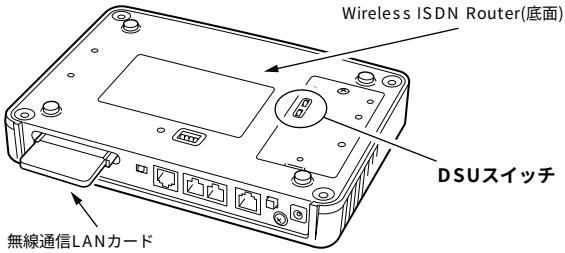
【DSUを外付けするには】
市販のDSUを使うには、下の図を参考に内蔵抵抗を設定してください。

【ご参考】
17ページに記載の「■設定時のご注意」と併せてご覧ください。



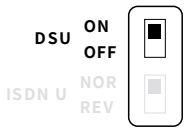
B DSUありモデル

[DSU]スイッチは、図の位置にあります。

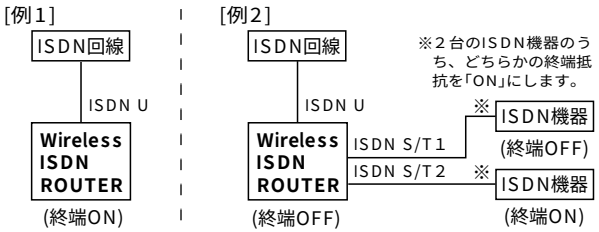


【内蔵のDSUを使うには】
内蔵のDSUを使うには、右図のように、[DSU]スイッチを「ON」に設定してから、下の図を参考に内蔵抵抗を設定してください。

【DSUスイッチの設定】



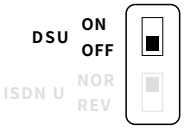
【ご参考】
17ページに記載の「■設定時のご注意」と併せてご覧ください。



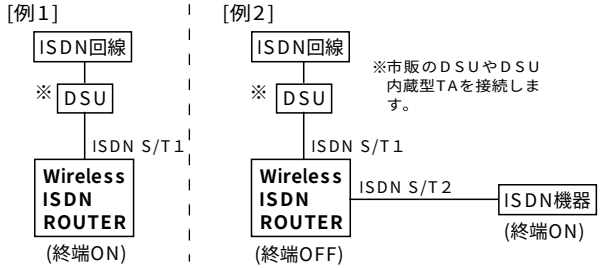
【DSUを外付けするには】

市販のDSUを使うには、右図のように、[DSU]スイッチを「OFF」に設定してから、下の図を参考に内蔵抵抗を設定してください。

【DSUスイッチの設定】



【ご参考】
下記の「■設定時のご注意」と併せてご覧ください。



■設定時のご注意

◎[ISDN S/T1]または[ISDN S/T2]ポートにISDN機器を追加する場合、本製品のディップスイッチの1番と2番は、「OFF」にして、必ず、これらのポートに接続された追加機器側にあたるどちらかのISDN機器の内蔵抵抗で終端してください。
通信ができないときは、再度、終端位置を確認してください。

◎専用線、OCNエコノミーサービスなどを使用する場合は、常に内蔵抵抗で終端してください。

◎本製品で市販のDSUをご使用になるときは、必ず[DSU]スイッチを「OFF」にしてください。
故障の原因になります。

4 接続のしかた

4-1 回線への接続

本製品をご契約の回線と接続します。

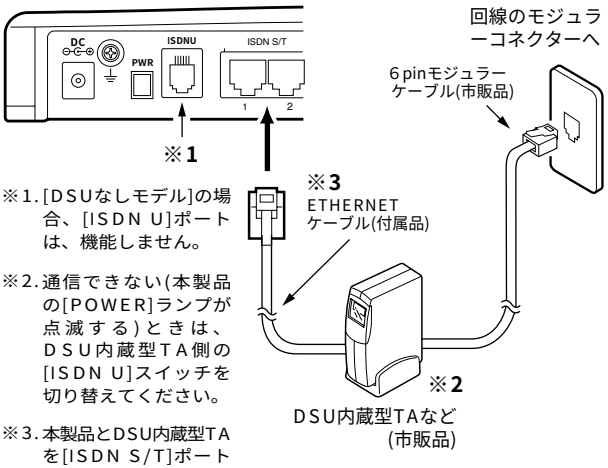
ISDN(INSネット64)回線、OCNエコノミー、専用回線などに接続してください。

電源投入時、回線の未接続や接続極性に異常があると、[POWER]ランプ(☞P6)がゆっくり点滅しますので、回線の接続やDSUの[ISDN U]スイッチを確認してください。

A DSUなしモデル

【ご参考】
19ページに記載の「■回線接続時のご注意」と併せてご覧ください。

【市販のDSUと接続する】



※1. [DSUなしモデル]の場合、[ISDN U]ポートは、機能しません。

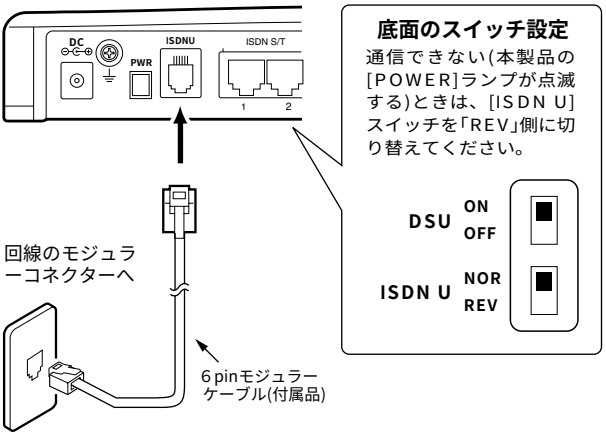
※2. 通信できない(本製品の[POWER]ランプが点滅する)ときは、DSU内蔵型TA側の[ISDN U]スイッチを切り替えてください。

※3. 本製品とDSU内蔵型TAを[ISDN S/T]ポートどうしで接続します。

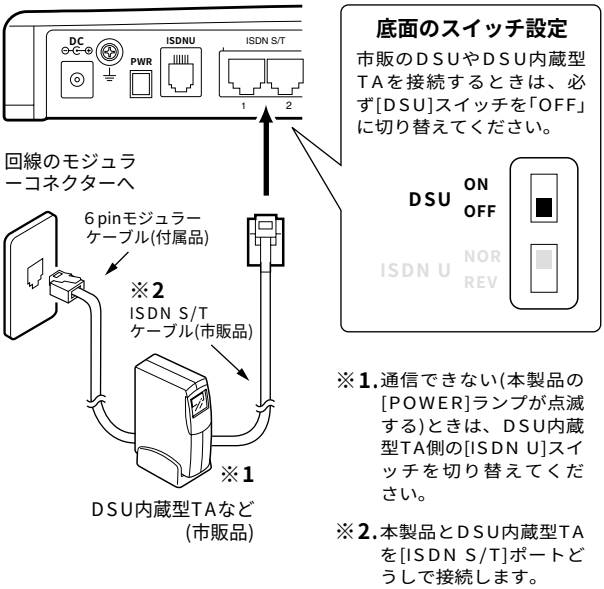
B DSUありモデル

【ご参考】
19ページに記載の「■回線接続時のご注意」と併せてご覧ください。

【内蔵のDSUと接続する】



【市販のDSUと接続する】



※**1.**通信できない(本製品の[POWER]ランプが点滅する)ときは、DSU内蔵型TA側の[ISDN U]スイッチを切り替えてください。

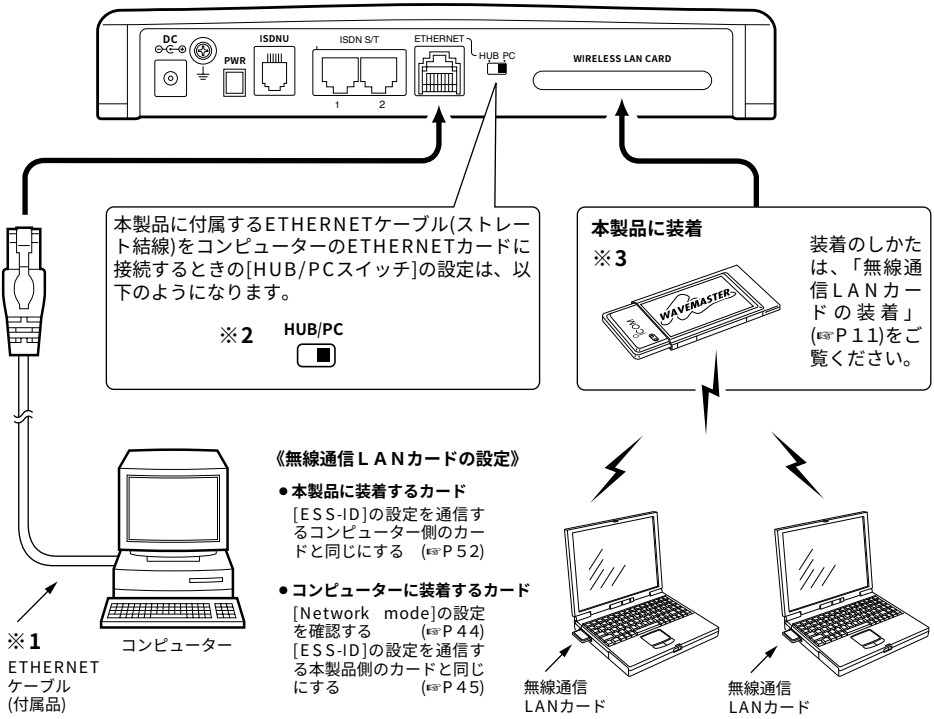
※**2.**本製品とDSU内蔵型TAを[ISDN S/T]ポートどうしで接続します。

■ 回線接続時のご注意

◎本製品は、アナログ電話回線に直接接続して、使用することはできません。
設定の前に、デジタル回線をご契約ください。
詳しくは、最寄りのNTTにお問い合わせください。

◎市販のDSU内蔵型TAなどに付属するISDN S/Tケーブルは、本製品の[ETHERNET]ポートに接続しないでください。
ETHERNETケーブルと結線が異なりますので、故障の原因になります。
なお、本製品に付属のETHERNETケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN S/Tケーブルとして、お使いのDSU内蔵型TAの[ISDN S/T]ポートに接続できます。

4-2 コンピューターへの接続

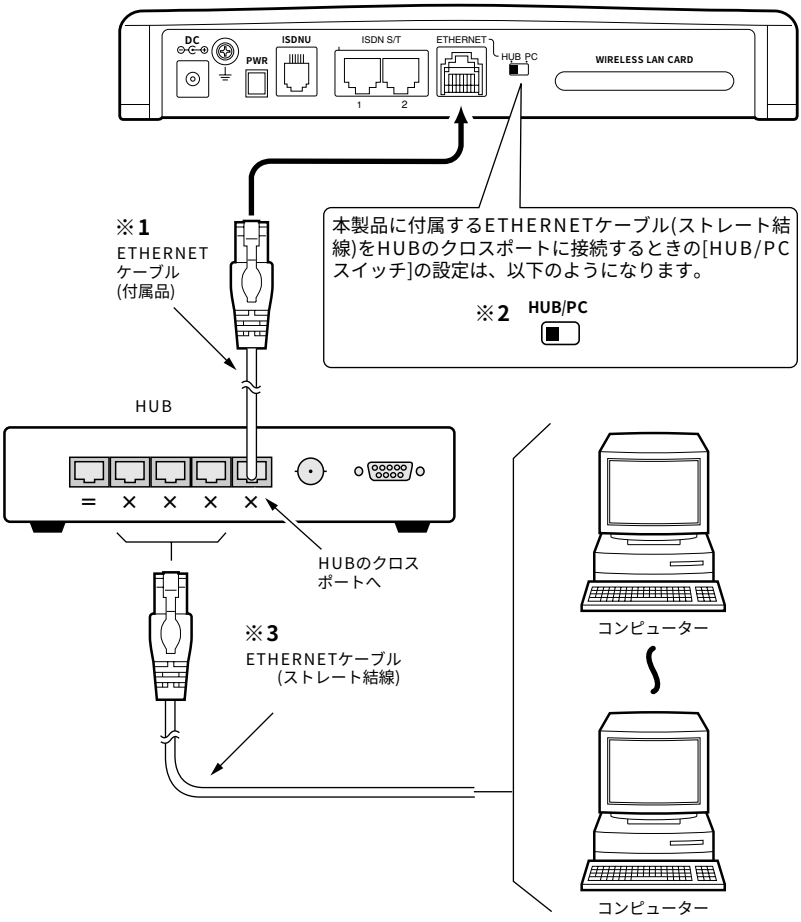


※1.付属品のETHERNETケーブルは、ストレート結線です。

※2.[ETHERNET]ポートの[HUB/PC]スイッチを切り替えるときは、電源を切った状態で行ってください。
クロス結線のETHERNETケーブルを使用して、コンピューターのETHERNETカードに接続するときは、「HUB」側に切り替えて使用してください。 (☞P8)

※3.弊社製無線通信LANカードは、Macintoshに対応していません。

4-3 HUBへの接続

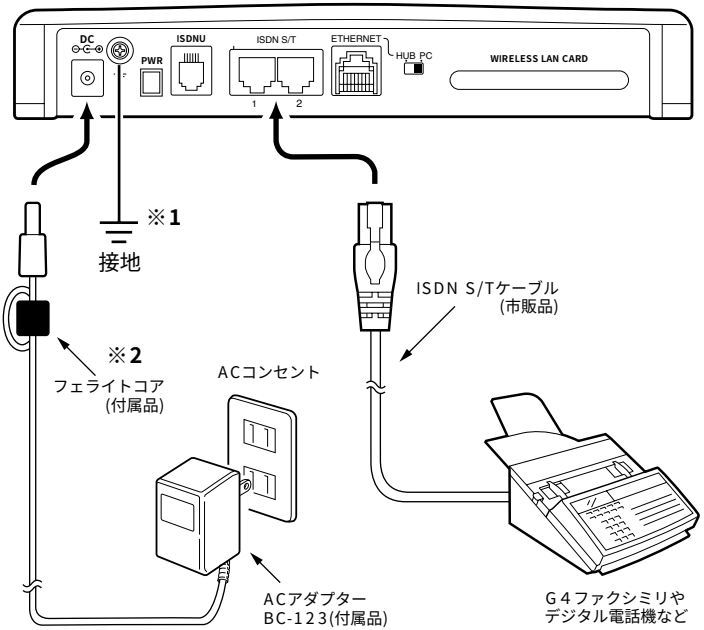


※1.付属品のETHERNETケーブルは、ストレート結線です。

※2.[ETHERNET]ポートの[HUB/PC]スイッチを切り替えるときは、電源を切った状態で行ってください。
クロス結線のETHERNETケーブルを使用して、HUBのクロスポートに接続するときは、「PC」側に切り替えて使用してください。 **(☞P8)**

※3.HUBのクロスポートとコンピューターを接続するETHERNETケーブルは、ストレートケーブルを使用します。

4-4 そのほかの接続



※1.アース端子への接続は、市販のアース線をご用意ください。

※2.ACアダプターを接続する前に、必ずフェライトコア(☞P10)を装着してください。

【無線ネットワークの設定について】
本製品のワイヤレス接続に使う弊社製無線通信LANカードを装着するWindowsコンピューターのプロトコル(TCP/IP)設定方法については、弊社製無線通信LANカードに付属の取扱説明書をご覧ください。

5-1 ネットワークの設定について

本製品の設定(6章☞P 43)は、なるべく有線を使って接続するコンピューターから行うようにしてください。
この章は、有線でコンピューターを本製品に接続することを前提とした説明です。
接続する前に、プロトコル(TCP/IP)の設定を行います。

- 現在、LANで使っているコンピューターを本製品に接続して本製品を設定するには、6章(☞P 43)に進みます。なお、現在割り当てられているIPアドレス、デフォルトゲートウェイをすべて削除してください。
- 今まで、LAN環境で使ったことがないコンピューターを本製品に使うには、以下の内容を確認してください。

A ETHERNETカードの確認

ご使用のコンピューターにETHERNETカード(ETHERNETボード)が装着されていて、そのETHERNETカードに付属の専用ドライバーがインストールされていることを確認してください。
インストールが必要なときは、ETHERNETカードに付属する取扱説明書を参考にしてください。

B プロトコルの確認

TCP/IPが、すべてのコンピューターにインストールされていることを確認してください。
インストールが必要なときは、OSのヘルプやETHERNETカード(ETHERNETボード)に付属する取扱説明書のTCP/IPについての項目を参考にしてください。

C TCP/IPを設定する

【ご参考】
ご購入時、「アクセスポイント専用モード」および「ルーター間無線通信専用モード」(☞P 51)を選ぶと本製品のDHCPサーバー機能は、無効になります。

Windows95/98、WindowsNT4.0/2000、MacOSのOpen Transportは、DHCPクライアントをサポートしています。
※コンピューターが、DHCPクライアントをサポートしていないときは、下記の４項目を手動で設定してください。

- ローカルIPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイアドレス
- DNSサーバーアドレス

5 コンピューターの設定

5-1 ネットワークの設定について(つづき)

C-1 Windows95/98の設定

右記の操作手順で、各項目を以下の内容に設定します。

- IPアドレス
  自動的に取得
- WINS設定
  解決しない
- ゲートウェイ
  空白の状態
- DNS設定
  DNSを使わない

【ご参考】
ネットワークの設定を変更すると、設定以前の内容は消去されます。

コンピューターのOSが、Windows95/98の場合、次の手順にしたがってTCP/IPの設定をしてください。

1.設定に使うコンピューターを起動します。

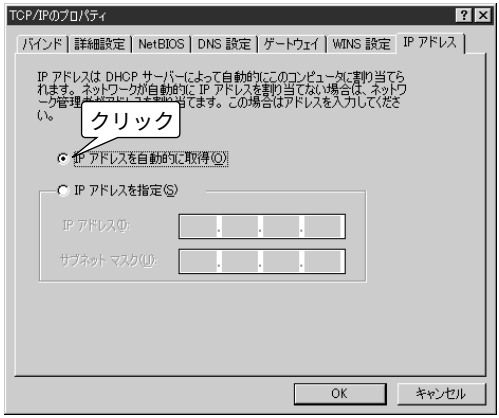
2.コンピューターが起動したら、〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[ネットワーク]アイコンの順番にマウスを操作すると、次の画面を表示します。

3.次の「ネットワーク」画面内の操作をします。

※1.上記画面①で選択する項目で、複数のアダプタがインストールされている場合は、「TCP/IP-〉[該当のアダプタ名]」をクリックします。
１つのアダプタだけをインストールしている場合は、「TCP/IP」をクリックします。

※2.[現在のネットワークコンポーネント(N)]の中に、「TCP/IP」項目がないときは、“ B プロトコルの確認 ”(☞P 23)の内容をご確認ください。

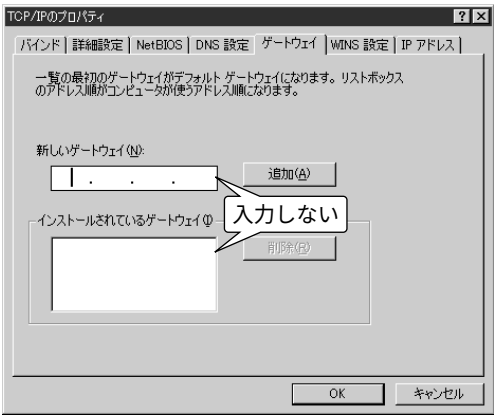
4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のオプションボタンをクリックします。



5.[WINS設定]タブをクリックして、次の画面内の操作をします。

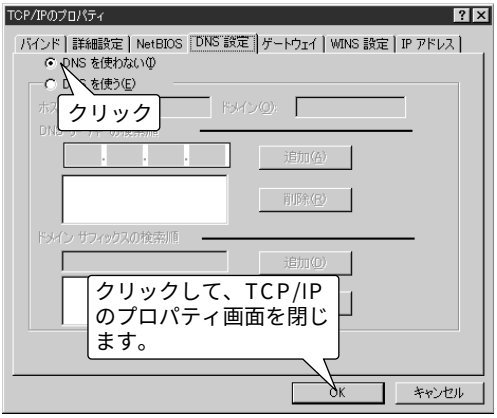
C-1 Windows95/98の設定(つづき)

6.[ゲートウェイ]タブをクリックして、次の画面内の操作をします。



7.[DNS設定]タブをクリックして、次の画面内の操作をします。

【ご参考】
LAN側のコンピューターのIPアドレスを手動で設定した場合（DHCP未使用の場合)、本製品のIPアドレスをDNSアドレスの設定欄に入力してください。



8.「ネットワーク」画面(手順3.☞P 24)で、〈OK〉ボタンをクリックします。

9.再起動を促す画面の表示で、コンピューターを一旦終了(シャットダウン)するため、〈いいえ(N)〉ボタンをクリックします。

10.〈スタート〉→[Windowsの終了(U)]→[電源を切れる状態にする(S)]の順番にマウスを操作します。

11.コンピューターの終了後、6章(☞P 43)に進みます。

C-2 WindowsNT4.0(WorkStation)の設定

右記の操作手順で、次の項目を設定します。

- IPアドレス
- DNS
- WINSアドレス
- ルーティング

【ご参考】
ネットワークの設定を変更すると、設定以前の内容は消去されます。

コンピューターのOSが、WindowsNT4.0の場合、次の手順にしたがってください。

1.設定に使用するコンピューターを起動します。
- WindowsNT4.0への「ログオン」画面を表示します。

2.Administrator権限でログオンします。

3.コンピューターが起動したら、〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[ネットワーク]アイコン→[プロトコル]タブの順番にマウスを操作すると、次の画面を表示します。

4.次の「ネットワーク」画面内の操作をします。

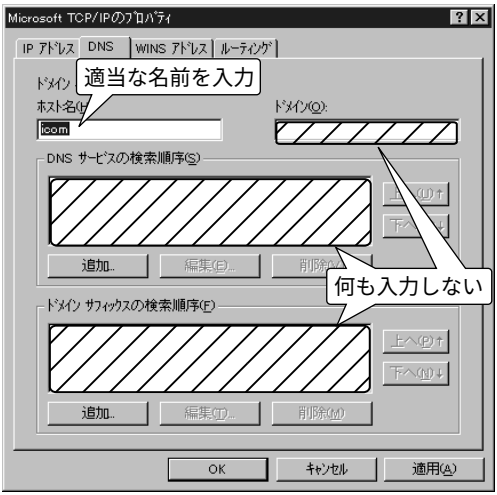
※[ネットワークプロトコル(N)]の中に、「TCP/IP」項目がないときは、“ B プロトコルの確認 ”(☞P 23)の内容をご確認ください。

C-2 WindowsNT4.0(WorkStation)の設定

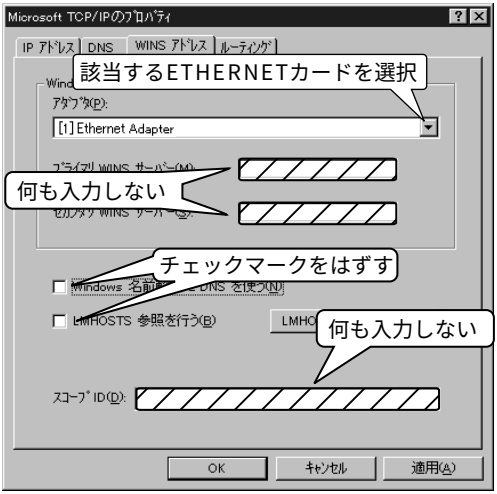
5.次の[Microsoft TCP/IPのプロパティ]画面内の操作をします。

6.[DNS]タブをクリックして、次の[Microsoft TCP/IPのプロパティ]画面内の操作をします。

【ご参考】
LAN側のコンピューターのIPアドレスを手動で設定した場合（DHCP未使用の場合)、本製品のIPアドレスをDNSアドレスの設定欄に入力してください。



7.[WINSアドレス]タブをクリックして、次の[Microsoft TCP/IPのプロパティ]画面内の操作をします。

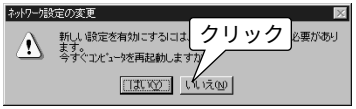


8.[ルーティング]タブをクリックして、次の[Microsoft TCP/IPのプロパティ]画面内の操作をします。

C-2 WindowsNT4.0(WorkStation)の設定(つづき)

9.次の[ネットワーク]画面内の操作をします。

10.次の[ネットワーク設定の変更]画面内の操作をします。



※コンピューターを一旦終了(シャットダウン)するため、ここでは〈いいえ〉をクリックします。

11.〈スタート〉→[シャットダウン(U)]→[シャットダウンする(S)]の順番にマウスを操作します。

12.コンピューターの終了後、6章(☞P 43)に進みます。

C TCP/IPを設定する(つづき)

C-3 Windows2000(Professional)の設定

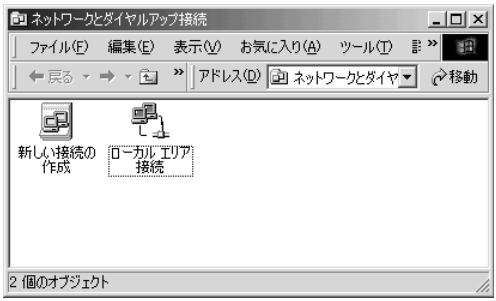
コンピューターのOSが、Windows2000の場合、次の手順にしたがってください。

1.設定に使用するコンピューターを起動します。

- Windows2000への「ログオン」画面を表示します。

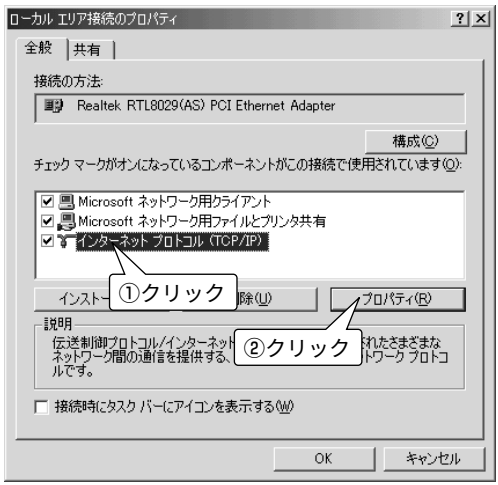
2.Administrator権限でログオンします。

3.コンピューターが起動したら、〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]タブの順番にマウスを操作すると、次の画面を表示します。



4.上記画面で、[ローカルエリア接続]アイコンを右クリックして表示する項目から、[プロパティ]をクリックすると、次の画面を表示します。

- 次の画面内の操作をします。

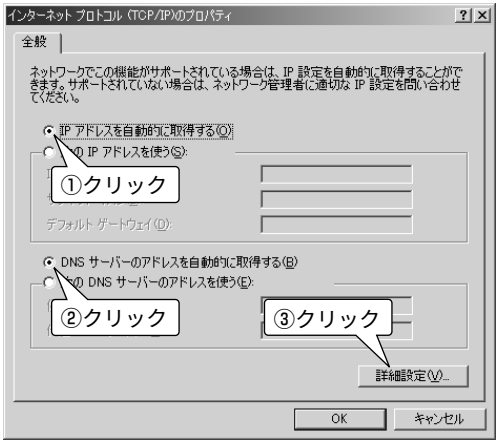


C TCP/IPを設定する

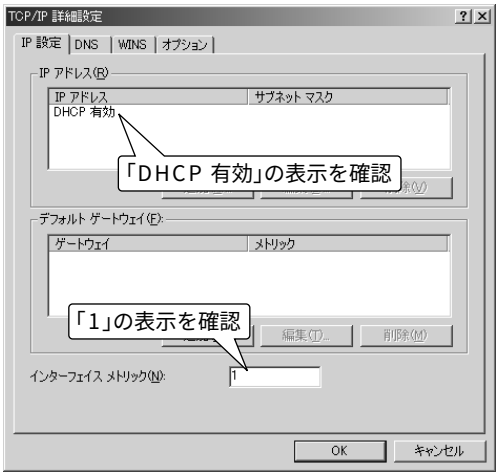
C-3 Windows2000(Professional)の設定(つづき)

【ご参考】
LAN側のコンピューターのIPアドレスを手動で設定した場合（DHCP未使用の場合)、本製品のIPアドレスをDNSアドレスの設定欄に入力してください。

5.次の画面内の操作をします。

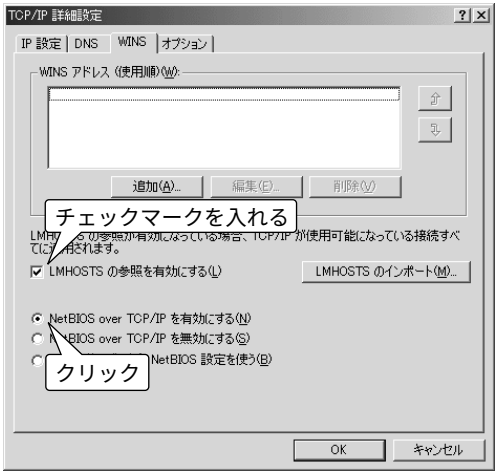


6.次の画面で、以下の表示を確認します。



7.[DNS]タブをクリックして、次の画面内の操作をします。

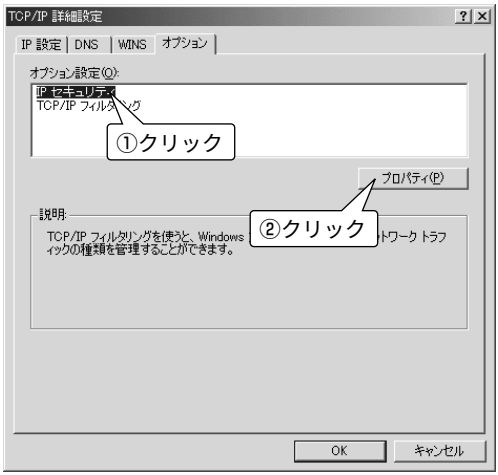
8.[WINS]タブをクリックして、次の画面内の操作をします。



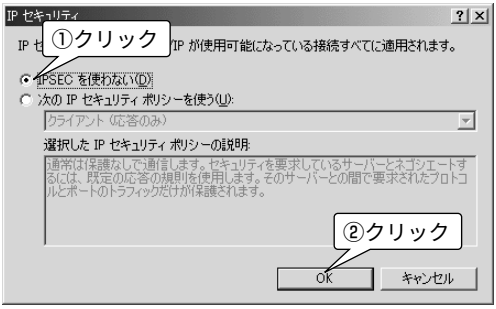
C TCP/IPを設定する

C-3 Windows2000(Professional)の設定(つづき)

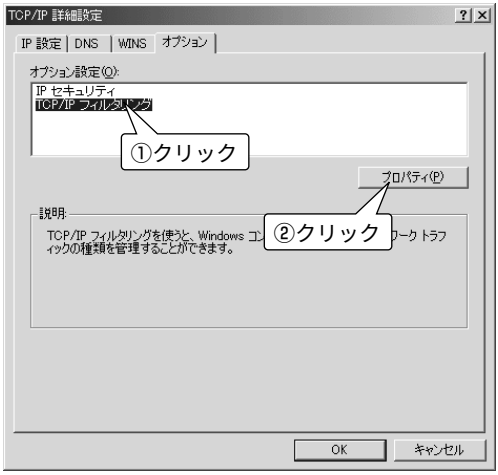
9.[オプション]タブをクリックして、次の画面内の操作をします。



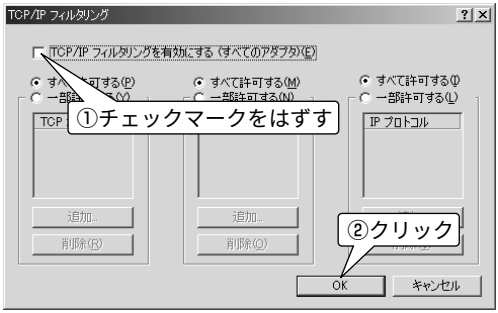
10.次の画面内の操作をします。



11.次の画面内の操作をします。



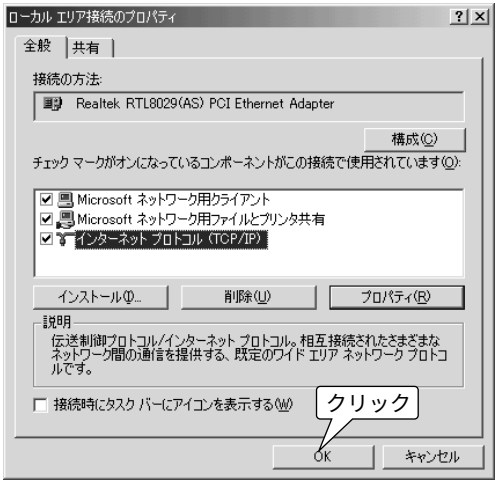
12.次の画面内の操作をします。



C TCP/IPを設定する
C-3 Windows2000(Professional)の設定(つづき)

13.再度表示される手順11.の画面で、〈OK〉ボタンをクリックすると、次の画面を表示します。

- 次の画面内の操作をします。



14.コンピューターの再起動を要求する画面が表示された場合は、次の操作をします。

※コンピューターを一旦終了(シャットダウン)するため、ここでは〈いいえ(N)〉をクリックします。

15.〈スタート〉→[シャットダウン]の順番にマウスを操作すると、次の画面を表示します。

- 次の画面内の操作をします。

16.コンピューターの終了後、6章(☞P 43)に進みます。

C TCP/IPを設定する(つづき)

C-4 Mac OSの設定

【ご参考】
ネットワークの設定を変更すると、設定以前の内容は消去されます。

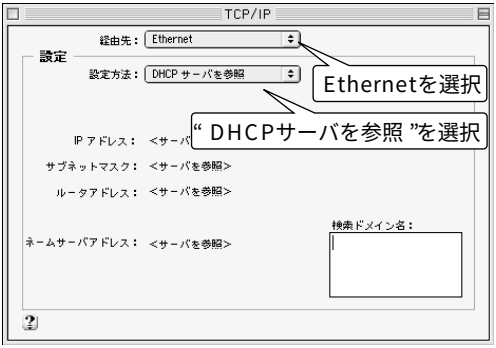
【おことわり】
右記の手順は、MacOS J1-8.6で操作する場合です。
ほかのバージョンのMacOSでは、操作手順や画面が若干異なる場合がありますので、お使いのMacOSのヘルプ等で、ご確認ください。

コンピューターのOSが、Mac OSの場合、次の手順にしたがってください。なお、弊社製の無線通信LANカードは、Macintoshに対応していませんので、有線でMacintoshを本製品に接続するために行う設定の説明です。

1.設定に使用するコンピューターを起動します。

2.コンピューターが起動したら、[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]の順番にマウスを操作します。

- 次の「TCP/IP」画面内の操作をします。



※[コントロールパネル]の中に、「TCP/IP」の項目がないときは、“ B プロトコルの確認 ”(☞P 23)をご覧ください。

3.タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。

- 設定を保存して、「TCP/IP」画面が閉じます。

4.コンピューターの終了後、6章(☞P 43)に進みます。

5-2 設定時のアドバイス

◎6章(☞P 43)で使うコンピューターの接続は、この章で説明する設定を終えたあと、コンピューターを一旦終了(シャットダウン)してから行ってください。

◎6章を終えてから、稼働中のネットワークへ本製品を接続してください。

◎TCP/IPでネットワークを構築するときは、接続するコンピューターにIPアドレスの設定が必要です。 (☞P 23)

◎Windowsは起動時に、本製品からローカルIPアドレスを取得します。
Mac OSは通信(WWWアクセスやメールアクセスなど)を開始するごとに、本製品からローカルIPアドレスを取得します。
この時、本製品の電源を入れて、DHCPサーバー機能が「する」に設定されていることを、72ページの画面を参考に確認してください。

◎コンピューターに、ローカルIPアドレスを割り当てようとしたとき、他のコンピューター(非DHCPクライアントで、手入力でローカルIPアドレスが設定されている)が、そのローカルIPアドレスを使用済みの場合、本製品は、そのローカルIPアドレスの存在を検出しません。

◎本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、5～128個(無線LANを含む)までです。
工場出荷時、割り当て可能な個数は、30個に設定されています。 (☞P 72)
同一ネットワーク上に接続するクライアント(ワイヤレス接続のクライアントも含む)のIPアドレスと、本製品がコンピューターに自動で割り当て可能なローカルIPアドレスの範囲が重ならないように注意してください。

5-3 ネットワークの設定値を確認するには

自動で取得したIPアドレスの確認や解放、または再取得をするときは、下記の手順にしたがってください。

■Windows95/98の場合

Windowsフォルダーにある「winipcfg.exe」というアプリケーションを使用します。

【起動のしかた】

1. 〈スタート〉ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行(R)]にカーソルを合わせてクリックします。

2. コマンドラインボックスに「winipcfg」と半角入力し、ENTERキーを押します。

- 次の[IP設定]画面を表示すると、起動が完了です。

3. テキストボックスの▼をクリックして、お使いのETHERNETカード(ETHERNETボード)名を指定してから、設定値の確認や解放、または再取得の操作をします。

◎**アダプタアドレス**　：ETHERNETカードのMACアドレス

◎**IPアドレス**　：コンピューターのIPアドレス

◎**サブネットマスク**　：本製品のLAN側のサブネットマスク

◎**デフォルトゲートウェイ**：本製品のLAN側のIPアドレス

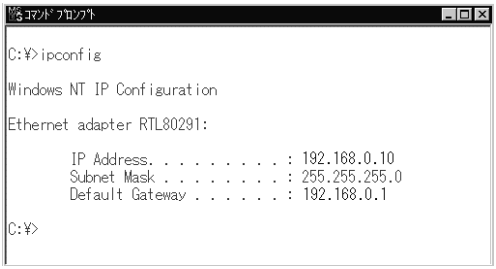
Windows98では、DHCPサーバーからIPアドレスが取得できない状態が続くと、OSがIPアドレスを用意して[IP設定]画面に表示します。この状態では、本製品に接続できていませんので、本製品との接続やコンピューターのTCP/IPの設定を確認してください。

【ご参考】
ICOM Launcher(☞P91)を使うと、右記の画面が簡単に起動できます。

■WindowsNT4.0(WorkStation)/ Windows2000(Professional)の場合

【ご参考】
詳しくは、「ipconfig/?」で表示されるヘルプをご覧ください。

コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。


コマンド プロンプト
C:¥>ipconfig
Windows NT IP Configuration
Ethernet adapter RTL80291:
IP Address. . . . . : 192.168.0.10
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . : 192.168.0.1
C:¥>

オペレーティングシステムによっては、DHCPサーバーからIPアドレスが取得できない状態が続くと、OSがIPアドレスを用意して[コマンドプロンプト]画面に表示します。この状態では、本製品に接続できていませんので、本製品との接続やコンピューターのTCP/IPの設定を確認してください。

5-3 ネットワークの設定値を確認するには(つづき)

■Mac OSの場合

TCP/IP設定時の画面(☞P 38)で、確認ができます。
表示例は、[設定方法：DHCPサーバを参照]に設定している場合の画面です。

【ご参考】
コンピューターの起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセスなど)を行うまで、DHCPサーバーからネットワーク設定値の取得をしないので、一度通信を行ってから確認してください。

【Macアドレスを確認するには】

1.[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[AppleTalk]の順番にマウスを操作すると、次のどちらかの画面を表示します。
※メニューバーの[編集]メニュー→[利用者モード]で表示する画面から「詳しい情報も指定」を選ぶと、右の画面を表示します。

2.上記画面で「経由先」を[ETHERNET]に選びます。

3.上記右の画面の〈情報〉ボタンをクリックします。
左の画面では、メニューバーの[ファイル]メニューから、「情報を見る」を選ぶと、次の画面を表示します。

MACアドレスの表示

6-1 設定の前に

【おことわり】
本製品に有線で接続できる環境をお持ちの場合、本製品の設定は、なるべく有線端末から行うようにしてください。

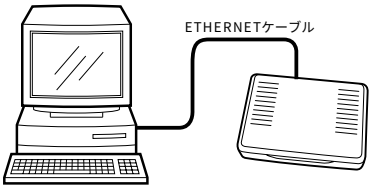
ご購入後、はじめて本製品を起動するときや、全設定内容を初期化したときは、稼働中のネットワークに接続されたコンピューターは、本製品から外してください。
設定に使うコンピューターだけを本製品に有線または無線を使って接続してください。

工場出荷時の状態で、本製品を稼働中のネットワークに接続すると、IPアドレスの競合など、不測の事態を招くおそれがあります。

6-2 有線端末から設定するには

A 接続のしかた

本製品に有線端末で接続する場合は、「コンピューターへの接続」(4-2章☞P 20)と併せてご覧ください。



B 起動のしかた

1.有線端末の接続が終われば、付属のACアダプターを、本製品のDCジャックとACコンセントに接続(4-4章☞P 22)します。

2.本製品の[PWR]スイッチを押すと、電源が入ります。

- 前面パネルのランプが全灯後、各ランプが点灯と消灯を繰り返しているあいだは、ハードウェアの初期化中です。その後、[POWER]ランプがゆっくり点滅し続けます。

3.本製品の初期化が完了したら、本製品の設定に使う有線端末だけを起動します。

- 正常に接続すると前面パネルの[LAN]ランプ(☞P 6)が点灯します。

※[LAN]ランプが点灯しないときは、[HUB/PC]スイッチを「PC」側に切り替えてください。 (☞P 20)

【ご参考】
[POWER]ランプの状態については、「前面パネル」(2-1章☞P 6)をご覧ください。

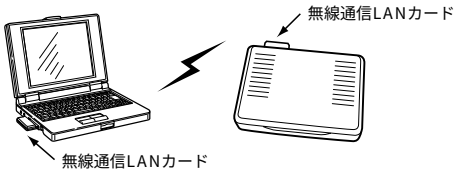
【ご注意】
HUBを介して接続するような場合、設定に使うコンピューター以外は、本製品の設定が終わるまで起動しないでください。

6-3 無線端末から設定するには

A 接続のしかた

本製品に無線端末で接続する場合は、「コンピューターへの接続」(4-2章☞P 20)と併せてご覧ください。

【おことわり】
- 無線通信LANカードは、弊社製で本製品に装着する機種と同じ機種を使用しないと通信できません。
- Macintoshは、無線端末として、ご利用になれません。



設定用無線端末　　Wireless ISDN Router

B 無線端末の設定

設定に使うコンピューターを上図のようにワイヤレス接続するには、次の環境が設定されている必要があります。
設定について詳しくは、弊社製無線通信LANカードに付属する取扱説明書をご覧ください。

◎弊社製無線通信LANカードドライバーのインストール
◎弊社製無線通信LANカードの[ESS ID]、[Network Mode]の確認
◎TCP/IPプロトコルの確認

【ご参考に】
Windows2000の場合、[Microsoftネットワーク共有サービス]は[Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有]と表記されています。

稼働中のネットワークに接続するときには、さらに以下の環境が設定されている必要があります。

◎Microsoftネットワーク共有サービスの確認
◎識別情報(ワークグループ)の確認
◎共有フォルダーの確認

B-1 Network Modeについて

【ご参考に】
無線通信LANカードとして、SL-100をご使用になる場合、コンピューターに装着するSL-100の[Wireless station type]は、「スレーブ」に設定してください。

工場出荷時、本製品には、[Network Mode]を上図のようなアクセスポイント機能(☞P 74)による接続が行えるように設定していますので、設定に使うコンピューターに装着する無線通信LANカードの設定についてもアクセスポイント接続するモードに設定(SL-1100/1105：Infrastructure)されていることを確認してください。(☞P 45〜46)

本製品にワイヤレス接続するコンピューターへ装着する無線通信LANカードの設定が、無線端末どうしが通信するモード(SL-1100/SL-1105：Adhoc)に設定されていると、本製品とワイヤレス接続できません。

B-2 ESS IDについて

外部から無断で無線ネットワークグループに接続することを防ぐための識別用IDです。
工場出荷時、本製品および無線通信LANカードの[ESS ID]は、LG(半角で大文字)です。

本製品とワイヤレス接続したいコンピューター、およびそのネットワークグループに属するコンピューターに同じ[ESS ID]を設定しないと通信できません。

【ご参考に】
無線通信LANカードとして、SL-100を本製品にご使用の場合、[ESS ID]を[Net Key]と表記しています。

B-3 確認のしかた

次の操作で[Network Mode]と[ESS ID]を確認できます。

設定値を変更したときは、必ずコンピューターを再起動してください。
設定値を変更するだけでは、ワイヤレス接続できません。
なお、無線通信LANカードに付属する「ユーティリティー」を使用すると、再起動が不要になります。
無線通信LANカードに付属する取扱説明書と併せてご覧ください。

【Windows95/98の場合】
〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[ネットワーク]アイコンの順番にマウスを操作して表示する画面の[現在のネットワークコンポーネント(N):]の中から、「Icom SL-1100(または1105) Wireless LAN Adapter(PCMCIA)」をダブルクリックします。
新たに表示する画面から、[詳細設定]タブをクリックすると、次の画面を表示します。
【表示例：Windows98】

【ご参考に】
弊社製無線通信LANカードドライバーをコンピューターにインストールしないと右の画面は表示されません。インストールの方法については、弊社製無線通信LANカードに付属する取扱説明書をご覧ください。
【おことわり】
右記の画面は、Windows98用です。
Windows95の場合、右記の画面の[プロパティ(P)]に表示される項目の数が異なります。

6-3 無線端末から設定するには(つづき)

B-3 確認のしかた(つづき)

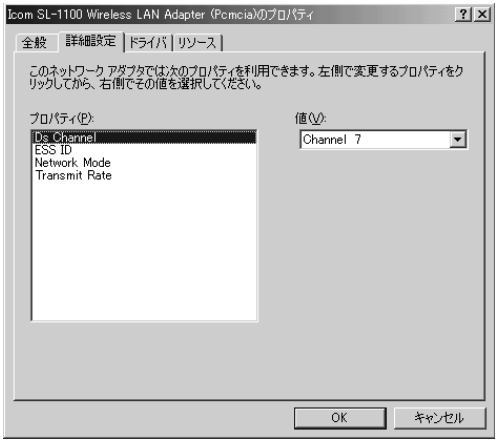
【WindowsNT4.0の場合】

〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[ネットワーク]アイコン→[アダプタ]タブの順番にマウスを操作して表示する画面で、[ネットワークアダプタ(N):]の中から、「Icom SL-1100(または1105) Wireless LAN Adapter(PCMCIA)」をダブルクリックすると、次の画面を表示します。

【おことわり】
弊社製無線通信LANカードドライバーをコンピューターにインストールしないとこれらの画面は表示されません。インストールの方法については、弊社製無線通信LANカードに付属する取扱説明書をご覧ください。

【Windows2000の場合】

〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番にマウスを操作して表示する画面で、該当の[ローカルエリア接続]アイコンをダブルクリックします。次の画面で、〈プロパティ(P)〉をクリックして表示する画面から、〈構成(C)〉→[詳細設定]タブの順番にマウスを操作すると、次の画面を表示します。



C 起動のしかた

【ご参考】
[POWER]ランプの状態については、「前面パネル」(2-1章☞P6)をご覧ください。

【ご注意】
HUBを介して接続するような場合、設定に使うコンピューター以外は、本製品の設定が終わるまで起動しないでください。

1.「無線端末の接続」と「無線端末の設定」(☞P44)が終われば、付属のACアダプターを、本製品のDCジャックとACコンセントに接続(4-4章☞P22)します。

2.本製品の[PWR]スイッチを押すと、電源が入ります。

- 前面パネルのランプが全灯後、各ランプが点灯と消灯を繰り返しているあいだは、ハードウェアの初期化中です。その後、[POWER]ランプがゆっくり点滅を続けます。
- 本製品に装着された無線通信LANカードのランプは、どちらも薄く点滅を繰り返します。

3.本製品の初期化が完了したら、無線通信LANカードが装着された本製品の設定に使うコンピューターだけを起動します。

- 正常に接続すると前面パネルの wireless LAN ランプ(☞P6)が点灯して、コンピューターに装着された無線通信LANカードの緑色のランプは、薄暗く点滅を繰り返します。また、赤色のランプは、本製品にアクセスすると点滅します。

※前面パネルの wireless LAN ランプが点灯しないときは、無線端末に設定された[Network Mode]と[ESS ID]をもう一度確認してください。

※コンピューターに装着された無線通信ランプが点灯しなかったり、上記で説明した状態でないときは、ドライバーが正しくインストールされているかを確認してください。

6-4 設定画面にアクセスするには

【おことわり】
- お使いになるWWWブラウザの違いで、設定画面表示が少し異なる場合があります。
- お使いになるWWWブラウザは、なるべく最新版のNetscape NavigatorまたはInternet Explorerをご用意ください。

【プロキシ】
WWWブラウザのプロキシサーバー機能は、必ず「使用しない」に設定してください。
設定方法については、WWWブラウザのヘルプを参照してください。

【設定画面】
本製品の設定画面の操作は、Ver1.6(ファームウェアバージョン1.6)を使用して説明しています。

本製品に接続先の情報を登録するには、WWWブラウザから本製品の設定画面にアクセスして行います。
設定用端末にWWWブラウザがインストールされていないときは、別途ご用意ください。

1.設定用端末から、WWWブラウザを起動します。
2.URLとして、次の本体IPアドレスを指定します。
- **http：//192.168.0.1/ [工場出荷時の設定]**

※工場出荷時、DNSサーバーの代理応答が有効ですので、本製品の名前(本体名称☞P50)を下記のアドレス形式で指定することもできます。
- http：//web.dr-1wl/

3.アクセスに成功すると、次の[オープニング]画面を表示します。

【オープニング画面】

※設定完了後、次回アクセス時は、選択した回線の接続先状況の画面を表示します。
※画面にアクセスできない場合は、コンピューターのIPアドレスを再取得するか、コンピューターを再起動して、はじめからやりなおしてください。　(5-3章☞P40)
4.状況に応じて、〈初期設定〉ボタンまたは〈メニューへ〉ボタンをクリックします。
- [初期設定]：回線へ接続するのための最低必要な項目を確認しながら、登録番号01の接続先についての設定が順番に行えます。(6-5章☞P49)
- [メニューへ]：[初期設定]で設定した内容についての詳細設定や、接続先の追加設定が行えます。　(活用ガイド☞設定例集)

6-5 [初期設定]画面からの設定

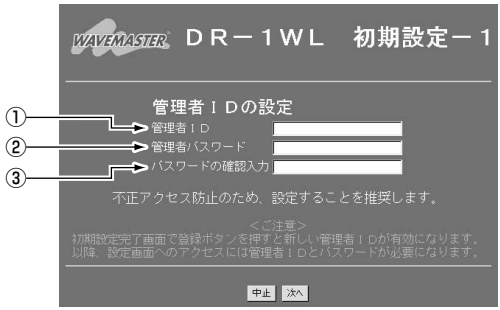
【ご参考】
[初期設定]画面で、設定する内容は、設定保存後、[メインメニュー]画面に反映され、変更も可能です。

ご購入直後や設定内容をすべて初期化後のアクセスで、最初に表示される[オープニング]画面内の〈初期設定〉ボタンをクリックすると、表示する設定画面の説明です。
設定に沿って、各画面内の下部にある〈次へ〉ボタンをクリックすると、設定が順番に進むように構成しています。
〈戻る〉ボタンをクリックすると、ひとつ手前の画面に戻ります。

6-6 管理者IDの設定(初期設定−1)

【ご参考】
設定保存後、[各種設定管理]項目の[本体管理設定]画面に反映され、その画面から再設定できます。

本製品の設定画面に入るためのパスワードを設定できます。ネットワークの管理上、パスワードを設定することをおすすめします。



① 管理者ID …… ネットワーク管理者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：Router)
管理者IDを設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。

② 管理者パスワード …… 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (表示例：✶✶✶✶)
パスワードを設定すると、次回のアクセスからパスワード入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。

③ パスワードの確認入力 入力間違いを防ぐため、管理者パスワードを再入力する欄です。 (表示例：✶✶✶✶)

6-7 本体名称と内部時計の設定(初期設定−2)

① 本体名称 ……

ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
設定した内容は、本製品の設定画面にアクセスするために、[http://web.本体名称/]をURL名に指定できます。
(☞P 48)
変更するときは、ほかのネットワーク機器と重複しないように、英数字、半角 31(全角 15)文字以内で入力します。
(初期値：DR-1WL)

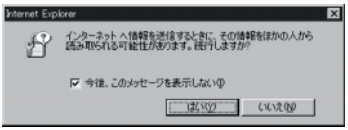
【ご参考】
本体名称は、設定保存後、[ネットワーク設定]項目の[LAN側IP設定]画面に反映され、その画面から再設定できます。

② 設定時刻 ……

本製品の設定画面にアクセスしているコンピューターの時計設定を取得します。なお、時刻を再取得するときは、WWWブラウザの[更新]ボタン、あるいは〈再読み込み〉ボタンをクリックします。
設定時刻は、常に、[ISDN接続状況]画面(7-1章☞P 66)に表示されます。
※本製品の[PWR]スイッチで電源を切る(不慮の事故などの停電も同様)と、設定時刻が初期値に戻りますので、[時計設定]画面の〈登録〉ボタンで更新してください。

【ご参考】
設定時刻は、設定保存後、[各種設定管理]項目の[時計設定]画面に反映され、その画面から再設定できます。

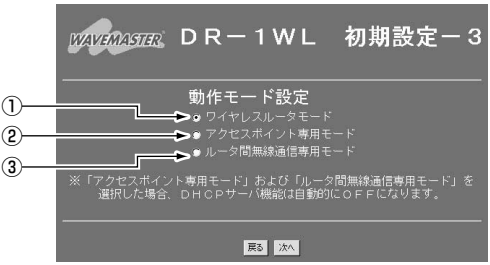
【次のダイアログを表示したら？】



〈次へ〉ボタンで、[初期設定-2]画面に移る際、WWWブラウザの設定によっては、左記のようなダイアログを表示することがあります。
ダイアログの画面は、WWWブラウザによって異なりますが、[初期設定]画面に設定した内容を本製品に書き込むための確認のために表示されます。
外部のネットワークやプロバイダーに送信することはありませんので、画面内の〈はい(Y)〉ボタンをクリックしてから設定に移ってください。

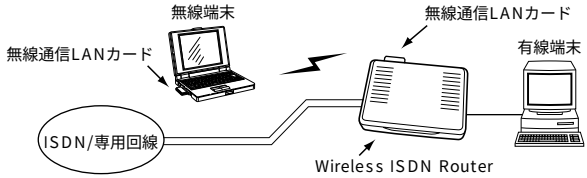
6-8 無線動作モードの設定(初期設定−3)

【ご参考】
設定保存後、[動作モード]の選択は、[各種設定管理]項目の[回線設定]画面と[無線LAN設定]画面に反映され、その画面から再設定できます。



① ワイヤレスルータモード

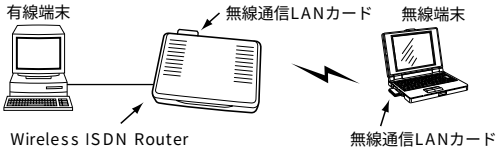
無線アクセスポイント機能と回線接続の設定をする場合



② アクセスポイント専用モード

【ご参考】
設定後、接続先を設定するときは、[各種設定管理]項目から[回線設定]画面で、使用回線を選択後、本製品を再起動して行います。

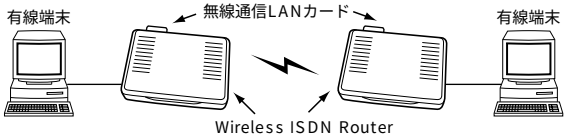
無線アクセスポイント機能だけ設定をする場合
※[初期設定-4]画面→[初期設定-完了]画面の順番になります。



③ ルータ間無線通信専用モード

【ご参考】
設定後、接続先を設定するときは、[各種設定管理]項目から[回線設定]画面で、使用回線を選択後、本製品を再起動して行います。

ルーター間無線通信機能だけ設定をする場合
※[初期設定-4]画面→[初期設定-完了]画面の順番になります。



「ルータ間無線通信専用モード」を設定するときは、有線端末を使用してください。
再起動後、この設定が有効になると、無線端末から本製品にアクセスできなくなります。

6-9 無線LANセキュリティーの設定(初期設定−4)

【ご参考】
- 設定保存後、[各種設定管理]項目の[無線LAN設定]画面に反映され、その画面から再設定できます。
- 無線通信LANカードとして、SL-100を本製品にご使用の場合、[ESS ID]欄に入力して認識できるのは、先頭から半角8文字までです。
  それ以上は、認識しません。

Wireless ISDN Routerの拡張機能(8章☞P 74)を使用するとき、[ESS ID]は、本製品と通信を行う無線端末と同じ設定にしてください。
他のネットワークとの混信を避けるためにも出来るだけ初期値と異なる設定をしてください。

① ESS ID ……　本製品に接続する無線LANへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。
同じ[ESS ID]が設定された本製品どうし、または本製品と無線端末のあいだでワイヤレス接続できます。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。　(初期値は半角：LG)
入力する文字は、すべて「＊」で表示します。
(表示例：＊＊)

② ESS IDの確認入力 …　入力間違いを防ぐため、[ESS ID]を再入力します。
大文字/小文字の区別に注意してください。(表示例：＊＊)

【無線通信モード設定について】

◎コンピューター側の無線通信LANカードの設定は、「Infrastructure」モードまたは「Automatic(SL-200の場合)」モード、「スレーブ(SL-100の場合)」に設定しないと通信できません。 (☞P 44)
◎無線通信LANカードを装着する本製品どうし無線通信する場合、通信する本製品どうしの[ESS ID]が同じに設定されていないと通信できません。 (☞P 45、46)
※「無線アクセスポイント機能」および「ルーター間無線通信機能」について詳しくは、「Wireless ISDN Routerの拡張機能」(8章☞P 74)をご覧ください。

6-10 使用する回線の選択(初期設定−5)

【ご参考】
設定保存後、[各種設定管理]項目の[回線設定]画面に反映され、その画面から再設定できます。

回線の接続サービスを選択する画面です。
該当するオプションボタンをクリックすると、チェックが入り、有効になります。
以後、選択項目に対応する[初期設定-6]画面を表示します。
※選択の前に、ご使用になる回線の契約内容を確認してください。また、回線サービスについて詳しくは、最寄りのNTTにお問い合わせください。

①ISDNダイヤルアップインターネット接続
「INSネット64」を利用して、端末型ダイヤルアップ接続をする設定を行います。

②ISDNダイヤルアップLAN間接続
「INSネット64」を利用して、LAN型ダイヤルアップ接続をする設定を行います。

③専用線(64kbps) …… ご契約の専用線の通信速度が64kbpsで、その設定を行います。

④専用線(128kbps) … ご契約の専用線の通信速度が128kbpsで、その設定を行います。

⑤OCNエコノミー…… NTTが提供するインターネット接続のための回線サービスを利用する設定を行います。
※OCNには、「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この設定は、[初期設定-5]画面の「ISDNダイヤルアップインターネット接続」を選択して設定を行ってください。

6-10 使用する回線の選択(初期設定–5)つづき

■回線について

◎本製品で動作を確認しているインターネット常時接続サービスは、「OCNエコノミーサービス」です。

◎「INSネット64」とは、NTTのISDN回線サービスのことです。

◎「専用線」とは、通信回線ごと貸し切りにして、固定料金で使用するハイ・スーパーデジタル回線(HSD)やデジタルアクセス64/128(DA64/128)などの回線サービスです。

■端末型ダイヤルアップ接続とLAN型ダイヤルアップ接続について

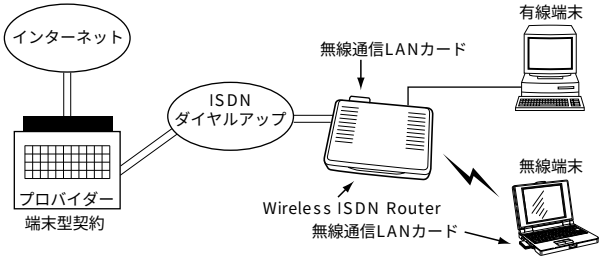
ダイヤルアップ接続とは、利用するときに回線を接続して、ネットワークに接続する方法です。
ダイヤルアップ接続で、インターネットにアクセスするときは、プロバイダーとの契約が必要です。
ダイヤルアップ契約には、「端末型」と「LAN型」があります。

【端末型ダイヤルアップ接続】
１台のコンピューターで、インターネットを使うための契約です。この契約をすると、プロバイダーへの接続時、自動的にそのコンピューターにIPアドレスが割り当てられます。
※本製品では、端末型ダイヤルアップの契約でETHERNET上に接続されたすべてのコンピューターが、インターネットにアクセスできます。

【LAN型ダイヤルアップ接続】
LANで接続されているコンピューターで、インターネットを使うための契約です。この契約をすると、プロバイダーから、LANの規模に応じた数だけIPアドレスが指定されますので、それを本製品に設定して、プロバイダーにアクセスします。

6-11 [初期設定−6]画面の設定(ISDNダイヤルアップインターネット接続用)

[初期設定−5]画面(☞P 53)で、ISDNダイヤルアップインターネット接続を選ぶとき、次の専用[初期設定]画面を表示します。



【ご参考】
設定保存後、[回線接続設定]画面の[接続先登録番号01]の[詳細]画面に反映され、その画面から再設定できます。

① 接続先名 ……

接続するプロバイダー名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：icom)

② 電話番号1〜3 ……

ひとつの接続先に対して、3件まで入力可能です。
最初に登録してある電話番号が話中の場合、次に登録されている電話番号に自動的にかけなおします。さらに話中の場合は、もう一度だけ繰り返します。

(マルチダイヤル機能)

接続するプロバイダーから指定されたアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力します。

※次のように入力すると、すべて同じ電話番号として、処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333

※プロバイダーに、サブアドレスの付加を指定された場合、契約電話番号の末尾に＊(アスタリスク)記号を入力後、指定の半角英数字を入力します。

(入力例：1111223333＊333)

【ご参考】
- マルチダイヤル機能について詳しくは、CD-ROMに納められた活用ガイドをご覧ください。
- マルチダイヤル機能は、コールバック(無課金)要求による発信では動作しません。

6-11 [初期設定–6]画面の設定(ISDNダイヤルアップインターネット接続用)つづき

③ユーザID …… プロバイダーから指定されたユーザー(ログイン)名を入力します。 (入力例：user)

④パスワード …… プロバイダーから指定されたパスワードを入力します。
入力する文字は、すべて「＊」または「●」で表示します。
(表示例：＊＊＊＊)

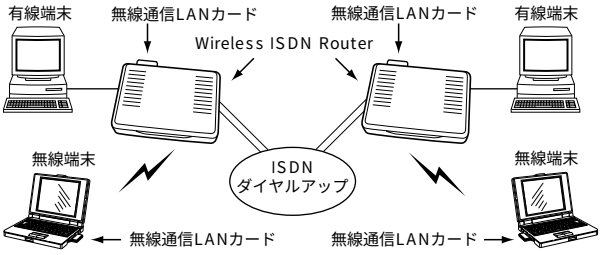
⑤プライマリDNSサーバ…… プロバイダーからDNSサーバーのアドレスが２つ指定されている場合は、どちらか一方、またはプライマリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.101.34)

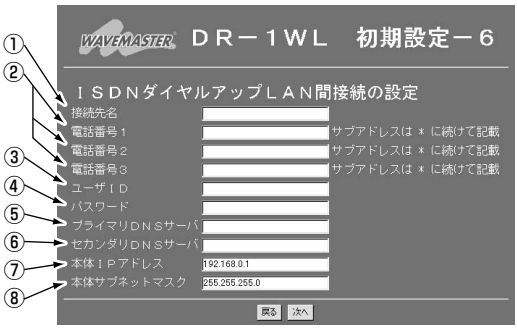
⑥セカンダリDNSサーバ…… プロバイダーからDNSサーバーのアドレスが２つ指定されている場合は、どちらか一方、またはセカンダリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.151.64)
※ご契約のプロバイダーが、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑤～⑥番欄の設定は、不要です。
対応状況については、プロバイダーにご確認ください。

6-12 [初期設定–6]画面の設定(ISDNダイヤルアップLAN間接続用)

[初期設定–5]画面(☞P 53)で、ISDNダイヤルアップLAN間接続を選ぶとき、次の専用[初期設定]画面を表示します。

【ご参考】
- プロバイダーとLAN型で契約している場合などもこの画面で設定してください。
- 設定保存後、[回線接続設定]画面の[接続先登録番号01]の[詳細]画面に反映され、その画面から再設定できます。また、本体IPアドレスとサブネットマスクは、[ネットワーク設定]項目の[LAN側IP設定]画面に反映されます。これらは、その画面から再設定できます。





① 接続先名 …… 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：icom)

② 電話番号1～3 …… ひとつの接続先に対して、3件まで入力可能です。
登録してある電話番号が話中の場合、次に登録されている電話番号に自動的にかけなおします。さらに話中の場合は、もう一度だけ繰り返します。 (マルチダイヤル機能)
接続する相手先から指定された電話番号を市外局番から入力します。
※次のように入力すると、すべて同じ電話番号として、処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
※相手先に、サブアドレスの付加を指定された場合、契約電話番号の末尾に＊(アスタリスク)記号を入力後、指定の半角英数字を入力します。
(入力例：1111223333＊333)

【ご参考】
- マルチダイヤル機能について詳しくは、CD-ROMに納められた活用ガイドをご覧ください。
- マルチダイヤル機能は、コールバック(無課金)要求による発信では動作しません。

6-12 [初期設定–6]画面の設定(ISDNダイヤルアップLAN間接続用)つづき

③ユーザID …… プロバイダーまたは相手先から指定されたユーザー(ログイン)名を入力します。 (入力例：user)

④パスワード …… プロバイダーまたは相手先から指定されたパスワードを入力します。
入力する文字は、すべて「＊」または「●」で表示します。
(表示例：＊＊＊＊)

⑤プライマリDNSサーバ…… プロバイダーまたは相手先からDNSサーバーのアドレスが２つ指定されている場合は、どちらか一方、またはプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34)

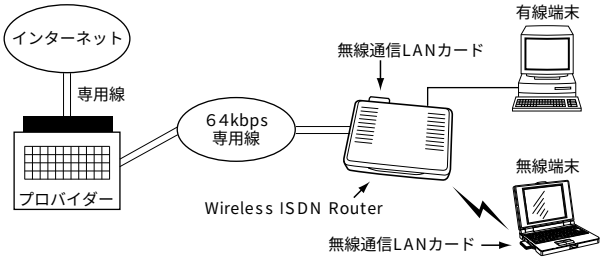
⑥セカンダリDNSサーバ…… プロバイダーまたは相手先からDNSサーバーのアドレスが２つ指定されている場合は、どちらか一方、またはセカンダリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.151.64)
※相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑤～⑥番欄の設定は、不要です。
対応状況については、相手先にご確認ください。

⑦本体IPアドレス …… 本製品のIPアドレスを入力します。
(初期値：192.168.0.1)
本製品のLAN側に接続する端末のネットワークIPアドレスは、「192.168.0.0」です。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
※DHCPサーバー機能による自動割り当てIPアドレスのネットワークIPアドレスについても一緒に変更されます。

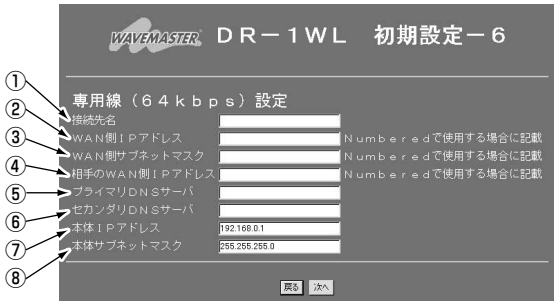
⑧本体サブネットマスク 本製品のサブネットマスクを設定します。
(初期値：255.255.255.0)
LAN側のIPアドレスに対するサブネットマスクです。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
※DHCPサーバー機能による自動割り当てIPアドレスのサブネットマスクについても一緒に変更されます。

6-13 [初期設定−6]画面の設定(64kbps専用回線用)

[初期設定−5]画面(☞P 53)で、専用線(64kbps)を選ぶとき、次の専用[初期設定]画面を表示します。



【ご参考】
設定保存後、[回線接続設定]画面の[接続先登録番号01]の[詳細]画面に反映され、その画面から再設定できます。また、本体IPアドレスとサブネットマスクは、[ネットワーク設定]項目の[LAN側IP設定.]画面に反映されます。これらは、その画面から再設定できます。



① 接続先名 …… 接続するプロバイダーまたはWAN側の相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

(入力例：icom)

② WAN側IPアドレス … WAN(回線)側に、LAN側とは異なるIPアドレスを設定(Numbered接続)するときだけ、本装置のWAN側に設定するIPアドレスを入力します。

(入力例： 123.151.145.44)

③ WAN側サブネットマスク …… WAN(回線)側に、LAN側とは異なるネットワークアドレスを設定(Numbered接続)するときだけ、本装置のWAN側に設定するサブネットマスクを入力します。

(入力例： 255.255.255.248)

6-13 [初期設定–6]画面の設定(64kbps専用回線用)つづき

④相手のWAN側
IPアドレス …… WAN(回線)側に、LAN側と異なるネットワークアドレスを設定(Numbered接続)するときだけ、相手のWAN側IPアドレスを入力します。 (入力例：123.151.155.34)
※接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

⑤プライマリ
DNSサーバ…… 接続するプロバイダーまたは相手先のプライマリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.101.34)

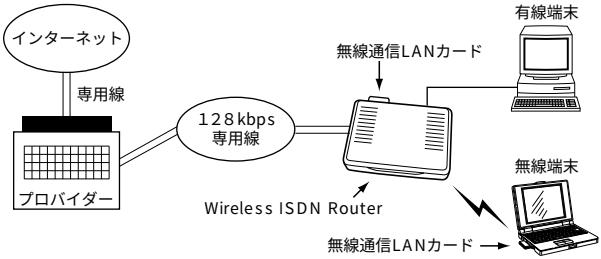
⑥セカンダリ
DNSサーバ…… 接続するプロバイダーまたは相手先のセカンダリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.151.64)
※接続先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑤～⑥番欄の設定は、不要です。
対応状況については、接続先にご確認ください。

⑦本体IPアドレス …… 本製品のIPアドレスを入力します。
(初期値：192.168.0.1)
本製品のLAN側に接続する端末のネットワークIPアドレスは、「192.168.0.0」です。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
※DHCPサーバー機能による自動割り当てIPアドレスのネットワークIPアドレスについても一緒に変更されます。

⑧本体サブネットマスク 本製品のサブネットマスクを設定します。
(初期値：255.255.255.0)
LAN側のIPアドレスに対するサブネットマスクです。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
※DHCPサーバー機能による自動割り当てIPアドレスのサブネットマスクについても一緒に変更されます。

6-14 [初期設定−6]画面の設定(128kbps専用回線用)

[初期設定−5]画面(☞P 53)で、専用線(128kbps)を選ぶとき、次の専用[初期設定]画面を表示します。



【ご参考】
設定保存後、[回線接続設定]画面の[接続先登録番号01]の[詳細]画面に反映され、その画面から再設定できます。また、本体IPアドレスとサブネットマスクは、[ネットワーク設定]項目の[LAN側IP設定]画面に反映されます。これらは、その画面から再設定できます。

① 接続先名 …… 接続するプロバイダーまたはWAN側の相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

(入力例：icom)

② WAN側IPアドレス … WAN(回線)側に、LAN側とは異なるIPアドレスを設定(Numbered接続)するときだけ、本装置のWAN側に設定するIPアドレスを入力します。

(入力例： 123.151.145.44)

③ WAN側サブネットマスク …… WAN(回線)側に、LAN側とは異なるネットワークアドレスを設定(Numbered接続)するときだけ、本装置のWAN側に設定するサブネットマスクを入力します。

(入力例： 255.255.255.248)

6-14 [初期設定–6]画面の設定(128kbps専用回線用)つづき

④相手のWAN側
IPアドレス ……

WAN(回線)側に、LAN側と異なるネットワークアドレスを設定(Numbered接続)するときだけ、相手のWAN側IPアドレスを入力します。 (入力例：123.151.155.34)
※接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

⑤プライマリ
DNSサーバ……

接続するプロバイダーまたは相手先のプライマリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.101.34)

⑥セカンダリ
DNSサーバ……

接続するプロバイダーまたは相手先のセカンダリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.151.64)
※接続先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑤～⑥番欄の設定は、不要です。
対応状況については、接続先にご確認ください。

⑦本体IPアドレス ……

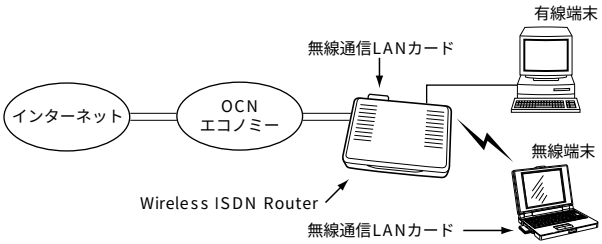
本製品のIPアドレスを入力します。
(初期値：192.168.0.1)
本製品のLAN側に接続する端末のネットワークIPアドレスは、「192.168.0.0」です。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
※DHCPサーバー機能による自動割り当てIPアドレスのネットワークIPアドレスについても一緒に変更されます。

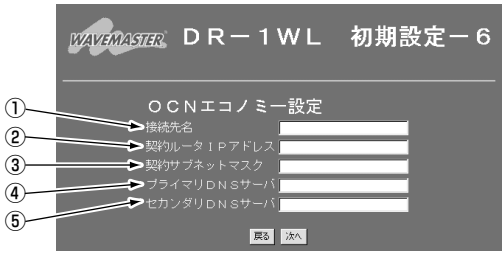
⑧本体サブネットマスク

本製品のサブネットマスクを設定します。
(初期値：255.255.255.0)
LAN側のIPアドレスに対するサブネットマスクです。
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
※DHCPサーバー機能による自動割り当てIPアドレスのサブネットマスクについても一緒に変更されます。

6-15 [初期設定−6]画面の設定(OCNエコノミー用)

[初期設定−5]画面(☞P 53)で、OCNエコノミーを選ぶとき、次の専用[初期設定]画面を表示します。





【ご参考】
設定保存後、[回線接続設定]画面の[接続先登録番号01]の[詳細]画面に反映され、その画面から再設定できます。また、本体IPアドレスとサブネットマスクは、[ネットワーク設定]項目の[LAN側IP設定]画面に反映されます。これらは、その画面から再設定できます。

① 接続先名 …… 接続するWAN側の相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：icom)

② 契約ルータIPアドレス OCN契約により指定されたグローバルアドレスのうち、どれかひとつを入力しますが、この部分に設定できないアドレスに注意する必要がありますので、「NTTから指定されたIPアドレスの使いかた(☞P 64)」を参照してください。

③ 契約サブネットマスク OCN契約により指定されたサブネットマスクを入力します。 (入力例：255.255.255.248)

④ プライマリDNSサーバ…… OCN契約により指定された、２つのOCN側DNSサーバーのアドレスのうちどちらか一方、またはプライマリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.101.34)

⑤ セカンダリDNSサーバ…… OCN契約により指定された、２つのOCN側DNSサーバーのアドレスのうちどちらか一方、またはセカンダリDNSアドレスを入力します。 (入力例：123.114.151.64)

6-15 [初期設定–6]画面の設定(OCNエコノミー用)つづき

■NTTから指定されたIPアドレスの使いかた

OCNエコノミーサービスを契約すると、NTTから使用を許可されるグローバルIPアドレスとその数が、ご利用になる環境によって次のように異なります。

- OCN側のDNSサーバーを使用する場合：8個
- DNSサーバーを自分のLAN内に置く場合：16個

【8個を指定された場合の使いかた例】
172.16.0.48～172.16.0.55(指定された8個)
172.16.0.50～172.16.0.54(端末用IPアドレス)
172.16.0.48(ネットワークIPアドレス)
172.16.0.49(契約ルータIPアドレス)
172.16.0.55(ブロードキャストアドレス)

本製品に割り当てるIPアドレスは、NTTより指定されますので、契約書をご確認ください。
上記3つのアドレスと、[マスカレード用IPアドレス]を除いた残り4個は、コンピューターに直接割り当てるか、本製品でプライベートIPアドレスに変換してから割り当てることができます。

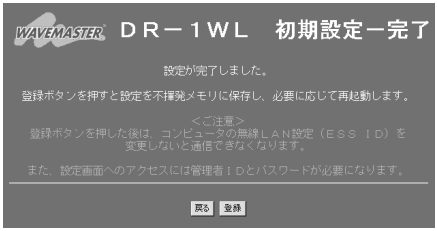
■自動設定されるIPアドレスについて

NTTから、上記の例のような8個のグローバルIPアドレスを取得している場合で[初期設定-5]画面(☞P53)から、OCNエコノミーを選択して設定したときだけ、[初期設定-6]画面に設定する契約ルータIPアドレスにしたがって、次のIPアドレスが自動的に設定されます。
次の例は、本製品のIPアドレスが「192.168.0.1」(工場出荷時)のとき、契約ルータIPアドレスを「172.16.0.49」に設定する場合です。

- マスカレード用IPアドレス：[172.16.0.54]
  ブロードキャストアドレスのひとつ手前のIPアドレス
- 静的NATテーブル：[グローバルIP]—[ローカルIP]
  [172.16.0.50]—[192.168.0.10]
  [172.16.0.51]—[192.168.0.11]
  [172.16.0.52]—[192.168.0.12]
  [172.16.0.53]—[192.168.0.13]

6-16 [初期設定]画面の登録(初期設定−完了)

次の画面で、〈登録〉ボタンをクリックすると、[初期設定−1]〜[初期設定−6]画面の内容を登録します。
※設定された項目に応じて、本体が再起動されます。



◎次の回線が設定されていると、設定画面にアクセスしたとき、その回線の[回線接続設定]画面を表示します。

- ISDNダイヤルアップ
  インターネット接続選択時の画面　：7-1章☞P66
  LAN間接続選択時の画面　：7-1章☞P66
- 64kbps専用線選択時の画面　：7-2章☞P67
- 128kbps専用線選択時の画面　：7-2章☞P67
- OCNエコノミー選択時の画面　：7-3章☞P68

◎[初期設定]画面で、「アクセスポイント専用モード」および「ルータ間無線通信専用モード」が設定されていると、[回線接続設定]画面に次の内容を表示します。

本機はアクセスポイント専用モードで動作しています。

本機はルータ間無線通信専用モードで動作しています。

上記の専用モードから、回線の設定を行うときは、[各種設定管理]項目の[回線設定]画面から[回線種別]を選択して、本製品を再起動して、[回線接続設定]画面から〈接続先の追加〉ボタンをクリックして設定します。

◎**[初期設定]画面で、次の項目を変更したときは、本製品に接続するコンピューターを再起動してから「回線接続試験」(7章☞P66)を行ってください。**

- [初期設定-6](専用回線)画面で本体IPアドレスを変更
  ※本製品からコンピューターのIPアドレスを再取得するときは、Windowsでは再起動、MacintoshではWWWアクセスやメールアクセスを行います。
- 「専用線」、「OCNエコノミー」、「ルータ間無線通信専用モード」に変更
- [初期設定-4]画面で、[ESS ID]を変更

7 回線接続試験をする

7-1 ISDNダイヤルアップ接続の場合

【おことわり】
本章は、6章(☞P 43)で、初期設定が完了していることを前提に説明しています。

プロバイダーとの「端末型」または「LAN型」契約で、「INSネット64」を介して、インターネットに接続ができることを確認します。

1.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を入れます。
2.前面ランプの点滅が完了後、[POWER]ランプの点灯を確認します。
※回線異常や未接続のときは、[POWER]ランプが点滅を続けますので、回線を確認してください。
3.コンピューターを起動します。
- 有線端末で接続時：[LAN]ランプが点灯します。
- 無線端末で接続時：wireless LAN ランプが点灯します。

4.コンピューターから、WWWブラウザを起動します。
5.本製品の設定画面にアクセスします。
- 次の[ISDN接続状況]画面を表示します。

【ご参考】
接続試験は、MS-DOSプロンプトから、Pingコマンドを使って、接続先のIPアドレスを指定する方法でも行えます。
詳しくは、103ページをご覧ください。

※本製品のIPアドレスを変更する場合は、71ページをご覧ください。

6.表示画面内の〈１B接続〉ボタンをクリックします。
- 接続すると、上記画面の[状況]欄に「１B接続」を表示して、[B１]ランプまたは[B2]ランプが点灯します。

※回線の接続を「自動」に変更するには、69ページをご覧ください。

7.次のURLをWWWブラウザのアドレスバーに入力します。
http://www.icom.co.jp/
8.弊社のホームページが表示されたことを確認します。
表示しない場合は、WWWブラウザ等の設定を確認してください。
- 通信中は、手順6.で点灯中のランプが点滅します。

インターネットに接続後、 150秒間(工場出荷時)通信をしない状態が続くと、回線を自動的に切断します。
※切断時間を変更するには、70ページをご覧ください。

9.インターネットに接続後、強制的に回線を切断するときは、再度、上記画面にアクセスして、〈切断〉ボタンをクリックします。
- 切断すると、手順6.で点灯中のランプが消灯します。

7-2 専用回線の場合

64kbpsまたは128kbpsの専用回線で、インターネットに常時接続ができることを確認します。

【おことわり】
本章は、6章(☞P 43)で、初期設定が完了していることを前提に説明しています。

1.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を入れます。

2.前面ランプの点滅が完了後、次のランプの点灯を確認します。

- 回線速度： 64kbps設定時、[B1]が点灯
- 回線速度：128kbps設定時、[B1]と[B2]が点灯

※回線異常や未接続のときは、[POWER]ランプが点滅を続けますので、回線を確認してください。

3.コンピューターを起動します。

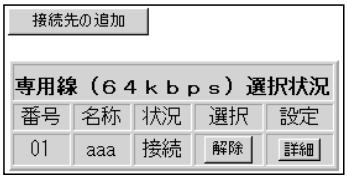
- 有線端末で接続時：[LAN]ランプが点灯します。
- 無線端末で接続時： wireless LAN ランプが点灯します。

4.コンピューターから、WWWブラウザを起動します。

5.本製品の設定画面にアクセスします。

- 次の[専用線選択状況]画面を表示して、画面の[状況]欄に「接続」を表示します。

【64kbps専用線】



【128kbps専用線】

【ご参考】
接続試験は、MS-DOSプロンプトから、Pingコマンドを使って、接続先のIPアドレスを指定する方法でも行えます。
詳しくは103ページをご覧ください。

6.次のURLをWWWブラウザのアドレスバーに入力します。

http://www.icom.co.jp/

7.弊社のホームページが表示されたことを確認します。
表示しない場合は、WWWブラウザ等の設定を確認してください。

- 通信中は、手順2.で点灯中のランプが点滅します。

7 回線接続試験をする

7-3 OCNエコノミーの場合

OCN常時接続サービスで、インターネットに接続できることを確認します。

【おことわり】
本章は、6章(☞P 43)で、初期設定が完了していることを前提に説明しています。

1.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を入れます。

2.前面ランプの点滅が完了後、次のランプの点灯を確認します。

- [POWER] [B1] [B2]ランプが点灯

※回線異常や未接続のときは、[POWER]ランプが点滅を続けますので、回線を確認してください。

3.コンピューターを起動します。

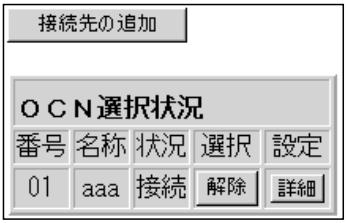
- 有線端末で接続時：[LAN]ランプが点灯します。
- 無線端末で接続時：wireless LAN ランプが点灯します。

4.コンピューターから、WWWブラウザを起動します。

5.本製品の設定画面にアクセスします。

- 次の[OCN選択状況]画面を表示して、画面の[状況]欄に「接続」を表示します。

【ご参考】
接続試験は、MS-DOSプロンプトから、Pingコマンドを使って、接続先のIPアドレスを指定する方法でも行えます。
詳しくは、103ページをご覧ください。



※本製品のIPアドレスを変更する場合は、71ページをご覧ください。

6.次のURLをWWWブラウザのアドレスバーに入力します。

http://www.icom.co.jp/

7.弊社のホームページが表示されたことを確認します。
表示しない場合は、WWWブラウザ等の設定を確認してください。

- 通信中は、[B1]ランプと[B2]ランプが点滅します。

7-4 ご参考に

■ 回線を自動接続する

【ご参考】
工場出荷時、自動接続の設定は、「しない」に設定しています。

「INSネット64」回線へ接続する場合、ETHERNET上のコンピューターからインターネットにアクセスするための操作(WWWブラウザで、URLを指定するなど)を行うと、本製品が、自動であらかじめ設定された相手先に、電話をかけて、プロバイダーに自動接続するときの設定です。

【設定変更手順】

1.「ISDNダイヤルアップの場合」(7-1章☞P 66)の操作で表示する[ISDN接続状況]画面内で、登録された接続先を表示する欄から、該当する接続先の〈詳細〉ボタンをクリックします。

- 設定画面の左フレームに、次の画面を表示します。

【ご注意】
自動接続をするように設定すると、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長期接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。
設定変更後は、本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプを確認するようにしてください。

2.上記画面で、[自動接続]欄の設定を「する」に変更します。

3.上記画面上の〈登録〉ボタン、または〈登録して接続画面へ〉ボタンをクリックします。

- 変更した内容を設定画面に登録します。

※自動接続する条件を設定するときは、この欄の〈詳細〉ボタンをクリックすると、[自動接続設定]画面(詳細☞活用ガイド)を表示します。

4.設定画面を閉じます。

7-4 ご参考に(つづき)

■ 回線の自動切断時間を変更する

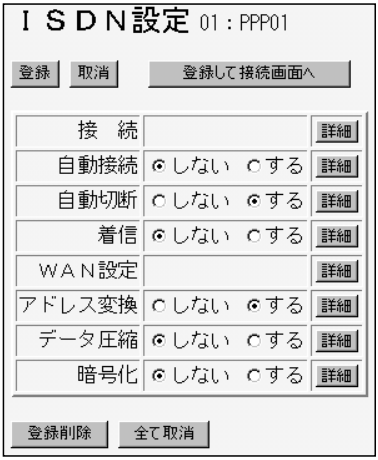
【ご参考】
工場出荷時、自動切断の設定は、「150秒に設定しています。

「INSネット64」回線へ接続中、接続先と無通信状態になってから、自動的に回線を切断するまでの時間を変更するときの設定です。

【設定変更手順】

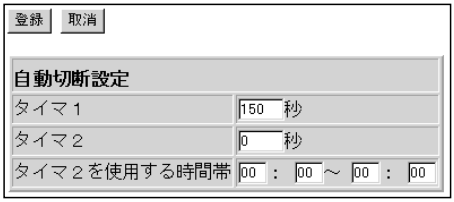
1.「ISDNダイヤルアップの場合」(7-1章☞P 66)の操作で表示する[ISDN接続状況]画面内で、登録された接続先を表示する欄から、該当する接続先の〈詳細〉ボタンをクリックします。

- 設定画面の左フレームに、次の画面を表示します。



2.上記画面で、[自動切断]欄の〈詳細〉ボタンをクリックします。

- 次の[自動切断設定]画面を表示します。



3.上記画面で、[タイマ１]欄のテキストボックスに、半角で入力します。
入力は、10進数で０～65535までの数字です。
※「０」を入力すると、自動切断が行われません。

4.手順2.の画面で、〈登録〉ボタンをクリックします。
- 変更した内容を設定画面に登録します。

5.設定画面を閉じます。

■ IPアドレスを変更する

【ご参考】
本製品のIPアドレス変更時、ネットワークIPアドレスも変更するときは、割り当て開始IPアドレス(☞P 72)を同時に変更してから、本製品を再起動してください。なお、専用線やOCNエコノミー設定時など、[初期設定]画面を使って本体IPアドレスを変更したときだけ、割り当て開始アドレスとそのサブネットマスクは、自動で変更されます。
※本体IPアドレスと割り当て開始IPアドレスのネットワークIPアドレスの値が異なると、再起動後、設定画面にアクセスできなくなりますので、ネットワークIPアドレスを同じに設定してください。

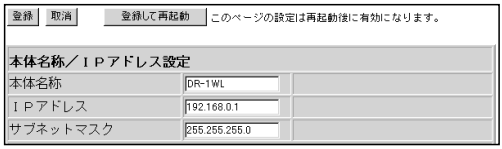
ISDNダイヤルアップ設定を[初期設定]画面で行ったあとなど、本製品のIPアドレスを既存のLANのネットワークIPアドレスに合わせるときの設定です。

【設定変更手順】

1.本製品の設定画面にアクセスします。
- 使用する回線の[接続状況]画面を表示します。

2.次のフレームで、[ネットワーク設定]をクリックします。

- 次の[LAN側IP設定]画面を表示します。



3.上記画面で、[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄のテキストボックスに、半角で入力します。
※IPアドレスの先頭(ネットワークアドレス)と末尾(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、本製品やコンピューターには、割り当てないでください。
工場出荷時の設定を例にすると、「192.168.0.0」と「192.168.0.255」は、本製品やコンピューターに割り当てできません。

4.上記画面で、〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。
- 変更した内容を設定画面に登録します。

※この画面の〈登録〉ボタンの操作は、変更内容が確定されるだけで、有効になりませんのでご注意ください。

5.設定画面を閉じます。

7-4 ご参考に(つづき)

■ 自動割り当て開始アドレスを変更する

【ご参考】
本製品の割り当て開始IPアドレスを変更時、ネットワークIPアドレスも変更するときは、本製品のIPアドレス(☞P 71)も同時に変更してから、本製品を再起動してください。なお、専用線やOCNエコノミー設定時など、[初期設定]画面を使って本体IPアドレスを変更したときだけ、割り当て開始アドレスとそのサブネットマスクは、自動で変更されます。
※本体IPアドレスと割り当て開始IPアドレスのネットワークIPアドレスの値が異なると、再起動後、設定画面にアクセスできなくなりますので、同一サブネットのIPアドレスを設定してください。

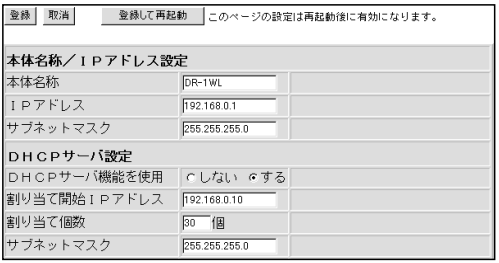
本製品が、コンピューターへIPアドレスを自動で割り当てるときの開始IPアドレスと、割り当てる個数を変更するときの設定です。

【設定変更手順】

1.本製品の設定画面にアクセスします。
- 使用する回線の[接続状況]画面を表示します。

2.次のフレームで、[ネットワーク設定]をクリックします。

- 次の[LAN側IP設定]画面を表示します。



3.上記画面で、次の３つの欄に、半角で入力します。
- [割り当て開始IPアドレス]
- [割り当て個数]
- [サブネットマスク]

4.上記画面で、〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。
- 変更した内容を設定画面に登録します。

※この画面の〈登録〉ボタンの操作は、変更内容が確定されるだけで、有効になりませんのでご注意ください。

5.再起動が完了したら、設定画面を閉じて、コンピューターを再起動します。

■ 自動割り当て開始アドレスを変更時のご注意

◎IPアドレスの先頭(ネットワークアドレス)と末尾(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、本製品やコンピューターには、割り当てないでください。

◎割り当て開始アドレスは、「192.168.0.10」(工場出荷時)で、「192.168.0.39」までの30個(割り当て個数)に設定されています。なお、[初期設定-6](専用回線)画面(☞P59、61)を使って本体IPアドレスを変更したとき、自動でその設定値に連動して、割り当て開始アドレスがシフトします。

例えば、「192.168.0.11」に変更すると、自動で「192.168.0.20」にシフトします。

◎本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、5～128個(無線LANを含む)までです。

範囲外の登録を行うと、無効な設定として扱われて、登録を受け付けませんのでご注意ください。

工場出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値では、実際に割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

■ 接続先を追加する

登録件数は、回線種別に関係なく全部で20件までです。

[ISDN接続状況]画面または専用線またはOCNの[選択状況]画面にある〈接続先追加〉ボタンをクリックすると、同じ回線種別について、接続する相手先を追加できます。

追加する相手先の回線が、[回線接続設定]画面に表示する回線種別と異なるときは、次の手順で登録してください。

1.次のフレームで、[各種設定管理]をクリックします。

2.画面の左フレームから、[回線設定]項目をクリックします。

3.画面の右フレームから、該当する回線種別を選びます。

4.表示中の画面から、〈登録して再起動〉ボタンをクリックして再起動します。

5.上記フレームから、[回線接続設定]をクリックして表示する画面から、〈接続先追加〉ボタンをクリックします。

8 Wireless ISDN Routerの拡張機能

本製品が無線ネットワークを構築するための拡張機能として、次の３通りがあります。

●無線アクセスポイント機能(8-1章☞P 74)
●無線通信端末とのローミング機能(8-2章☞P 77)
●ルーター間無線(Bridge)通信機能(8-3章☞P 78)

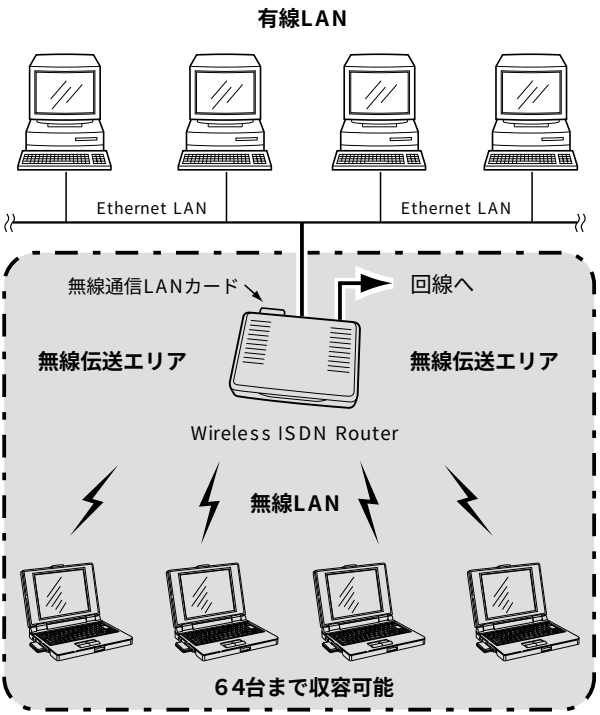
※伝送速度11Mbpsで通信するときの無線伝送距離は、屋内で約30m、屋外(見通し)で約70mです。

【おことわり】
Macintoshは、無線端末として、ご利用になれません。

8-1 無線アクセスポイント機能を使う

【ご注意】
「アクセスポイント専用モード」または「ワイヤレスルータモード」に設定されているときは、ルーター間無線通信機能を使用できません。
(☞P 51、78)

無線アクセスポイント機能とは、無線端末どうし、またはETHERNETで本製品に接続された端末と無線端末が、本製品を介してワイヤレス接続するLANの接続形態です。



A 無線端末の設定

「無線端末から設定するには」(6-3章☞P 44)の手順にしたがって設定してください。

B 本製品の設定

[初期設定-3]～[初期設定-4]画面(☞P 51、52)で「アクセスポイント専用モード」を選択した場合は、本製品のDHCPサーバー機能の初期値が、「しない」に設定されていますので、必要に応じて設定を変更してください。

※設定画面の操作は、「自動割り当て開始アドレスを変更する」(☞P 72)の操作を参照してください。

C 本製品の無線LAN設定を行うには

[初期設定-3]～[初期設定-4]画面(☞P 51、52)から設定しなかった場合など、[ESS ID]などを変更する手順です。

無線端末から設定を変更すると、本製品の再起動後、その無線端末も設定値を変更してから再起動しないと、本製品とワイヤレス接続できませんので注意してください。

次の手順は、有線端末から設定を変更した場合です。

1.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を入れます。

2.本製品の再起動が完了したら、本製品に接続する有線端末を起動します。

3.有線端末から、WWWブラウザを起動します。

4.本製品の設定画面にアクセスします。

5.次のフレームで、[各種設定管理]をクリックします。

6.次の画面の左フレームから、[無線LAN設定]項目をクリックします。

- [無線LAN設定]画面を右フレームに表示します。

次ページへつづく

8-1 無線アクセスポイント機能を使う

C 本製品の無線LAN設定を行うには(つづき)

7.手順6.の画面で、[ルータ間無線通信モードを使用]の項目を「しない」(初期値)に設定されていることを確認します。

8.同じ画面で、次の設定項目を任意の値に変更します。
工場出荷時、[ESS ID]は、半角大文字で設定しています。
◎ESS ID(☞P52)　：LG
◎ESS IDの確認入力(☞P52)　：＊＊
※そのほかの項目については、[活用ガイド]で十分ご理解いただいてから、変更されることをおすすめします。

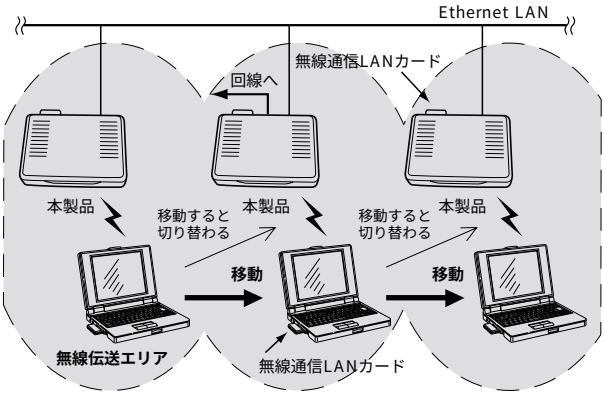
9.手順6.の画面で、〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。
●変更した内容が設定画面に登録されます。
※この画面の〈登録〉ボタンの操作は、変更内容が確定されるだけで、有効にはなりません。ただし、[MACアドレスセキュリティー設定]で追加したMACアドレスについては、有効になります。

10.本製品の再起動が完了したら、設定画面を閉じ、本製品に無線LANで接続する端末の[ESS ID]を本製品と同じ値に変更します。　(6-3章☞P44)

8-2 ローミング機能を使う

ETHERNET上に、本製品を無線伝送エリアが重なるように複数設置してローミング機能を使うと、無線端末は移動しながら複数の無線伝送エリアにまたがった通信が可能になるため、無線伝送エリアを拡大することができます。

■ 概念図



■ ローミング機能使用時のご注意

◎ローミング機能を使用するときは、「ワイヤレスルータモード」または「アクセスポイント専用モード」に設定してください。 (☞P 51)

※「ルータ間無線通信専用モード」とは、併用できません。

◎本製品どうしの接続は、ETHERNETケーブルを使ってHUBを介してカスケード接続してください。

◎移動する無線伝送エリア内では、すべての無線端末とローミング機能で使う本製品の[ESS ID]は、すべて同じ設定値にしてください。

本製品と異なる[ESS ID]に設定されている無線端末は、通信できません。

◎上図のような場合、回線と直接接続する本製品以外のWireless ISDN RouterのDHCPサーバー機能の設定を「しない」に変更すると、IPアドレスの重複を回避できます。

◎ローミングエリアを含め、無線LANの端末は、有線LANの端末と同じネットワークグループとして動作します。

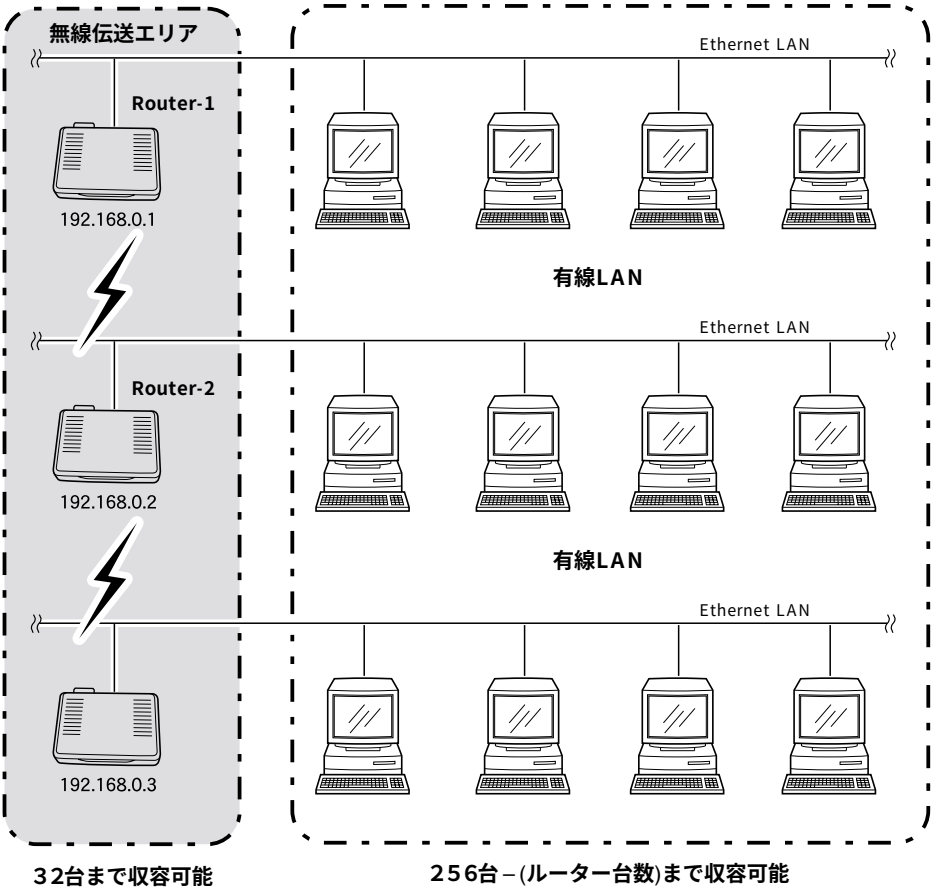
8-3 ルーター間無線通信機能を使う

弊社製無線通信LANカードを装着する本製品どうしが、ワイヤレス(Bridge)接続するLANの接続形態です。

「ルータ間無線通信専用モード」に設定されているときは、無線アクセスポイント機能を使用できませんので注意してください。 (☞P 51、74)

■IPアドレスについて

下の概念図に示すルーターのIPアドレスは、設定例です。稼働後の設定メンテナンスのため、稼働中のネットワークと同一サブネットのIPアドレスを設定することをお勧めします。このとき、他の機器とのIPアドレス競合には十分ご注意ください。



■ 設定について

この節では、概念図中(☞P 78)の「Router-1」と「Router-2」を例に設定する手順を説明しています。

概念図の例では、「Router-1」だけにDHCPサーバー機能を設定してください。

[初期設定-3]～[初期設定-4]画面(☞P 51、52)で「ルータ間無線通信専用モード」を選択した場合は、本製品のDHCPサーバー機能の初期値が、「しない」に設定されていますので、必要に応じて設定を変更してください。

ルーター間で通信を開始したとき、IPアドレスと本体名称が、「Router-１」と同じ設定値にならないように、「Router-２」の設定値を変更しておく必要があります。

※これらの設定値の変更は、すべて「自動割り当て開始アドレスを変更する」(☞P 72)の操作で表示する画面から行えます。

■「Router-１」の無線LAN設定を行うには

[初期設定-3]～[初期設定-4]画面(☞P 51、52)から設定しなかった場合など、[ESS ID]などを変更する手順です。

無線端末から設定を変更すると、本製品の再起動後、その無線端末も設定値を変更してから再起動しないと、本製品とワイヤレス接続できませんので注意してください。

次の手順は、有線端末から設定を変更した場合です。

1.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を入れます。

2.本製品の再起動が完了したら、「Router-１」に接続する有線端末を起動します。

3.有線端末から、WWWブラウザを起動します。

4.本製品の設定画面にアクセスします。

5.次のフレームで、[各種設定管理]をクリックします。

8-3 ルーター間無線通信機能を使う

■「Router-１」の無線LAN設定を行うには(つづき)

6.次の[本体管理設定]画面の左フレームから、[無線LAN設定]をクリックします。

●[無線LAN設定]画面を右フレームに表示します。

7.手順6.の画面で、[ルータ間無線通信モードを使用]の項目を「する」に変更します。

8.同じ画面で、次の設定項目を任意の値に変更します。

工場出荷時、[ESS ID]は、半角大文字で設定しています。

◎ESS ID(☞P 52)　　：LG

◎ESS IDの確認入力(☞P 52)　　：＊＊

※そのほかの項目については、[活用ガイド]で十分ご理解いただいてから、変更されることをおすすめします。

9.手順6.の画面で、〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。

●変更した内容が設定画面に登録されます。

※この画面の〈登録〉ボタンの操作は、変更内容が確定されるだけで、有効になりません。ただし、[MACアドレスセキュリティー設定]で追加したMACアドレスについては、有効になります。

10.本製品の再起動が完了したら、設定画面を閉じて、「Router-１」に接続する有線端末を再起動します。

11.「Router-２」の設定(☞P 81)を行います。

■「Router-２」の無線LAN設定を行うには

[初期設定-3]～[初期設定-4]画面(☞P 51、52)から設定しなかった場合など、[ESS ID]などを変更する手順です。

無線端末から設定を変更すると、本製品の再起動後、その無線端末も設定値を変更してから再起動しないと、本製品とワイヤレス接続できませんので注意してください。

1.「Router-２」に接続する有線端末を使用して、「Router-１の設定」時の手順１.～8.と同じ操作をします。

2.「Router-１の設定」時の手順6.の画面で、〈登録〉ボタンをクリックします。

- 変更した内容が設定画面に登録されます。

※この画面の〈登録〉ボタンの操作では、変更内容が有効になりませんので設定完了後、再起動してください。

3.実際のネットワークに接続して通信を開始するための準備として、IPアドレスと本体名称を変更してください。

《IPアドレス設定例》

- 192.168.0.1(Router-１)：工場出荷時の値を使用
- 192.168.0.2(Router-２)：工場出荷時の値を変更

※「Router-２」のIPアドレスは、「Router-１」と同一サブネットのIPアドレスにして、ホストアドレスだけを異なる値に変更します。

※「Router-１」が、クライアントに自動で割り当てるIPアドレスの範囲から外れたIPアドレスを「Router-２」の本体IPアドレスに割り当てるような配慮が必要です。

《本体名称設定例》

- DR-1WL(Router-１)：工場出荷時の値を使用
- DR-1WL2(Router-２)：工場出荷時の値を変更

※「Router-１」と異なる本体名称を設定します。

4.表示している画面(☞P 72)から、〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。

- 変更したすべての内容が設定画面に登録されます。

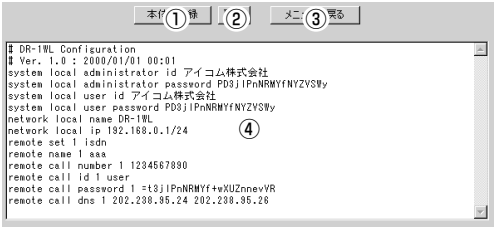
5.本製品の再起動が完了したら、設定画面を閉じて、「Router-２」に接続する有線端末を再起動します。

- 両方の「Router」の wireless LAN ランプが点灯すると、ルーター間のワイヤレス接続が完了です。

9 設定の保存と書き込み

9-1 [設定保存]画面について

本製品に設定された内容の一部を保存したり、書き込んだりする画面です。



①〈本体に登録〉ボタン … [設定保存]画面に表示する内容を、本製品の設定画面に書き込みます。

②〈取消〉ボタン …… [設定保存]画面上で、表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③〈メニューに戻る〉ボタン …… [回線接続設定]画面に戻ります。

④ 表示エリア …… 本製品の設定画面から、[設定保存]画面を呼び出したときは、本製品の設定内容を表示します。
保存したファイルを開くと、保存されている設定内容をテキスト形式で表示します。

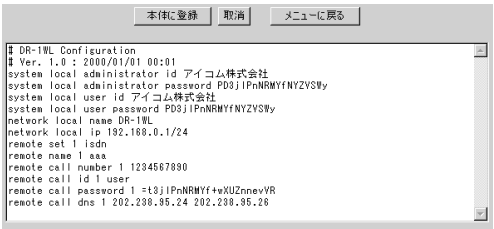
■ 制限事項 本製品で保存したデータファイルを同じ機種どうしや本製品以外の機種に書き込むことはできません。
したがって、データファイルは、転用しても動作しませんのでご注意ください。

9-2 設定内容の保存

現在の設定内容をハイパーテキスト(html)形式のファイルとして、ご使用のコンピューターのハードディスクやフロッピーディスクに保存するときの手順です。

1.有線または無線端末を本製品に接続します。
2.その端末から、WWWブラウザを起動します。
3.本製品の設定画面にアクセスします。
4.次のフレームで、[設定保存]をクリックします。

●次の画面を表示します。



5.上記画面の表示後、WWWブラウザの「ファイル(F)」メニューから、[名前を付けて保存(A)]をクリックします。

6.[保存する場所(I)]を指定して、任意の名前を、[ファイル名(N)]ボックスに入力します。
7.[ファイルの種類(T)]は、「Webページ、HTMLのみ」を選択します。
※保存ファイルの漢字コードを選択できるWWWブラウザの場合は、JISを選択して保存してください。
8.〈保存(S)〉ボタンをクリックします。
●指定した場所に設定内容を保存します。
※拡張子は、[.htm]または[.html]です。
※Macintoshで保存すると、拡張子は付きません。

【おことわり】
説明には、Internet Explorer 5.0(Windows版)を使用しています。

9 設定の保存と書き込み

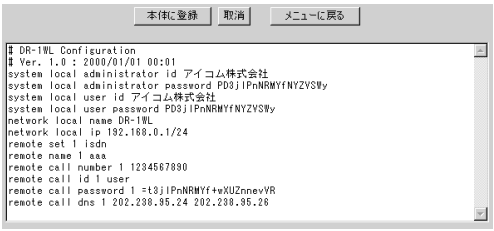
9-3 設定内容の書き込み

コンピューターに保存した設定内容を本製品に書き込む操作をするときの手順です。

1.有線または無線端末を本製品に接続します。

2.その端末から、保存したファイルのアイコンをダブルクリックします。

- 次の画面を表示します。



3.〈本体に登録〉ボタンをクリックします。

- 設定内容が書き込まれ、本体が再起動されます。

4.書き込まれた内容を確認後、設定画面を終了します。

■ 内容編集時のご注意

表示エリアのネットワークIPアドレスを編集するようなときは、その項目に関連するほかの設定値についても同時に変更するようにしてください。

※内容編集については、「取り扱い上のご注意」(☞P５)をお読みください。また、記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますのでご注意ください。

設定内容の初期化 10

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したい場合は、次の３とおりの方法で設定内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

この章では、Aと Bについて説明します。

A ディップスイッチを使う(☞P 85)

B 設定画面を使う(☞P 87)

C Utilityを使う(☞P 91)

※ Utilityを使うには、付属のCD-ROMからアイコムランチャーをインストールしてください。
インストールの方法については、「付属ソフトウェアについて」(13章☞P 91)をご覧ください。

A ディップスイッチを使う

本製品に設定されたIPアドレスが不明なときなど、本製品の設定画面にアクセスできないときは、次の手順で初期化操作をします。

1.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を切ります。

2.本製品に接続するすべてのネットワーク機器を外します。

3.底面パネルにあるディップスイッチの４番(☞P 15)を、「OFF」にします。

4.本製品の[PWR]スイッチを押して電源を入れます。

- 設定初期化モードで起動して、本製品に設定された[IPアドレス]と[ESS ID]は、工場出荷時の状態になります。

5.本製品の再起動が完了したら、弊社製無線通信LANカードを装着する無線端末、または本製品に接続する有線端末を起動します。

※端末側も本製品の工場出荷時の設定になっていることを確認してください。

6.端末から、WWWブラウザを起動します。

【ご注意】

- 切り替えるときは、隣のスイッチに触れない程度の細いドライバーを、ご使用ください。
- ディップスイッチを切り替えて、[PWR]スイッチを、[ON/OFF]するだけでは、設定内容を初期化できません。

10 設定内容の初期化

Ⓐ ディップスイッチを使う(つづき)

7.本製品の工場出荷時のIPアドレス(☞P 48)を指定すると、「設定初期化モード」で起動します。

- 次の画面を表示します。

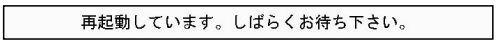
8.手順7.の画面で、〈初期化実行〉ボタンをクリックします。

- 次の画面を表示します。

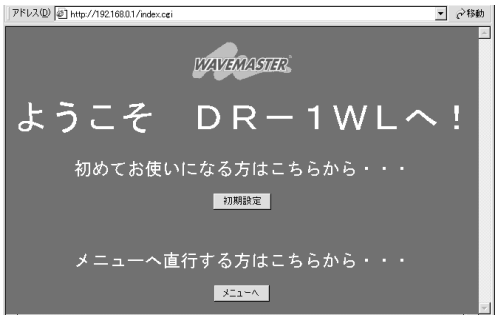
9.本製品の電源が入った状態で、底面パネルにあるディップスイッチの４番(☞P 15)を、「ON」(工場出荷状態)に戻します。

10.上記画面の〈再起動〉ボタンをクリックします。

- 再起動中は、次の画面を表示します。



11.本製品の再起動が完了したら、次の画面を表示しますので、6-4章(☞P 48)の手順にしたがうか、〈メニューへ〉ボタンをクリックして、設定を行います。

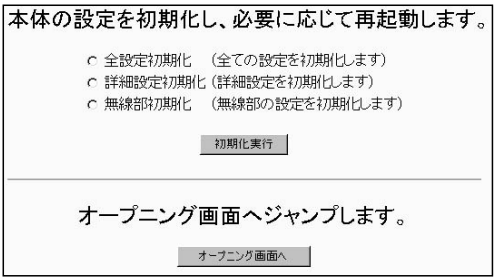


B 設定画面を使う

本製品に設定されたIPアドレスを指定して、本製品の設定画面にアクセスできる場合は、次の手順で表示する[設定初期化]画面から、初期化範囲を選んで初期化操作をします。

1.本製品と設定に使う有線または無線端末を除いては、すべて電源を切ります。
2.設定用端末から、WWWブラウザを起動します。
3.本製品に設定されたIPアドレス(☞P 48)を指定して、設定画面にアクセスします。
4.次のフレーム内で、[設定初期化]をクリックします。

● 次の[設定初期化]画面を表示します。



5.画面から、該当する初期化条件(☞P 88)のオプションボタンをクリックします。
※〈オープニング画面へ〉ボタンをクリックして、[初期化設定]画面(☞P 49)から再設定すると、「01」番に登録された接続先情報だけを更新できます。
6.手順5.でオプションボタンを選択した場合は、〈初期化実行〉ボタンをクリックします。
7.本製品の再起動が完了するまで、そのまま待ちます。
● [全設定初期化]実行時は、[オープニング]画面(☞P 48)を表示しますが、そのほかの条件を選んだときは、使用している回線の[回線接続設定]画面(7章☞P 66〜68)を表示します。
8.初期化した項目について、再設定を行います。

10 設定内容の初期化

■初期化条件について

- **全設定初期化**
  設定画面で設定した内容をすべて初期化します。
- **詳細設定初期化**
  [初期設定-1]～[初期設定-6]画面で設定できる項目を除く、すべての内容を初期化します。
  ※[回線接続設定]画面の番号欄に表示される接続先登録番号「01」番以外の接続先は、すべて初期化(消去)されます。
- **無線部初期化**
  [初期設定-3]～[初期設定-4]画面とメインメニューの[無線LAN設定]画面(☞P 75、80)で設定できる項目だけを初期化します。

■[初期設定]画面からの再設定について

[オープニング]画面(☞P 48)の〈初期設定〉ボタンをクリックして、[初期設定]画面で再設定を行うと、[回線接続設定]画面の番号欄に表示される接続先登録番号「01」番について、その画面で再設定する内容を更新します。
再設定する相手先の回線の種別が、以前の登録先と同じ場合は、この画面で再設定する以外の項目については、前の内容が反映されます。
回線種別も変更する場合は、相手先「01」番の登録内容がすべて更新され、設定されない項目については、工場出荷時の状態になります。

ファームウェアの更新 11

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、Wireless ISDN Routerを動作させるために、工場出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。
このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。
ファームウェアの更新操作を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。

バージョン情報

更新することによって、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。

■ 最新バージョンについて

ファームウェアアップデート用データファイルは、弊社ホームページで、提供しています。

URL=http：//www.icom.co.jp/

定期的に弊社ホームページで、ご確認ください。

■ ダウンロード時のご注意

◎ダウンロードする際は、弊社ホームページのご利用ライセンス契約書をよくお読みください。
◎ほかの機種のファームウェアは使えませんから、誤ってダウンロードしないように、注意してください。
◎アップデートの内容によっては、ファームウェアを更新すると、設定内容の初期化が必要となることがあります。このような場合、更新後、Utility(☞P 92)を使って初期化してください。
◎本製品とコンピューターを１対１で接続して、安定した状態でデータ転送できるようにしてください。

■ 更新のしかた

◎ファームウェアの更新は、付属のCD-ROMに納められた、Utilityで行います。
◎Utilityのインストールと操作方法は、「付属ソフトウェアについて」(13章☞P 91)をご覧ください。

12 CD-ROMの使いかた

付属のCD-ROMをコンピューターのCD-ROMドライブにセットしてご使用ください。

■ CD-ROMについて

「Windows」と「Macintosh」の両OSに対応していますので、CD-ROMをセットするコンピューターのOSによって、表示されるフォルダー階層が異なります。

■ 活用ガイド

活用ガイドには、[初期設定]画面を使った各回線ごとのネットワーク接続設定例を説明しています。

[guide]フォルダーの活用ガイドをご覧になるためには、「Acrobat Reader」が必要です。

ご使用のコンピューターに「Acrobat Reader3.0」以上がインストールされていないときは、CD-ROMの[acrobat]フォルダーのインストーラーでインストールを行います。

【インストールのしかた】

1.[CD-ROM]アイコンの[acrobat]フォルダーから、インストーラーをご使用のコンピューターのハードディスクにコピーします。

2.コピーしたインストーラーのアイコンをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。

- 起動したら、表示にしたがって操作します。

3.インストール完了後、コンピューターを再起動します。

【活用ガイドの使いかた】

1.CD-ROMに納められた[guide]フォルダーの中にある[guide]アイコンを、ハードディスクにコピーします。

2.「Acrobat Reader」を起動し、[開く]メニューを実行して表示されるダイヤログボックスから、ハードディスクにコピーした[guide.pdf]または[guide]アイコンを選んで、〈開く〉ボタンをクリックすると、ファイルを閲覧できます。

3.活用ガイドの目次は、「Acrobat Reader」のしおり機能に表示します。

■ Utility

「Windows95/98」や「Windows NT4.0/2000」で使用できるアプリケーションが納められています。

[Utility]→[dr1wl]フォルダー内のSetup.exeからインストールできます。

インストールについて詳しくは、「付属ソフトウェアについて」(13章☞P91)をご覧ください。

付属ソフトウェアについて 13

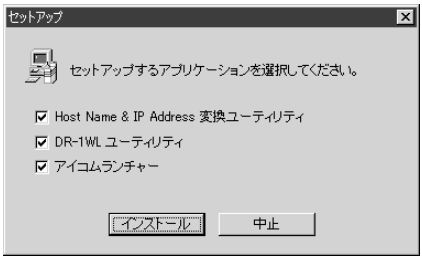
付属のCD-ROMをWindowsで使うとき、Utilityフォルダーに納められたソフトウェアの使いかたを説明します。

13-1 Utilityとは

本製品の設定内容初期化やファームウェアの更新、簡易DNSサーバー機能に使用するソフトウェア集です。
Windows95/98またはWindows NT4.0/2000で起動するコンピューターに、インストールしてご使用ください。

13-2 インストールのしかた

1.Windowsを起動します。
Windowsがすでに起動中で、実行中のアプリケーションがあるときは、すべて終了してください。
2.付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
3.次の順番にマウスを操作します。
[マイコンピューター]→[D：](CD-ROMの起動ドライブ)→[Utility] フォルダー→[dr1wl] フォルダー
4.[Setup.exe]アイコンをダブルクリックします。
●次のセットアップ画面を表示します。



5.インストールしない項目は、該当するチェックボックスをクリックして、チェックマークを消します。
6.〈インストール〉ボタンをクリックします。
7.画面の指示にしたがって、操作を進めます。
8.インストール終了後は、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出します。

【ICOM Launcherについて】
アイコムランチャーは常駐型で、項目別にプログラムのアイコンを起動用ボタンとして登録できる便利なデスクトップウィンドウとして、本製品の設定画面へアクセスするときや、次に説明するUtility、IP Nameの起動を、登録されたボタンをクリックして、簡単に起動できます。
新たに起動用ボタンとして登録したいプログラムがあるときは、目的のアイコンをランチャーのウィンドウ内にドラッグしてください。また、登録済みのアイコン上で右クリックすると、登録削除等が行えます。
[shift]キーを押しながら右クリックすると、ウィンドウの背景データが保存されている場所を表示します。

13 付属ソフトウェアについて

13- 3 Utilityの使いかた

A ディップスイッチの変更

【おことわり】
切り替えるときは、隣のスイッチに触れない程度の細いドライバーを、ご使用ください。

本製品をUtility使用データ更新モードで起動して、以下のUtilityと通信を行うには、本製品のディップスイッチの３番(☞P 15)を「OFF」にして、電源を入れなおします。

- [B1]ランプと[B2]ランプが交互に点滅を繰り返します。

B コンピューターの接続

Utilityがインストールされた有線または無線端末を１対１で接続して、本製品から起動します。

- 有線端末で接続時：[LAN]ランプが点灯します。
- 無線端末で接続時： wireless LAN ランプが点灯します。

※稼働中のネットワークに接続する端末から、設定内容の初期化やファームウェアの更新を行うと、IPアドレスの競合など、不測の事態を招くおそれがあります。

C Utilityの起動

Windowsの〈スタート〉ボタンをクリックし、[プログラム(P)]にカーソルを合わせ、このUtility名にカーソルを合わせてクリックすると次の操作画面を表示します。

【DR-1WL Utilityの操作画面】

【重要事項】

本製品のユーザーデータ(設定内容)初期化やファームウェアの更新(☞P 93、94)に伴う再起動中は、電源を絶対に切らないでください。
途中で電源を切ると、本体のデータが消失して、まったく動作しなくなりますのでご注意ください。
上記画面の[⑧]部分に、「処理が完了しました。システムを再起動します。」と表示され、前面パネルのランプが、再起動する前の状態に戻るまでお待ちください。

Ⓓ 操作のしかた

前ページの「DR-1WL Utilityの操作」画面内の番号と対比させながら、Utilityの操作手順を説明します。

Ⓓ-1 設定内容の初期化操作

【初期化の範囲について】

次の条件に該当する設定項目の内容について、工場出荷時の状態に戻します。

- **全データ初期化**
  設定画面のすべての項目について、内容を初期化します。
- **IPデータ初期化**
  [ネットワーク設定]項目の[LAN側IP設定]画面に設定されたすべての内容を初期化します。
- **PPPデータの初期化**
  [回線接続設定]画面に登録された接続先(20件分)の内容を、すべて初期化します。

【操作手順について】

1.本製品のIPアドレスを[IPアドレス入力用テキストボックス①] に入力します。 (初期値：192.168.0.1)

2.[機能②]で、[ユーザデータ初期化]のオプションボタンをクリックします。

3.[初期化データの選択⑤]項目の中から、初期化したい範囲に該当するオプションボタンをクリックします。

4.〈実行⑥〉ボタンをクリックします。

- 初期化の状況は、[⑧]部分に表示します。
  前面パネルのランプが全灯(再起動)して、ランプの点灯状態が操作前の状態になると完了です。

※通信に失敗すると、「DR-1WLが見つかりません」という内容のダイアログボックスが開きますので、次のことを確認してください。

- ディップスイッチ(3番)の設定(☞P15)を、「OFF」にしてから、再起動する。
- 本製品のIPアドレスと[IPアドレス入力用テキストボックス①] に入力されたIPアドレスを同じにする。

5.Utilityを終了し、本製品のディップスイッチ(3番)の設定を「ON」に戻してから、本製品を再起動します。

13-3 Utilityの使いかた[Ⓓ 操作のしかた](つづき)

Ⓓ-2 ファームウェアの更新操作

ファームウェアの更新については、「取り扱い上のご注意」(☞P５)をお読みください。また、記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますのでご注意ください。

【更新所要時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に有線または無線端末から転送して、本製品の再起動が完了するまでの時間の目安です。

- **転　送＝10秒：有線 / 30秒：無線**
- **再起動＝１分：有線/無線**

【操作に関するご注意】(必ず、お読みください。)

ファームウェア転送時のエラー防止のため、Utilityがインストールされた有線または無線端末を１対１で接続後、以下に推奨する環境に設定しているかを確認してから、次に説明する手順でファームウェアを更新します。

◆有線端末から更新する場合

- 本製品に装着する無線通信LANカードを外すこと
- 更新に使う有線端末だけを接続すること

◆無線端末から更新する場合

※本製品に有線で接続できる環境では、できるだけ有線端末からの更新をおすすめします。

- 「ワイヤレスルータモード」または「アクセスポイント専用モード」で動作していること
- 本製品に接続するETHERNETケーブルを外すこと
- 更新に使う無線端末だけを接続すること
- 本製品との通信距離は、１m以内であること

【操作手順について】

1.本製品のIPアドレスを[IPアドレス入力用テキストボックス①] に入力します。　　(初期値：192.168.0.1)

2.[機能②]で、[ファームウェアの更新]のオプションボタンをクリックします。

3.[ファームウェアファイルの名前③]のテキストボックスでデータファイル(拡張子：.dat)を指定するか、〈参照④〉ボタンをクリックすると、オープンダイアログが開きますので、ハードディスクにダウンロードしたデータファイルを選択します。

4.〈実行⑥〉ボタンをクリックします。

- ファームウェアデータファイルの転送状況は、[⑦⑧]部分に表示します。
  前面パネルのランプが全灯(再起動)して、ランプの点灯状態が操作前の状態になると完了です。

※通信に失敗すると、「DR-1WLが見つかりません」という内容のダイアログボックスが開きますので、次のことを確認してください。

- ディップスイッチ(３番)の設定(☞P 15)を、「OFF」にしてから、再起動する。
- 本製品のIPアドレスと[IPアドレス入力用テキストボックス①] に入力されたIPアドレスを同じにする。

5.Utilityを終了し、本製品のディップスイッチ(３番)の設定を「ON」に戻してから、本製品を再起動します。

13-3 Utilityの使いかた(D 操作のしかた)
D-2 ファームウェアの更新操作(つづき)

【転送に失敗したら？】

Utilityの操作画面や本製品のランプが以下の状態になったときは、データファイル転送に失敗している可能性があります。

- Utilityの操作画面の[⑦]部(☞P 92)に、転送状況を示すバーが表示されなかったり、途中で表示が停止した場合
- Utilityの操作画面の最下部に、「データを転送中です」が表示された状態で、本製品の[B 1]ランプと[B 2]ランプが交互に点滅を繰り返したまま変化しない
- 「データの転送に失敗しましたDR-1WLを再起動させてください」という内容のダイヤログボックスを表示している場合

本製品との通信に異常があると上記の状態なりますので、以下の内容を確認後、本製品を再起動してから転送し直してください。

- 有線端末に接続しているETHERNETケーブルの状態
- 無線端末と本製品との通信距離
- [LAN]ランプの点灯：有線端末使用時
- wireless LAN ランプの点灯：無線端末使用時

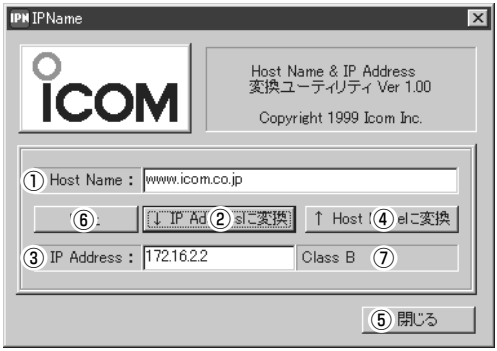
13-4 IP Nameとは

本製品の簡易DNSサーバー機能を利用する際、あらかじめコンピューターのホスト名に対応するIPアドレスを登録しておく必要があります。
IP Nameを使うと、このホスト名に対応するIPアドレスを、検索することができます。また、IPアドレスから、ホスト名を検索(逆引き)することも可能です。
※グローバル環境のホスト名解決には、インターネットへ接続して外部DNSへ問い合わせを行う必要があります。ダイヤルアップの場合、自動接続を設定していると、検索のためインターネットに自動接続して課金されます。

■ 使いかた

インストールを(13章☞P91)行い、ICOM Launcherにある[IPN]アイコンをダブルクリックして起動します。

【おことわり】
画面は、説明のため実際の状態とは、異なります。



① Host Name …… 目的の名前を、「ホスト名 .(ドット)ドメイン名」の書式で入力します。 (入力例：www.icom.co.jp)

②IP Addressに変換 … 入力したホスト名のIPアドレスを検索します。

③IP Address …… 目的のIPアドレスを入力します。(入力例：172.16.2.2)

④Host Nameに変換 … 入力したIPアドレスのホスト名を検索します。

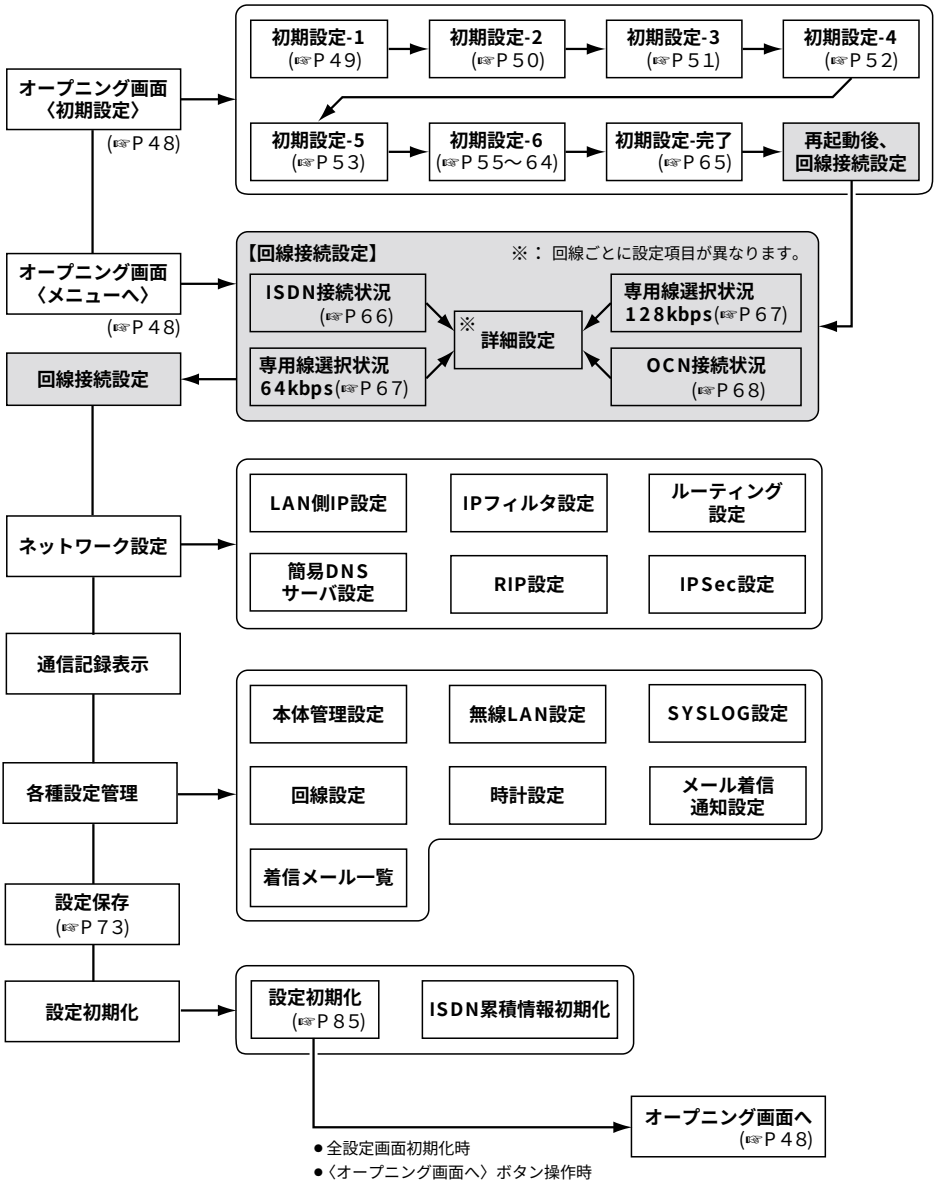
⑤〈閉じる〉ボタン …… IP Nameを終了します。

⑥〈中止〉ボタン …… 検索を中止するボタンです。(通常では表示されません。)

⑦class表示 …… 検索されたIPアドレスが所属するクラスを表示します。
一般に使用されるのは、A～Cのクラスです。

14 設定画面の構成

次の図は、本製品の設定画面の構成を示しています。
下記の図で、参照ページを記載していない画面については、活用ガイドの5章(PDFファイル)を参照してください。



設定項目の初期値について 15

設定を[初期設定]画面を使わないで行う場合の初期値を示しています。
[初期設定]画面から行うと、選ばれた動作モードや回線種別によって初期値が異なります。

回線接続設定
- 認証プロトコル(発信)：相手に合わせる
- デフォルトGWを構築：する
- コールバック要求：しない
- **自動接続：しない**
- 通信速度：64k可変
- BODを使用：しない
- トラフィック量(1B→2B)：75%
- トラフィック量(2B→1B)：25%
- 料金による制限：0円/月
- 接続回数による制限：0回/日
- 通算接続時間による制限：0/分
- 自動接続可能な時間帯：00:00～00:00
- 終了時刻で強制切断：しない
- **自動切断：する**
- 自動切断タイマ1：150秒
- 自動切断タイマ2：0秒
- タイマ2を使用する時間帯：00:00～00:00
- **着信：しない**
- 電話番号チェック：する
- 通信チャンネル：2Bまで許可
- PIAFSによる着信：しない
- コールバック着信：不許可
- 認証プロトコル：PAPまたはCHAP
- 着信を許可する時間帯：00:00～00:00
- Numberedで使用：しない
- **アドレス変換：する**
- **データ圧縮：しない**
- **暗号化：しない**

ネットワーク設定(LAN側IP設定)
- 本体名称：DR-1WL
- IPアドレス：192.168.0.1
- サブネットマスク：255.255.255.0
- DHCPサーバ機能を使用：する
- 割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
- 割り当て個数：30
- サブネットマスク：255.255.255.0
- リース期間：3日
- リモートアクセスサーバを使用：しない

ネットワーク設定(簡易DNSサーバ設定)
- DNSサーバの代理応答：する

ネットワーク設定(IPフィルター設定)
- フィルタ方向：OUT
- フィルタ方法：遮断
- プロトコル：ALL
- 発信元IPアドレス
  始点サブネットマスク：255.255.255.255
  終点サブネットマスク：255.255.255.255
- 宛先IPアドレス
  始点サブネットマスク：255.255.255.255
  終点サブネットマスク：255.255.255.255

ネットワーク設定(RIP設定)
- LAN側にRIPを使用：する
- WAN側にRIPを使用：しない

ネットワーク設定(ルーティング設定)
リソースルーティング設定
- 接続方法：手動発信
- 経路：01:PPP01
- プロトコル制御：使用しない

ネットワーク設定(IPSec設定)
- IPSecを使用：しない

各種設定管理(本体管理設定)
- 接続設定編集を許可：しない
- 通信記録表示・クリアを許可：しない

各種設定管理(回線設定)
- 回線種別：ISDNダイヤルアップ

各種設定管理(無線LAN設定)
- ルータ間無線通信モードを使用：しない
- ESS ID：LG(半角大文字に設定)
- MACアドレスセキュリティーを使用：しない

SL-1100詳細設定
- チャンネル：14
- 通信速度：自動切替
- セキュリティレベル：なし

各種設定管理(時計設定)
- 自動時計設定を使用：する
- NTPサーバ1　IPアドレス：133.100.9.2
- アクセス時間間隔：1日

各種設定管理(SYSLOG設定)
- DEBUGを使用：する
- INFOを使用：する
- NOTICを使用：しない
- ファシリティ：1

各種設定管理(メール着信通知設定)
- メール着信通知機能を使用：しない
- 確認時刻(時：分)/間隔(分)：00:00
- 接続先：01:PPP01
- メール転送機能を使用：しない

16 機能一覧表

■ ルーター機能

- 自動接続/自動切断機能
- マルチダイヤル機能
- 簡単設定[初期設定-1～初期設定-完了]画面
- 各種接続制限機能
  料金、接続回数、通算接続時間、接続時間帯
- INSネット64/OCNエコノミー/専用線対応
- 相手先識別着信
- PIAFS対応
  32kbps
  64kbps(Ver2.0=NTT DoCoMo方式のみ対応)
- MP(Multilink PPP)対応
- ルーティングプロトコル
  TCP/IP(RIP　スタティック)
- WANプロトコル
  PPP、MP、BACP
- リソースルーティング機能
- スループットBOD機能
- コールバック機能(無課金、CBCP)
- セキュリティー(PAP、CHAP、IPsec)
- パケットフィルタリング対応
- 静的IP Masquerade
- NAT/IP Masquerade
- DNS代理応答機能
- DHCPサーバー機能
- DHCPスタティック機能
- 簡易DNSサーバー機能
- リモートアクセスサーバー機能
- SYSLOG対応
- メール着信通知機能
- リモートセットアップ機能(WWWブラウザ)
- TFTP機能(ファームウェアの更新)

■ 無線LAN機能

- アクセスポイント機能
- ルーター間無線通信機能
- ローミング機能
- セキュリティ(ESS-ID、MACアドレス、WEP)

●[初期設定]画面の設定を完了すると、自動的に次のフィルターが設定されます。

- INS64を設定時は、Windows95/98やWindows NT4.0/2000が行う定期的な通信によって起きる「意図しない自動接続」を防止するためのフィルターが設定されています。
  Microsoftネットワークを使えないときは、必要に応じて、これらのフィルターを削除してください。
- OCNエコノミー設定時は、WAN側から本製品へのアクセスを防止するためのフィルターが設定されています。このフィルターは、特に支障がない限り削除しないでください。

17-1 別売品について

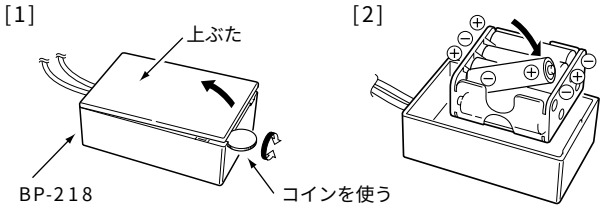
本製品には、次のような専用別売品が用意されています。
◎無線通信LANカード：SL-1100(弊社推奨機種)
◎停電対策用電池BOX：BP-218

17-2 停電対策用電池BOXについて

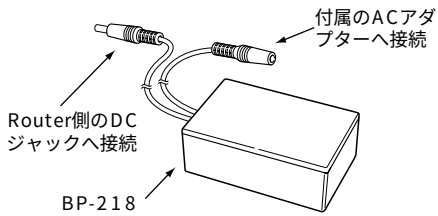
ブレーカー(ヒューズ)切れや、コンセントを誤って引き抜いてしまうなどの人災による停電や、落雷・地震による不慮の停電に備えて、本製品の電源をバックアップします。

A 電池の入れかた

単3形アルカリ乾電池を８本、極性に注意しながら内部の電池ケースへセットしてください。



B 接続のしかた



C 運用時間について

連続して使用できる時間は、約１時間です。

停電対策用電池BOX使用時のご注意

- 単3形アルカリ乾電池専用の乾電池BOXです。
  マンガン乾電池、充電用ニカド電池を使用したり、充電したりしないでください。
- 乾電池の⊕と⊖の極性に、ご注意ください。
- 乾電池BOXの端子間をショートさせないでください。
  発火して火傷や火災の原因になります。
- 同じ種類の新しい乾電池を使用してください。
  新しい乾電池と使用済みの乾電池を混用すると発熱の原因になることがあります。
- アルカリ乾電池の種類により、連続使用可能時間が異なることがありますので、ご注意ください。
- アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。
- アルカリ乾電池の電圧が動作範囲以下では、正常に機能しませんので、ご注意ください。

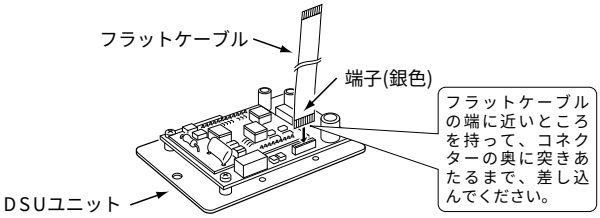
17-3 DSUユニットについて

別売品として、[DSUなしモデル]用に用意された、DSUユニット(UX-153)の装着のしかたです。
※使いかたは、本製品の[DSUありモデル]と同じです。

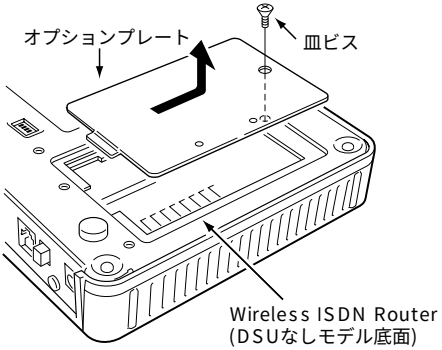
■ 装着の手順

【ご注意】
DSUユニットを取り付ける際は、プレートの端で指を切ったり、指を挟んだりしないようにしてください。

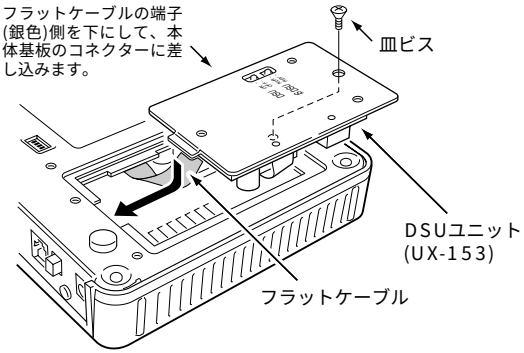
1.付属品のフラットケーブルは、端子(銀色)の向きに注意して、DSUユニットに接続します。



2.底面パネルのオプションプレートをはずします。



3.DSUユニットに付けたフラットケーブルのもう一方を本製品基板のコネクターに接続してから、装着します。



■ 本製品への接続を確認するには

それぞれのステーション(端末群)のIPアドレスを正しく設定できていれば、IPパケットが通信先に正しく届いているかを、相手のステーションを“ ping（ピング）”することによって簡単に確認できます。

この確認を行うには、MS-DOSのウィンドウを開き、下記のコマンドを入力します。

“ ping xxx.xxx.xxx.xxx ”

xxx.xxx.xxx.xxxには、本製品のIPアドレスを入力します。

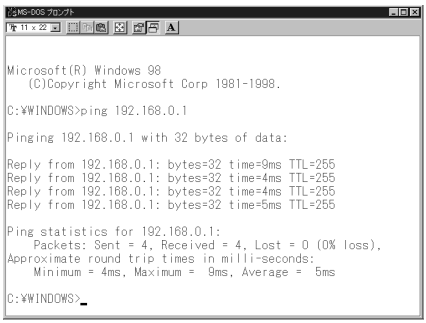
これによって4回ピング(エコー要求)が送出され、それに対して応答メッセージが返ってきます。

“ reply ”が返ってこない場合は、ステーションのプロトコルの有無や無線通信LANカードの設定(Network Mode、ESS IDなど)を確認してください。

お互いのIPアドレスとサブネットマスクが正しく設定されていないと、“ destination unreachable ”を表示します。

◎ **pingコマンド実行例**(正常な場合)

Windows 98



19 お問い合わせについて

■ 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とコンピューターの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

■ 一般仕様

●入　力　電　圧：DC12V標準(DC11～14V)
　ACアダプターBC-123(付属品)は、AC100V±10%
●消　費　電　流：1A(最大)
●接　地　方　式：マイナス接地
●外　形　寸　法：230(W)×38(H)×167(D) mm(突起物を除く)
●重　　量：約0.9kg(付属品を除く)
●使　用　環　境：温度0～＋40℃、湿度5～95%(結露状態を除く)
●電　取　認　可　番　号：▽ 91-53055 [ACアダプターBC-123]
※停電対策用電池BOX使用時：連続使用可能時間：約1時間

■ 有線部

●WANインターフェイス：**【DSUなしモデル】**
　[ISDN U]ポート(RJ-11型)×1(機能しません)
　[ISDN S/T]ポート(RJ-45型)×2
　※終端抵抗スイッチ有り
　【DSUありモデル】
　[ISDN U]ポート(RJ-11型)×1
　※極性反転スイッチ有り/内蔵DSU切り離し可能
　[ISDN S/T]ポート(RJ-45型)×2
　※終端抵抗スイッチ有り
●LANインターフェイス：ETHERNET部：[ETHERNET]ポート(RJ-45型)×1
　※極性反転スイッチ有り
　IEEE802.3/10BASE-T準拠
　IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
　無線LAN部：弊社無線通信LANカードをPCMCIAスロットに装着
　※PCMCIAスロット
　PCMCIA(TYPEII)準拠
●適　用　回　線：INSネット64、高速デジタル専用回線、OCNエコノミー
●通　信　速　度：WAN部：64/128kbps(同期)
　ETHERNET部：10/100Mbps(自動切り替え)
　無線LAN部：11Mbps(Max)
　※SL-1100/1105装着時
●通　信　機　能：ISDN回線交換(2B)
　デジタル専用線(高速符号Iインターフェイス)
●ルーティング方式：スタティック/ダイナミック(RIP)
●アドレス変換方式：NAT/IP Masquerade

……次ページへつづく

20 定　格

●**ユーザインターフェイス：【DSUなしモデル】**

状態表示ランプ：6個(POWER、D、B1、B2、LAN、Wireless LAN)

[HUB/PC]スイッチ(ETHERNET極性切り替え用)

【DSUありモデル】

状態表示ランプ：6個(POWER、D、B1、B2、LAN、Wireless LAN)

[HUB/PC]スイッチ(ETHERNET極性切り替え用)

[NOR/REV]スイッチ(U点極性切り替え用)

[DSU]スイッチ(内蔵DSU切り離し用)

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

■ 無線LANカード対応機種(弊社製)

UX-136、SL-100、SL-200、SL-1100、SL-1105

■ 無線通信LANカード(SL-1100/SL-1105)

◎一般仕様

- ●国　際　規　格：IEEE 802.11/IEEE 802.11b
- ●国　内　規　格：ARIB STD-33/ARIB STD-66T
- ●通　信　方　式：単信方式
- ●電　波　方　式：直接スペクトラム拡散
- ●中　心　周　波　数：2412～2484MHz(全14ch)
- ●データ伝送速度：自動/11/5.5/2/1Mbps
- ●伝　送　距　離：屋内約50m、屋外約150m(見通し)
  屋内約30m、屋外約70m(見通し)[11Mbps通信時]
- ●暗　号　化　処　理：Wired Equivalent Privacy(WEP)
- ●使用温度条件：温度0～＋50℃
- ●保存温度条件：温度－30～＋80℃(結露しないこと)
- ●内蔵アンテナ：パターンダイバーシティーアンテナ
- ●入　力　電　圧：DC3.3V±5%(SL-1100)
  DC5.0V±5%(SL-1105)
- ●消　費　電　流：スリープ時＝240mA(Typ.)(SL-1100のみ)
  受信時＝290mA(Typ.)(SL-1100)
  受信時＝210mA(Typ.)(SL-1105)
  送信時＝350mA(Typ.)(SL-1100)
  送信時＝290mA(Typ.)(SL-1105)
- ●外　形　寸　法：110.5(W)×5.0(H)×54.0(D) mm(突起物を除く)
- ●重　量：約39g

◎送信部

- ●送　信　出　力：10mW/MHz以下
- ●スプリアス発射強度：25μW以下(2458MHz≦f＜2471MHz)
  (14ch使用時)　2.5μW以下(2458MHz＞f)
  25μW以下(2497MHz＜f≦2510MHz)
  2.5μW以下(2510MHz＜f)
  (1～13ch使用時)　25μW以下(2387MHz≦f＜2400MHz)
  2.5μW以下(2387MHz＞f)
  25μW以下(2483.5MHz＜f≦2496.5MHz)
  2.5μW以下(2496.5MHz＜f)
  ※上記のfは、使用周波数帯を除いた周波数を示す。

◎受信部

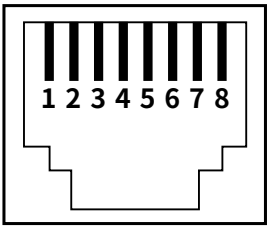
- ●受　信　感　度：－76dBm以下(8×10^{-2})
- ●復　調　方　式：デジタル復調(マッチドフィルター方式)
- ●スプリアス妨害限度：4nW以下(1GHz未満)　20nW以下(1GHz以上)

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

21 各種ポート仕様

■ [ETHERNET]ポート

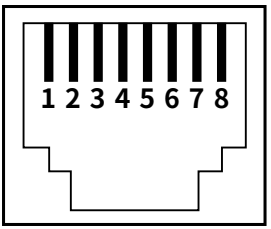
RJ-45型モジュラージャック(8pin)×1



1.送信(+)
2.送信(−)
3.受信(+)
4.未使用
5.未使用
6.受信(−)
7.未使用
8.未使用

■ [ISDN S/T]ポート

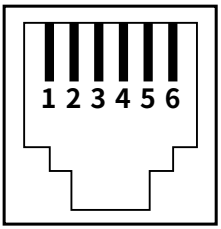
RJ-45型モジュラージャック(8pin)×2



1.未使用
2.未使用
3.送信(TA)
4.受信(RA)
5.受信(RB)
6.送信(TB)
7.未使用
8.未使用

■ [ISDN U]ポート

RJ-11型モジュラージャック(6pin)×1



1.未使用
2.未使用
3.L1(DSUスイッチ/REV)
L2(DSUスイッチ/NOR)
4.L1(DSUスイッチ/NOR)
L2(DSUスイッチ/REV)
5.未使用
6.未使用

※[DSUなしモデル]では、機能しません。

■ご参考に

[ETHERNET]ポートと[ISDN S/T]ポートは、同一形状で未使用pinが異なりますが、本製品に付属するEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN S/Tケーブルとしても使用できます。

Bチャンネル
INSネット64の情報チャネルです。
64Kbpsの通信速度を持ち、WANを介したネットワークの通信は、このチャネルを通じて行われます。INSネット64では、１回線の契約で２本のBチャンネルを提供します。
２本のBチャンネルを独立した接続回線として扱えるので、同時に異なる２つのネットワークと接続ができます。

Bridge
ブリッジを参照(☞P 113)

CHAP
(Challenge Handshake Authentication Protocol)
PPP通信における認証フェーズで使用されるプロトコルです。
サーバーから送られた乱数をもとに、クライアントはユーザー名とパスワードを暗号化してからサーバーに送信します。
暗号化しないでユーザー名とパスワードを送信するPAPより、セキュリティーで優れています。

DHCPサーバー
DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバーから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。
DHCPサーバーは、ネットワーク情報として、“ IPアドレス ”、“ デフォルトゲートウェイ ”、“ ドメイン名 ”などを管理しています。
DHCPサーバー機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(コンピューター)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイやDNSアドレスなどを割り振ります。

DNS(Domain Name System)
TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことです。
DNSにしたがって、ドメインネームサーバーにコンピューター名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。
ドメインネームサービスを利用すると、IPアドレスなどの数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で、目的のサイトを指定できます。

DSU(Digital Service Unit)
ISDN網に接続するための終端装置。
局からの配線をこのDSUに接続し、デジタル電話機やデジタルFAX、TA、ルーターなどの通信用端末機器と接続して使用する装置

Dチャンネル
INSネット64の制御用チャネルです。
16Kbpsの通信速度を持ち、回線接続・切断などの制御情報や、電話料金の通知など付加サービスの提供に利用されます。

ESS-ID(Extended Service Set-IDentifier)
無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

ETHERNET
ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T，10BASE-5，10BASE-2などのタイプがあります。

FTP(File Transfer Protocol)
ネットワーク上のクライアントとホストコンピュータとの間で、ファイルの転送を行なうためのプロトコルです。

HSD(High Super Digital)
高速デジタル専用線を参照(☞P 112)

HUB
ハブを参照(☞P 112)

INSネット64
NTTのISDN回線サービスです。データ用のBチャネル(通信速度 64Kbps)を２つと制御用のDチャネル(通信速度 16Kbps)を持っています。

IP Masquerade
LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに、[複数：1]で変換する機能です。
本製品では、[初期設定]画面を使ってOCN回線を設定すると、IP Masquerade用のIPアドレスを自動的に割り当てます。

22 用語解説

IP(Internet Protocol)アドレス
TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。
通常は、８ビットずつ４つに区切って、10進数の数字列で表されます。　　(例：192.168.0.1）
また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。
アドレス管理機関やプロバイダに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則従って割り振らなければなりません。
外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。
次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。
クラスA：10.0.0.0～10.255.255.255
クラスB：172.16.0.0～172.31.255.255
クラスC：192.168.0.0～192.168.255.255

IPCP(Internet Protocol Control Protocol)
PPPは LCP(Link Control Protocol)とNCP(Network Control Protocol)の二つの部分から構成されています。NCPはLCPに続くデータ通信の次段階(IPなど)の準備を行います。
IPのためのNCPがIPCPです。PPPのNCPフェーズにおいて、IP(Internet Protocol)のリンクを確立するためのプロトコルです。

ISDN(Integrated Services Digital Network)
電話やデータなど異なるサービスを、同じデジタル回線で行う総合回線網です。
NTTではINSネット64としてサービスしています。

LAN(Local Area Network)
同一フロアーや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

MACアドレス
(Media Access Control Address)
個々の有線または無線通信LANカードに設定されている物理アドレスです。
このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。
Eternetでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

MP(Multilink PPP)
PPPを拡張したもとで、２チャンネルあるISDN回線通信において、対向するルーターの通信にMPが使われていることを認識すると、相手のチャンネルが空いていれば、２本のチャンネルを束ねて通信を行う帯域幅調整プロトコルのひとつです。

NAT（Network Address Translator)
LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに１対１で変換する機能です。

Numbered接続
WAN(回線)側にLAN側とは異なるIPアドレスを設定する接続法です。

OCN(Open Computer Network)
NTTによるデータ通信回線のサービスです。
インターネットへの接続が可能で、常時接続環境を専用線感覚で実現する「OCN常時接続サービス」と、電話またはISDN回線で使用時のみ接続する「OCNダイヤルアクセスサービス」があります。

OCNエコノミーサービス
OCNの常時接続サービスの中でもっとも安価なサービスで、128kbpsの専用線を用いています。

PAP(Password Authentication Protocol)
PPP通信における認証フェーズで使用されるプロトコルです。
ユーザー名とパスワードを暗号化せずに送信します。

PHS(Personal Handy-phone System)
移動帯通信機器の一種で、簡易型携帯電話のことです。
屋内ではコードレス電話、屋外では携帯電話として使用できます。
データ通信にも利用できます。

PIAFS
(PHS Iinernet Access Forum Standard)
PHSを利用した32/64kbpsのデータ通信サービスの標準規格です。
ご契約のプロバイダーがPIAFSに対応していない場合でも、本製品がプロバイダーのPIAFSアクセスポイントの代わりをします。

PPP(Point to Point Protocol)
WANにおいて端末が1対1で通信を行うためのプロトコルです。

PPPソフト
PPPを使用して、ネットワークに接続するときに使用するソフトウェアです。
Windows95/98やWindows NT用のダイヤルアップネットワーク、MacintoshのFreePPP、MacPPP、OpenTransport/PPPなどがあります。

RAS
リモートアクセスサーバーを参照(☞P.113)

RIP(Routing Information Protocol)
ルーター間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。
この情報をもとに、ルーターはパケットを正しい相手に送出します。

SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)
電子メールを送信するためのプロトコルです。

SYSLOG
システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。
この機能に対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバーによって、ログ情報を管理できます。

TA(Terminal Adapter)
ターミナルアダプターを参照(☞P.112)

TCP/IP
Windows95/98、WindowsNTなど、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。
SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。
Open TransportをMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

URL(Uniform Resource Locator)
インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。
弊社URLは、http://www.icom.co.jp/です。

Unnumbered接続
ルーター装置において、WANポートにIPアドレスを付加しないで、WANポートの対向装置と通信を行う機能です。
通常のルーターでは、2つのインタフェースを持つ場合には、それぞれのインタフェースにネットワークが存在し、そのネットワークに属するIPアドレスを付加してネットワーク内の転送先端末を識別します。
しかし、WANで使用されるISDNまたはHSDのような1対1で接続されるインタフェースの場合には転送先はひとつしか存在しないため、必ずしもIPアドレスで転送先端末を識別する必要がありません。

WAN(Wide Area Network)
LANどうしを一般電話回線、ISDN、専用回線などで結ぶことでできる比較的大規模なネットワークです。

WEP(Wired Equivalent Privacy)
本製品のようなIEEE 802.11/IEEE 802.11b規格に準拠する無線通信機器が、無線伝送するデータを暗号化して送るときに使う手段です。
暗号化と復号化は、同じKEY(キー)を使用します。

WWWブラウザソフト
WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバーを検索に使うアプリケーションです。
アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T(テンベース・ティー)
100BASE-TX(ヒャクベース・ティーエックス)
ツイストペアケーブルを使ったETHERNETの接続方式のことです。
10BASE-Tの[10]はETHERNETの伝送速度10Mbpsを、[-T]はツイストペアケーブルをそれぞれ表わす。
カテゴリー5のツイストペアケーブルを使うと、100BASE-TXでも使用できます。

アクセスポイント
インターネットを利用するとき、回線と直接接続された機器の総称です。

回線速度
LAN側とWAN側のISDN機器間の通信速度のことです。
ご契約の回線によって、サポートしている回線速度が異なります。

クライアント
ネットワークにおいて、サーバーに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受ける端末またはアプリケーションの総称です。

22 用語解説

グローバルIPアドレス
インターネット上のどの機器とも重複するもののない世界で唯一のアドレスです。

グローバル着信
INSネット64の契約(代表)電話番号で着信することです。ご購入時、本製品では、契約電話番号を入力しない場合、グローバル着信するように設定しています。

高速デジタル専用線
専用の回線を施設し、毎月一定の料金で電話やデータ伝送などに利用できる高速デジタル転送サービスのことです。本製品では64Kbpsと128Kbpsの伝送速度に対応しています。

サブネットマスク
1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。
あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

ターミナルアダプター(TA)
コンピューターやモデム、アナログ電話、FAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDNに接続できるようにするハードウェアです。
本製品には、TAは内蔵されていません。

ダイヤルイン
1回線に複数の通信機器が接続されている場合に、その中の特定の通信機器に、直接着信させることを可能にするINSネット64のサービスです。
一般の電話回線からの着信時にも利用できます。
ダイヤルインサービスを契約すると、本来の契約電話番号とは別に、複数の追加番号が利用できます。

同期通信
データ通信を行うときに、送信側と受信側でタイミングを一致させながらデータを転送する転送効率の良い方法です。

ドメイン名
IPアドレスの状態では人間には理解しにくいので、IPアドレスの所属グループをドメインとしてドメイン名が割り当てられます。
例)icom@bbb.co.jpという電子メールアドレスの場合、bbb.co.jpがドメイン名です。

トラフィック
ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。
トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

認証
インターネットなどを利用して、ネットワークにアクセスしてくるユーザーが、パスワードとユーザーIDを入力して、アクセスの権利があるかどうかを確認することです。

ネットワーク
データなどを転送するために、サーバー、ワークステーション、コンピューターなどの機器が、ケーブルや電話回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

パケット
データが送受信されるときの単位です。
送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード
ネットワークセキュリティー上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)
本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要になる装置です。
10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。
100Mbpsで通信をするときは、カテゴリー5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

非同期通信(調歩同期)
データ通信を行うときに、データの開始部分にスタートビット、終了部分にストップビットを付けて、不定期に送り出す方式のことです。
スタートビットとストップビットを付加するため、転送効率は、同期通信に比べて悪くなります。

フラッシュメモリー
本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。
ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

ブリッジ(Bridge)
MACアドレス(☞P 109)レベルでパケットを中継する機能を持つネットワーク機器の総称です。

プロトコル
通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順を定義したもの。

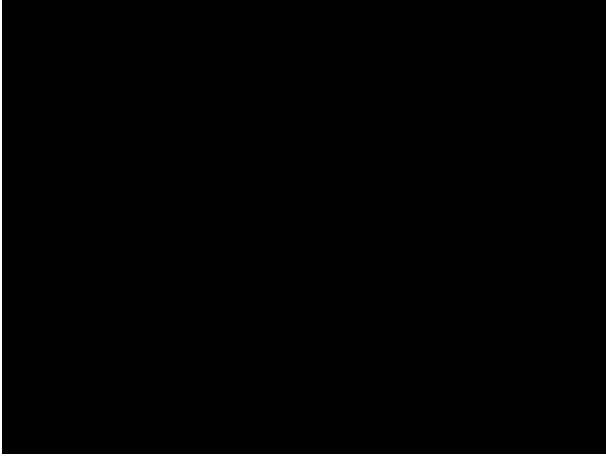
ブロードキャスト
同一ネットワーク内のすべてのハードウェアへパケットを一斉に送信(同報通信)することです。

リモートアクセスサーバー
出先の端末から、公衆電話回線を使用してダイヤルアップ接続することにより、出先の端末にIPアドレスを割り当て、既存のネットワークの端末とIPで通信させる機能をもった機器のことです。
リモートアクセスすると、LANに直接つながっているコンピューターと同様に、データ共有、プリンター共有などLANの資源を使用することができます。

MEMO

MEMO

高品質がテーマです。



アイコム株式会社

本　　社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0003	大阪市平野区加美南1-8-35	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

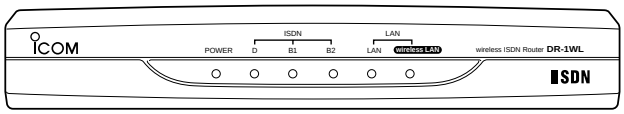
A-5686G-1J © 2000 Icom Inc.

ICOM

活用ガイド

Wireless ISDN Router

DR−1WL



取扱説明書に記載のない内容について説明しています。
本書の設定例集と併せてご覧ください。

Icom Inc.

はじめに

本書は、付属の[取扱説明書]をお読みいただいていることを前提としています。

はじめて本製品をお使いになるときには、[取扱説明書]を先にお読みになってから、本書をお読み下さい。

活用ガイドでは、実際にネットワークの接続を行うために、いくつかの具体的な設定例とWWW設定画面の各設定項目についての詳細を説明しています。

設定例は、[初期設定]画面からの設定を基本にしています。また、指定のない項目は、工場出荷時の状態で通信が可能ですが、[初期設定]画面を使用しないで設定したときやネットワーク環境よっては設定を変更・追加しないと通信できないことがあります。

本書の説明に使用するWWW設定画面は、お使いのディスプレイによって本製品の設定画面の色合いとは、異なることがあります。

表記について

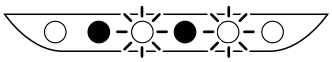
活用ガイドは、次の規則にしたがって表記しています。

「　」表記……本製品の設定画面にある各項目の設定値などを(「」)で囲んで表記します。

［　］表記……本製品の設定画面の名称、または設定例についての操作手順に関係のある操作を([ ])で囲んで表記します。

〈　〉表記……本製品の設定画面にあるコマンドボタンの名称を(〈〉)で囲んで表記します。

前面パネルのランプ表記



消灯：●　点灯：○　点滅：☼

登録商標について

◎WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

◎Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

◎Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

◎Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

◎Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

◎Copyright(C) Open Loop Inc.
Copyright(C) Nippon Unisoft Corporation.
This product includes software developed at the Information Technology Division,US Nanval Research Laboratory.
This product includes software developed by Eric Young(eay@mincom.oz.au).
Open LoopおよびSecured by OPENLOOPのロゴは、株式会社オープンループの商標です。

◎その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

目　次

1.ISDNダイヤルアップの設定例集 ——— 1
1-1　プロバイダへ端末型接続する …… 1
Ⓐ手動接続する場合 …… 1
Ⓑ自動接続する場合 …… 7
1-2　2地点間のLAN型接続 …… 11
1-3　LAN型(1B)+端末型(1B)接続 …… 21
1-4　コールバックによるLAN型接続 …… 28
1-5　スループットBODによるLAN型接続 …… 30
1-6　静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開 …… 33
1-7　公衆回線からLANに接続 …… 36
1-8　PHSからLANに接続 …… 39
2.OCNエコノミーサービスの設定例集 ——— 43
2-1　無線と有線端末をインターネットに常時接続 …… 43
3.高速デジタル専用線の設定例集 ——— 47
3-1　2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続 …… 47
3-2　2地点間で、NumberedによるLAN型接続 …… 55
3-3　RIPによるLAN型接続 …… 57
4.無線LANの設定例集 ——— 63
4-1　アクセスポイント機能を設定する …… 63
Ⓐ無線端末から設定する場合 …… 63
Ⓑ有線端末から設定する場合 …… 67
4-2　ローミング機能を設定する …… 70
4-3　ルータ間無線通信機能を設定する …… 75
5.各種設定画面について ——— 80
5-1　回線接続設定 …… 80
5-1-1　[ISDN接続状況]画面 …… 80
5-1-2　[ISDN詳細設定]画面– 左フレーム …… 81
5-1-3　[ISDN詳細設定]画面– 右フレーム …… 84
■[接続設定]画面 …… 84
■[自動接続設定]画面 …… 86
■[接続制限設定]画面 …… 87
■[自動切断設定]画面 …… 89
■[着信設定]画面 …… 90
■[WAN設定]画面 …… 92
■[アドレス変換]画面 …… 93
■[静的マスカレードテーブル設定]画面 …… 93
■[静的NATテーブル設定]画面 …… 94
■[データ圧縮設定]画面 …… 94
5-1-4　[専用線選択状況]画面 …… 95
5-1-5　[専用線詳細設定]画面– 左フレーム …… 96
5-1-6　[専用線詳細設定]画面– 右フレーム …… 98
■[接続設定]画面 …… 98
■[WAN設定]画面 …… 99
■[アドレス変換]画面 …… 100
■[静的マスカレードテーブル設定]画面 …… 100
■[静的NATテーブル設定]画面 …… 101

目　次

■[データ圧縮設定]画面 ……101
5-1-7　[OCN選択状況]画面 ……102
5-1-8　[OCN詳細設定]画面– 左フレーム ……102
5-1-9　[OCN詳細設定]画面– 右フレーム ……104
■[接続設定]画面 ……104
■[WAN設定]画面 ……104
■[アドレス変換]画面 ……105
■[静的マスカレードテーブル設定]画面 ……105
■[静的NATテーブル設定]画面 ……106
■[データ圧縮設定]画面 ……107
5-2　ネットワーク設定 ……108
5-2-1　[LAN側IP設定]画面 ……108
■[本体名称/IPアドレス設定]画面 ……108
■[DHCPサーバ設定]画面 ……109
■[リモートアクセス用IP設定]画面 ……111
■[静的DHCPサーバ設定]画面 ……111
5-2-2　[簡易DNSサーバ設定]画面 ……112
■[DNSサーバ設定]画面 ……112
5-2-3　[IPフィルタ設定]画面 ……113
5-2-4　[RIP設定]画面 ……116
5-2-5　[ルーティング設定]画面 ……117
■[IP経路情報]画面 ……117
■[スタティックルーティング設定]画面 ……118
5-3　通信記録表示 ……119
5-4　各種設定管理 ……119
5-4-1　[本体管理設定]画面 ……119
■[管理者ID設定]画面 ……119
■[使用者ID設定]画面 ……120
5-4-2　[回線設定]画面 ……121
5-4-3　[無線LAN設定]画面 ……122
5-4-4　[時計設定]画面 ……123
■[内部時計設定]画面 ……123
■[自動時計設定]画面 ……124
5-4-5　[SYSLOG設定]画面 ……125
5-4-6　[メール着信通知設定]画面 ……126
■[サーバ設定]画面 ……126
■[メール転送設定]画面 ……127
■[メールフィルタ]画面 ……128
5-4-7　[着信メール一覧]画面 ……129
■制限事項 ……130
6.ご参考に ——— 131
6-1　選択条件で変化する項目と初期値 ……131
6-2　マルチダイヤル機能 ……132

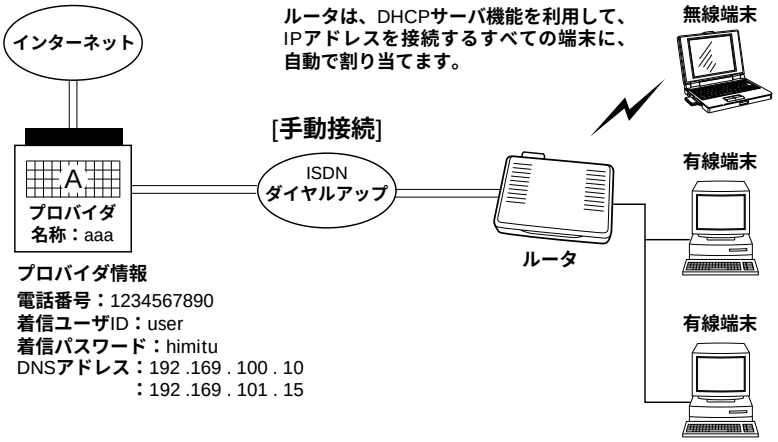
1-1.プロバイダへ端末型接続する

A 手動接続する場合

【条件】

● プロバイダA：手動接続

操作前の状態



プロバイダ情報
電話番号：1234567890
着信ユーザID：user
着信パスワード：himitu
DNS**アドレス：**192 .169 . 100 . 10
：192 .169 . 101 . 15

工場出荷時、本製品が端末に自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、30個に設定されています。
IPアドレスを31台以上の端末に自動で割り当てて使用する場合は、取扱説明書の「自動割り当て開始アドレスを変更する」(☞P63)を参考に、割り当て個数を増やしてください。
なお、設定可能な範囲は、5～128個までです。

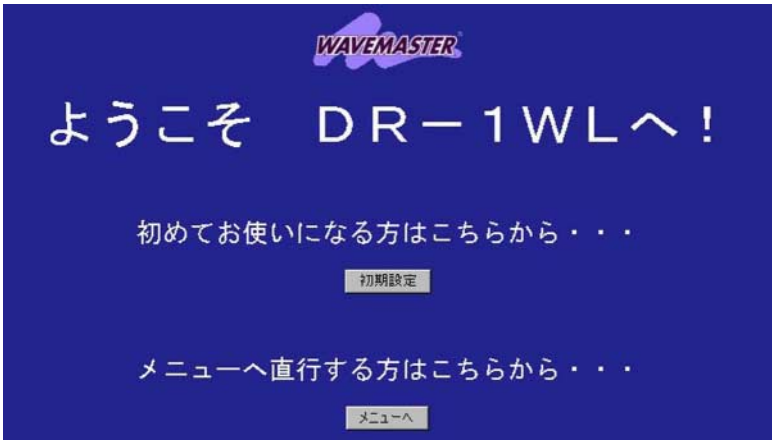
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

① 〈初期設定〉をクリック

1 ISDNダイヤルアップの設定例集

1-1. プロバイダへ端末型接続する

A 手動接続する場合(つづき)

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①DR-1WL(初期値)

[操作]

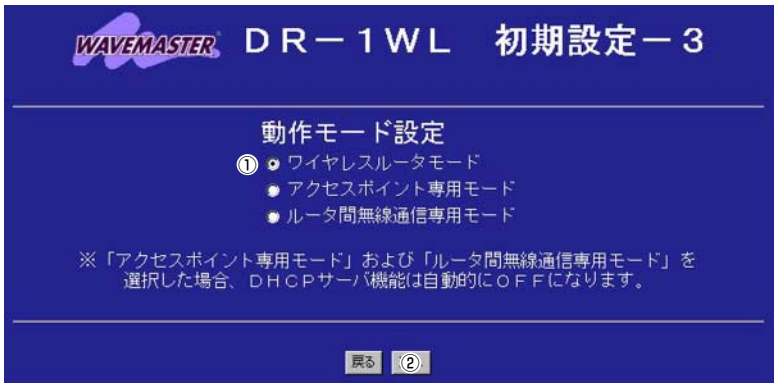
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]

①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)

②〈次へ〉をクリック

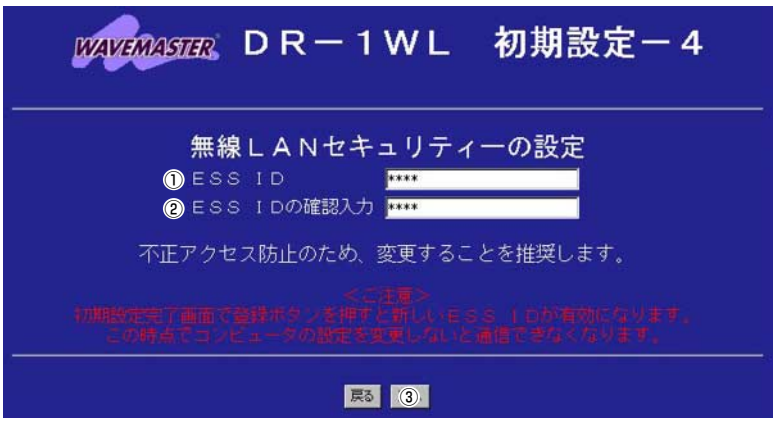


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



7.使用する回線の選択

[操作]
①ISDNダイヤルアップ
インターネット接続
②〈次へ〉をクリック

1-1. プロバイダへ端末型接続する

A 手動接続する場合(つづき)

8.接続先設定

[設定例]

①aaa(任意でよい)

② 1234567890

※③④は、マルチダイヤル機能を使用時に入力必要

⑤user

⑥himitu(表示: ******)

※入力値は、******で表示されます。

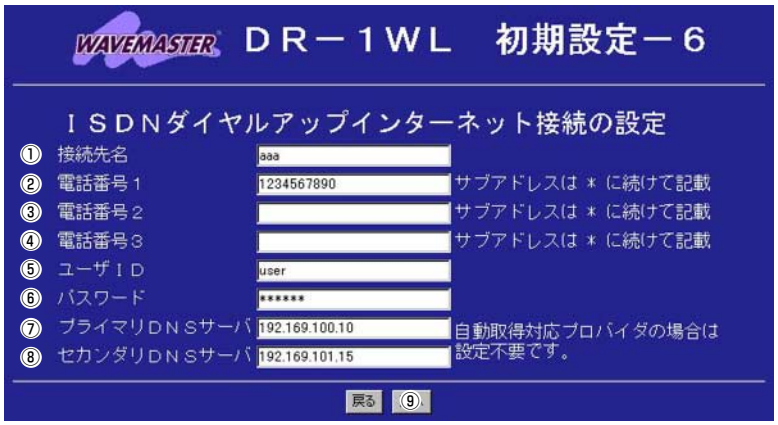
⑦ 192.169.100.10

⑧ 192.169.101.15

※⑦⑧は、プロバイダから指定されている場合に入力します。

[操作]

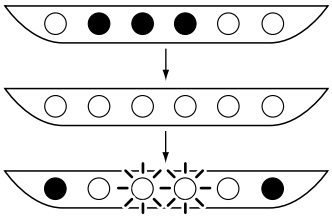
⑨〈次へ〉をクリック



9.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

※約10秒経過して、右の画面を表示するときは、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、**「ISDN接続状況」画面**を表示します。

10.回線の手動接続

[操作]

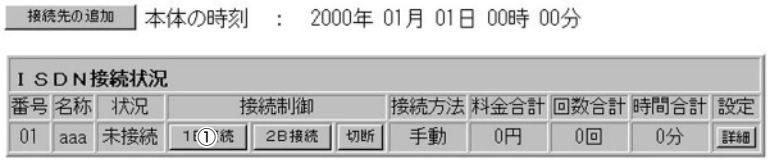
①〈1B接続〉をクリック

[確認]

②[接続中]を「状況」欄に表示

③[１B接続]を「状況」欄に表示

※接続できないときは、正しく情報が入力されていることを確認してください。



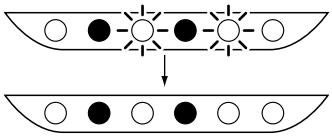
11.インターネットWebページの閲覧

[操作例：アイコムホームページを閲覧する場合]

①http://www.icom.co.jp/を指定

[確認]

②以下のようにLEDが点滅



③指定したURLのホームページを表示

1-1. プロバイダへ端末型接続する

A 手動接続する場合(つづき)

12.回線の切断

切断には、右記のように、「自動切断」と「手動切断」があります。

[操作]

①http:// 192.168.0.1/ をURLに指定すると、「ISDN接続状況」画面に変わります。

[確認]

②[1B接続]を「状況」欄に表示

[操作]

③〈切断〉をクリック

[確認]

④[切断中]を「状況」欄に表示

[確認]

⑤[未接続]を「状況」欄に表示

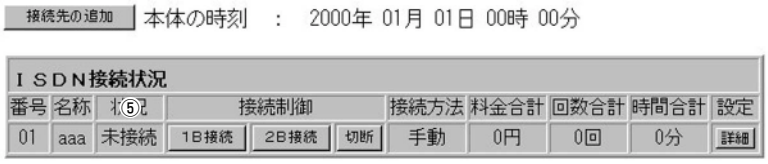
[12-1 自動切断]

すべての無線端末および有線端末から、WWWアクセスやメールアクセスが150秒(工場出荷時の初期値)以上ない場合は、回線を自動的に切断します。

150秒以上、WWWアクセスやメールアクセスを行わない状態で自動切断されない場合は、ほかにインターネットにアクセスを行っているアプリケーションがないかを調べてください。

自動切断については、取扱説明書(☞P61)をご覧ください。

[12-2 手動切断]



1-1.プロバイダへ端末型接続する(つづき)

B 自動接続する場合

次の手順にしたがって自動接続の設定を行うと、WWWブラウザやメールソフト等を起動するだけで、自動的にダイヤルアップインターネット接続が行えます。
自動接続には、以下に表のような設定が可能です。

ここで説明する手順は、[64k可変](工場出荷時の初期値)による設定手順について記載します。
※BODについては、86ページの説明をご覧ください。

設　定	自動接続時の通信速度	BOD	手動接続可能なボタン
64k 固定	64kbps	×	1B接続 切断
128k 固定	128kbps	×	2B接続 切断
64k 可変	64kbps	○	1B接続 2B接続 切断
128k 可変	128kbps	○	1B接続 2B接続 切断

【ご注意】
自動接続をするように設定すると、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長期接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。
設定変更後は、本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプを確認するようにしてください。

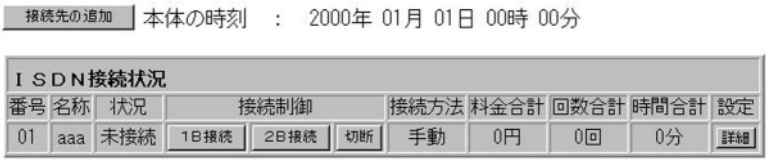
【条件】
● プロバイダA：自動接続

操作前の状態

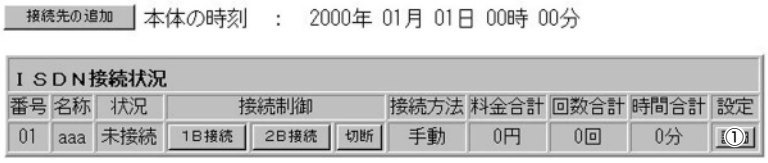
「1-1.プロバイダへ端末型接続する(A手動接続する場合)」の手順1.～9.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示
[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。



2.[詳細設定]画面の表示
[操作]
①〈詳細〉をクリック



3.自動接続設定
[操作]
①自動接続〈する〉をクリック
②〈登録〉をクリック
③自動接続〈詳細〉をクリック

1 ISDNダイヤルアップの設定例集

1-1. プロバイダへ端末型接続する

B 自動接続する場合(つづき)

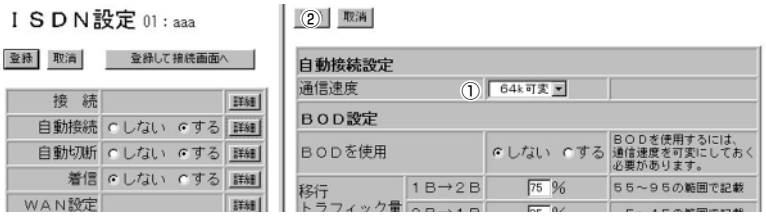
4.通信速度設定

[確認]

①通信速度〈64k 可変〉の選択

[操作]

②〈登録〉をクリック



5.設定の確認

[操作]

①[回線接続設定]をクリック

[確認]

②[自動(64k可変)]を「接続方法」欄に表示

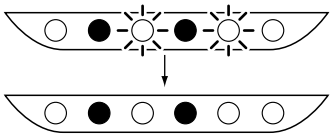
6.自動接続の確認

[操作例：アイコムホームページを閲覧する場合]

①http://www.icom.co.jp/を指定

[確認]

②以下のようにLEDが点滅



③自動接続して、指定した画面を表示

※接続できないときは、正しく情報が入力されていることを確認してください。

7.手動切断

[操作]

①http://192.168.0.1/をURLに指定すると、「ISDN接続状況」画面に変わります。

[確認]

②[1B接続]を「状況」欄に表示

[操作]

③〈切断〉をクリック

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	②状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	aaa	1B接続	－	2B接続	③切断	自動（６４ｋ可変）	0円	0回	0分	詳細

[確認]

④[切断中]を「状況」欄に表示

○ ● ● ● ○ ○

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	④状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	aaa	切断中	－	－	切断	自動（６４ｋ可変）	0円	0回	0分	詳細

[確認]

⑤[未接続]を「状況」欄に表示

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	⑤状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	aaa	未接続	1B接続	2B接続	切断	自動（６４ｋ可変）	0円	0回	0分	詳細

8.手動「1B接続」の確認

[操作]

①〈1B接続〉をクリック

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	aaa	未接続	1①続	2B接続	切断	自動（６４ｋ可変）	0円	0回	0分	詳細

[確認]

②[接続中]を「状況」欄に表示

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	②状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	aaa	接続中	－	－	切断	自動（６４ｋ可変）	0円	0回	0分	詳細

[確認]

③[1B接続]を「状況」欄に表示

○ ● ○ ● ○ ○

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	③状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	aaa	1B接続	－	2B接続	切断	自動（６４ｋ可変）	0円	0回	0分	詳細

1-1. プロバイダへ端末型接続する

B 自動接続する場合(つづき)

9.手動「2B接続」の確認

[操作]

①〈2B接続〉をクリック

[確認]

②[接続中]を「状況」欄に表示

[確認]

③[2B接続]を「状況」欄に表示

※接続できないときは、接続先のプロバイダがMPに対応していることを確認してください。

○ ● ○ ○ ○ ○

10.手動/自動切断

[操作]

①「A 手動接続する場合」の手順12.を行うと右の画面になります。

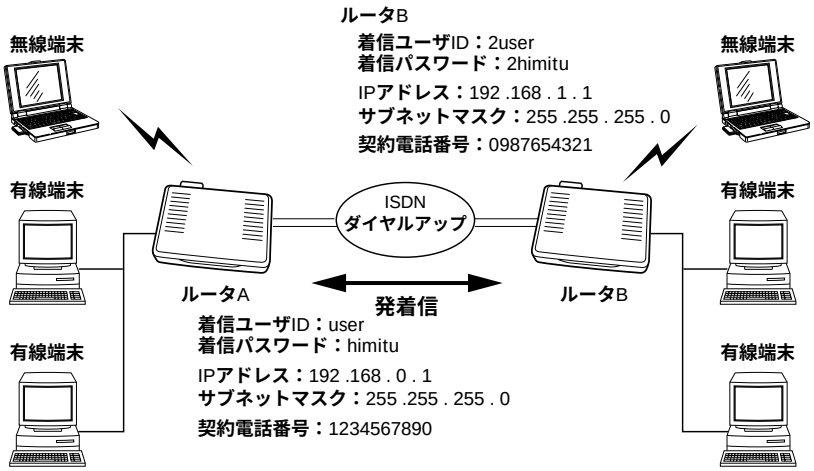
○ ● ● ● ○ ○

1-2.2地点間のLAN型接続

【認証条件】
- 着信番号
- ユーザID
- パスワード
- PAP/CHAP

【その他の条件】
- Unnumbered接続
- 双方から発着信可能

操作前の状態



■ルータAの設定

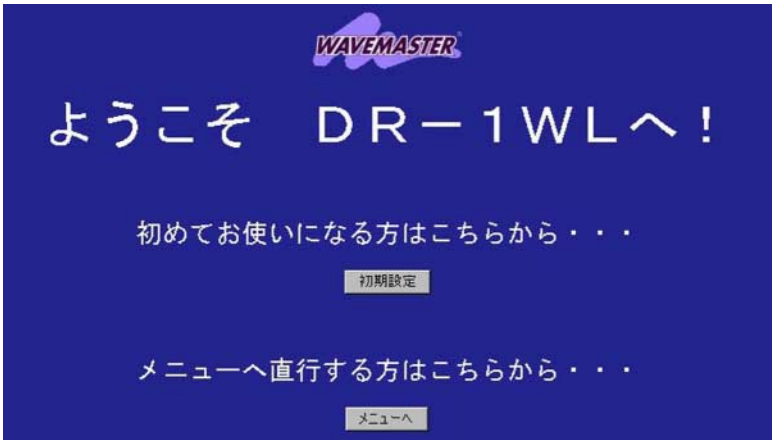
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

①〈初期設定〉をクリック

1-2.2地点間のLAN型接続

■ルータAの設定(つづき)

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①DR-1WL(初期値)

[操作]

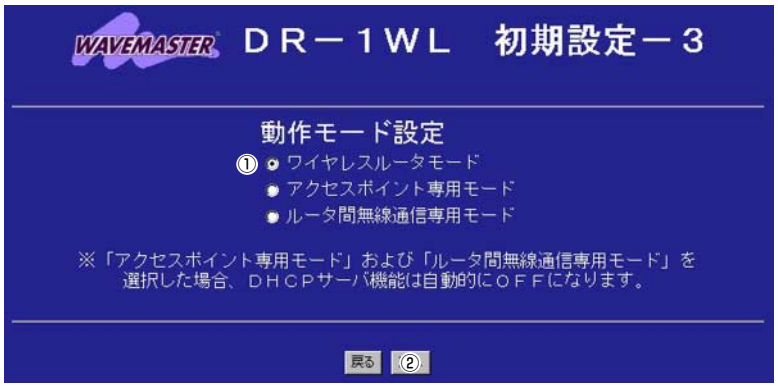
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]

①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)

②〈次へ〉をクリック

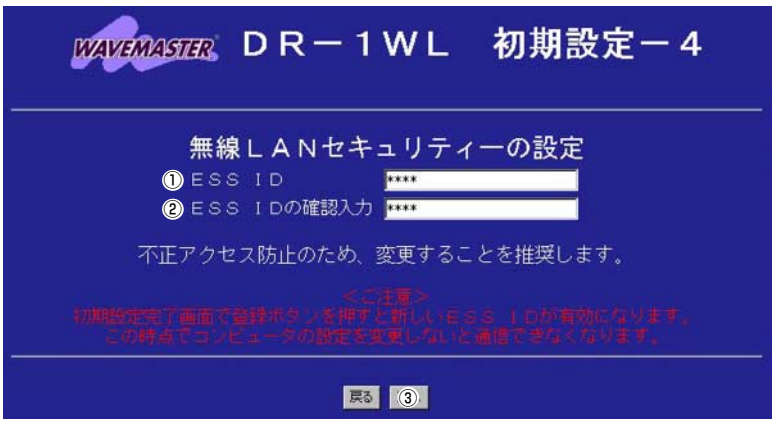


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



7.回線の選択

[操作]
①ISDNダイヤルアップ
LAN間接続
②〈次へ〉をクリック

1-2.2地点間のLAN型接続

■ルータAの設定(つづき)

8.接続先設定

[設定例]

①bbb(任意でよい)

② 0987654321

※③④は、マルチダイヤル機能を使用時に入力必要

⑤ 2user

⑥ 2himitu(表示: *******)

※入力値は、*******で表示されます。

※⑦⑧は、接続先から指定された場合に入力します。

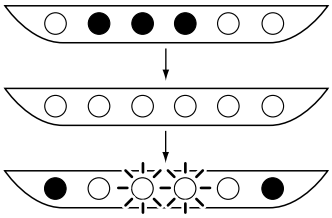
※ルータAでは、⑨⑩を工場出荷時の状態とします。

⑪〈次へ〉をクリック

9.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

※約10秒経過して、右の画面を表示するときは、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、**「ISDN接続状況」画面**を表示します。

10.[詳細設定]画面の表示

[操作]

①〈詳細〉をクリック

11.着信設定

[操作]

①着信〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック

[確認]

③アドレス変換〈しない〉の選択

12.着信詳細設定

[操作]

①着信〈詳細〉をクリック

[設定例]

※②③に表示する内容を確認する場合もあります。

②user

③himitu(表示: ******)

※入力値は、******で表示されます。

[確認]

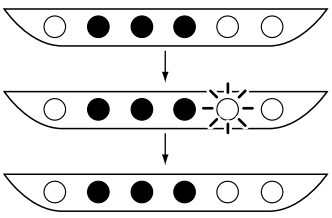
④電話番号チェック〈する〉の選択

⑤認証プロトコル〈PAPまたはCHAP〉の選択

[操作]

⑥〈登録〉をクリック

登録後、次の画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。
ルータBの設定を、次ページを参考に行います。



1-2.2地点間のLAN型接続（つづき）

■ルータBの設定

設定には、11ページの図と併せてご覧ください。

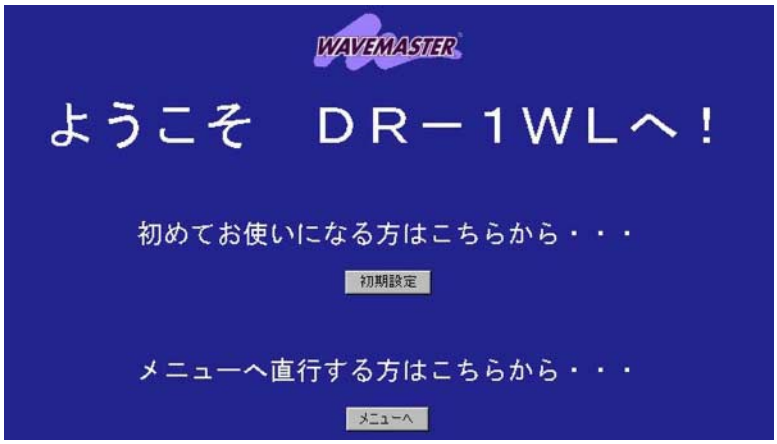
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

①〈初期設定〉をクリック

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

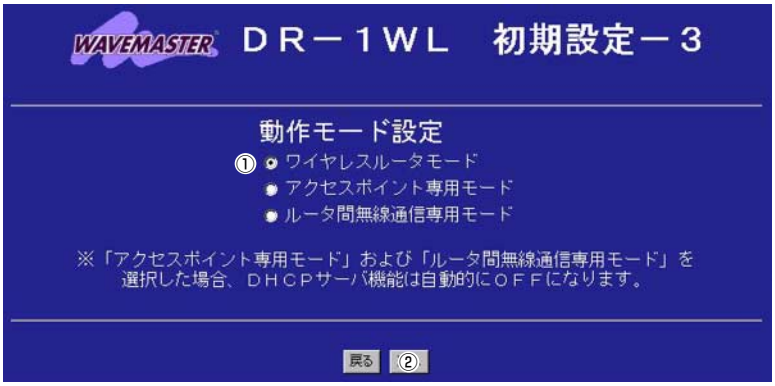
④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

[設定例]
①DR-1WLB
※ルータAと重複しないようにします。
[操作]
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]
①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)
②〈次へ〉をクリック

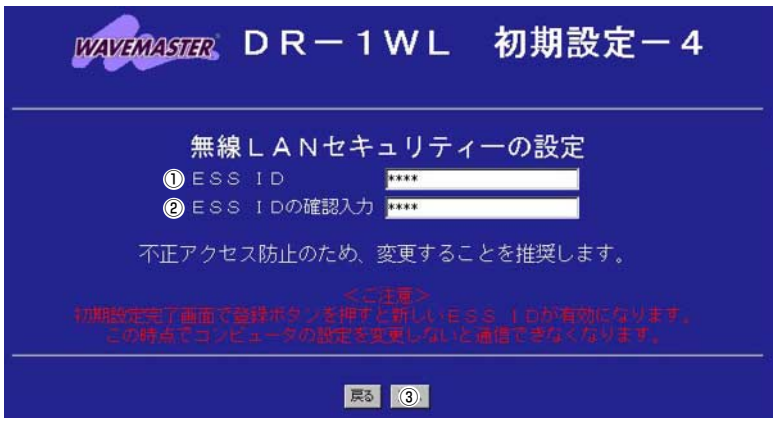


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



1-2.2地点間のLAN型接続

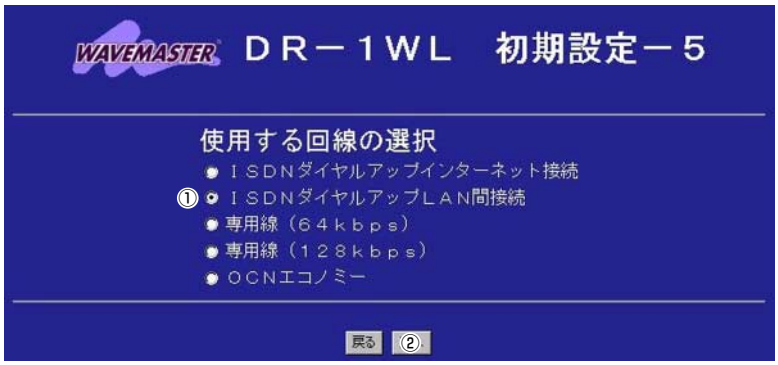
■ルータBの設定(つづき)

7.回線の選択

[操作]

①ISDNダイヤルアップ
　LAN間接続

②〈次へ〉をクリック



8.接続先設定

[設定例]

①aaa(任意でよい)

② 1234567890

※③④は、マルチダイヤル機能を使用時に入力必要

⑤user

⑥himitu(表示: ******)

※入力値は、******で表示されます。

※⑦⑧は、接続先から指定された場合に入力します。

⑨ 192.168.1.1

※ルータAと異なるサブネットを入力します。

⑧ 255.255.255.0

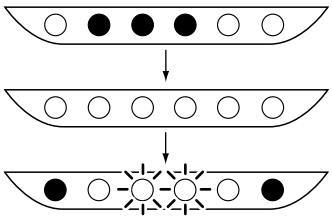
⑪〈次へ〉をクリック

サブネットを変更後は、次の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末および有線端末を再起動して、本製品と同一サブネットのIPアドレスを取得してください。

9.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。

10.[ISDN接続状況]画面の表示

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.1.1をURLに指定します。

11.[詳細設定]画面の表示

[操作]

①〈詳細〉をクリック

12.着信設定

[操作]

①着信〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック

[確認]

③アドレス変換〈しない〉の選択

1-2.2地点間のLAN型接続

■ルータBの設定(つづき)

13.着信詳細設定

[操作]

①着信〈詳細〉をクリック

[設定例]

※②③に表示する内容を確認する場合もあります。

② 2user

③ 2himitu

(表示:*******)

※入力値は、******で表示されます。

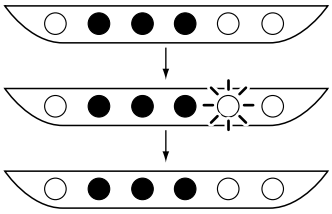
[確認]

④電話番号チェック〈する〉の選択

⑤認証プロトコル〈PAPまたはCHAP〉の選択

[操作]

⑥〈登録〉をクリック



登録後、次の画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

1-3.LAN型(１B)+端末型(１B)接続

【条件】

- **ルータA**
  プロバイダへ端末型接続
  ルータBからの着信に応じる
- **ルータB**
  プロバイダとの契約なし
  ルータAへ発信する

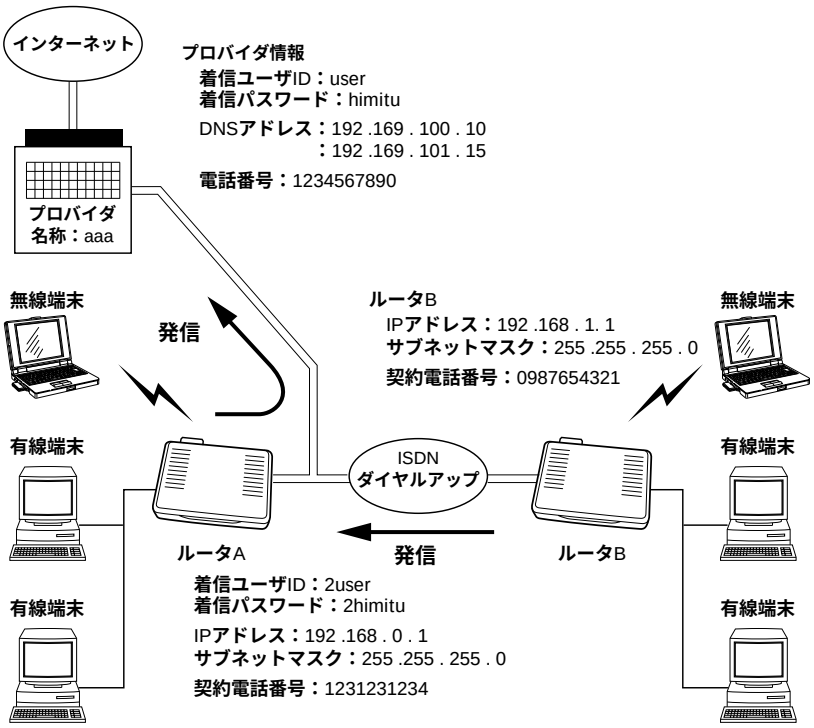
【認証条件】

- 着信番号
- ユーザID
- パスワード
- PAP/CHAP

【その他の条件】

- Unnumbered接続

操作前の状態



■ルータAの設定

「1-1.プロバイダへ端末型接続する(Ⓐ手動接続する場合)」の手順1.～9.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

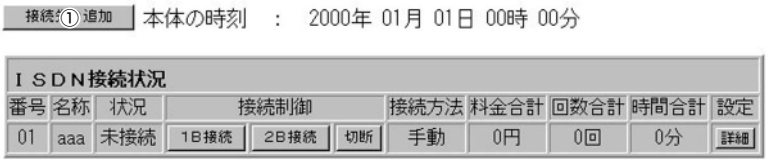
[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.新規接続先画面の表示

※ルータAが、ルータBからの着信に応じるようにします。

①〈接続先の追加〉をクリック



1-3.LAN型(1B)+端末型(1B)接続

■ルータAの設定(つづき)

3.接続先設定

[設定例]

①routerb(任意でよい)

② 0987654321

※「着信詳細設定(手順5.)」で、電話番号チェックの対象とする電話番号です。

[操作]

③デフォルトGWを構築〈しない〉をクリック

④〈登録〉をクリック

4.着信/アドレス変換設定

[操作]

①着信〈する〉をクリック

②アドレス変換〈しない〉をクリック

③〈登録〉をクリック

5.着信詳細設定

[操作]

①着信〈詳細〉をクリック

[設定例]

※②③に表示する内容を確認する場合もあります。

② 2user

③ 2himitu(表示：******)

※入力値は、******で表示されます。

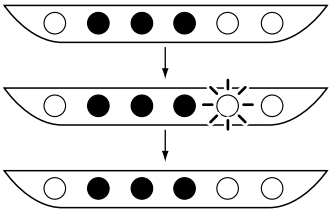
[確認]

④電話番号チェック〈する〉の選択

⑤認証プロトコル〈PAPまたはCHAP〉の選択

[操作]

⑥〈登録〉をクリック



登録後、次の画面で、設定内容を確認します。

6.追加接続先の確認

[操作]

①[回線接続設定]をクリック

[確認]

②追加接続先[０２]を「番号」欄に表示

[操作]

③設定画面を閉じて、次ページを参考にルータBの設定を行います。

1-3.LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

■ルータBの設定

設定には、21ページの図と併せてご覧ください。

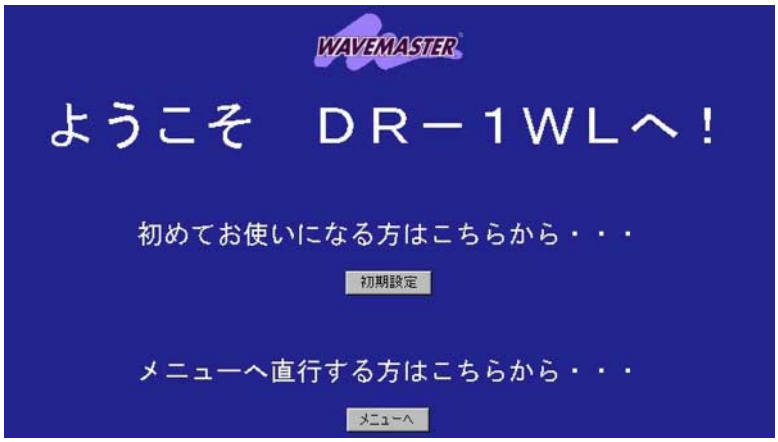
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画画の選択

[操作]

①〈初期設定〉をクリック

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

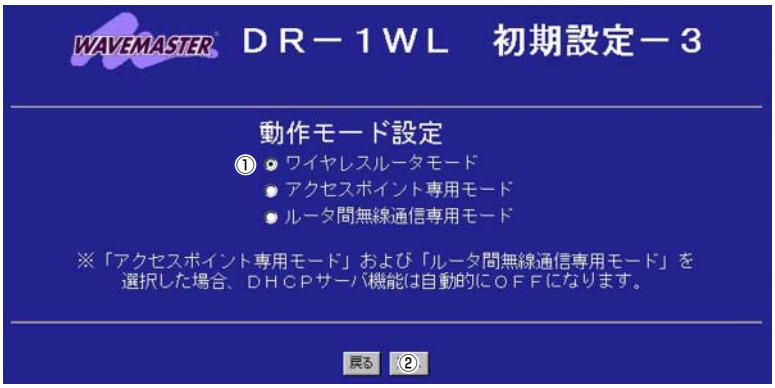
④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

[設定例]
①DR-1WLB
※ルータAと重複しないようにします。
[操作]
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]
①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)
②〈次へ〉をクリック

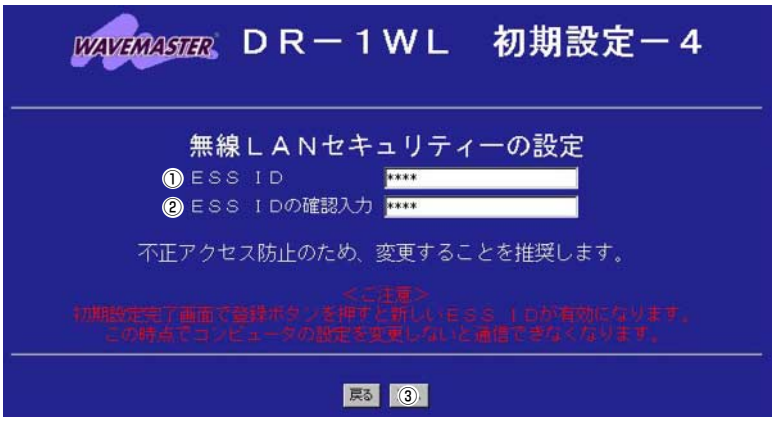


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



1-3.LAN型(1B)+端末型(1B)接続

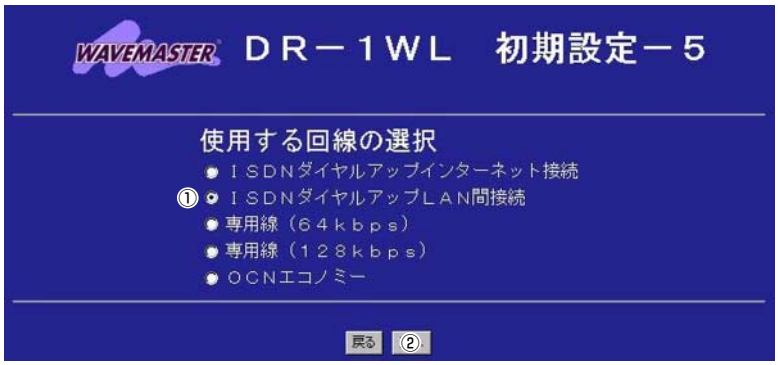
■ルータBの設定(つづき)

7.回線の選択

[操作]

①ISDNダイヤルアップ
　LAN間接続

②〈次へ〉をクリック



8.接続先設定

[設定例]

①routerA(任意でよい)

② 1231231234

※③④は、マルチダイヤル機能を使用時に入力必要

⑤ 2user

⑥ 2himitu(表示: ******)

※入力値は、******で表示されます。

※⑦⑧は、接続先から指定された場合に入力します。

⑨ 192.168.1.1

※ルータAと異なるサブネットを入力します。

⑧ 255.255.255.0

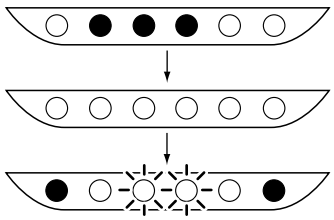
⑪〈次へ〉をクリック

サブネットを変更後は、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末および有線端末を再起動して、本製品と同一サブネットのIPアドレスを取得してください。

9.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。

10.本製品の設定画面にアクセスできることを確認

[操作]

①WWWブラウザを起動して、以下のURLを指定します。

http://192.168.1.1

[確認]

②[routerA]を「名称」欄に表示

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	②称	状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	routerA	未接続	1B接続	2B接続	切断	手動	0円	0回	0分	詳細

11.[詳細設定]画面の表示

[操作]

①〈詳細〉をクリック

接続先の追加　本体の時刻　：　2000年 01月 01日 00時 00分

ＩＳＤＮ接続状況

番号	名称	状況	接続制御			接続方法	料金合計	回数合計	時間合計	設定
01	routerA	未接続	1B接続	2B接続	切断	手動	0円	0回	0分	①詳細

12.デフォルトGWを構築

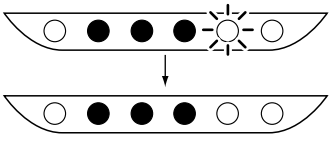
[確認]

①設定内容を確認します。

[操作]

②デフォルトGWを構築〈する〉をクリック

③〈登録〉または〈登録して接続画面へ〉をクリック



④設定画面を閉じる

ＩＳＤＮ設定 01：routerA

登録　取消　登録して接続画面へ

接　続		詳細
自動接続	○しない ○する	詳細
自動切断	○しない ○する	詳細
着信	○しない ○する	詳細
ＷＡＮ設定		詳細
アドレス変換	○しない ○する	詳細
データ圧縮	○しない ○する	詳細

登録削除　全て取消

③　取消　登録して③画面へ

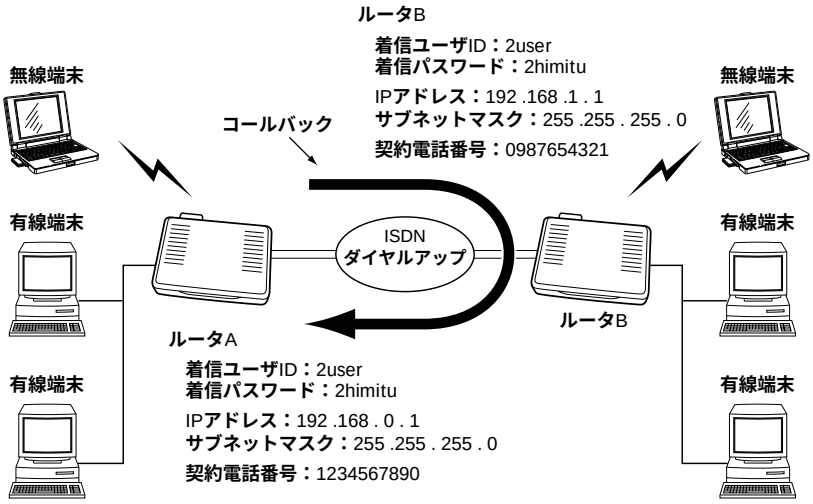
接続設定 ①

接続先名	routerA	
電話番号１	1231231234	＊以降はサブアドレス
電話番号２		＊以降はサブアドレス
電話番号３		＊以降はサブアドレス
認証プロトコル	相手に合わせる	
ユーザＩＤ	2user	
パスワード	*******	
デフォルトＧＷを構②成	○しない ○する	
コールバック要求	しない	
コールバック電話番号		＊以降はサブアドレス
プライマリＤＮＳサーバ		
セカンダリＤＮＳサーバ		

1-4.コールバックによるLAN型接続

【条件】
ルータAがCBCPで要求

操作前の状態



■ルータAの設定

「1-2.2地点間のLAN型接続(■ルータAの設定)」の手順1.～12.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

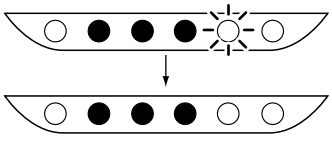
[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]
①〈詳細〉をクリック

3.コールバック発信設定

[設定例]
①コールバック要求
〈CBCP〉を選択
②コールバック電話番号
1234567890
[操作]
③〈登録〉をクリック



登録後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

■ルータBの設定

「1-2.2地点間のLAN型接続(■ルータBの設定)」の手順1.～13.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

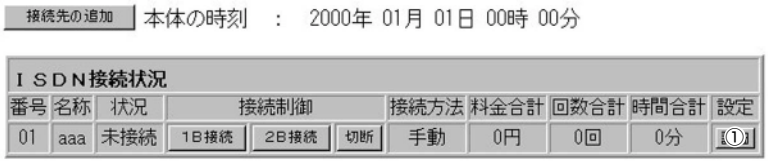
[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.1.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]

①〈詳細〉をクリック



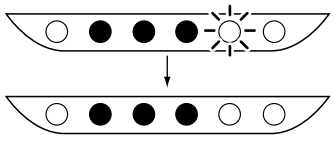
3.コールバック着信設定

[操作]

①着信〈詳細〉をクリック

②コールバック〈許可〉の選択

③〈登録〉をクリック



登録後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

1-5. スループットBODによるLAN型接続

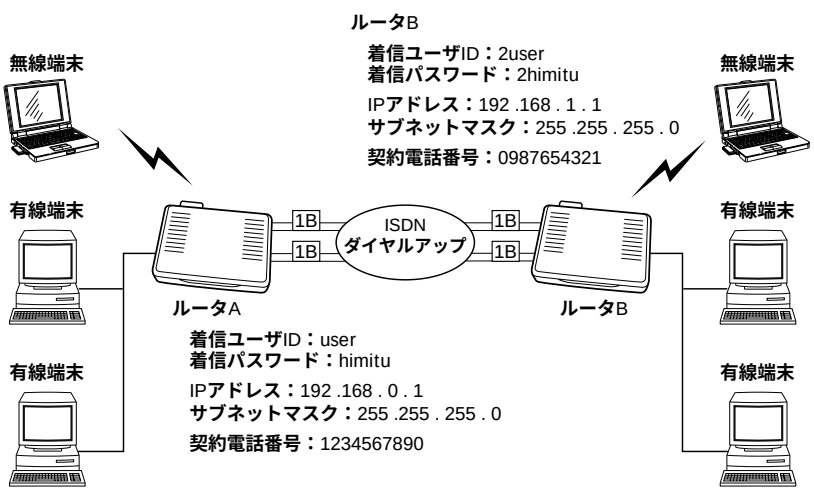
【条件】

- 接続先が、MPに対応していること
- トラフィック量(初期値)

75%以上：2B ＝ 1B ＋ 1B

25%以下：1B ＝ 2B － 1B

操作前の状態



■ルータAの設定

「1-2.2地点間のLAN型接続(■ルータAの設定)」の手順1.～12.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

[操作]

WWW ブラウザを起動して、http://192.168.0.1 をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]

①〈詳細〉をクリック

3.自動接続設定

[操作]

①自動接続〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック

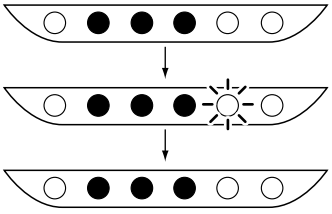
③自動接続〈詳細〉をクリック

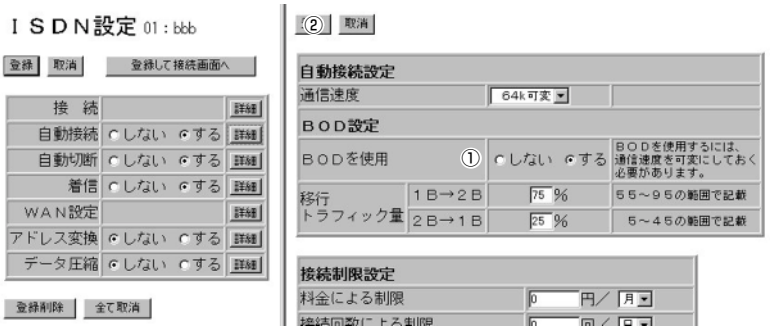
4.BOD設定

[操作]

①BODを使用〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック





登録後、上記画面で設定内容を確認します。

5.自動接続設定の確認

[操作]

①[回線接続設定]をクリック

[確認]

②[自動(64k可変)]を「接続方法」欄に表示

[操作]

③設定画面を閉じて、ルータBの設定を行います。

■ルータBの設定

「1-2.2地点間のLAN型接続(■ルータBの設定)」の手順1.～13.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

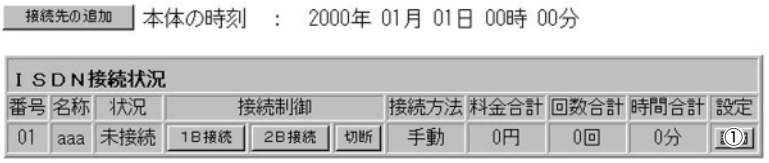
[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.1.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]

①〈詳細〉をクリック



1-5. スループットBODによるLAN型接続

■ルータBの設定(つづき)

3.自動接続設定

[操作]

①自動接続〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック

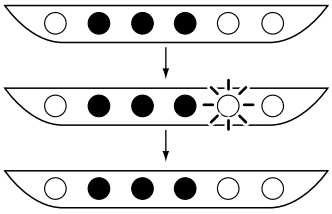
③自動接続〈詳細〉をクリック

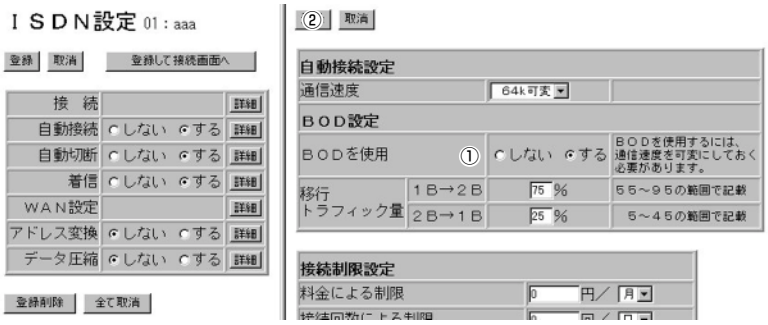
4.BOD設定

[操作]

①BODを使用〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック





登録後、上記画面で設定内容を確認します。

5.自動接続設定の確認

[操作]

①[回線接続設定]をクリック

[確認]

②[自動(64k可変)]を「接続方法」欄に表示

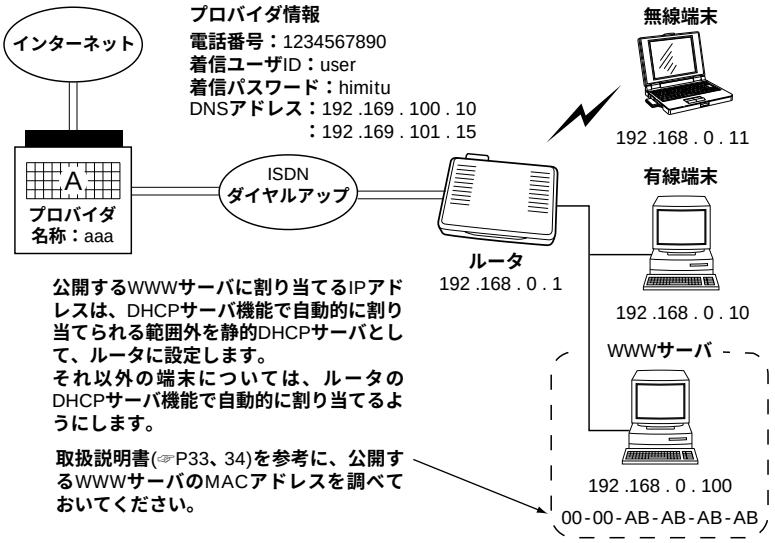
[操作]

③設定画面を閉じる。

1-6.静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開

【条件】
- 手動接続
- プロバイダと64kbpsで契約
- 自動切断をしない
- WWWサーバのIPアドレス
  192.168.0.100
  ※ルータから常に上記のIPアドレスを自動取得します。
  ※サーバは、IPアドレスを自動取得する設定にします。
- プロバイダから取得したグローバルIPを利用してWWWサーバを公開する

操作前の状態



「1-1.プロバイダへ端末型接続する(A手動接続する場合)」の手順1.～9.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

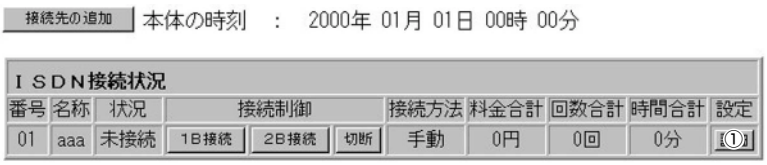
【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]
①〈詳細〉をクリック



3.自動切断設定

[操作]
①自動切断〈しない〉をクリック
②〈登録〉をクリック

1-6.WWWサーバを外部に公開する（つづき）

4.静的マスカレードテーブルの設定

[操作]

①アドレス変換〈詳細〉をクリック

[設定例]

② 192.168.0.100

③TCP

④ 80

⑤ 80

[操作]

⑥〈追加〉をクリック

[確認]

⑦追加内容

⑧〈登録〉をクリック

5.静的DHCPサーバの設定

※公開するＷＷＷサーバのMACアドレスとIPアドレスを設定します。

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

[設定例]

② 00-00-AB-AB-AB-AB

③ 192.168.0.100

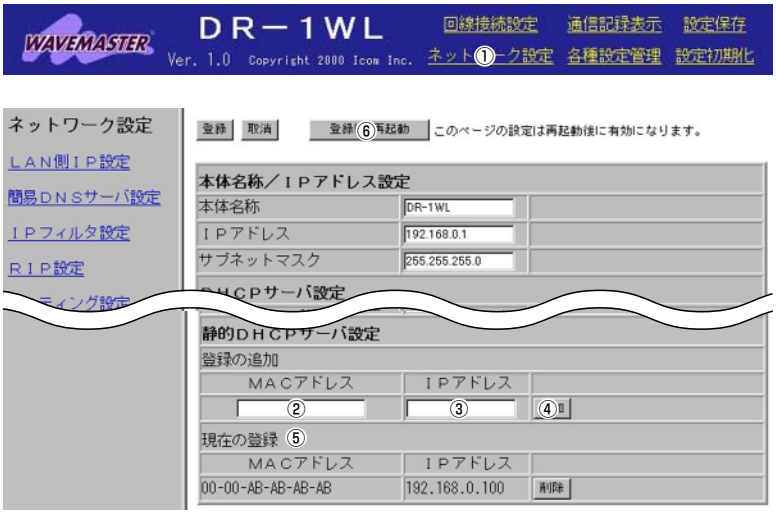
[操作]

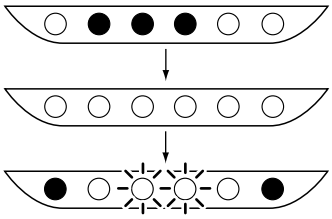
④〈追加〉をクリック

[確認]

⑤設定内容

⑥〈登録して再起動〉をクリック





※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約１０秒経過して、**「ISDN接続状況」画面**を表示します。

6.回線の手動接続と切断

[操作]

①「1-1.プロバイダへ端末型接続する(A 手動接続する場合)」の手順10.～12.を行います。

次の[ISDN接続状況]画面で、プロバイダに接続して、公開するWWWサーバのグローバルIPアドレスを取得します。

7.取得したIPアドレスの確認

[操作]

①[通信記録表示]をクリック

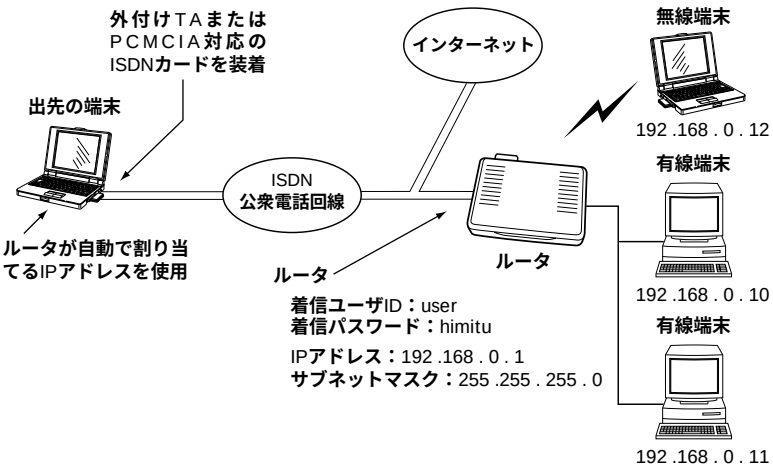
[確認]

②公開するWWWサーバのグローバルIPアドレス

[操作]

③設定画面を閉じる。

1-7.公衆回線からLANに接続



【ルータの条件】
リモートアクセス用IPアドレス
- 192.168.0.100
- 192.168.0.101

【出先端末の条件】
- ISDN公衆電話を使用
- PPPソフトのインストール
- TAまたはISDNカードの装着

【認証条件】
- ユーザID
- パスワード
- PAP/CHAP

操作前の状態

「1-1.プロバイダへ端末型接続する(Ⓐ手動接続する場合)」の手順1.～9.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

[操作]

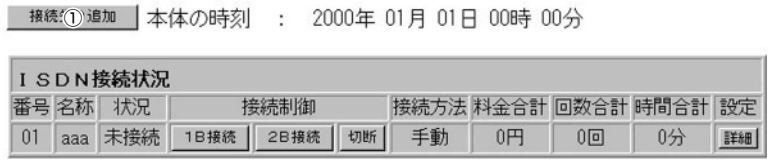
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.新規接続先画面の表示

※リモートアクセス用として、接続先を追加します。

①〈接続先の追加〉をクリック

※「番号」欄の[01]は、プロバイダとします。



3.着信、アドレス変換、接続先名称の設定

[操作]

①着信〈する〉をクリック

②アドレス変換〈しない〉をクリック

③〈登録〉をクリック

[設定例]

④remote(任意でよい)

⑤〈登録〉をクリック

4.着信詳細設定

[操作]

①着信〈詳細〉をクリック

[設定例]

※②③に表示する内容を確認する場合もあります。

②user

③himitu(表示：******)

※入力値は、******で表示されます。

[操作]

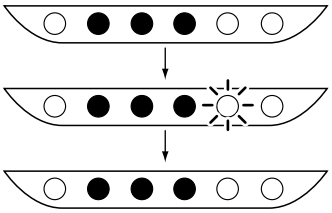
④電話番号チェック〈しない〉をクリック

[確認]

⑤認証プロトコル〈PAPまたはCHAP〉の選択

[操作]

⑥〈登録〉をクリック



登録後、次の画面で、設定内容を確認します。

5.リモートアクセス用IPアドレスの設定

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

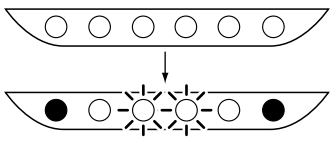
②リモートアクセスサーバを使用〈する〉をクリック

[設定例]

③ 192.168.0.100

④ 192.168.0.101

⑤〈登録して再起動〉をクリック



再起動しています。しばらくお待ち下さい。

6.設定画面を閉じる。

1-7.公衆回線からLANに接続(つづき)

【出先端末の設定について】

出先の端末からルータに電話をかけるには、ご使用のOSに対応するPPPソフトが必要です。

◎Windows95/98/NTでは、一般的に「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールについては、のヘルプで“ダイヤルアップネットワーク”についての項目をご覧ください。

◎Macintoshでは、一般的に「Open Transport/PPP」を使用します。詳しくは、OSのヘルプで“PPP”または“リモートアクセス”についての項目をご覧ください。

【出先端末からインターネットに接続するには】

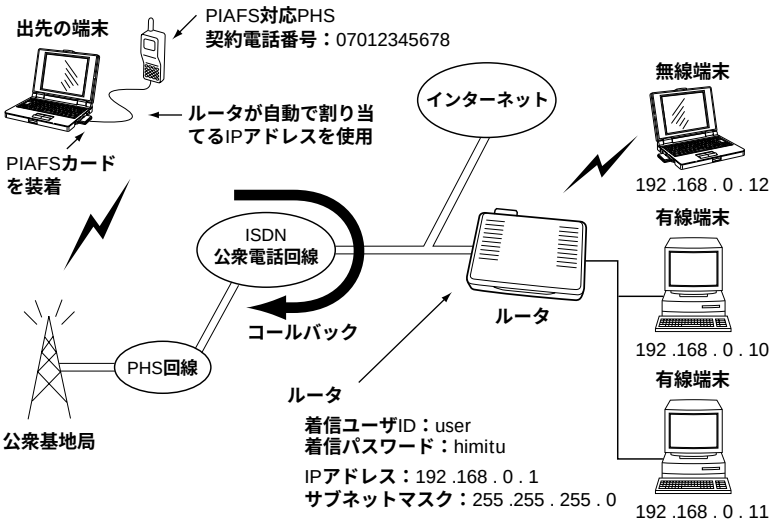
接続先が使用するルータの[ISDN接続状況]画面の[1B接続]/[2B接続]ボタンで行う(手動発信)か、自動接続を設定している場合は、自分のブラウザから直接、URLを指定してアクセスしてください。

1-8.PHSからLANに接続

【出先端末の条件】
- PHSを使用
- PPPソフトのインストール
- PIAFSカードの装着

【ルータの条件】
- コールバック電話号を指定
  07012345678
- リモートアクセス用
  IPアドレス
  192.168.0.100
  192.168.0.101
- 出先の端末(PHS)からのコールバック着信を許可する

【認証条件】
- 電話番号
- ユーザID
- パスワード
- PAP/CHAP



※PIAFS(64kbps)は、Ver.2.0(NTT DoCoMo方式)にだけ対応しています。

操作前の状態

「1-1.プロバイダへ端末型接続する(Ⓐ手動接続する場合)」の手順1.～9.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.新規接続先画面の表示

※リモートアクセス用として、接続先を追加します。

①〈接続先の追加〉をクリック

※「番号」欄の[01]は、プロバイダとします。

1-8.PHSからLANに接続(つづき)

3.着信、アドレス変換、接続先名称の設定

[操作]

①着信〈する〉をクリック

②アドレス変換〈しない〉をクリック

③〈登録〉をクリック

[設定例]

④remote(任意でよい)

⑤07012345678

※「着信詳細設定(手順4.)」で、電話番号チェックの対象とする電話番号です。

⑥〈登録〉をクリック

4.着信詳細設定

[操作]

①着信〈詳細〉をクリック

[設定例]

※②③に表示する内容を確認する場合もあります。

②user

③himitu(表示：******)

※入力値は、******で表示されます。

[確認]

④電話番号チェック〈する〉の選択

[操作]

⑤PIAFSによる着信〈する〉を選択

⑥コールバック〈許可〉を選択

[設定例]

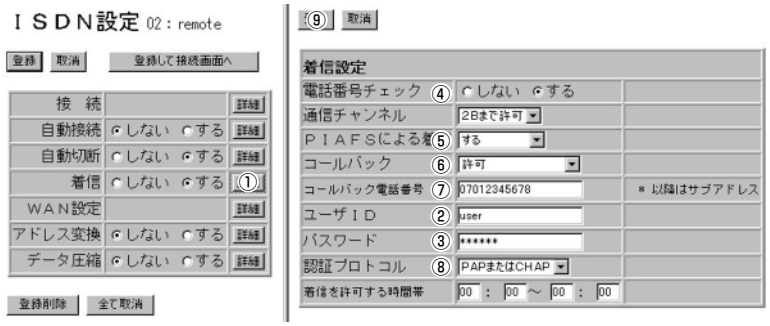
⑦07012345678

[確認]

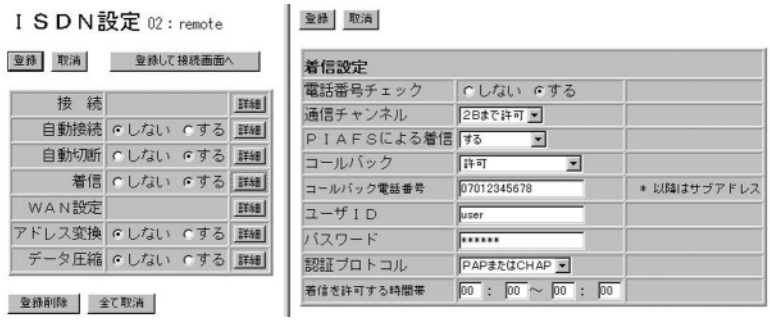
⑧認証プロトコル〈PAPまたはCHAP〉の選択

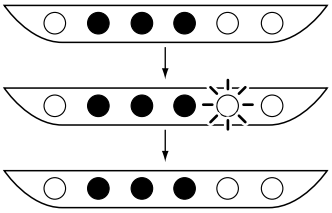
[操作]

⑨〈登録〉をクリック



登録後、次の画面で、設定内容を確認します。





5.リモートアクセス用IPアドレスの設定

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

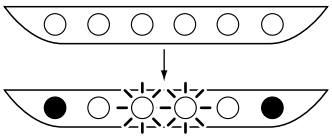
②リモートアクセスサーバを使用〈する〉をクリック

[設定例]

③ 192.168.0.100

④ 192.168.0.101

⑤〈登録して再起動〉をクリック



再起動しています。しばらくお待ち下さい。

6.設定画面を閉じる。

1 ISDNダイヤルアップの設定例集

【電話をかけたときの動作】

1.Windows95/98/NTの「ダイヤルアップネットワーク」を使って電話をかけます。

2.認証を受けるため、ユーザIDとパスワードを入力します。

3.認証が成立して、コールバックが可能であると、右の画面を表示します。

4. “Administrator Specified” の文字は、設定例でコールバック電話番号を[着信詳細設定]画面に指定されていると表示します。

※コールバック電話番号が指定されていない場合は、その部分にコールバック電話番号入力します。

5.表示のダイヤログボックスの〈OK〉ボタンをクリックすると、コールバックが行われます。

※〈キャンセル〉ボタンをクリックすると、コールバックを行わないで接続します。

「コールバックのみ着信」を着信条件に選んでいる場合は、キャンセルした時点で、回線は切断されます。

【出先端末の設定について】

出先の端末からルータに電話をかけるには、ご使用のOSに対応するPPPソフトが必要です。

※ここで説明するコールバックは、Macintoshで動作しません。

◎Windows95/98/NTでは、一般的に「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールについては、のヘルプで “ダイヤルアップネットワーク” についての項目をご覧ください。

◎Macintoshでは、一般的に「Open Transport/PPP」を使用します。詳しくは、OSのヘルプで “PPP” または “リモートアクセス” についての項目をご覧ください。

【出先端末からインターネットに接続するには】

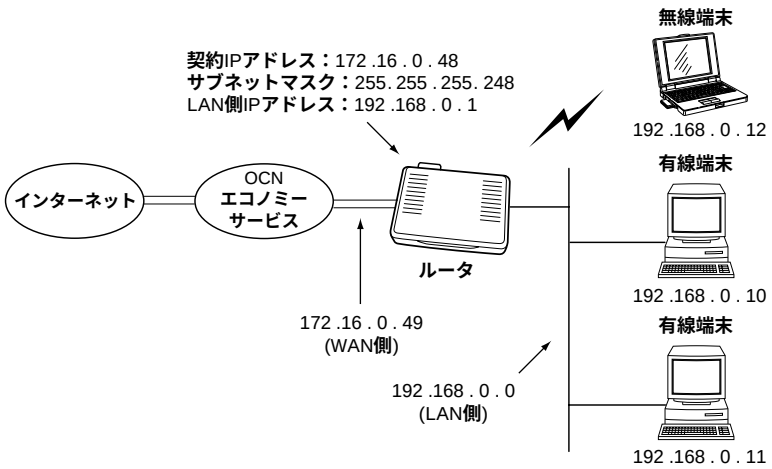
接続先が使用するルータの[ISDN接続状況]画面の[1B接続]/[2B接続]ボタンで行う(手動発信)か、自動接続を設定している場合は、自分のブラウザから直接、URLを指定してアクセスしてください。

2-1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続

【条件】

- OCNが指定するIPアドレスの数が、８個の場合
- ４台の端末には、自動生成されたNATテーブルを適用
- 残りの端末には、自動生成されたマスカレード用IPアドレスを共通に使用

操作前の状態



ここでは、NTTから以下の８個のIPアドレスを指定された場合を例に説明します。

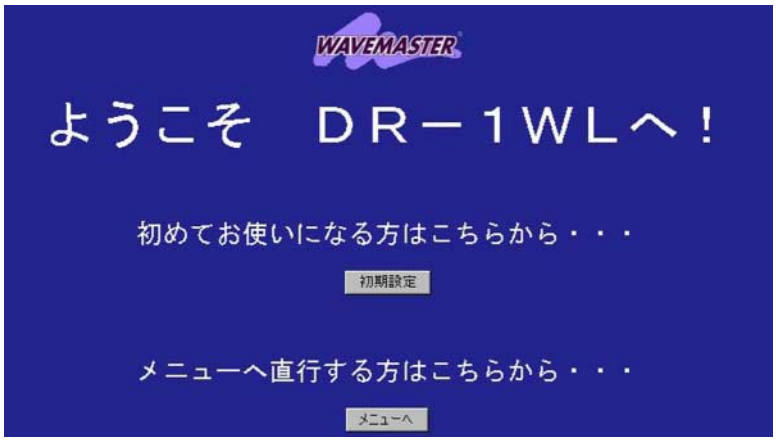
172.16.0.48～172.16.0.55(指定された８個)
172.16.0.50～172.16.0.54(端末用IPアドレス)
172.16.0.48(ネットワークIPアドレス)
172.16.0.49(契約ルータIPアドレス)
172.16.0.55(ブロードキャストアドレス)

[初期設定]画面から設定を行うと、マスカレード用IPアドレスと静的NATテーブルに割り当てるIPアドレスが自動設定(☞P105～106)されます。
自動設定は、指定された8個のIPアドレスを使うことを想定して設定されますので、16個を指定されている場合は、自動設定された値(☞P105～106)を、必要に応じて再設定してください。

【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。
※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2-1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

2.オープニング画面の選択

[操作]

① 〈初期設定〉をクリック

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①DR-1WL(初期値)

[操作]

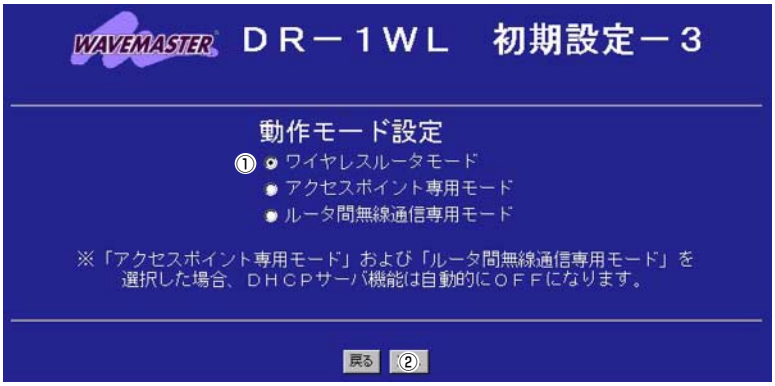
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]

①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)

②〈次へ〉をクリック



6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]

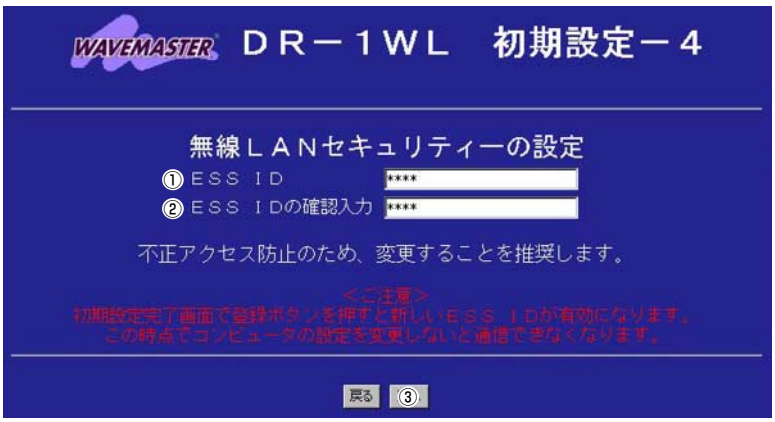
①＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

②＊＊＊＊(①と同じ英数字)

[操作]

③〈次へ〉をクリック

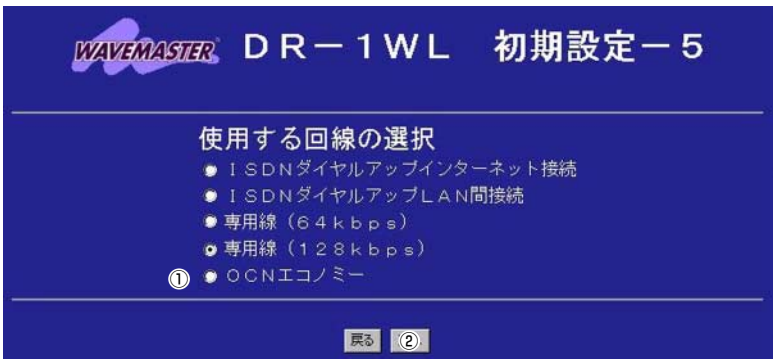


7.回線の選択

[操作]

①OCNエコノミー

②〈次へ〉をクリック



2-1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

8.接続先設定

[設定例]

①ocn(任意でよい)

② 172.16.0.49

※②の値に応じて、自動で、マスカレードIPアドレスが設定されます。

③ 255.255.255.248

※④⑤は、接続先から指定された場合に入力します。

[操作]

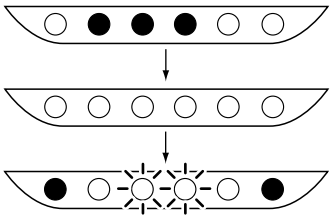
⑥〈次へ〉をクリック

設定内容登録後、設定した契約IPアドレスに応じて、自動的設定されたマスカレードIPアドレスを[アドレス変換]画面(☞P105)で確認できます。

9.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック

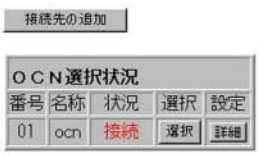


※本製品の再起動を開始します。

※約10秒経過して、右の画面を表示するときは、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、**[OCN選択状況]画面**を表示します。

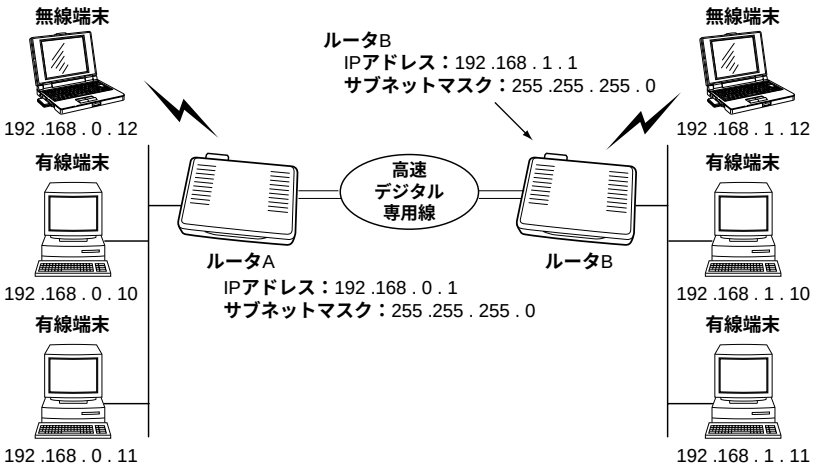


10.設定画面を閉じる。

3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

【条件】
2地点間だけの接続で、インターネットへの接続をしない場合。

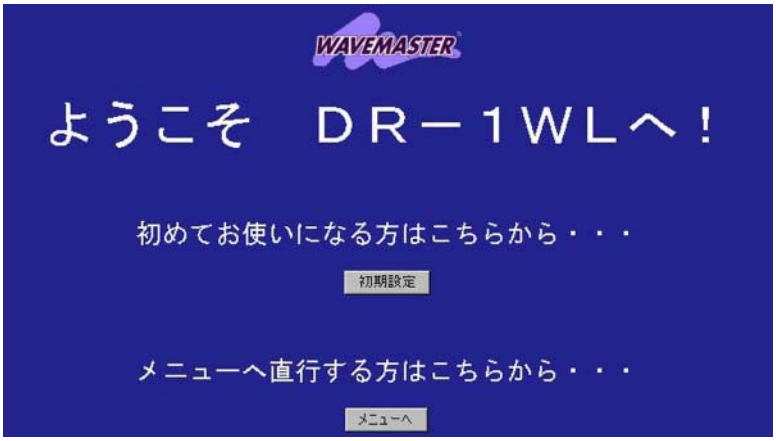
操作前の状態



■ルータAの設定

【手順】

1.本製品の設定画面を開く
[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。
※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択
[操作]
①〈初期設定〉をクリック

3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

■ルータAの設定(つづき)

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①DR-1WL(初期値)

[操作]

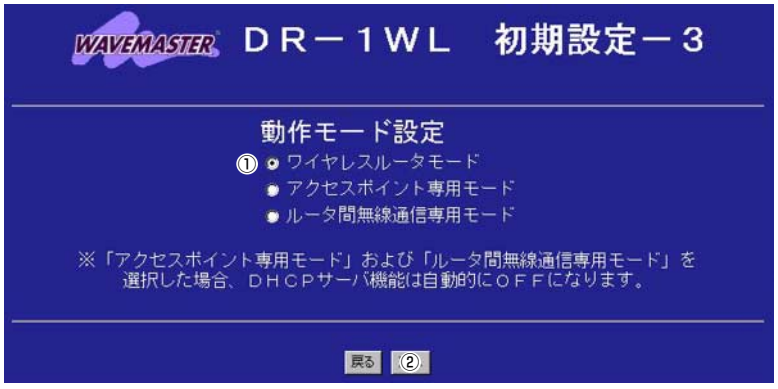
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]

①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)

②〈次へ〉をクリック

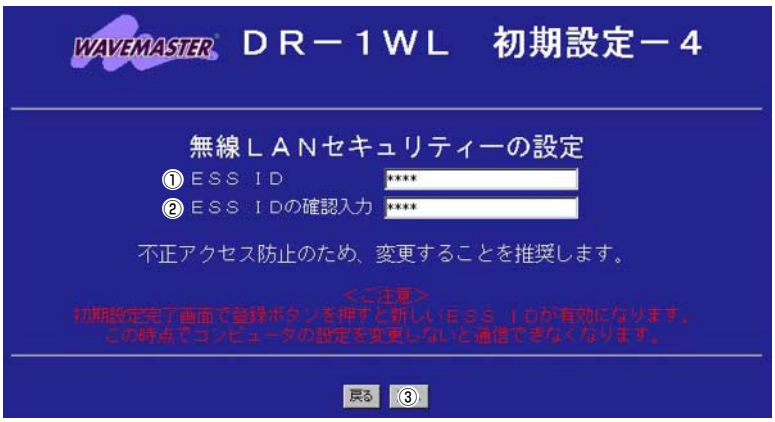


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

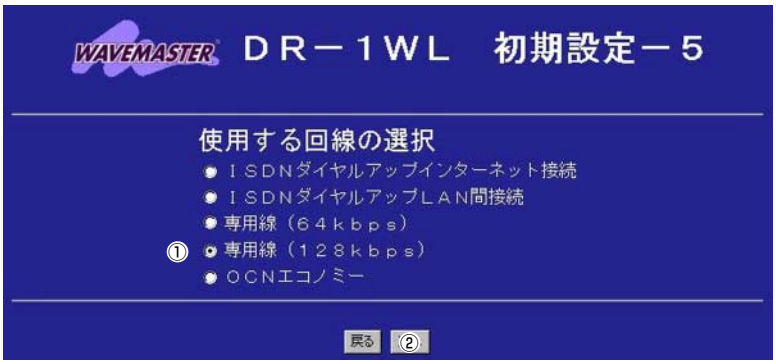
無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



7.回線の選択

[操作]
①専用線(128kbps)
※通信速度は、契約などにしたがって選んでください。
②〈次へ〉をクリック



3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

■ルータAの設定(つづき)

8.接続先設定

[設定例]

①bbb(任意でよい)

※Unnumberedの場合、②③④は、設定不要です。

※⑤⑥は、接続先から指定された場合に入力します。

※ルータAでは、⑦⑧を工場出荷時の状態とします。

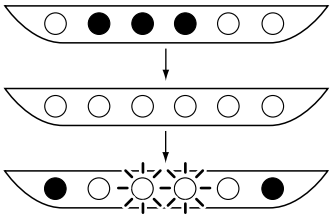
[操作]

⑨〈次へ〉をクリック

9.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

※約10秒経過して、右の画面を表示するときは、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

※有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、**[専用線(128kbps)選択状況]画面**の「状況」欄(①)に[未接続]を表示します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

ルータBの接続先設定完了後、[接続]を上記画面の「状況」欄(①)に表示することを確認してください。

■ルータBの設定

設定には、47ページの図と併せてご覧ください。

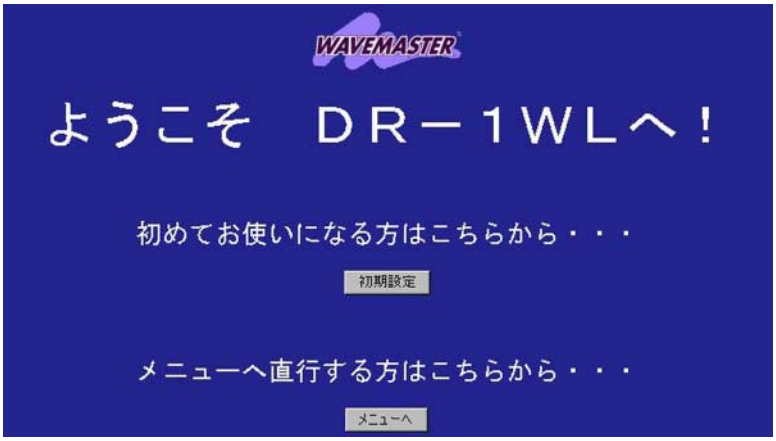
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

①〈初期設定〉をクリック

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

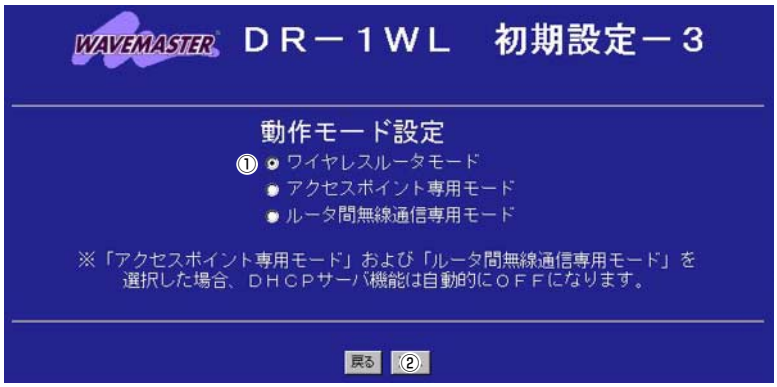
■ルータBの設定(つづき)

4.本体名称の設定

[設定例]
①DR-1WLB
※ルータAと重複しないようにします。
[操作]
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]
①〈ワイヤレスルータモード〉をクリック(初期値)
②〈次へ〉をクリック

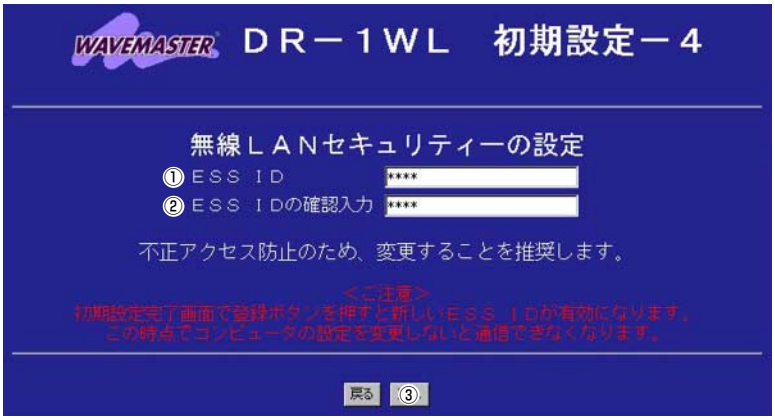


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順9.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



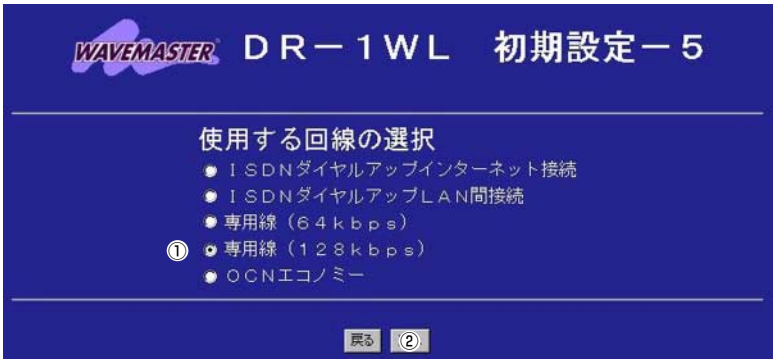
7.回線の選択

[操作]

①専用線(128kbps)

※通信速度は、契約などにしたがって選んでください。

②〈次へ〉をクリック



8.接続先設定

[設定例]

①aaa(任意でよい)

※Unnumberedの場合、②③④は、設定不要です。

※⑤⑥は、接続先から指定された場合に入力します。

⑦192.168.1.1

※ルータAと異なるサブネットを入力します。

⑧255.255.255.0

[操作]

⑨〈次へ〉をクリック

サブネットを変更後は、次の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末および有線端末を再起動して、本製品と同一サブネットのIPアドレスを取得してください。

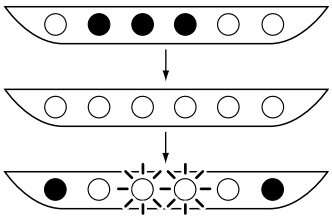
3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

■ルータBの設定(つづき)

9.設定内容登録

[操作]

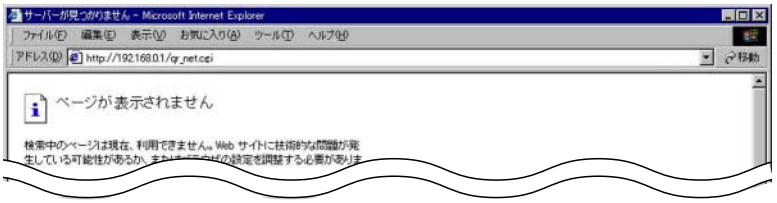
①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。



10.本製品の設定画面にアクセスできることを確認

[操作]

①WWWブラウザを起動して、以下のURLを指定します。

http://192.168.1.1

[確認]

②[aaa]を「名称」欄に表示

③[接続]を「状況」欄に表示

接続先の追加

専用線（128kbps）選択状況

番号	②名称	③状況	選択	設定
01	aaa	接続		詳細

上記画面の「状況」欄(③)に、[接続]を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

11.ルータAの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認

①[bbb]を「名称」欄に表示

②[接続]を「状況」欄に表示

接続先の追加

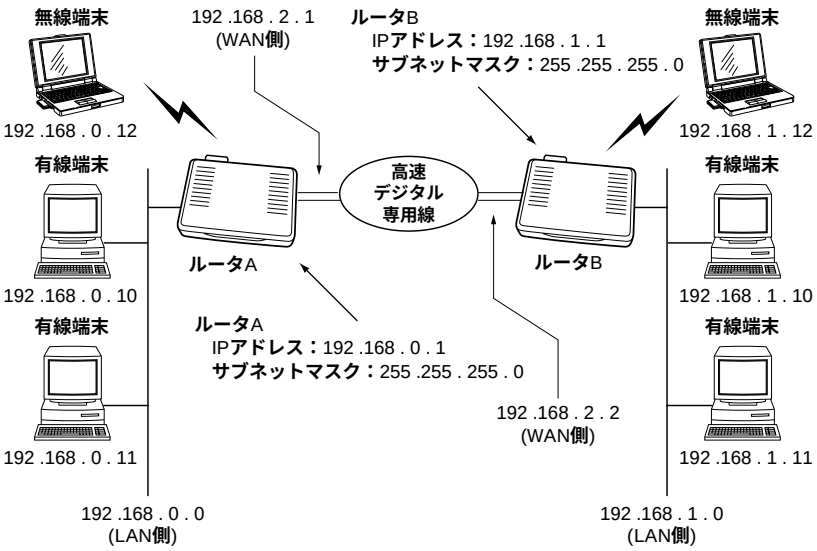
専用線（128kbps）選択状況

番号	①名称	②状況	選択	設定
01	bbb	接続		詳細

上記画面の「状況」欄(②)に、[接続]を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

3-2.2地点間で、NumberedによるLAN型接続

【条件】
通信対象となるルータがUnnumberedに対応しない場合、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定します。



■ルータAの設定

【手順7.のつづき】

8.接続先設定

[設定例]
①bbb(任意でよい)
②192.168.2.1
③255.255.255.0
④192.168.2.2
※⑤⑥は、接続先から指定された場合に入力します。
※ルータAでは、⑦⑧を工場出荷時の状態とします。
[操作]
⑨〈次へ〉をクリック

「3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(■ルータAの設定)」の手順1.～7.と同じように設定後、以下の画面を設定します。

上記画面を設定後、「3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(■ルータAの設定)」の手順9.と同じように設定します。

3-2.2地点間で、NumberedによるLAN型接続(つづき)

■ルータBの設定

【手順7.のつづき】

8.接続先設定

[設定例]

①bbb(任意でよい)

②192.168.2.2

③255.255.255.0

④192.168.2.1

※⑤⑥は、接続先から指定された場合に入力します。

⑦192.168.1.1

※ルータAと異なるサブネットを入力します。

⑧255.255.255.0

[操作]

⑨〈次へ〉をクリック

「3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(■ルータBの設定)」の手順1.～7.と同じように設定後、以下の画面を設定します。

上記画面を設定後、「3-1.2地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(■ルータBの設定)」の手順9～11.と同じように設定します。

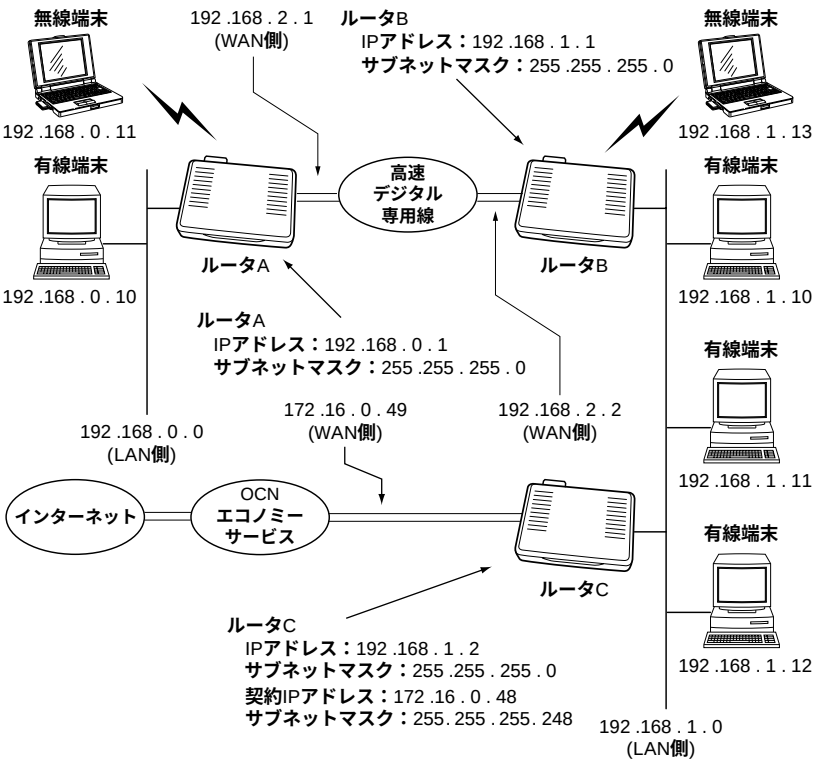
3-3.RIPによるLAN型接続

【ルータ条件】
- Numberedで接続

【ルータAの条件】
- デフォルトGW構築：する
- DHCPサーバ機能を使用：する
- DNSサーバの代理応答：しない
- RIP(LAN側)：する
- RIP(WAN側)：する

【ルータBの条件】
- デフォルトGW構築：しない
- DHCPサーバ機能を使用：しない
- RIP(LAN側)：する
- RIP(WAN側)：する

【ルータCの条件】
DHCPサーバ機能を使用：する
- RIP(LAN側)：する



操作前の状態

■ルータAの設定

「3-2.2地点間で、NumberedによるLAN型接続(■ルータAの設定)」の手順1.～9.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[専用線(128kbps)選択状況]画面の表示
[操作]
WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示
[操作]
①〈詳細〉をクリック

3-3.RIPによるLAN型接続

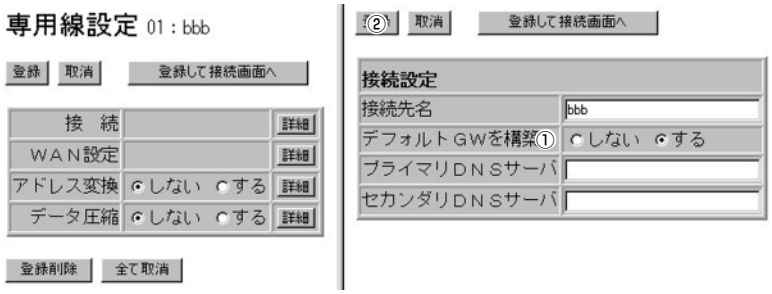
■ルータAの設定(つづき)

3.デフォルトGWを構築

[操作]

①デフォルトGWを構築
〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック



4.簡易DNSサーバ設定

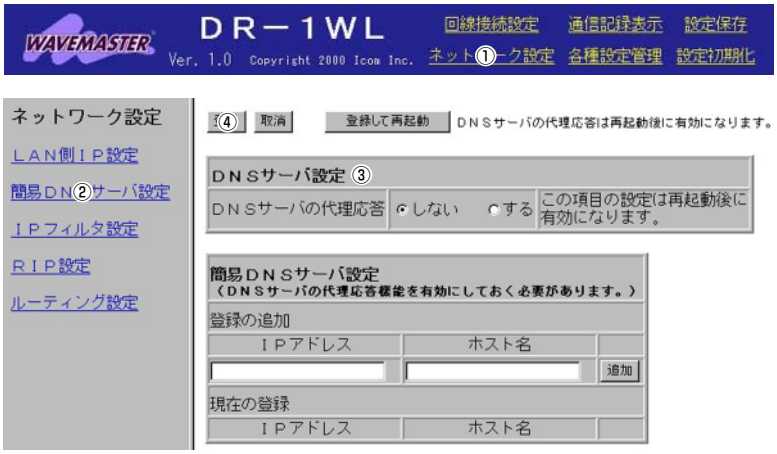
[操作]

①[ネットワーク設定]を
クリック

②[簡易DNSサーバ設定]
をクリック

③DNSサーバの代理応答
〈しない〉をクリック

④〈登録〉をクリック



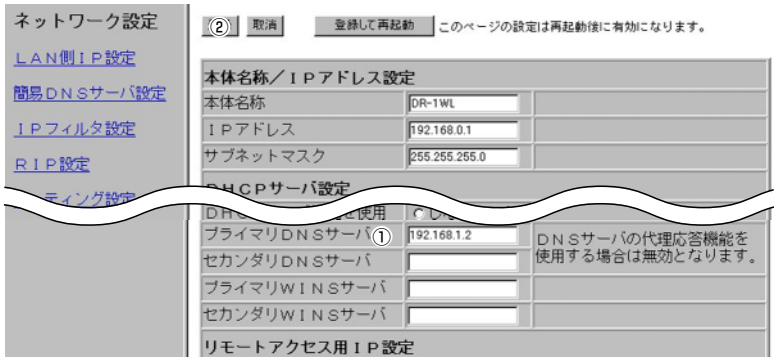
5.DNSサーバアドレスを指定

[設定例]

① 192.168.1.2
※ルータCのIPアドレスを
指定します。

[操作]

②〈登録〉をクリック



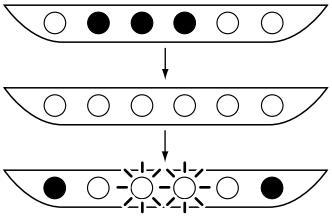
6.RIP設定

[操作]

①[RIP設定]をクリック

②WAN側にRIPを使用〈する〉をクリック

③〈登録して再起動〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

すべてのルータの設定完了後、ルータAと通信する無線端末および有線端末を再起動して、IPアドレスを取得する必要があります。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

登録後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。
ルータBの設定を、次ページを参考に行います。

3-3.RIPによるLAN型接続(つづき)

■ルータBの設定

設定には、57ページの図と併せてご覧ください。
「3-2.2地点間で、NumberedによるLAN型接続(■ルータBの設定)」の手順1.～11.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[専用線(128kbps)選択状況]画面の表示

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.1.1をURLに指定します。

2.DHCPサーバ機能の設定

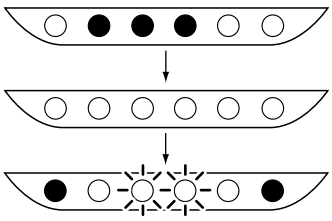
[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック
②DHCPサーバ機能を使用〈しない〉クリック
③〈登録〉をクリック

3.RIP設定

[操作]

①[RIP設定]をクリック
②WAN側にRIPを使用〈する〉をクリック
③〈登録して再起動〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約10秒経過して、右の画面を表示します。

現在、接続されている端末から、ルータBにアクセスして設定内容を確認するには、その端末のIPアドレスを手動で設定してから、WWWブラウザから、本製品のIPアドレスを指定していただくか、ルータCをこの端末で設定後、ルータBとルータCを図のように接続して、WWWブラウザから、本製品のIPアドレスを指定してください。
端末のIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書(5章)の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、再起動する必要があります。

3-3.RIPによるLAN型接続(つづき)

■ルータCの設定

設定には、57ページの図と併せてご覧ください。
「2-1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続」の手順1.～10.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.[OCN選択状況]画面の表示

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.本体IPアドレスの変更

ルータBと同一サブネットのIPアドレスを設定します。

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

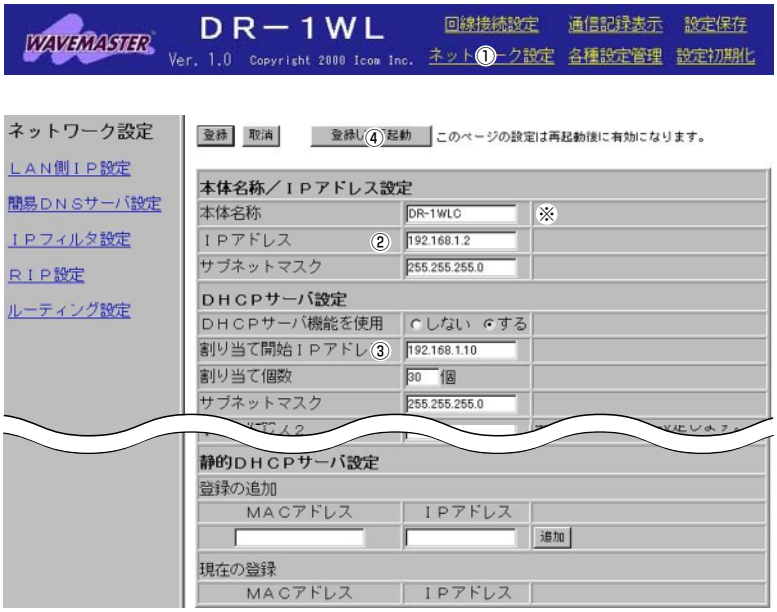
[設定例]

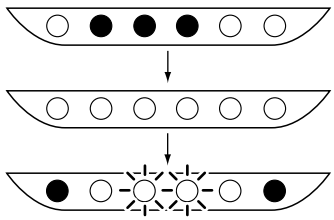
② 192.168.1.2

③ 192.168.1.10

④〈登録して再起動〉をクリック

※本体名称は、「2-1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続」の手順4.で、"DR-1WLC"に設定されている状態とします。





※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

登録後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

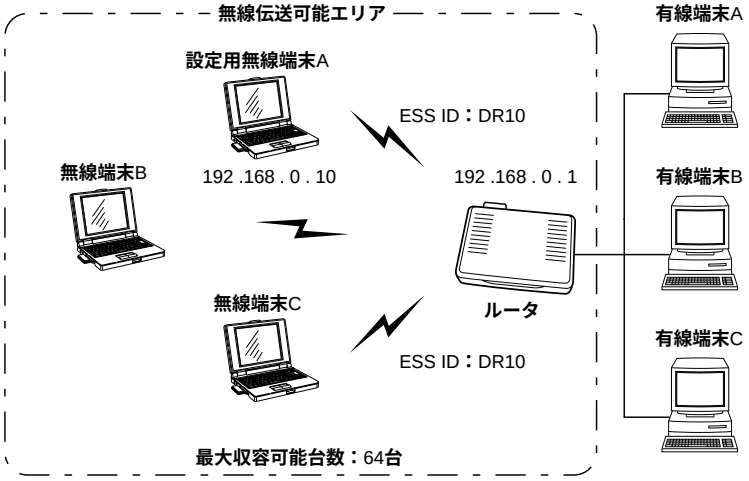
4-1.アクセスポイント機能を設定する

A 無線端末から設定する場合

【ルータの条件】
- 回線への接続はしない
- ESS ID：DR10
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

【無線端末A～Cの条件】
- ESS ID：DR10
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

【有線端末A～Cの条件】
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得



有線端末と無線端末の合計台数が30台を超える場合は、DHCPの自動割り当て個数の変更が必要です。

操作前の状態

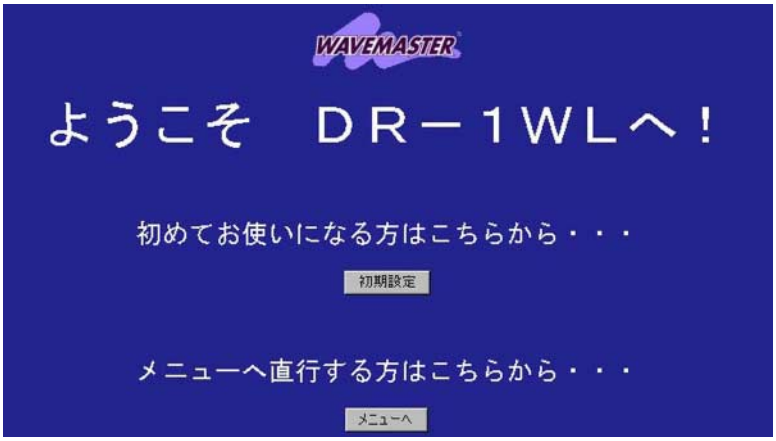
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

① 〈初期設定〉をクリック

4-1.アクセスポイント機能を設定する

Ⓐ無線端末から設定する場合(つづき)

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①DR-1WL(初期値)

[操作]

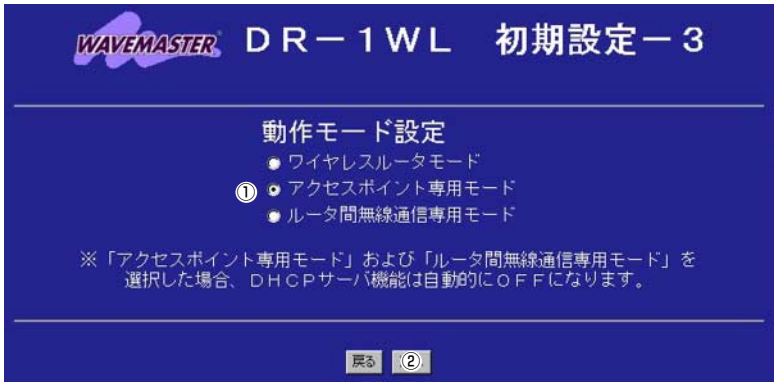
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]

①〈アクセスポイント専用モード〉をクリック(初期値)

②〈次へ〉をクリック

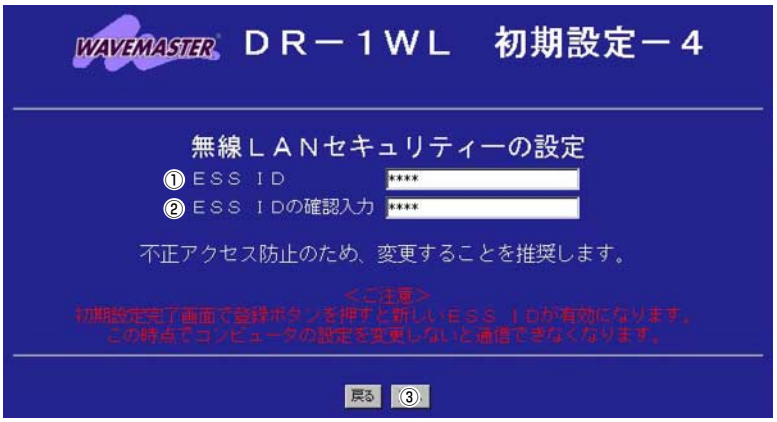


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

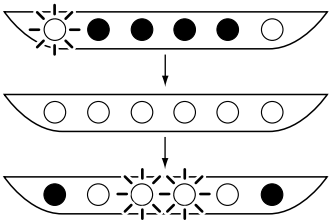
無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順7.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



7.設定内容登録

[操作]
①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動を開始します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約10秒経過して、右の画面を表示します。
無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

4-1.アクセスポイント機能を設定する

Ⓐ無線端末から設定する場合(つづき)

8.動作モードの確認

無線端末のESS IDを変更後に行ってください。

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

本機はアクセスポイント専用モードで動作しています。

4-1.アクセスポイント機能を設定する

B 有線端末から設定する場合

【ルータの条件】

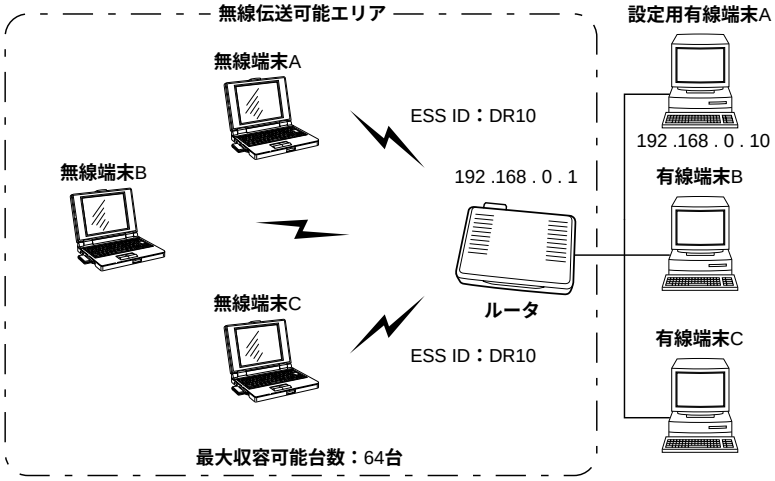
- 回線への接続はしない
- ESS ID：DR10
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

【無線端末A～Cの条件】

- ESS ID：DR10
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得



有線端末と無線端末の合計台数が30台を超える場合は、DHCPの自動割り当て個数の変更が必要です。

操作前の状態

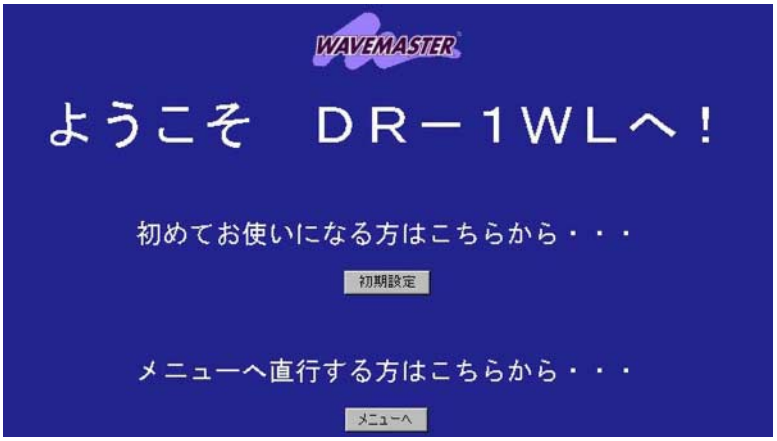
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

① 〈初期設定〉をクリック

4-1.アクセスポイント機能を設定する

B 有線端末から設定する場合(つづき)

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①DR-1WL(初期値)

[操作]

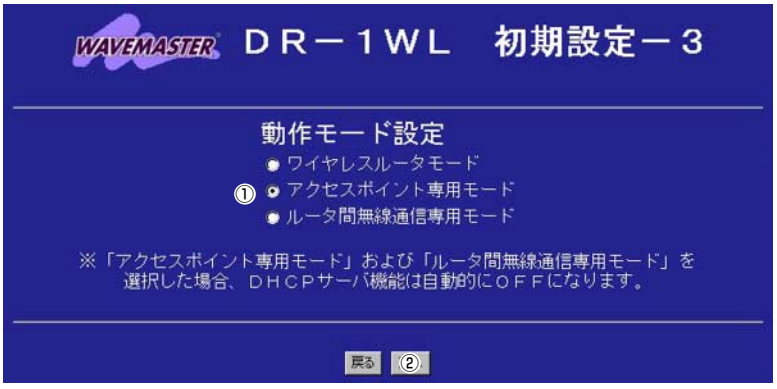
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

[操作]

①〈アクセスポイント専用モード〉をクリック(初期値)

②〈次へ〉をクリック

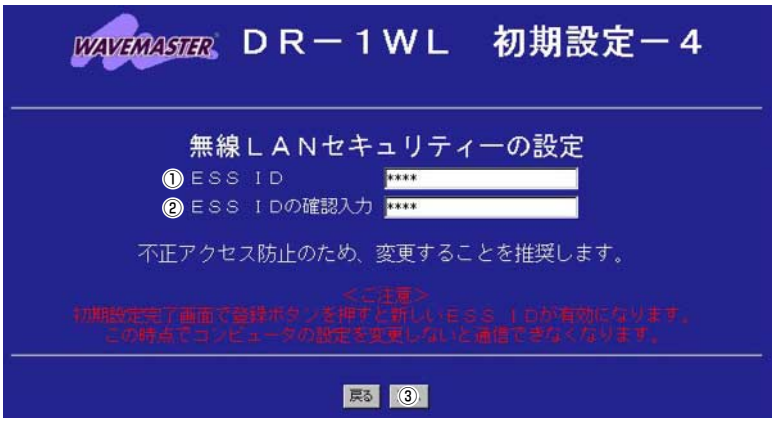


6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

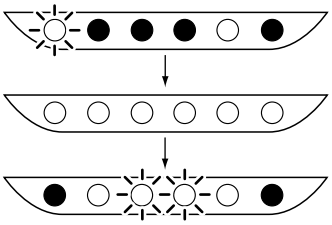
無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、手順7.の[初期設定-完了]画面で〈登録〉操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。
変更後、無線端末を再起動します。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



7.設定内容登録

[操作]
①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動後、アクセスポイント専用モードで起動します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

本機はアクセスポイント専用モードで動作しています。

4-2. ローミング機能を設定する

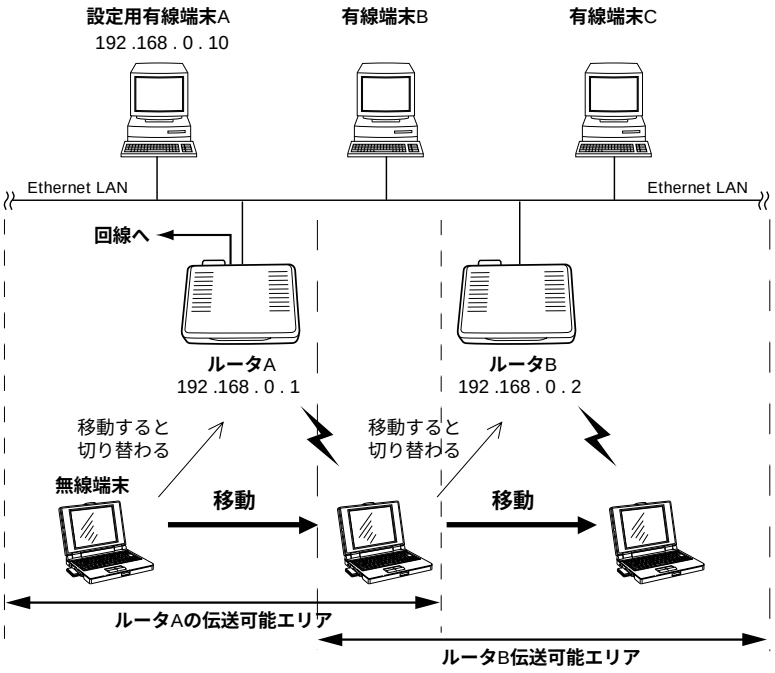
【ルータAの条件】
- 回線(ISDNダイヤルアップインターネット)接続する
- ESS ID：DR10
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

【ルータBの条件】
- 回線への接続はしない
- ESS ID：DR10
- DHCPサーバ機能を使用しない

【無線端末A～Cの条件】
- ESS ID：DR10
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

【有線端末A～Cの条件】
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

ここでは、有線端末を個々のルータに接続して、設定することを前提に説明します。
全設定完了後、図のように接続してください。
次の動作モードで、ルータが動作するよう設定する手順です。
◎ルータA：ワイヤレスルータモード
◎ルータB：アクセスポイント専用モード



■ルータAの設定

有線端末から、「1-1.プロバイダへ端末型接続する(Ⓐ手動接続する場合)」の手順にしたがって設定を行ったあと、次ページを参考に、ルータBを設定してください。

4-2.ローミング機能を設定する

■ルータBの設定

操作前の状態

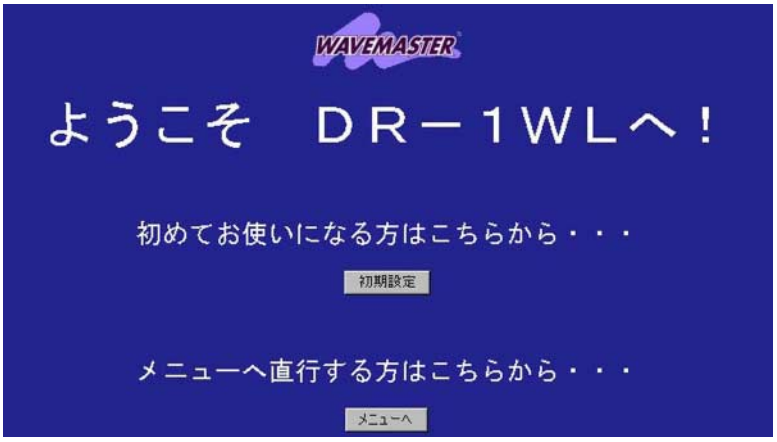
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

①〈初期設定〉をクリック

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

④〈次へ〉をクリック

4-2.ローミング機能を設定する

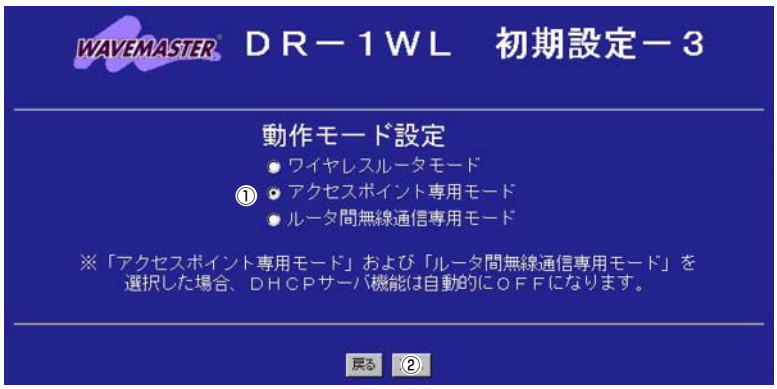
■ルータBの設定(つづき)

4.本体名称の設定

[設定例]
①DR-1WLB
※ルータAと重複しないようにします。
[操作]
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

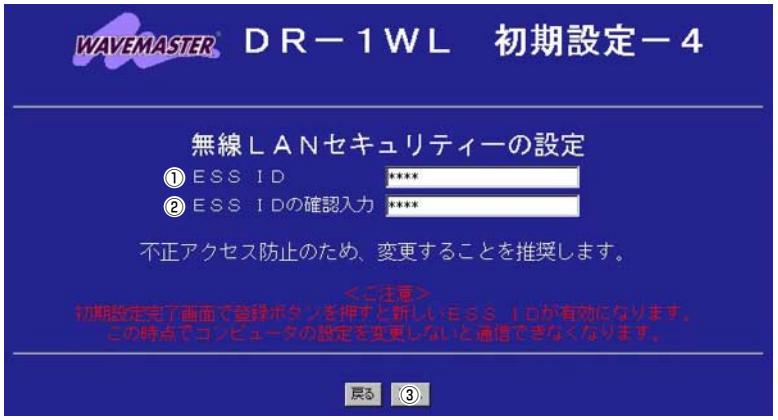
[操作]
①〈アクセスポイント専用モード〉をクリック(初期値)
②〈次へ〉をクリック



6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

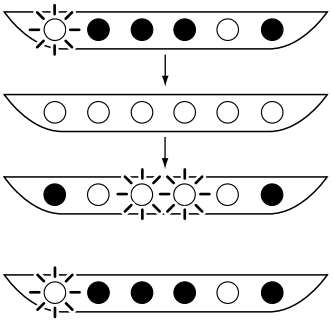
[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



7.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動後、アクセスポイント専用モードで起動します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

本機はアクセスポイント専用モードで動作しています。

8.DHCPサーバ機能と本体IPアドレスの変更

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

[設定例]

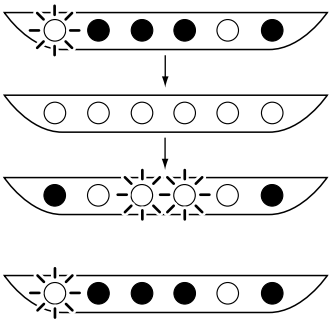
②192.168.0.2

※ルータAと同一サブネットのIPアドレスで、ルータAが自動で割り当てるアドレス範囲と重ならないように、ホスト番号が異なるIPアドレスを手動で割り当てる

[操作]

③DHCPサーバ機能を使用〈しない〉クリック

④〈登録して再起動〉をクリック



再起動しています。しばらくお待ち下さい。

4-2. ローミング機能を設定する

■ルータBの設定(つづき)

※約10秒経過して、右の画面を表示します。

現在、接続されている端末から、ルータBにアクセスして設定内容を確認するには、その端末のIPアドレスを手動で設定してから、WWWブラウザから、本製品のIPアドレスを指定していただくか、図のようにルータAとルータBを接続して、そこに接続する端末のWWWブラウザから、ルータBのIPアドレスを指定してください。

端末のIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書(5章)の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、再起動する必要があります。

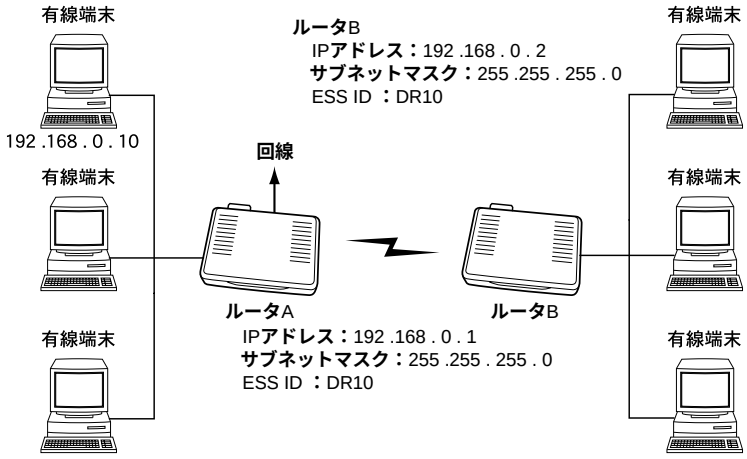
4-3.ルータ間無線通信機能を設定する

【ルータAの条件】
- 回線(ISDNダイヤルアップインターネット)接続する
- ESS ID：DR10
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に有線端末に割り当てる

【ルータBの条件】
- 回線への接続はしない
- ESS ID：DR10
- DHCPサーバ機能を使用しない

【有線端末の条件】
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

ここでは、有線端末を個々のルータに接続して、設定することを前提に説明します。
全設定完了後、図のように接続してください。
次の動作モードで、ルータが動作するよう設定する手順です。
◎ルータA：ワイヤレスルータモード
◎ルータB：ルータ間無線通信専用モード



※SL-100は、ルータ間無線通信機能に対応していませんので、本製品に装着しても、この機能は動作しません。

■ルータAの設定

有線端末から、「1-1.プロバイダへ端末型接続する(Ⓐ手動接続する場合)」の手順にしたがって設定を行ったあと、次ページを参考に、ルータBを設定してください。

4-3.ルータ間無線通信機能を設定する

■ルータBの設定

操作前の状態

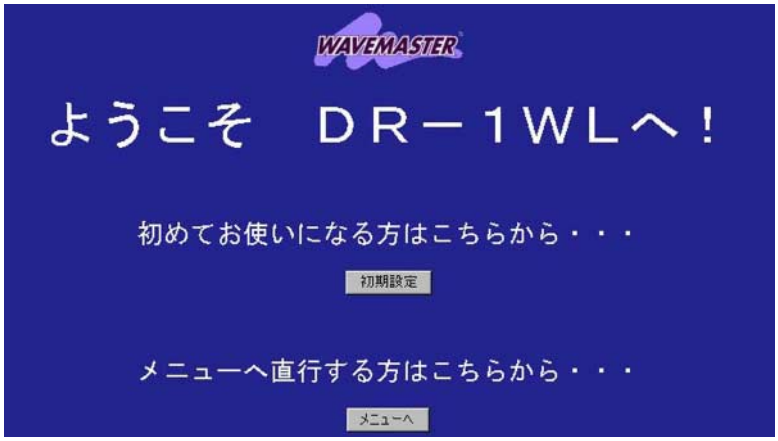
【手順】

1.本製品の設定画面を開く

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

※本製品のIPアドレスは、工場出荷時(192.168.0.1)の状態とします。



2.オープニング画面の選択

[操作]

①〈初期設定〉をクリック

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

[設定例]

①router

②＊＊＊＊(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

③＊＊＊＊(②と同じ英数字)

[操作]

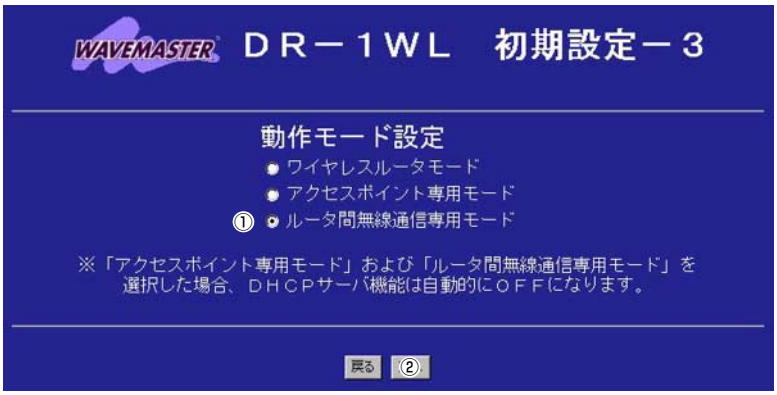
④〈次へ〉をクリック

4.本体名称の設定

[設定例]
①DR-1WLB
※ルータAと重複しないようにします。
[操作]
②〈次へ〉をクリック

5.動作モード設定

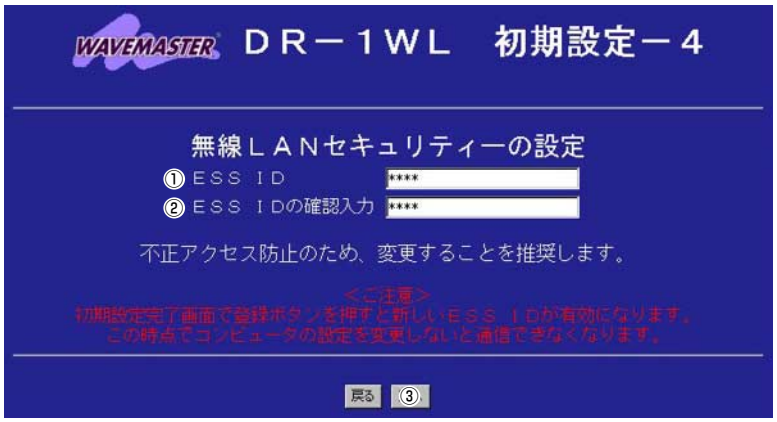
[操作]
①〈ルータ間無線通信モード〉をクリック
②〈次へ〉をクリック



6.無線LANセキュリティーの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(初期値は半角：LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

[設定例]
①＊＊＊＊(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
②＊＊＊＊(①と同じ英数字)
[操作]
③〈次へ〉をクリック



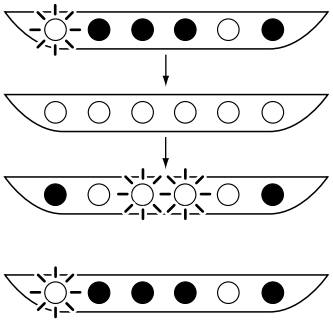
4-3.ルータ間無線通信機能を設定する

■ルータBの設定(つづき)

7.設定内容登録

[操作]

①〈登録〉をクリック



※本製品の再起動後、ルータ間無線専用モードで起動します。

本機はアクセスポイント専用モードで動作しています。

8.DHCPサーバ機能と本体IPアドレスの変更

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

[設定例]

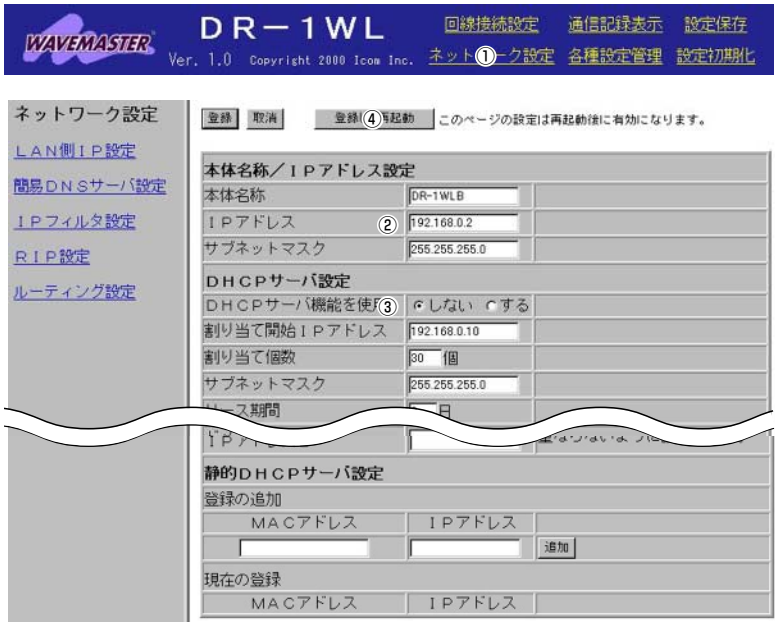
② 192.168.0.2

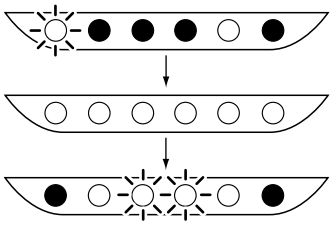
※ルータAと同一サブネットのIPアドレスで、ルータAが自動で割り当てるアドレス範囲と重ならないように、ホスト番号が異なるIPアドレスを手動で割り当てる

[操作]

③DHCPサーバ機能を使用〈しない〉クリック

④〈登録して再起動〉をクリック





再起動しています。しばらくお待ち下さい。

※約10秒経過して、右の画面を表示します。

現在、接続されている端末から、ルータBにアクセスして設定内容を確認するには、その端末のIPアドレスを手動で設定してから、WWWブラウザから、本製品のIPアドレスを指定していただくか、図のようにルータAとルータBを接続して、そこに接続する端末のWWWブラウザから、ルータBのIPアドレスを指定してください。
端末のIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書(5章)の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、再起動する必要があります。

5 各種設定画面について

5-1. 回線接続設定

ワイヤレスルータモード以外のモードで動作しているときは、この画面は表示されません。

使用する回線種別について、その接続先の一覧と接続状況を表示します。接続状況は、登録された接続先ごとに表示し、回線種別ごとに、表示画面が異なります。
登録できる接続先は、回線種別に関係なく合計20件までです。

5-1-1.[ISDN接続状況]画面

①番号 ……

登録された接続先の整理番号です。
[初期設定]画面で設定したときは、01番に内容が登録されます。
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに追加登録すると、その欠番に登録されます。

②名称 ……

登録された接続先(プロバイダなど)の名称を表示します。

③状況 ……

回線の接続状況(未接続、接続中、1B接続、2B接続、切断中)を表示します。

④接続制御 ……

登録した接続先に、手動で接続または手動切断するときのボタンです。
〈1B接続〉ボタン
プロバイダまたは回線業者と1Bまたは2Bで契約している場合に使用します。
最大64kbpsの速度で、通信します。
〈2B接続〉ボタン
プロバイダまたは回線業者と2Bで契約している場合だけ使用できます。なお、相手先が2Bチャネルでの通信が可能でない場合や、すでに1Bで通信しているときは、1Bチャネル接続となります。
最大128kbpsの速度で、通信します。
〈切断〉ボタン
接続中の回線を強制的に切断します。

⑤接続方法 ……

登録された接続先への接続が、自動または手動かを表示します。
[手動]…該当する欄の接続先が手動接続に設定されています。
[自動]…該当する欄の接続先が自動接続に設定されています。

⑥料金合計 ……

該当する欄の接続先に対して、自動接続および手動接続で使用したデータ通信料金の累計を表示します。
表示される課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。
実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますのでご注意ください。

⑦回数合計 …… 該当する欄の接続先に対して、自動および手動で接続した接続回数の累計を表示します。なお、接続に失敗(ユーザIDの認証段階以前の通信)の場合は、加算されません。

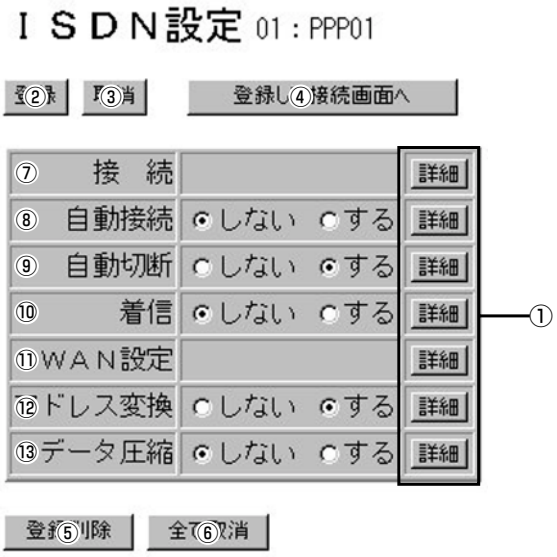
⑧時間合計 …… 該当する欄の接続先に対して、自動および手動で接続した接続時間の累計を表示します。

⑨詳細 …… 該当する欄の接続先について、接続条件等をより詳しく設定する画面を表示するボタンです。

⑩〈接続先の追加〉ボタン …… 現在使用している回線において、接続先を新たに追加設定するとき、このボタンをクリックします。

5-1.回線接続設定

5-1-2.[ISDN詳細設定]画面ー左フレーム



①〈詳細〉ボタン …… 各欄の〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームにその項目についての各[詳細設定]画面を表示します。

②〈登録〉ボタン …… 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

③〈取消〉ボタン …… 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

④〈登録して接続画面へ〉ボタン 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定したあと、[ISDN接続状況]画面に戻ります。

5-1. 回線接続設定

5-1-2.[ISDN詳細設定]画面ー左フレーム(つづき)

⑤〈登録削除〉ボタン ……

この画面に設定された接続先とその内容を削除します。
その他の設定内容を残して、登録した接続先だけをすべて削除したい場合は、付属のCD-ROMに納められたUtilityを使って、[PPPデータの初期化]項目を実行してください。

⑥〈全て取消〉ボタン ……

左フレームと右フレームの〈登録〉ボタンを押す前であれば、表示中の両フレームの画面で変更した内容を、変更前の状態に戻すボタンです。

⑦接続 ……

接続先情報は、〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑧自動接続 ……

ネットワーク上のコンピューターから、インターネットにアクセスする操作をすると、自動で回線をその接続先に接続するかしないかを選択します。
〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームに自動接続する条件を設定する画面を表示します。
自動接続を設定した場合、インターネットへアクセスする操作を行うだけで、自動的にISDN回線が接続されて課金されます。
ネットワークの設定内容や運用のしかたによっては、回線が長時間接続されたままになったり、意図しない自動接続が行われてしまう可能性がありますので、必ず[回線接続設定]画面の接続状況表示や本製品のB1ランプおよびB2ランプを確認してください。

⑨自動切断 ……

接続中の回線を自動で切断するか、〈切断〉ボタン([ISDN接続状況]画面内)をクリックするまで、切断しないかを選択します。
自動切断を“する”に設定すると、一定時間、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。
自動切断は、ISDN回線に流れるデータの無い状態が150秒(工場出荷時)以上経過すると、自動的に切断します。
必ず、次のような場合は、正常に切断したかどうか、必ず[ISDN接続状況]画面の接続状況表示や本製品のB1ランプおよびB2ランプを確認してください。

- ネットワーク上のコンピューターが定期的に通信を行うような場合
  [例]メールサーバへのアクセスやソフトウェアの自動アップデートを定期的にインターネット側サーバに問い合わせるときなど
- 接続した相手から、データが定期的に送信されてくるような場合
- 本製品が着信されている場合（本製品をリモートアクセスサーバにしているときなど）
  ※回線を接続した側で回線を切断することをおすすめします。

⑩着信 ……

相手先からの着信を許可するかどうかを選択します。
着信を許可した場合、相手に対して着信を許可する条件を設定するときは、〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑪WAN設定……

WAN側の回線に、LAN側とは異なるネットワーク番号を使用する場合に使用します。
〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームにその設定画面を表示します。

⑫アドレス変換 ……

NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑬データ圧縮 ……

接続先との通信において、データ圧縮するかしないかを選択します。この機能は、ファイルサイズの大きなデータのやり取りや、WWW上から高画質の画像データをダウンロードするときなど、TCP/IPヘッダサイズを圧縮(通信に利用できる帯域幅を広く)して転送効率を向上させるのに有効です。

5-1. 回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[接続設定]画面

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③〈登録して接続画面へ〉ボタン 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定したあと、[ISDN接続状況]画面に戻ります。

④接続先名 …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑤電話番号1～3 …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑥認証プロトコル …… ユーザーIDとパスワードを本製品から発信する時の認証プロトコルを選択します。

- 認証なし ……相手からの認証要求をすべて拒否する
- 相手先に合わせる …認証方式を相手先に合わせる
- PAPで認証 ……PAP方式で認証を受ける
- CHAPで認証 ……CHAP方式で認証を受ける

⑦ユーザID …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑧パスワード …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑨デフォルトGWを構築 ……

ローカルなLAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、本製品をその出口とするかしないかを選択します。

「す　る」：パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルなLAN環境のとき選択します。

「しない」：パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。

⑩コールバック要求 ……

相手先に発信したときに、相手先にかけなおしてもらうように(コールバック)要求するかどうかを設定します。

- しない…コールバック機能を要求しません。
- CBCP…CBCPに対応している相手先の端末に、コールバック接続を要求します。
- 無課金…相手先が本製品と同種のルータを使っている場合に機能して、要求した側には通信料金がかかりません。ただし、相手先に発信者番号が通知されない契約の場合は、無課金コールバックを行うことはできません。

コールバック要求できるのは、相手先が次のいずれかの場合だけです。

◎相手先が本製品と同種のルータを使っている場合
こちらから接続するときの通信料金も相手先に課金できる「無課金コールバック」もできます。

◎Windows95/98/NT4.0などのCBCP(Callback Control Protocol)対応の端末
こちらから接続するときの通信料金は、こちら側に課金されます。「無課金コールバック」はできません。

⑪コールバック電話番号 ……

コールバック要求で[CBCP]を選択して、CBCPに対応する相手先のルータに、コールバック着信時の電話番号が設定されていない場合、相手先にかけなおしてもらう電話番号を入力してください。

※双方が指定しない場合は、通信は不成立になりますのでご注意ください。

⑫プライマリDNSサーバ ……

[初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑬セカンダリDNSサーバ ……

[初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

5-1. 回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[自動接続設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[自動接続]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③通信速度 …… Bチャンネルを使って、接続先とどのように通信するかを選択します。

- 64k固定　接続先と64kbpsに固定して通信
- 128k固定　接続先と128kbpsに固定して通信
- 64k可変　自動接続時、64kbpsで通信
  手動接続時、64kbpsと128kbpsを選択
  ※相手先が2B通信に対応しないときは、選択できません。
- 128k可変　自動接続時、128kbpsで通信します。なお、相手先が2B通信に対応しないときは、1B通信します。

④BOD設定 …… スループットBOD機能は、回線を流れるパケット量を監視しながら、必要に応じて自動的にチャンネルの増減を行う機能です。
ただし、この機能を使うことができるのは、通信速度を“可変”に設定していて、相手先と128kbps(回線速度)の契約をしている場合で、相手先がMPに対応している場合だけです。また、相手先がBACPプロトコルに対応している場合は、自動的にこのプロトコルを使用して通信を行います。

⑤移行トラフィック量 …… スループットBODを使用する場合有効となり、ここで設定する回線を流れるパケット量の値に応じて、その設定値になれば使用するBチャネルの本数(1B→2B、2B→1B)を自動的に切り替えます。

5-1.回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[接続制限設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[自動接続]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①料金による制限 ……

一定期間当たりの自動接続料金を制限できます。
積算された通信料金が制限を超えると、自動接続できなくなります。
0(制限なし)円～999999円まで入力できます。
積算の期間は、日・週・月の中から選択できます。
積算の期間を過ぎた時点で、設定した積算料金に対する制限は自動的に再始動します。

一定期間あたりの料金による制限を設定するときは、次の点にご注意ください。

◎料金による制限は、あくまでも目安です。
ネットワークの設定や運用状態によっては、正しく動作しない場合があります。

◎必ず、本製品の[ISDN接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。
日付と時刻は、本製品のPWRスイッチを“OFF”にしたり、ACコンセントからACアダプターを外すと、前回の設定書き込み時刻に戻ります。また、料金制限によって積算された料金もゼロに戻ります。

◎通信料金は、回線切断後に確定します。よって、回線接続中の[ISDN接続状況]画面に表示する累積料金合計の欄には、回線を切断するまで反映されません。

◎通信料金は、実際の料金請求額と異なることがあります。
料金による制限は、INSネットから通知される料金情報によって通信料金を積算します。通信によっては、通信情報が通知されないことや実際の料金と異なる料金情報が通知されることがあります。
たとえば、INSネット64のテレホーダイを利用する場合は、通常の通信時と同じように接続時間あたりの料金情報が通知されるので、実際の通信料金が制限を超える前に、自動接続できなくなることがあります。

5-1. 回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[接続制限設定]画面(つづき)

②接続回数による制限 ……

一定期間当たりの自動接続の回数を制限できます。
積算された接続回数が制限を超えると、自動接続できなくなります。
0(制限なし)回～65535回まで入力できます。
積算の期間は、日・週・月の中から選択できます。
積算期間を過ぎた時点で、設定した積算回数に対する制限は自動的に再始動します。
一定期間あたりの自動接続できる回数による制限を設定するときは、次の点にご注意ください。
◎自動接続できる回数制限は、あくまでも目安です。
ネットワークの設定や運用状態によっては、正しく動作しない場合があります。
◎必ず、本製品の[ISDN接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。なお、日付と時刻は、本製品のPWRスイッチを“OFF”にしたり、ACコンセントからACアダプターを外すと、前回の設定書き込み時刻に戻ります。また、接続回数制限によって積算された時間もゼロに戻ります。

③通算接続時間による制限 ……

期間を制限せず、自動接続の時間を制限できます。
回線を接続後設定した時間が経過すると、通信中でも回線を切断します。
0(制限なし)分～65535分まで入力できます。
通算接続時間による制限を設定するときは、次の点にご注意ください。
必ず、本製品の[ISDN接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。なお、日付と時刻は、本製品のPWRスイッチを“OFF”にしたり、ACコンセントからACアダプターを外すと、前回の設定書き込み時刻に戻ります。
また、接続によって積算された時間もゼロに戻ります。

④接続可能な時間帯 ……

自動接続を可能とする時間帯を設定します。
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

⑤終了時刻で強制切断 ……

接続可能な時間帯を超えると、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを選択します。

⑥自動接続制限状況 ……

この欄に表示する時刻までの自動接続された状況を、料金・回数・時間について表示します。
※これらの表示は、あくまでも目安です。
契約回線のサービスによっては、実際と表示がことなることがありますので、あくまで目安としてご利用ください。

⑦〈リセット〉ボタン ……

自動接続制限状況に表示する内容を初期値“0”に戻します。

5-1.回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[自動切断設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[自動切断]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③タイマ１ …… 一定時間以上通信がない場合、自動的に回線を切断できます。
0(制限なし)秒～65535秒まで入力できます。

④タイマ２ …… 0(初期値)に設定すると、「タイマ2を使用する時間帯」を設定していても、設定値が有効になり、自動切断を行いません。

⑤タイマ２を使用する時間帯 … 初期値の状態では、タイマー2の設定値は無効となっています。
時間を設定すると、設定時間帯以外は、タイマー1の設定値で動作します。
【設定例】
タイマー2は、0秒(初期値)で、時間帯にテレホーダイ有効時間を設定すると、その時間帯だけ、自動切断機能が無効になります。
タイマー2の時間帯を設定するときは、次の点にご注意ください。
必ず、本製品の[ISDN接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。
日付と時刻は、本製品のPWRスイッチを“OFF”にしたり、ACコンセントからACアダプターを外すと、前回の設定書き込み時刻に戻ります。

5-1. 回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[着信設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[着信]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③電話番号チェック …… 電話番号による認証をするかしないかを選択します。
「する」に設定すると、[初期設定-6]画面に設定された「電話番号1～3」と、かかってくる電話から通知される電話番号とで認証を行います。
相手先が発信電話番号を非通知に設定している場合は、「電話番号1～3」が設定されていても認証が行えないため、着信しません。
※回線ごとに複数の接続先(電話帳)を設定している場合、この項目を「しない」に設定する接続先は、1件だけにしてください。
2件以上に設定すると、正常に動作しないことがあります。

④通信チャンネル …… 相手先に着信を許可するBチャネルの数を選択します。
※電話番号チェックを「しない」を選択すると、この項目の設定に関係なく、1Bチャンネルでの通信に限定されます。

⑤PIAFSによる着信 …… PIAFS通信対応機器からの信号を受信するとき、その着信条件を選択します。
- しない ……着信を許可しない
- 32kのみする ……32kbpsで通信するときだけ着信を許可する
- 64kのみする ……64kbpsで通信するときだけ着信を許可する
- する ……32/64kbpsで通信するときだけ着信を許可する

※PIAFS(64kbps)は、Ver.2.0(NTT DoCoMo方式)にだけ対応しています。

⑥コールバック ……

相手先からコールバック要求を受信したとき、その条件を選択します。
- 不許可 ……コールバック接続を許可しない
- 許可 ……コールバック接続を許可する
- コールバックのみ着信 …コールバック接続だけ着信を許可する

コールバック着信するときは、次の点にご注意ください。
◎通信料金は、本製品側にかかります。
◎相手先にかかる通信料金は、コールバック要求による接続時の通信料金だけです。

コールバック要求できるのは、相手先が次のいずれかの場合だけです。
◎相手先が本製品と同種のルータを使っている場合
こちらから接続するときの通信料金も相手先に課金できる「無課金コールバック」もできます。
◎Windows95/98/NT4.0などのCBCP(Callback Control Protocol)対応の端末

⑦コールバック電話番号 ……

相手先が、[CBCP]でコールバック番号を指定しないで発信してくるような場合、こちらからかけなおす電話番号を入力します。
相手先が、[CBCP]でコールバック番号を指定して発信してくるような場合、空欄にしておきます。
※無課金の場合は、相手先が発信した電話番号へ折り返し接続しますので、設定不要です。
双方がコールバック電話番号を指定しないときは、通信は不成立になりますのでご注意ください。

⑧ユーザID ……

着信時の認証において、ユーザーIDを使うとき設定します。

⑨パスワード ……

着信時の認証において、パスワードを使うとき設定します。

⑩認証プロトコル ……

着信時の認証プロトコルを設定します。
- 認証なし ……受信ユーザIDや受信パスワードによる認証をしない
- PAPで認証 ……PAP方式で認証を行う
- CHAPで認証 ……CHAP方式で認証を行う
- PAPまたはCHAPで認証…PAPまたはCHAP方式で認証を行う

⑪着信を許可する時間帯 ……

左フレームで着信“する”を設定している場合、着信を受け付ける時間帯を設定します。
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

5-1.回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[WAN設定]画面

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③本体のWAN側…… 【IPアドレス/サブネットマスク】
自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。
※プロバイダなど、接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

④Numberedで使用 …… 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。
※使用するときは、同じ画面にある本体WAN側の[IPアドレスとサブネットマスク]、相手のWAN側[IPアドレス]を入力してください。

⑤相手のWAN側…… 【IPアドレス】
Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。
※接続先がプロバイダなど、IPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

5-1.回線接続設定
5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム
■[アドレス変換]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

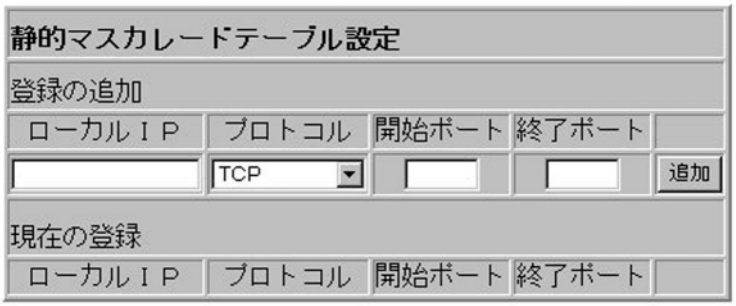
①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③マスカレードIPアドレス …… IPCPによってプロバイダから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。

■[静的マスカレードテーブル設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。



静的マスカレード …… マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ローカル端末へアドレス変換をします。
最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ローカルIP …プライベートIPアドレスを入力します。
  (入力例：192.168.0.10)
- プロトコル …TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- 開始ポート …選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
- 終了ポート …選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、〈登録〉ボタンクリックしてください。

5-1. 回線接続設定

5-1-3.[ISDN詳細設定]画面ー右フレーム

■[静的NATテーブル設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

静的NATテーブル ……

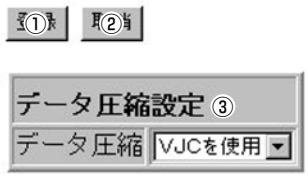
プロバイダとのLAN型契約など、複数のグローバルIPアドレスを契約した場合、ローカル端末とのIP対応を設定します。
最大32個のNATテーブルを設定できます。

- グローバルIP ……グローバルIPアドレスを入力します。
  (入力例：172.16.0.49)
- ローカルIP ……プライベートIPアドレスを入力します。
  (入力例：192.168.0.10)

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、〈登録〉ボタンクリックしてください。

■[データ圧縮設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[データ圧縮]項目を“する”に設定しているとき有効です。



①〈登録〉ボタン ……

右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン ……

右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③データ圧縮 ……

接続先との通信において、相手先も同様の機能を搭載していればVJヘッダー圧縮が行えます。
VJCは、Van Jacobson Compressionの略です。
VJCが確立すれば、[通信記録]画面にVJ Cmp negotiation successを表示します。

5-1.回線接続設定
5-1-4.[専用線選択状況]画面

①番号 …… 登録された接続先の整理番号です。
[初期設定]画面で設定したときは、01番に内容が登録されます。
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに追加登録すると、その欠番に登録されます。

②名称 …… 登録された接続先(プロバイダまたはWAN側の相手先)の名称を表示します。

③状況 …… 回線の接続状況(未接続、接続)を表示します。

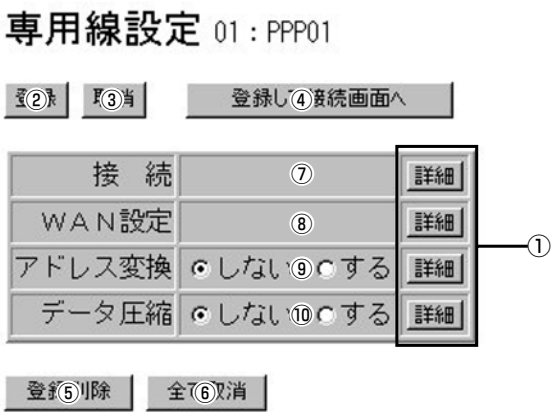
④〈選択〉ボタン …… 接続先を2件以上登録したとき、接続先を切り替えるボタンです。

⑤詳細 …… 該当する欄の接続先について、接続条件等をより詳しく設定する画面を表示するボタンです。

⑥〈接続先の追加〉ボタン …… 現在使用している回線において、接続先を新たに追加設定するとき、このボタンをクリックします。

5-1. 回線接続設定

5-1-5.[専用線詳細設定]画面ー左フレーム



①〈詳細〉ボタン …… 各欄の〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームにその項目についての各[詳細設定]画面を表示します。

②〈登録〉ボタン …… 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

③〈取消〉ボタン …… 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

④〈登録して接続画面へ〉ボタン 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定したあと、[接続状況]画面に戻ります。

⑤〈登録削除〉ボタン …… この画面に設定された接続先とその内容を削除します。
その他の設定内容を残して、登録した接続先だけをすべて削除したい場合は、付属のCD-ROMに納められたUtilityを使って、[PPPデータの初期化]項目を実行してください。

⑥〈全て取消〉ボタン …… 左フレームと右フレームの〈登録〉ボタンを押す前であれば、表示中の両フレームの画面で変更した内容を、変更前の状態に戻すボタンです。

⑦接続 …… 接続先情報は、〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑧WAN設定…… WAN側の回線に、LAN側とは異なるネットワーク番号を使用する場合に使用します。
〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームにその設定画面を表示します。

⑨アドレス変換 …… NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑩データ圧縮 …… 接続先との通信において、データ圧縮するかしないかを選択します。この機能は、ファイルサイズの大きなデータのやり取りや、WWW上から高画質の画像データをダウンロードするときなど、TCP/IPヘッダサイズを圧縮(通信に利用できる帯域幅を広く)して転送効率を向上させるのに有効です。

5-1. 回線接続設定

5-1-6.[専用線詳細設定]画面ー右フレーム

■[接続設定]画面

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③〈登録して接続画面へ〉ボタン 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定したあと、[専用線選択状況]画面に戻ります。

④接続先名 …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑤デフォルトGWを構築 …… ローカルなLAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、本接続をその出口とするかしないかを選択します。

「す　る」：パケットデータを送る先がプロバイダなどグローバルなLAN環境のとき選択します。

「しない」：パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。

⑥プライマリDNSサーバ …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑦セカンダリDNSサーバ …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

5-1.回線接続設定

5-1-6.[専用線詳細設定]画面ー右フレーム

■[WAN設定]画面

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③本体のWAN側…… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

④Numberedで使用 …… 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。
※使用するときは、同じ画面にある本体WAN側の[IPアドレスとサブネットマスク]、相手のWAN側[IPアドレス]を入力してください。

⑤相手のWAN側…… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

5-1.回線接続設定

5-1-6.[専用線詳細設定]画面ー右フレーム

■[アドレス変換]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③マスカレードIPアドレス …… プロバイダとのLAN型契約など、1つのグローバルIPアドレスを複数のプライベートIPアドレスに変換をする場合入力します。
何も入力しないときは、本体IPアドレスがマスカレードIPアドレスになります。

■[静的マスカレードテーブル設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

静的マスカレード …… マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ローカル端末へアドレス変換をします。
最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ローカルIP …プライベートIPアドレスを入力します。
  (入力例：192.168.0.10)
- プロトコル …TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- 開始ポート …選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
- 終了ポート …選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、〈登録〉ボタンクリックしてください。

5-1.回線接続設定

5-1-6.[専用線詳細設定]画面ー右フレーム

■[静的NATテーブル設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

静的NATテーブル ……

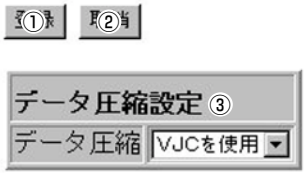
プロバイダとのLAN型契約など、複数のグローバルIPアドレスを契約した場合、ローカル端末とのIP対応を設定します。
最大32個のNATテーブルを設定できます。

- グローバルIP……グローバルIPアドレスを入力します。
  (入力例：172.16.0.49)
- ローカルIP……プライベートIPアドレスを入力します。
  (入力例：192.168.0.1)

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、〈登録〉ボタンクリックしてください。

■[データ圧縮設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[データ圧縮]項目を“する”に設定しているとき有効です。



①〈登録〉ボタン ……

右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン ……

右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③データ圧縮 ……

接続先との通信において、相手先も同様の機能を搭載していればVJヘッダー圧縮が行えます。
VJCは、Van Jacobson Compressionの略です。
VJCが確立すれば、[通信記録]画面にVJ Cmp negotiation successを表示します。

5-1. 回線接続設定

5-1-7.[OCN選択状況]画面

①番号 …… 登録された接続先の整理番号です。
[初期設定]画面で設定したときは、01番に内容が登録されます。
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに追加登録すると、その欠番に登録されます。

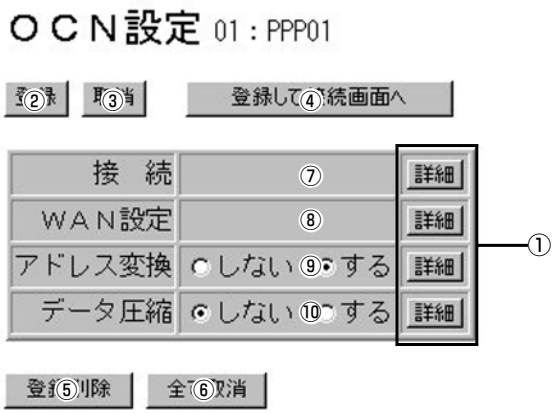
②名称 …… 登録された接続先(WAN側の相手先)の名称を表示します。

③状況 …… 回線の接続状況(未接続、接続)を表示します。

④〈選択〉ボタン …… 接続先を2件以上登録したとき、接続先を切り替えるボタンです。

⑤詳細 …… 該当する欄の接続先について、接続条件等をより詳しく設定する画面を表示するボタンです。

5-1-8.[OCN詳細設定]画面ー左フレーム



①〈詳細〉ボタン …… 各欄の〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームにその項目についての各[詳細設定]画面を表示します。

②〈登録〉ボタン …… 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

③〈取消〉ボタン …… 左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

④〈登録して接続画面へ〉ボタン

左フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定したあと、[OCN選択状況]画面に戻ります。

⑤〈登録削除〉ボタン ……

この画面に設定された接続先とその内容を削除します。
その他の設定内容を残して、登録した接続先だけをすべて削除したい場合は、付属のCD-ROMに納められたUtilityを使って、[PPPデータの初期化]項目を実行してください。

⑥〈全て取消〉ボタン ……

左フレームと右フレームの〈登録〉ボタンを押す前であれば、表示中の両フレームの画面で変更した内容を、変更前の状態に戻すボタンです。

⑦接続 ……

接続先情報は、〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑧WAN設定……

WAN側の回線に、LAN側とは異なるネットワーク番号を使用する場合に使用します。
〈詳細〉ボタンをクリックすると、右フレームにその設定画面を表示します。

⑨アドレス変換 ……

NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
〈詳細〉ボタンをクリックして、右フレームに表示する画面で行います。

⑩データ圧縮 ……

接続先との通信において、データ圧縮するかしないかを選択します。この機能は、ファイルサイズの大きなデータのやり取りや、WWW上から高画質の画像データをダウンロードするときなど、TCP/IPヘッダサイズを圧縮(通信に利用できる帯域幅を広く)して転送効率を向上させるのに有効です。

5-1. 回線接続設定

5-1-9.[OCN詳細設定]画面ー右フレーム

■[接続設定]画面

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

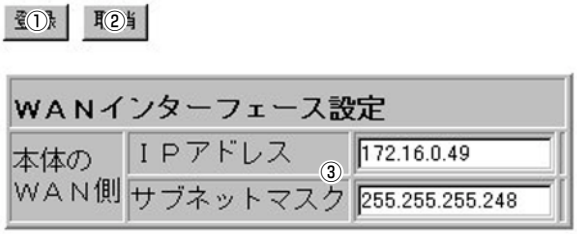
③〈登録して接続画面へ〉ボタン 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定したあと、[接続状況]画面に戻ります。

④接続先名 …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑤プライマリDNSサーバ …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑥セカンダリDNSサーバ …… [初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

■[WAN設定]画面



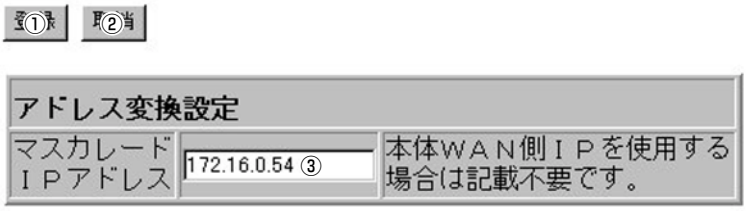
①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③本体のWAN側…… 自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。
[初期設定-6]画面から設定した場合、「契約ルータIPアドレス」と「契約サブネットマスク」をこの項目に反映します。

5-1.回線接続設定
5-1-9.[OCN詳細設定]画面ー右フレーム
■[アドレス変換]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。



①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③マスカレードIPアドレス …… OCNとの契約で、1つのグローバルIPアドレスを複数のプライベートIPアドレスに変換をする場合入力します。
NTTから指定された8個のIPアドレスのうち、指定されたルータIPアドレスを[初期設定-6]画面の「契約ルータIPアドレス」に入力したとき、その値から5個先(ブロードキャストアドレスの1つ手前)のアドレスが自動的に設定されます。

■[静的マスカレードテーブル設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

静的マスカレード …… マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ローカル端末へアドレス変換をします。マスカレードテーブルには、最大32個まで設定できます。
- ローカルIP …プライベートIPアドレスを入力します。
  (入力例：192.168.0.10)
- プロトコル …TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
- 開始ポート …選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
- 終了ポート …選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、〈登録〉ボタンクリックしてください。

5-1. 回線接続設定

5-1-9.[OCN詳細設定]画面ー右フレーム

■[静的NATテーブル設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[アドレス変換]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①静的NATテーブル ……

プロバイダとのLAN型契約など、複数のグローバルIPアドレスを契約した場合、ローカル端末とのIP対応を設定します。
最大32個のNATテーブルを設定できます。

- グローバルIP ……グローバルIPアドレスを入力します。
  (入力例：172.16.0.49)
- ローカルIP ……プライベートIPアドレスを入力します。
  (入力例：192.168.0.10)

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、〈登録〉ボタンクリックしてください。

②現在の登録 ……

NTTから指定された 8 個のIPアドレスのうち、指定されたルータIPアドレスを[初期設定-6]画面の「契約ルータIPアドレス」に入力したとき、そのアドレスとマスカレードIPアドレス、そしてネットワークIPアドレスとブロードキャストアドレスを除く、残り 4 つのIPアドレスが自動的に設定されます。

5-1.回線接続設定
5-1-9.[OCN詳細設定]画面ー右フレーム
■[データ圧縮設定]画面

【条件】
この設定は、左フレームの[データ圧縮]項目を“する”に設定しているとき有効です。

①〈登録〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… 右フレームの設定項目にある内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③データ圧縮 …… 接続先との通信において、相手先も同様の機能を搭載していればVJヘッダー圧縮が行えます。
VJCは、Van Jacobson Compressionの略です。
VJCが確立すれば、[通信記録]画面にVJ Cmp negotiation successを表示します。

5-2.ネットワーク設定

5-2-1.[LAN側IP設定]画面

■[本体名称/IPアドレス設定]画面

①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③〈登録して再起動〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定して本製品を再起動します。
[LAN側IP設定]画面の内容は再起動しないと有効になりません。

④本体名称 …… [初期設定-2]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑤IPアドレス …… 専用線の[初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑥サブネットマスク …… 専用線の[初期設定-6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

5-2.ネットワーク設定

5-2-1.[LAN側IP設定]画面

■[DHCPサーバ設定]画面

DHCPサーバ設定		
DHCPサーバ機能を使用	○しない① ●する	
割り当て開始IPアドレス	192.168.0②	
割り当て個数	30 個 ③	
サブネットマスク	255.255.2④0	
リース期間	3 日 ⑤	
ドメイン名	⑥	
プライマリDNSサーバ	⑦	DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	⑧	
プライマリWINSサーバ	⑨	
セカンダリWINSサーバ	⑩	

①DHCPサーバ機能を使用 ……

本製品を動的DHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。
本製品に有線および無線接続しているコンピューターは、コンピューターのTCP/IPの設定で、“IPアドレスを自動的に取得する”ように設定すると、本製品のDHCPクライアントになります。
この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。

②割り当て開始IPアドレス ……

本製品に有線および無線接続するコンピューターへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定する欄です。

③割り当て個数 ……

割り当て開始アドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数です。
設定できる個数は、5～128個です。

④サブネットマスク ……

割り当て開始アドレスのネットワークIPアドレスに対するサブネットマスクです。

⑤リース期間 ……

DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。

⑥ドメイン名 ……

Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。

5-2.ネットワーク設定
5-2-1.[LAN側IP設定]画面
■[DHCPサーバ設定]画面(つづき)

⑦プライマリDNSサーバ …… [DHCPサーバ機能]を“使用する”に設定しているとき、必要に応じて常に優先して使用したいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
入力すると、本装置のアドレスの代わりに設定したDNSサーバーアドレスがDHCPクライアントに通知されます。
※[初期設定6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑧セカンダリDNSサーバ …… プライマリDNSサーバ欄と同様、[DHCPサーバ機能]を“使用する”に設定している場合は、必要に応じて常に優先して使用したいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
※[初期設定6]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑨プライマリWINSサーバ …… Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバーアドレスを入力します。 WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。

⑩セカンダリWINSサーバ …… プライマリWINSサーバと同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

5-2.ネットワーク設定

5-2-1.[LAN側IP設定]画面

■[リモートアクセス用IP設定]画面

①リモートアクセスサーバを使用 ……

遠隔地のコンピューターから本製品に着信があったとき、EthernetのIPアドレスを相手先のコンピューターに割り当ててEthernetへ収容するかしないかを選択します。
使用するときは、リモートアクセス用IPアドレスを2つ設定しないと、登録を受け付けません。

②IPアドレス1/IPアドレス2…

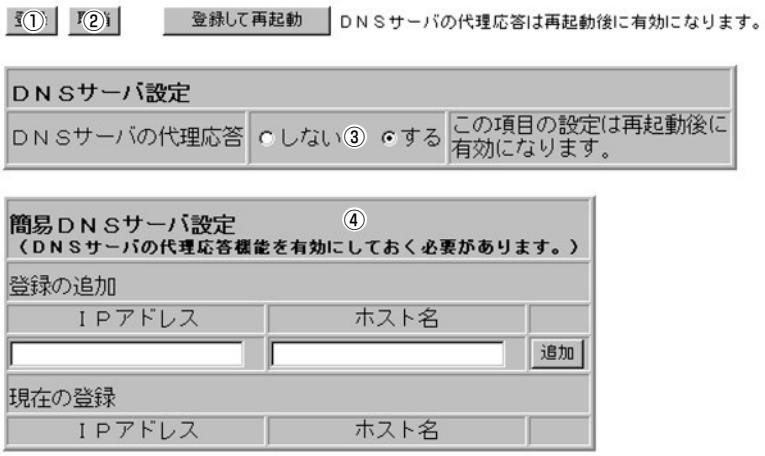
リモートアクセスしたコンピューターに割り当てるIPアドレスを入力します。
設定するときは、次のことに注意してください。
◎IPアドレスは、必ず2つ設定しないと、登録できません。
◎本製品と同じネットワークIPアドレス(同一サブネット)を設定する
◎本製品のIPアドレスやローカルネットワーク上のほかのコンピューターのIPアドレスと重複しないように設定する
※リモートアクセスするコンピューターがDNSを使用する場合は、DNSサーバのIPアドレスをリモートアクセスするコンピューターに設定してください。

■[静的DHCPサーバ設定]画面

静的DHCPサーバ設定 ……

DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てするIPアドレスを、特定のコンピューターに固定するとき、コンピューターのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。
※この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するコンピューターのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

5-2.ネットワーク設定
5-2-2.[簡易DNSサーバ設定]画面
■[DNSサーバ設定]画面



①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

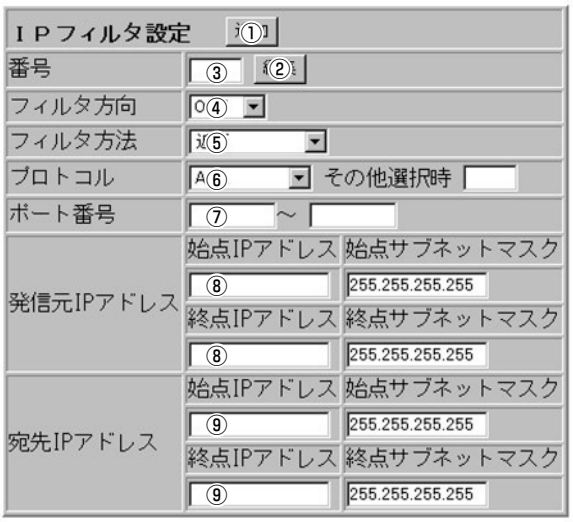
②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③DNSサーバの代理応答 …… 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。
代理DNS機能とは、プロバイダ側のDNSサーバーアドレスを検出したり、コンピューターからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。
代理DNS機能を利用すると、Ethernetのコンピューターの DNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。

④簡易DNSサーバ設定 …… 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用する場合、コンピューターのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておくと、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。
※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。
※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

5-2.ネットワーク設定
5-2-3.[IPフィルタ設定]画面

ワイヤレスルータモード以外のモードで動作しているときは、この画面は表示されません。



①〈追加〉ボタン ……

上記の画面で入力した条件で、IPフィルタを設定します。
追加した内容は、この画面の下に表示されます。

②〈編集〉ボタン ……

設定済みのフィルタを編集するボタンです。
編集するフィルタ番号を入力してから、ボタンをクリックします。

③番号 ……

最大32件のフィルタを登録できます。
フィルタを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルタと比較します。
この項目では、フィルタを比較する順位を指定します。
フィルタを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
フィルタの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルタは比較しません。

④フィルタ方向 ……

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルタの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。

- **out**
  本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
  ※フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- **in**
  WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
  ※フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- **both**
  本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

5-2.ネットワーク設定

5-2-3.[IPフィルタ設定]画面(つづき)

⑤フィルタ方法 ……

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断
  回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過
  回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中)
  回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

⑥プロトコル ……

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL
  すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP
  TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP_FIN
  TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP_EST
  TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP
  UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP
  ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他
  IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
  プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

⑦ポート番号 ……

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。

ポート番号は、始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。

入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。

⑧発信元IPアドレス ……

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- IPアドレス(始点/終点)
  発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
  何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- サブネットマスク(始点/終点)
  この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
  IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

⑨宛先IPアドレス ……

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

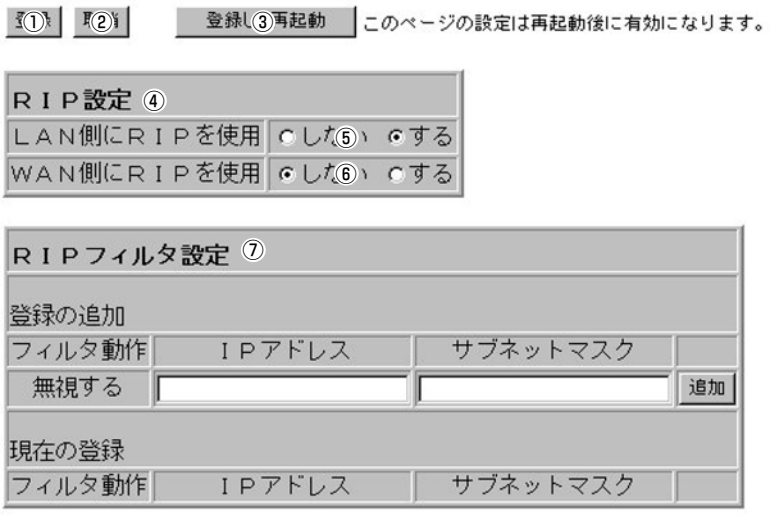
- IPアドレス(始点/終点)
  宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
  始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- サブネットマスク(始点/終点)
  この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
  IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
- サブネットマスクに255.255.255.252

フィルタの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

5-2.ネットワーク設定
5-2-4.[RIP設定]画面



①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③〈登録して再起動〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定して本製品を再起動します。
[RIP設定]画面の内容は再起動しないと有効になりません。

④RIP設定 …… RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。
LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。
RIP使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

⑤LAN側にRIPを使用 …… LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかしないかを選択します。

⑥WAN側にRIPを使用 …… WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかしないかを選択します。
※[初期設定]画面から、ワイヤレスルータモード以外のモードまたはOCNを使用回線に選んだときは、この項目を表示しません。

⑦RIPフィルタ設定 …… 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。

5-2.ネットワーク設定

5-2-5.[ルーティング設定]画面

■[IP経路情報]画面

ネットワーク　インターフェイス　リスト		
インターフェイス	ＩＰアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

ＩＰ経路情報					
宛①先	ネッ②トマスク	ゲー③トウェイ	ネ④ット	作⑤成	メト⑥リック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

IP経路情報 …… ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。
この画面には、[スタティックルーティング設定]画面で追加した経路も表示されます。

①宛先 …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。

②ネットマスク …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。

③ゲートウェイ …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。

④ネット …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
その詳細は[ネットワーク・インターフェイス・リスト]に表示します。

⑤作成 …… どのように経路情報が作られたかを表示します。

- static
  スタティック(定義された)ルートにより作成された経路情報です。
- rip
  ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成された経路情報です。
- misc
  ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成された経路情報です。

⑥メトリック …… 経路のコストを表示します。

5-2.ネットワーク設定
5-2-5.[ルーティング設定]画面
■[スタティックルーティング設定]画面

スタティックルーティング設定　パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面にも表示されます。

①経路 ……

- **local**：登録する経路情報がLAN側の場合です。
- **登録先選択**：登録する接続先がWAN側の場合、▼印をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。

②宛先 ……　経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。

③ネットマスク ……　対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。

④ゲートウェイ ……　ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。

⑤メトリック値 ……　宛先までのコストを表す数値を入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。
0～16まで入力できます。

5-3.通信記録表示

接続先と回線を接続および切断したとき、その状態を記録します。
接続先との通信がうまくいかないとき、確認してください。
記録を消去するときは、〈クリア〉ボタンをクリックします。
※履歴が100行以上になると、画面上で古い日付の履歴から順番に消去されます。

5-4.各種設定管理

5-4-1.[本体管理設定]画面

■[管理者ID設定]画面

①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③管理者ID …… [初期設定-1]画面から設定した内容をこの項目に反映します。また、[初期設定-1]画面から設定したときだけ、[使用者ID設定]画面の[使用者ID]欄(☞P120)にも同じ内容が設定されます。

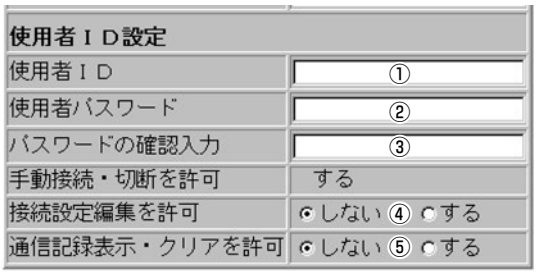
④管理者パスワード …… [初期設定-1]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑤パスワードの確認入力 …… [初期設定-1]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

5-4.各種設定管理

5-4-1.[本体管理設定]画面

■[使用者ID設定]画面



使用者ＩＤ設定	
使用者ＩＤ	①
使用者パスワード	②
パスワードの確認入力	③
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	しない ④ する
通信記録表示・クリアを許可	しない ⑤ する

①使用者ID …… 特定の使用者だけに設定画面のアクセスを許可するとき、その使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：icom)
※[初期設定-1]画面の[管理者ID]欄で[管理者ID]を設定するときだけ、この欄にも[管理者ID]欄と同じ内容が設定されます。
管理者と異なる使用者に対してもアクセスを許可するときは、この画面で[使用者ID]を変更してください。

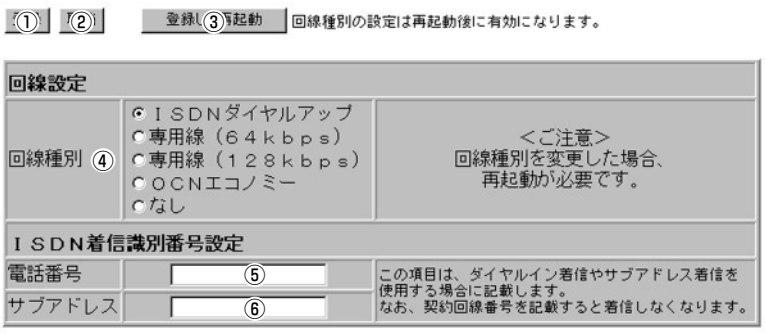
②使用者パスワード …… 大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。 (表示例：＊＊＊＊)
パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じように入力を求めるダイヤログボックスを表示します。

③パスワードの確認入力 …… 入力間違いを防ぐため、使用者パスワードを再入力する欄です。 (表示例：＊＊＊＊)

④接続設定編集を許可 …… 使用回線について、使用者に接続先の編集や追加と、ダイヤルアップ時の接続ボタンの使用を許可するかしないかの選択です。

⑤ログ表示を許可 …… 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、その〈クリア〉ボタンの操作を許可するかしないかの選択です。

5-4.各種設定管理
5-4-2.[回線設定]画面



①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

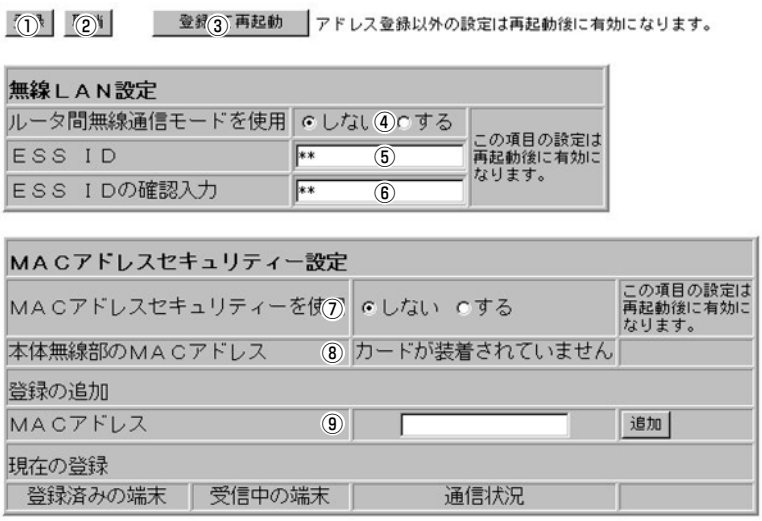
③〈登録して再起動〉ボタン …… この画面の内容を変更したとき、その内容を確定して本製品を再起動します。なお、回線種別は、必ず再起動しないと有効になりません。

④回線種別 …… 通信に使用する回線を選択します。
各回線について詳しくは、取扱説明書の[初期設定-5]についての説明をご覧ください。
※“なし”を選択したときは、アクセスポイント専用モードとして動作します。

⑤電話番号 …… NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用して着信識別するとき、ダイヤルイン番号を入力します。
ダイヤルイン電話番号は、市外局番からしてください。
※契約電話番号だけを入力すると、本製品への着信がすべて拒否されますので、ご注意ください。
※電話番号は、31文字(半角)までで入力します。
※電話番号を次のように入力すると、すべて同じ番号として、処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
※ダイヤルイン番号は、NTTのダイヤルインサービス(有料)と契約している場合だけ有効です。

⑥サブアドレス …… サブアドレスで着信識別するとき入力します。
NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、ここに入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたとき、着信が可能になります。
※サブアドレスは、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
※サブアドレスは、NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、契約電話番号と共にダイヤルするとき着信が可能で、ISDN回線契約者どうしで使用できます。

5-4.各種設定管理
5-4-3.[無線LAN設定]画面



①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③〈登録して再起動〉ボタン …… この画面の内容を変更したとき、その内容を確定して本製品を再起動します。なお、MACアドレスの登録以外は、必ず再起動しないと有効になりません。

④ルータ間無線通信モードを使用 …… 弊社製無線通信LANカードを装着する本製品どうしをワイヤレス接続するかしないかを選択します。
- しない：アクセスポイントモードで動作
- す　る：ルータ間無線通信モードで動作

※同じ機種名の無線通信LANカードをご使用ください。

⑤ESS ID…… [初期設定-4]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑥ESS IDの確認入力…… [初期設定-4]画面から設定した内容をこの項目に反映します。

⑦MACアドレスセキュリティーを使用 …… あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。
この項目の変更後、本製品を再起動してください。

⑧本体無線部のMACアドレス… 本製品に装着する無線通信LANカードが正しく認識されると、その無線通信LANカードに登録されたMACアドレスを表示します。
※SL-100を本製品に装着してご使用のときは、その無線通信LANカードに登録されたMACアドレスは、正しく表示されません。

⑨MACアドレス……

MACアドレスセキュリティーが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。
※入力は、半角文字で12桁を入力します。
※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
※MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。　11-11-11-22-33-33、111111223333
※無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

5-4-4.[時計設定]画面

■[内部時計設定]画面

①〈登録〉ボタン ……

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン ……

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③本体の時刻 ……

本製品に設定されている時刻を表示します。

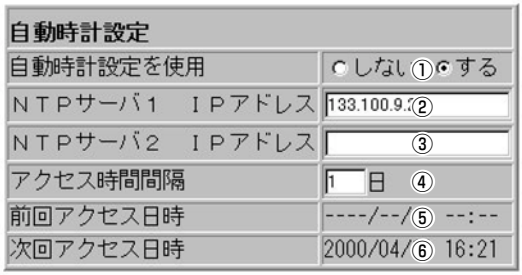
④設定する時刻 ……

設定画面にアクセス時、コンピューターの時計設定を取得して表示します。
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。
※正確に設定したいときや本製品の[PWR]スイッチで電源を再投入した(不慮の事故などの停電も含む)あとは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、〈登録〉ボタンをクリックしてください。

5-4.各種設定管理

5-4-4.[時計設定]画面

■[自動時計設定]画面



①自動時計設定を使用 …… インターネット上に存在するタイムサーバに日付時刻の問い合わせを行い、本製品の内部時計を自動設定します。

②NTPサーバ1 IPアドレス …… 最初に問い合わせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。

③NTPサーバ2 IPアドレス …… NTPサーバ１の次に問い合わせるタイムサーバのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度NTPサーバ１に問い合わせます。

④アクセス時間間隔 …… 次回タイムサーバに問い合わせる期間を、日数で設定します。
最大99日まで設定できます。
設定した日数が、前回インターネットダイヤルアップ接続した日から経過している場合、問い合わせをインターネット接続時に行います。
専用線やOCNで常時接続する環境下では、設定した日数にしたがって問い合わせを行います。

⑤前回アクセス日時 …… 前回アクセスした時間を表示します。

⑥次回アクセス日時 …… 次回アクセスする日時を、前回アクセスした時間とアクセス時間間隔に設定された値より算出して表示します。

5-4.各種設定管理
5-4-5.[SYSLOG設定]画面

SYSLOG設定 …… ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用してファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。

①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③DEBUGを使用 …… ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。

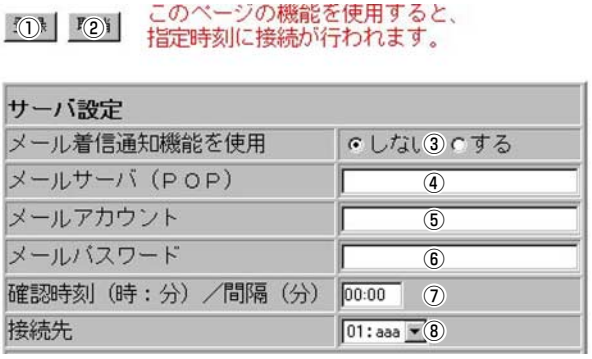
④INFOを使用 …… INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。

⑤NOTICEを使用 …… NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。

⑥ホストアドレス …… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑦ファシリティ …… SYSLOGのファシリティを入力します。
0～23の値を設定してください。
通常"1（user）"を使用します。

5-4.各種設定管理
5-4-6.[メール着信通知設定]画面
■[サーバ設定]画面



サーバ設定 ……

本製品が、着信メールの有無を確認するために、接続先(プロバイダなど)のメールサーバに自動接続するための情報を設定する画面です。
※指定の接続先の設定が「手動接続」であっても、着信メールの自動接続をおこないます。
※対応するプロトコルは、POP3だけです。

①〈登録〉ボタン ……

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン ……

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③メール着信通知機能を使用 …

メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。
この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の前面パネルのPOWERランプを速く点滅すると同時に、その内容を本製品の[各種設定管理]項目の[着信メール一覧]画面に表示します。

④メールサーバ(POP) ……

メールサーバのサーバ名を入力します。
ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
入力例：メールアドレスが、「DR1WL@icom.co.jp」のときは、「icom.co.jp」と入力します。
※ご契約のプロバイダによって指定される内容が異なりますので、入力の前に内容をご確認ください。

⑤メールアカウント ……

メールサーバ上のユーザIDまたはメールアカウントを入力します。
入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。
入力例：メールアドレスが、「DR1WL@icom.co.jp」のときは、「DR1WL」と入力します。
※ご契約のプロバイダによって指定される内容が異なりますので、入力の前に内容をご確認ください。

⑥メールパスワード ……

メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを入力します。
入力は、任意の英数字、半角31文字以内です。

⑦確認時刻(時：分)/間隔(分) … メールサーバに自動接続する時刻または間隔を設定します。
時刻を指定するときは、24時間制、間隔を指定するときは、分単位で入力します。
※24時間制で入力するときは、本製品の[内部時計設定]画面(☞P123)に設定された時間にしたがって動作します。
本製品の[PWR]スイッチで電源を切る(不慮の事故などの停電も同様)と、設定時刻が初期値に戻りますので、本製品の設定時刻を定期的に確認してください。

⑧接続先 …… この画面に設定するメールサーバへの接続先を選択します。
▼印をクリックすると、現在選択されている回線種別に登録された接続先を表示しますので、その中から選びます。

5-4-6.[メール着信通知設定]画面

■[メール転送設定]画面

サーバ設定 …… 本製品に着信したメールを、この画面で指定するメールサーバに転送するための情報を、設定する画面です。
接続先が指定する内容を、該当する項目に設定します。
※設定内容については、接続先のネットワーク管理者(インターネットサービスプロバイダ)におたずねください。

①メール転送機能を使用 …… メール転送機能を使用するかしないかを選択します。
※メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。

②転送先メールサーバ(SMTP) 転送に利用するメールサーバ(SMTPサーバ)の名前を入力します。
入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。
※接続先のプロバイダによって指定される内容が異なりますので、入力の前に内容をご確認ください。

③転送先メールアドレス …… 転送先のメールアドレスを入力します。
入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。

④発信元メールアドレス …… メール発信者のメールアドレスを入力します。
入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。

5-4.各種設定管理
5-4-6.[メール着信通知設定]画面
■[メールフィルタ]画面

メールフィルタ …… メール着信通知機能を使って通知するメールの種類を限定したい場合に、この画面でその比較対象にする条件を設定します。

①番号 …… 最大6(5＋1)件のフィルタを登録できます。
フィルタを複数使う場合、着信メールとフィルタの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
01～05番の条件に該当しない場合は、最下欄の[該当しないメールを]で指定する内容にしたがいます。

②使用 …… 指定の条件を有効にする場合は、チェックボックスをクリックすると、チェックが入ります。

③フィルタ動作 …… 比較する対象になる条件を、この欄の▼印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする

- **比較対象条件：[A]**
  - To　：宛先の文字列が対象
  - CC　：カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
  - From　：差出人の文字列が対象
  - Subject：件名の文字列が対象
- **比較対象条件：[B]**
  - 全体：文字列の全体が対象
  - 一部：文字列の一部が対象
  - 先頭：文字列の先頭が対象
  - 末尾：文字列の末尾が対象

- **比較対象条件：[C]**
  入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
- **比較対象条件：[D]**
  する　：比較対象条件と一致するメールが対象
  しない：比較対象条件と一致しないメールが対象
- **比較対象条件：[E]**
  表示　　：対象となる着信メールの表示をする
  無視　　：対象となる着信メールの表示をしない
  転送＋表示：対象となる着信メールの転送と表示をする
  ※新しい着信メールがあると、本製品の[POWER]ランプを速く点滅して、着信したことを通知します。

5-4-7.[着信メール一覧]画面

メール着信の一覧を表示する画面です。
下記の画面は、1件のメールを着信した状態です。

①〈全て削除〉ボタン ……　この画面に表示するメールをすべて削除します。
※削除を実行してもメールサーバのメールは削除されません。

②〈削除〉ボタン ……　このボタンのフレーム内のメールだけを消去します。
※削除を実行してもメールサーバのメールは削除されません。

③〈表示ランプリセット〉ボタン　クリックすると、[POWER]ランプの着信通知表示が通常状態に戻ります。

5-4.各種設定管理

5-4-7.[着信メール一覧]画面(つづき)

■制限事項

最大表示件数：16件

表示が17件以上になると古い順に消去されます。
メールサーバに20件のメールがあると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字以内まで表示します。
着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。
※制限を超えた文字列については、表示されません。
※メールフィルタが有効な場合は、その部分の文字列が、[メールフィルタ]画面で設定する条件と比較対象外として処理します。
※メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」の範囲内の内容しか転送できません。

6-1.選択条件で変化する項目と初期値

下記の項目は、[初期設定]画面で選択する「動作モード」や「使用する回線」によって、初期値が変化します。

■DHCPサーバ機能の使用

ワイヤレスルータモード：使用する
アクセスポイント専用モード：使用しない
ルータ間無線通信モード：使用しない

■LAN側のRIP使用

ワイヤレスルータモード：使用する
アクセスポイント専用モード：使用しない
ルータ間無線通信モード：使用しない

■WAN側のRIP使用

ISDNダイヤルアップインターネット接続：使用しない
ISDNダイヤルアップLAN間接続：使用しない
専用線(64kbps)：使用しない
専用線(128kbps)：使用しない
OCNエコノミー：設定項目なし
アクセスポイント専用モード：設定項目なし
ルータ間無線通信モード：設定項目なし

■デフォルトGW構築

ISDNダイヤルアップインターネット接続：構築する
ISDNダイヤルアップLAN間接続：構築しない
専用線(64kbps)：構築しない
専用線(128kbps)：構築しない
OCNエコノミー：設定項目なし
アクセスポイント専用モード：設定項目なし
ルータ間無線通信モード：設定項目なし

■アドレス変換

ISDNダイヤルアップインターネット接続：変換する
ISDNダイヤルアップLAN間接続：変換しない
専用線(64kbps)：変換しない
専用線(128kbps)：変換しない
OCNエコノミー：変換する
アクセスポイント専用モード：設定項目なし
ルータ間無線通信モード：設定項目なし

■IPフィルタ設定

ワイヤレスルータモード：フィルタ番号31、32に設定
アクセスポイント専用モード：設定項目なし
ルータ間無線通信モード：設定項目なし

6-2. マルチダイヤル機能

プロバイダにアクセスするとき、同じユーザーIDで複数の電話番号を使える場合に、マルチダイヤル機能によって、次のことを実現できます。

1つの相手先に発信するとき、電話番号を3個([電話番号1]～[電話番号3])まで設定できます。

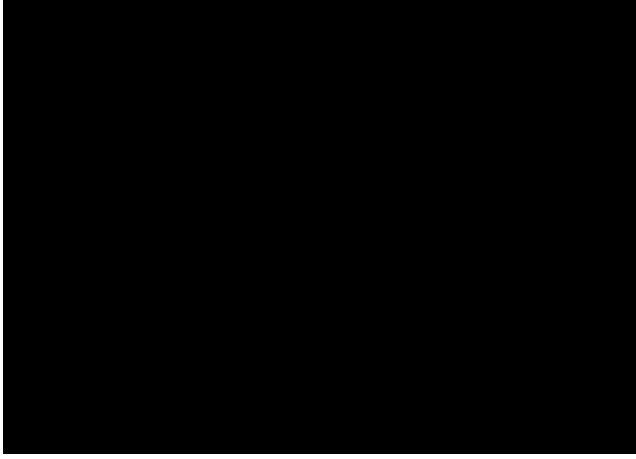
電話番号を3個設定すると、相手先のBチャネルが空いていないなどで[電話番号1]に接続できない場合、[電話番号2]に自動発信します。さらに、[電話番号2]に接続できないときは、[電話番号3]に自動発信します。

以降、接続できないときは、入力された各電話番号欄についてもう一度だけ[電話番号1]から自動発信を繰り返して終了(最大で各2回発信)します。

したがって、電話番号を2個設定しているときは、設定されている[電話番号]欄の電話番号を交互に自動発信して終了(最大で各2回発信)します。

※無課金コールバック要求による発信時は、設定されている[電話番号]欄の相手先がすべて話中の場合は、マルチダイヤル機能は動作しませんので、繰り返し同じ電話番号に再発信しません。

高品質がテーマです。



アイコム株式会社

本　　社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

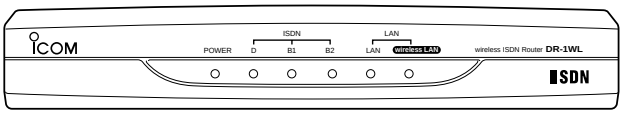
● サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5686 I-2J-① © 2000 Icom Inc.

拡張機能ガイド

Wireless ISDN Router

DR−1WL



このガイドには、取扱説明書および活用ガイドに記載の機能から、ファームウェアのバージョンアップで追加された機能について説明します。
活用ガイドと併せてお読みください。

Icom Inc.

はじめに

本書は、本製品のファームウェアがVer.1.6へバージョンアップされたことで、追加になった機能についてのガイドです。
はじめて本製品をお使いになるときには、[取扱説明書]および[活用ガイド]を先にお読みになってから、本書をお読みください。
Ver.1.0→Ver.1.3への主な変更点は、以下の通りです。
●高速無線通信(11Mbps)に対応
弊社製無線通信LANカード(SL-1100/SL-1105)が使用可能
●インターネットセキュリティープロトコルに対応
IPSecプロトコルによる暗号化を使って通信が可能

Ver.1.3→Ver.1.6への主な変更点は、以下の通りです。
●リソースルーティング機能に対応
ソースルーティング・優先ルーティング・URLフィルターが使用可能

本書の説明に使用するWWW設定画面は、お使いのディスプレイによって本製品の設定画面の色合いとは、異なることがあります。

登録商標について

◎WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
◎Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。
◎Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。
◎Copyright(C) Open Loop Inc.
Copyright(C) Nippon Unisoft Corporation.
This product includes software developed at the Information Technology Division,US Nanval Research Laboratory.
This product includes software developed by Eric Young(eay@mincom.oz.au).
Open LoopおよびSecured by OPENLOOPのロゴは、株式会社オープンループの商標です。
◎その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

目　次

1.[IPSec設定]画面(本書参照) ――――――――――――――――――――――**1**
1-1　IP Secとは ……1
1-2　設定画面について ……1
1-3　設定例について ……3
2.[SL-1100詳細設定]画面(本書参照) ――――――――――――――――**6**
3.[リソースルーティング設定]画面(本書参照) ――――――――――――**9**
3-1　リソースルーティングとは ……9
3-2　設定画面について ……9
3-3　設定例について……12

活用ガイドの目次では、追加機能が下記の位置に加わります。

5.各種設定画面について(活用ガイド参照) ……**80**
5-2　ネットワーク設定(活用ガイド参照) ……108
5-2-5　[ルーティング設定]画面 ……117
■[IP経路情報]画面 ……117
■[スタティックルーティング設定]画面……118
■[リソースルーティング設定]画面(本書参照)　……9
5-2-6　**[IPSec設定]画面(本書参照)……1**
5-4　各種設定管理(活用ガイド参照) ……119
5-4-3　[無線LAN設定]画面(活用ガイド参照)……122
[SL-1100詳細設定]画面(本書参照) ……6

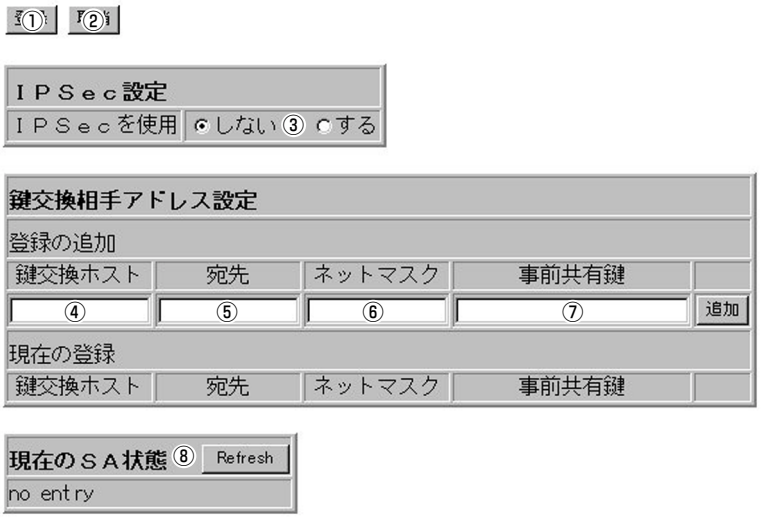
1 [IPSec設定]画面

1-1.IPSecとは

回線を使ったネットワーク間の通信において、通信対象となる相手間で、その回線を流れるデータにこのプロトコルを使って暗号化することで、第三者によるデータの改ざんやなりすましに対して、データの安全性を確保する機能です。

1-2.設定画面について

右記の画面は、[ネットワーク設定]をクリックして表示する左のフレームから、[IPSec設定]をクリックすると表示されます。
※[オープニング画面](☞取扱説明書)が表示されたときは、その画面の〈メニューへ〉ボタンをクリックしてから、上記の操作をします。



鍵交換相手アドレス設定 ……

IPSecを使って通信する相手先のネットワークアドレスと秘密鍵の生成交換に用いる共有鍵を設定する画面です。
登録できるのは、最大4件までです。
※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
※この機能を使用して通信可能なのは、相手先の装置が本製品またはEZ-2000R(NTT社製)に限ります。

①〈登録〉ボタン ……

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン ……

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③IPSecを使用 ……

鍵交換相手アドレス設定に登録された相手と暗号を使用して通信するかしないかを選択します。

④鍵交換ホスト ……

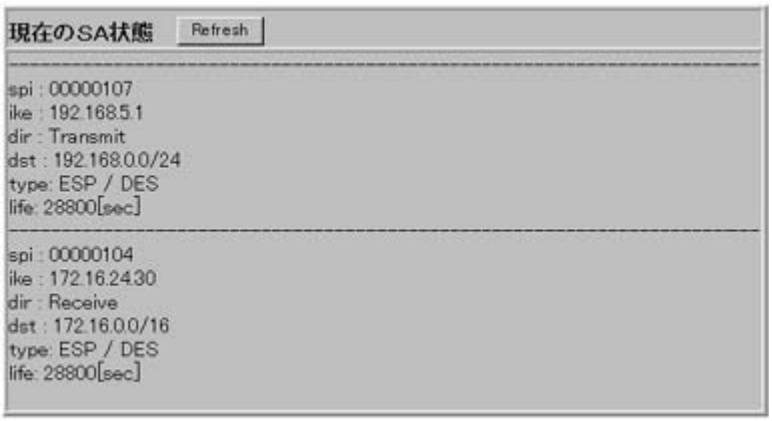
対象となる相手先ルータ(DR-1WL、EZ-2000R)のWAN側に設定するIPアドレスを入力します。
※IPCPを介したプロバイダ経由の場合、接続後に取得したWAN側IPアドレスを割り当てます。なお、取得したIPアドレスは、通信記録に表示されています。
※Unnumberdによる接続の場合は、対象となる相手先ルータのIPアドレスを入力します。

⑤宛先 …… 対象となる相手先ルータのネットワークIPアドレスを入力します。

⑥ネットマスク …… 対象となる相手先ルータのネットワークIPアドレスに対するネットマスクを入力します。

⑦事前共有鍵 …… 暗号化に用いる秘密鍵情報を、ルータ間で自動生成して交換するときに用いる、その元となる鍵情報です。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字や記号、半角31文字以内で入力します。
通信対象となる相手先ルータの事前共有鍵と同じ文字列を設定します。

⑧現在のSA状態…… 鍵交換が成立すると、no entryの部分が、下記のような表示に変わります。
回線を接続して表示が変わるまでは、最大約１分程度を要します。
共有鍵を再生成するときは、〈Refresh〉ボタンをクリックすると、以前とは、違う鍵でお互いに通信できます。



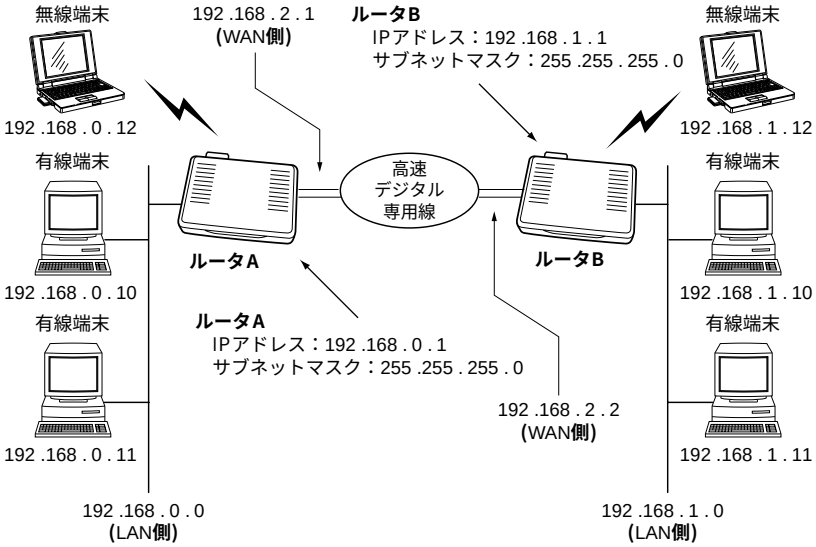
1 [IPSec設定]画面

1-3.設定例について

活用ガイド3章の「3-2.2地点間で、NumberdによるLAN型接続が設定されている状態から、[IPSec]の設定を追加します。

【事前共有鍵】

●IPSec



■ルータAの設定

【手順】

1.[専用線(128kbps)選択状況]画面の表示

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]

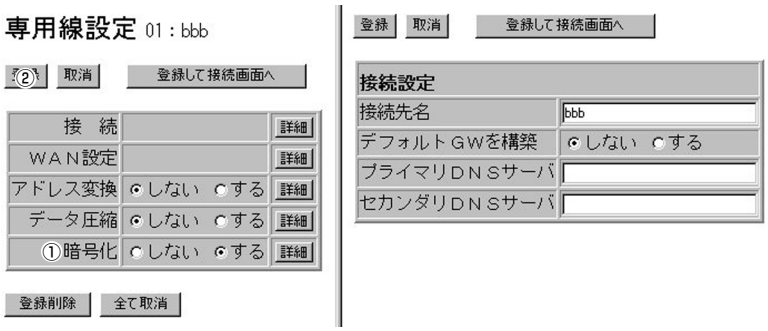
①〈詳細〉をクリック

3.暗号化設定

[操作]

①暗号化〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック



■ルータAの設定(つづき)

4.鍵交換相手アドレス設定

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

②[IPSec設定]をクリック

③IPSecを使用〈する〉をクリック

[設定例]

④192.168.2.2

⑤192.168.1.0

⑥255.255.255.0

⑦*****(英数字を入力)

※入力値は、表示しません。

[操作]

⑧〈追加〉をクリック

⑨追加内容の確認

⑩〈登録〉をクリック

5.設定画面を閉じる

■ルータBの設定

【手順】

1.[専用線(128kbps)選択状況]画面の表示

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.1.1をURLに指定します。

2.[詳細設定]画面の表示

[操作]

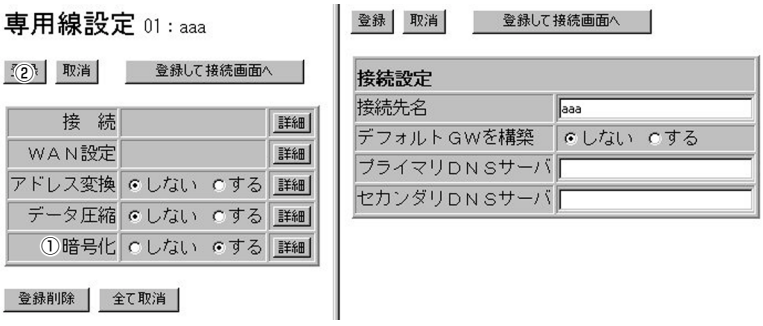
①〈詳細〉をクリック

3.暗号化設定

[操作]

①暗号化〈する〉をクリック

②〈登録〉をクリック



1 [IPSec設定]画面

1-3.設定例について
■ルータBの設定(つづき)

4.鍵交換相手アドレス設定
[操作]
①[ネットワーク設定]をクリック
②[IPSec設定]をクリック
③IPSecを使用〈する〉をクリック
[設定例]
④192.168.2.1
⑤192.168.0.0
⑥255.255.255.0
⑦*****(英数字を入力)
※入力値は、表示しません。
[操作]
⑧〈追加〉をクリック
⑨追加内容の確認
⑩〈登録〉をクリック

5.設定画面を閉じる

6.ルータAの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認
[操作]
①WWWブラウザを起動して、以下のURLを指定します。
http://192.168.0.1
[確認]
②[bbb]を「名称」欄に表示
③[接続]を「状況」欄に表示

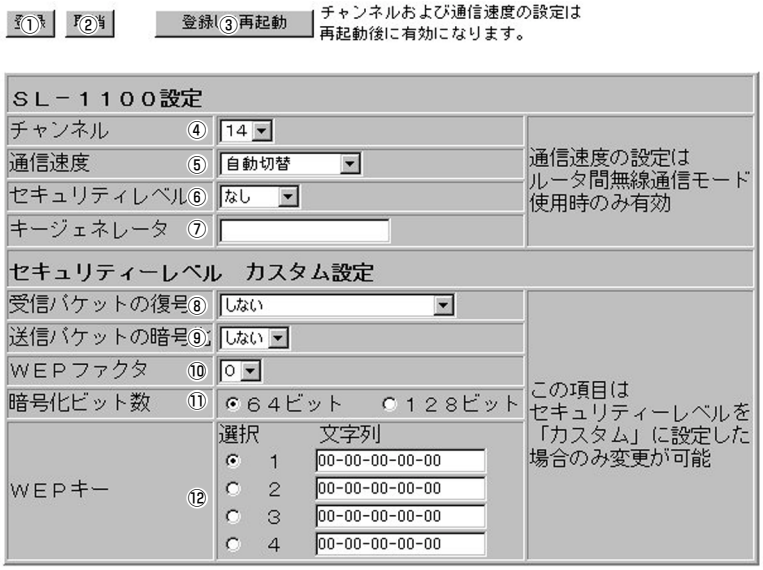
上記画面の「状況」欄(③)に、[接続]を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

7.ルータBの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認
[操作]
①WWWブラウザを起動して、以下のURLを指定します。
http://192.168.1.1
[確認]
②[aaa]を「名称」欄に表示
③[接続]を「状況」欄に表示

上記画面の「状況」欄(③)に、[接続]を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

■ 設定画面について

右記の画面は、[各種設定管理]をクリックして表示する左のフレームから、[無線LAN設定]をクリックします。さらに、右のフレーム内にある〈SL-1100詳細設定〉ボタンをクリックすると表示されます。
※[オープニング画面](☞取扱説明書)が表示されたときは、その画面の〈メニューへ〉ボタンをクリックしてから、上記の操作をします。



SL-1100設定 …… SL-1100/SL-1105を本製品に使用するときの設定です。
通信速度の設定は、ルータ間無線通信専用モードで使用するときだけ有効な設定です。

①〈登録〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②〈取消〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

③〈登録して再起動〉ボタン …… この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定して本製品を再起動します。

④チャンネル …… SL-1100/SL-1105を装着する本製品と無線端末が通信するチャンネルを設定します。 (初期値：14)
※SL-1100/SL-1105を装着して通信する無線端末は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。
※本製品を無線伝送エリアが重なるように複数設置して、同一チャンネルでローミング機能を使用するとき、互いの無線アクセスポイント(本製品)から電波が受信できる干渉エリア内においては、通信速度が低下する場合があります。
電波干渉を完全に避けたい場合は、4チャンネル以上間隔を開けて設定してください。

2 [SL-1100詳細設定]画面

■設定画面について(つづき)

⑤通信速度 …… 送信時の無線伝送速度を設定します。 (初期値：自動切替)
伝送距離は、屋内で約50m、屋外で約150m(見通し)です。
11Mbps設定時の伝送距離は、屋内で約30m、屋外で約70m(見通し)です。
※ルータ間無線通信機能で使用するときだけ有効な設定項目です。
※受信時は、この設定に関係なく1～11Mbpsの無線伝送速度のデータを受信できます。

⑥セキュリティレベル …… 無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、データを暗号化するレベルを設定します。 (初期値：なし)
暗号化の方式には、WEP(Wired Equivalent Privacy)を使用しています。
ここで選択したレベル(低・中・高)にしたがって、[セキュリティーレベル　カスタム設定]の項目(以下、⑧番～⑪番)を自動設定します。
※「セキュリティーレベル　カスタム設定」から設定値(以下、⑧番～⑪番)を変更するときは、「カスタム」を選択してから、以下に説明する⑧番～⑪番の項目について任意に設定できます。
※通信の対象となる相手間で同じセキュリティーレベルを設定することをおすすめします。
なお、通信の対象となる相手間で、一方が「低」で、もう一方が「中」の場合についてだけ、その間の通信は可能です。

⑦キージェネレータ …… 暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。
入力する文字は、すべて「＊」で表示します。 (表示例：＊＊)
ここで入力した文字列に基づいて、[セキュリティーレベル　カスタム設定]の項目(次ページ、⑫番)を自動生成します。
※通信の対象となる相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。
異なる文字列の場合、暗号化されたデータを復号できません。
※「セキュリティーレベル　カスタム設定」から設定値(次ページ、⑫番)を設定するときは、ここには何も表示されません。

⑧受信パケットの復号 …… [⑥セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定する項目で、受信したパケットを復号化するかしないか、または暗号化されていないパケットは受信しないなどの条件を選択します。

⑨送信パケットの暗号化 …… [⑥セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定する項目で、パケット送信時、暗号化するかしないかを選択します。

⑩WEPファクタ ……

[⑥セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定する項目で、内部暗号化キーを更新するレベルを設定します。
「0」を選択すると、一番セキュリティーレベルが高くなります。
各値の暗号化レベルは、つぎのようになります。
「0」＝　1パケットごとに内部暗号キーを更新する
「1」＝　10パケットごとに内部暗号キーを更新する
「2」＝　50パケットごとに内部暗号キーを更新する
「3」＝100パケットごとに内部暗号キーを更新する

⑪暗号化ビット数 ……

[⑥セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定する項目で、暗号化するビット数を設定します。　(初期値：64ビット)
「64ビット」を選択すると、[WEPキー]のテキストボックスには、下位40ビットが表示されます。
「128ビット」を選択すると、[WEPキー]のテキストボックスには、下位104ビットが表示されます。

⑫WEPキー ……

暗号化ビット数が「64ビット」に選択されていると、[⑦キージェネレータ]のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに、登録後40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。また、暗号化ビット数が「128ビット」に選択されていると、104ビット(16進数：26文字)ずつ表示されます。(先頭の24ビットは表示されません。)
「1」、「2」、「3」、「4」のチェックボックスにチェックを入れたキーだけを、暗号化に使用します。
復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」の各チェックボックスの中で、どれかひとつのチェックボックスの表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。
※[⑦キージェネレータ]のテキストボックスに何も入力しないときは、「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、[キージェネレータ]のテキストボックスに文字列は、表示されません。)

3 [リソースルーティング設定]画面

3-1.リソースルーティングとは

スタティックルーティングに加え、以下のような機能を併せて設定することで、詳細な条件でルーティングが行えます。

●発信元IPアドレス情報をもとに、特定の相手と通信できる相手先のコンピューターを限定するソースルーティング機能

●特定のプロトコルとポート番号指定することで、特定のアプリケーションデータを優先して送受信することができる優先ルーティング機能

●IPアドレスやURL情報をもとに、特定の発信元からのデータを遮断できるURLフィルター機能

3-2.設定画面について

右記の画面は、[ネットワーク設定]をクリックして表示する左のフレームから、[ルーティング設定]をクリックすると表示されます。
※[オープニング画面](☞取扱説明書)が表示されたときは、その画面の〈メニューへ〉ボタンをクリックしてから、上記の操作をします。

①〈設定〉ボタン …… 入力した値を本製品に設定するボタンです。
設定されると、一番下の欄にその内容を表示します。

②〈編集〉ボタン …… 設定内容が一番下の欄に表示されているときは、その内容を上記画面の各欄に呼び出すことで編集に使用するボタンです。
※編集するときは、一番下の欄から該当する登録内容の番号を、「番号」欄に入力してから、<編集>ボタンをクリックします。

③番号 …… データを送受信する優先度を順番に番号で指定する欄です。
この欄には、1～16までの半角数字を入力します。
登録できるのは、最大16件までです。
※小さい番号に設定された内容が比較の対象として優先され、設定内容と一致すると、それ以降の番号については比較を行いません。

④接続方法 ……

送受信するデータが登録された内容に一致したとき、その相手先への接続方法を選択します。
「自動発信」を選ぶと、その接続先について自動発信を行います。
「拒絶する」を選ぶと、その条件に一致したとき、データは破棄されます。また、複数の経路が登録されているときは、すべての経路(接続先)に対してこのデータを破棄します。
※ISDNダイヤルアップでご使用のときは、次の点に注意してご使用ください。
「自動発信」のときは、意図しない接続でも通話料の課金が発生しますのでご注意ください。
「手動発信」のときは、あらかじめ対象となる相手先に回線を接続しておいてください。

⑤経路 ……

登録された接続先を選択します。
登録された接続先が複数あるときは、▼印をクリックして選択します。
※リソースルーティング機能を設定しているときは、通常のルーティングの経路よりも、リソースルーティングで設定された経路を優先します。したがって、あらかじめ通常のルーティングで自動接続が設定されている接続先をリソースルーティングの経路に選ぶと、通常のルーティングで設定された自動接続は、解除されます。なお、接続先をメール着信通知機能(参照☞活用ガイド)と同じに選んだ場合、その接続先に対するメール着信通知機能は自動的に停止します。
※[ISDN接続状況]画面において、通常の「自動接続」は、赤色の文字で、「手動接続」は、黒色の文字で[接続方法]欄に表示されますが、リソースルーティングの「経路」に設定されているときは、青色の文字で表示されます。

⑥発信元IPアドレス ……

ソースルーティングを使用するとき、選択した「経路」を使用する発信元端末のIPアドレスを指定する欄です。
一台だけ指定するときは、左のボックスに入力します。
※範囲指定ができますが、端末側のIPアドレスを固定するために、本製品のDHCPスタティック機能を使用するか、手動で端末(クライアント)に割り当てすることをおすすめします。

⑦プロトコル制御 ……

優先ルーティングとして使用する場合、使用プロトコルおよびそのポート番号を指定します。
ポート番号とは、ホスト上のインターネットアプリケーション(FTPやウェブブラウザ)を識別するのに使用する番号で、どのアプリケーションがどのポート番号を使用するかが決められています。
たとえば、メール受信専用に設定するときは、使用プロトコルを「TCP」、ポート番号を「110」に設定します。

3 [リソースルーティング設定]画面

3-2.設定画面について(つづき)

⑧宛先IPアドレスまたはドメイン名 …… 接続先端末のIPアドレス、または特定のドメイン名を指定する欄です。ワイルドカードとして「？」「＊」が使用できます。また、「？」は、任意の1文字、「＊」は任意の文字列として認識されます。

※この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。

※URLフィルターとして使用するときは、この項目と同時に接続方法を「拒絶する」に設定してください。たとえば、[＊.icom.co.jp]を指定した場合は、[www.icom.co.jp]や[pop.icom.co.jp]へのデータが拒絶されます。

⑨設定内容表示用見出し …… リソースルーティングとして設定されている内容を表示します。

⑩〈削除〉ボタン …… このボタンの行に表示する設定内容を消去します。

3-3.設定例について

【右記画面の設定内容】

- [番号]：01
- [接続方法]：自動発信
- [経路]：PPPO1
- [発信元IPアドレス]：192.168.0.10
- [制御プロトコル]：TCP
- [ポート番号]：110
- [宛先IPアドレスまたはドメイン名]：popmail.icom.co.jp

【例1】

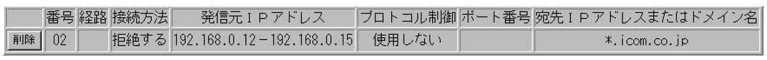
次の画面のように設定すると、192.168.0.10のコンピューターが、popmail.icom.co.jpへのメール受信データだけをPPP01に設定された接続先へ自動接続後、通信を行います。

【右記画面の設定内容】

- [番号]：02
- [接続方法]：拒絶する
- [経路]：PPPO1
- [発信元IPアドレス]：192.168.0.12ー192.168.0.15
- [制御プロトコル]：使用しない
- [ポート番号]：入力しない
- [宛先IPアドレスまたはドメイン名]：＊.icom.co.jp

【例2】

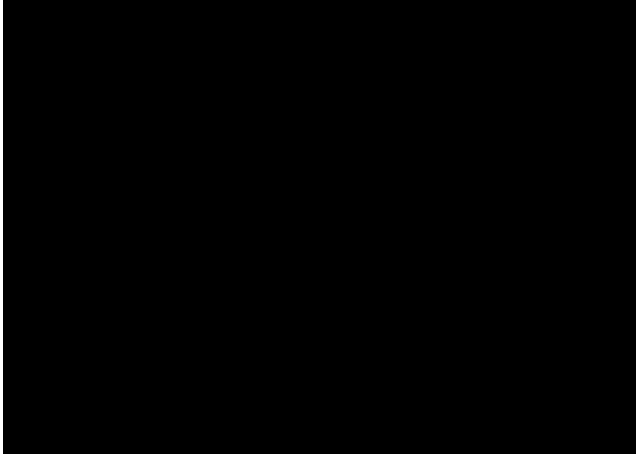
次の画面のように設定すると、特定のコンピューター(192.168.0.12～192.168.0.15)から特定のサーバ(ドメイン名が、icom.co.jp)への通信を拒絶します。
コンピューターのIPアドレスや宛先のドメイン名が、上記と異なる場合は、通信が可能です。



■ご参考に

WEBアクセス(TCP/80)専用やメール受信(TCP/110)専用に設定した状態でも、その前に名前の解決(UDP/53)が発生するときには、既存のルーティングテーブルを使用します。
たとえば、TCP/110で、PPP01をメール受信専用に作成している状態でも、メールサーバへの名前の解決には、既存の自動接続設定にしたがいます。
PPP02が既存の自動接続に設定されているときは、最初にPPP02に自動接続して名前の解決を行ったあとで、PPP01に自動接続されて、メールの受信が行われます。
このような動作を避けるためには、メール用アプリケーションへの受信サーバアドレスの設定をドメイン名ではなく、IPアドレスで行うか本製品の簡易DNSサーバ機能を利用して、受信サーバ名とIPアドレスを事前に設定しておくことで回避できます。
簡易DNSサーバ機能を設定するとき、ご使用になる受信サーバのIPアドレスが不明なときは、本製品に付属のソフトウェア(IP Name☞取扱説明書97ページ)を利用することで、調べられます。

高品質がテーマです。



アイコム株式会社

本　　社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0003	大阪市平野区加美南1-8-35	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

● サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5686 I-3J © 1999 Icom Inc.

追加機能説明書

ファームウェアVer.1.3→1.6対応

リソースルーティング機能

EZ−2000R
DR−1WL

スタティックルーティングに加え、以下のような機能を併せて設定することで、詳細な条件でルーティングが行えます。

- ●発信元IPアドレス情報をもとに、特定の相手と通信できる相手先のコンピューターを限定するソースルーティング機能
- ●特定のプロトコルとポート番号指定することで、特定のアプリケーションデータを優先して送受信することができる優先ルーティング機能
- ●IPアドレスやURL情報をもとに、特定の発信元からのデータを遮断できるURLフィルター機能

■設定画面について

右記の画面は、[ネットワーク設定]をクリックして表示する左のフレームから、[ルーティング設定]をクリックすると表示されます。

※[オープニング画面](☞取扱説明書)が表示されたときは、その画面の〈メニューへ〉ボタンをクリックしてから、上記の操作をします。

⑨	番号	経路	接続方法	発信元ＩＰアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先ＩＰアドレスまたはドメイン名
⑩	01	01：aaa	自動発信	192.168.0.10	ＴＣＰ	110	popmail.icom.co.jp

①〈設定〉ボタン

入力した値を本製品に設定するボタンです。
設定されると、一番下の欄にその内容を表示します。

②〈編集〉ボタン

設定内容が一番下の欄に表示されているときは、その内容を上記画面の各欄に呼び出すことで編集に使用するボタンです。

※編集するときは、一番下の欄から該当する登録内容の番号を、「番号」欄に入力してから、<編集>ボタンをクリックします。

③ 番号

データを送受信する優先度を順番に番号で指定する欄です。
この欄には、1〜16までの半角数字を入力します。
登録できるのは、最大16件までです。

※小さい番号に設定された内容が比較の対象として優先され、設定内容と一致すると、それ以降の番号については比較を行いません。

④ 接続方法

送受信するデータが登録された内容に一致したとき、その相手先への接続方法を選択します。
「自動発信」を選ぶと、その接続先について自動発信を行います。
「拒絶する」を選ぶと、その条件に一致したとき、データは破棄されます。また、複数の経路が登録されているときは、すべての経路(接続先)に対してこのデータを破棄します。

※ISDNダイヤルアップでご使用のときは、次の点に注意してご使用ください。
「自動発信」のときは、意図しない接続でも通話料の課金が発生しますのでご注意ください。
「手動発信」のときは、あらかじめ対象となる相手先に回線を接続しておいてください。

⑤ 経路

登録された接続先を選択します。
登録された接続先が複数あるときは、▼印をクリックして選択します。

※リソースルーティング機能を設定しているときは、通常のルーティングの経路よりも、リソースルーティングで設定された経路を優先します。したがって、あらかじめ通常のルーティングで自動接続が設定されている接続先をリソースルーティングの経路に選ぶと、通常のルーティングで設定された自動接続は、解除されます。なお、接続先をメール着信通知機能(参照+活用ガイド)と同じに選んだ場合、その接続先に対するメール着信通知機能は自動的に停止します。

※[ISDN接続状況]画面において、通常の「自動接続」は、赤色の文字で、「手動接続」は、黒色の文字で[接続方法]欄に表示されますが、リソースルーティングの「経路」に設定されているときは、青色の文字で表示されます。

⑥ 発信元IPアドレス

ソースルーティングを使用するとき、選択した「経路」を使用する発信元端末のIPアドレスを指定する欄です。
一台だけ指定するときは、左のボックスに入力します。

※範囲指定ができますが、端末側のIPアドレスを固定するために、本製品のDHCPスタティック機能を使用するか、手動で端末(クライアント)に割り当てすることをおすすめします。

⑦ プロトコル制御

優先ルーティングとして使用する場合、使用プロトコルおよびそのポート番号を指定します。
ポート番号とは、ホスト上のインターネットアプリケーション(FTPやウェブブラウザ)を識別するのに使用する番号で、どのアプリケーションがどのポート番号を使用するかが決められています。

裏面へつづく

表面からのづづき
たとえば、メール受信専用に設定するときは、使用プロトコルを「ＴＣＰ」、ポート番号を「110」に設定します。

⑧ 宛先IPアドレスまたはドメイン名
接続先端末のIPアドレス、または特定のドメイン名を指定する欄です。
ワイルドカードとして「？」「＊」が使用できます。また、「？」は、任意の1文字、「＊」は任意の文字列として認識されます。
※この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。

※URLフィルターとして使用するときは、この項目と同時に接続方法を「拒絶する」に設定してください。たとえば、[＊.icom.co.jp]を指定した場合は、[www.icom.co.jp]や[pop.icom.co.jp]へのデータが拒絶されます。

⑨ 設定内容表示用見出し
リソースルーティングとして設定されている内容を表示します。

⑩〈削除〉ボタン
このボタンの行に表示する設定内容を消去します。

■設定例1
右の画面のように設定すると、192.168.0.10のコンピューターが、popmail.icom.co.jpへのメール受信データだけをPPP01に設定された接続先へ自動接続後、通信を行います。

【下記画面の設定内容】
- [番号]：01
- [接続方法]：自動発信
- [経路]：PPPO1
- [発信元IPアドレス]：192.168.0.10
- [制御プロトコル]：TCP

	番号	経路	接続方法	発信元ＩＰアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先ＩＰアドレスまたはドメイン名
削除	01	01：ppp01	自動発信	192.168.0.10	ＴＣＰ	110	popmail.icom.co.jp

■設定例2
次の画面のように設定すると、特定(192.168.0.12～192.168.0.15)のコンピューターから特定(ドメイン名が、icom.co.jp)のサーバへの通信を拒絶します。
コンピューターのIPアドレスや宛先のドメイン名が、上記と異なる場合は、通信が可能です。

【下記画面の設定内容】
- [番号]：02
- [接続方法]：拒絶する
- [経路]：PPPO1
- [発信元IPアドレス]：192.168.0.12－192.168.0.15
- [制御プロトコル]：使用しない
- [ポート番号]：入力しない
- [宛先IPアドレスまたはドメイン名]：＊.icom.co.jp

	番号	経路	接続方法	発信元ＩＰアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先ＩＰアドレスまたはドメイン名
削除	02		拒絶する	192.168.0.12－192.168.0.15	使用しない		*.icom.co.jp

■ご参考に
WEBアクセス(TCP/80)専用やメール受信(TCP/110)専用に設定した状態でも、その前に名前の解決(UDP/53)が発生するときには、既存のルーティングテーブルを使用します。
たとえば、TCP/110で、PPP01をメール受信専用に作成している状態でも、メールサーバへの名前の解決には、既存の自動接続設定にしたがいます。
PPP02が既存の自動接続に設定されているときは、最初にPPP02に自動接続して名前の解決を行ったあとで、PPP01に自動接続されて、メールの受信が行われます。

このような動作を避けるためには、メール用アプリケーションへの受信サーバアドレスの設定をドメイン名ではなく、IPアドレスで行うか本製品の簡易DNSサーバ機能を利用して、受信サーバ名とIPアドレスを事前に設定しておくことで回避できます。
簡易DNSサーバ機能を設定するとき、ご使用になる受信サーバのIPアドレスが不明なときは、本製品に付属のソフトウェア(取扱説明書☞IP Name)を利用することで、調べられます。

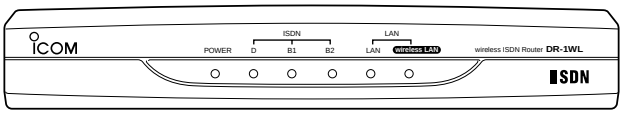
A-8406G-1J © 2000 Icom Inc.

拡張機能ガイド

Firm Ver.1.7以降

Wireless ISDN Router

DR−1WL



本書は、本製品のファームウェアがバージョンアップされたことにより、追加になった機能を補足するためのガイドです。

はじめて本製品をお使いになるときには、[取扱説明書]および[活用ガイド]を先にお読みになってから、本書をお読みください。

Ver.1.6→Ver.1.7以降への主な変更点は、以下の通りです。

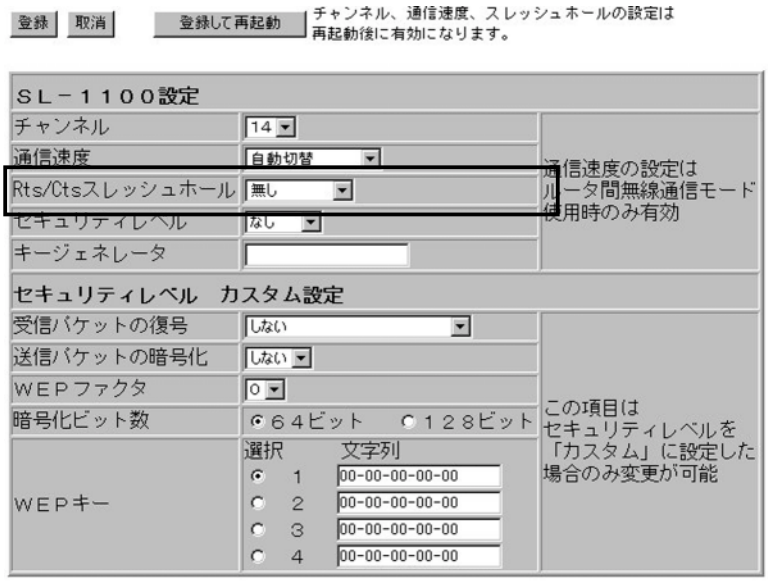
- **RADIUS(Remote Authentication Dial In User Service)に対応**
  LAN内のRADIUSサーバが使用可能
- **Rts/Ctsネゴシエーション機能**

Icom Inc.

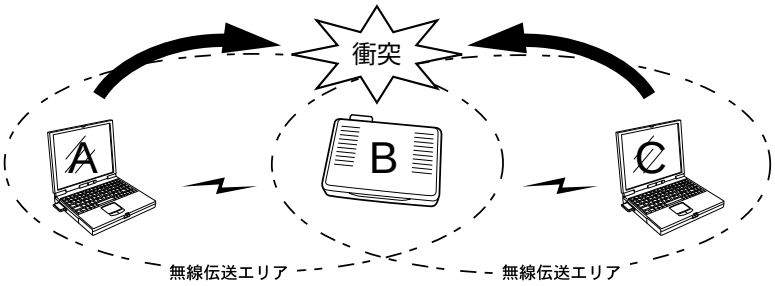
2 [SL-1100詳細設定]画面

■ 設定画面について

右記の画面は、[各種設定管理]をクリックして表示する左のフレームから、[無線LAN設定]をクリックします。さらに、右のフレーム内にある〈SL-1100詳細設定〉ボタンをクリックすると表示されます。
※[オープニング画面](☞取扱説明書)が表示されたときは、その画面の〈メニューへ〉ボタンをクリックしてから、上記の操作をします。



Rts/Ctsスレッシュホール …… ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。　(初期値：無し)
Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールを設定すると、隠れ端末の影響で起こる通信速度の低下を防止できます。
隠れ端末とは、図のように、[A]と[C]の無線端末間では、互いの送信信号を受信できないので、これらを隠れ端末と呼びます。「インフラストラクチャ」モードの場合、隠れ端末が存在すると、キャリアセンス(Carrier Sense)がそれらの無線端末に有効に機能しないため、[B]の無線ルータで通信の衝突頻度が増加して、スループット(一定時間内に伝送される情報量)が低下します。
通信の衝突を防止するには、[B]の無線ルータが送信要求(Rts)信号を送信してくる相手に送信可能(Cts)信号を送ることで、無線伝送エリア内にある[A]および[C]の無線端末にCts信号が届くようになり、[B]の無線ルータが通信中は、[A]または[C]の無線端末しか[B]の無線ルータにアクセスができないようにして、通信の衝突を防止できます。



4-1.RADIUSとは

リモートアクセスで着信するユーザの認証などを本製品自身ではなくLAN側に置いたコンピューターに行わせることで、管理できる着信ユーザ数をさらにふやすために利用されます。このとき、本製品をRADIUSクライアント、認証用のコンピューターをRADIUSサーバと呼びます。

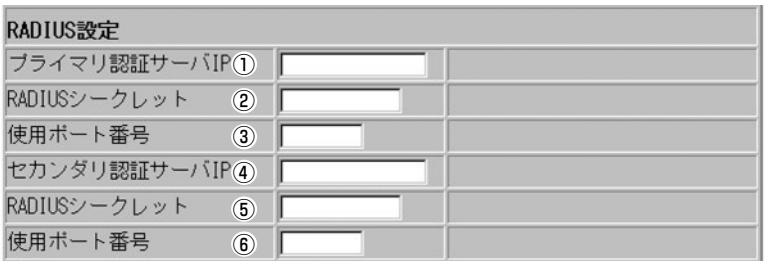
●認証について

本製品に着信するユーザの認証をRADIUSサーバによって一括管理します。また、本製品を複数で使うときなども、すべてのユーザ認証をRADIUSサーバに登録することによって一括管理できます。

本製品の[回線接続設定]画面(活用ガイド参照)で登録できる着信ユーザ数は、最大20件までですので、RADIUSサーバで管理することで、着信ユーザ登録件数をさらに増やせます。

4-2.設定画面について

右記の画面は、[ネットワーク設定]をクリックすると、右のフレームに表示されます。
※[オープニング画面](☞取扱説明書)が表示されたときは、その画面の〈メニューへ〉ボタンをクリックしてから、上記の操作をします。



①プライマリ認証サーバIP …… 最初に認証を行うRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。
IPアドレスは、×××.×××.×××.×××の形(×：数字)で入力します。

②RADIUSシークレット …… プライマリとしてRADIUSサーバに設定している秘密鍵と同じ文字列を入力します。

③使用ポート番号 …… プライマリRADIUSサーバ側のUDPポートを指定するとき、その番号を入力します。
何も入力しないと、「1812」がUDPポートとして設定されます。

④セカンダリ認証サーバIP …… プライマリRADIUSサーバで認証できないとき、次に問い合わせを行うRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。
入力の形は、プライマリ認証サーバアドレスのときと同じです。

⑤RADIUSシークレット …… セカンダリとしてRADIUSサーバに設定している秘密鍵と同じ文字列を入力します。

⑥使用ポート番号 …… プライマリRADIUSサーバ側のUDPポートを指定するとき、その番号を入力します。
何も入力しないと、「1812」がUDPポートとして設定されます。

4-3.設定例について

【ルータの条件】

リモートアクセス用IPアドレス

- 192.168.0.100
- 192.168.0.101

認証プロトコル

- RADIUS

【着信ユーザの条件】

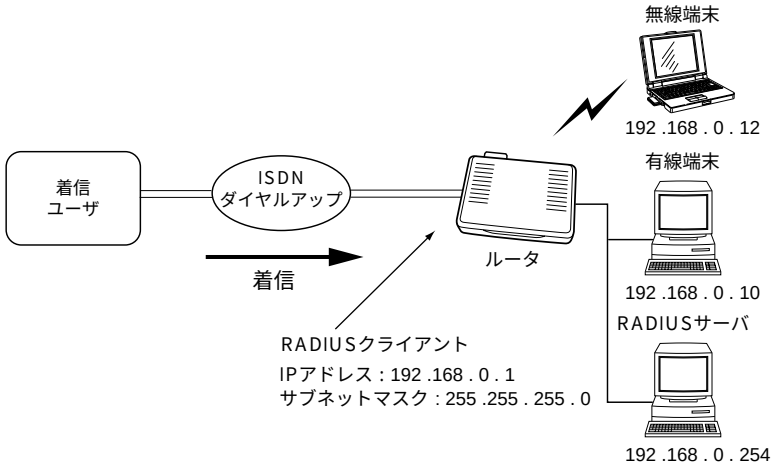
- ISDNダイヤルアップ接続
- PPPソフトのインストール
- TAまたはISDNカードの装着

【RADIUSサーバの認証条件】

ユーザ着信を許可するユーザのIDとパスワードが登録している

操作前の状態

本製品に外部からダイヤルアップを行ってきたユーザに対して、本製品がネットワーク上のRADIUSサーバ(UNIX、WindowsNT)に認証を求めます。そのユーザの着信を許可するかどうかを、そのサーバが応答する場合の設定例を説明します。
なお、クライアントとサーバ間は、TCP/IPで接続できることが前提です。



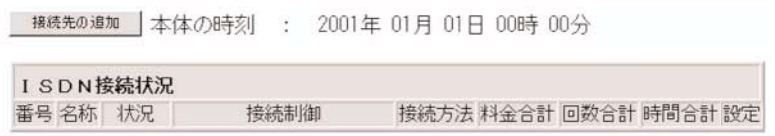
接続先として、リモートアクセスして着信してくるユーザの設定を追加します。

【手順】

1.[ISDN接続状況]画面の表示

[操作]

WWWブラウザを起動して、http://192.168.0.1をURLに指定します。



2.新規接続先画面の表示

※リモートアクセス用として、接続先を追加します。

①〈接続先の追加〉をクリック

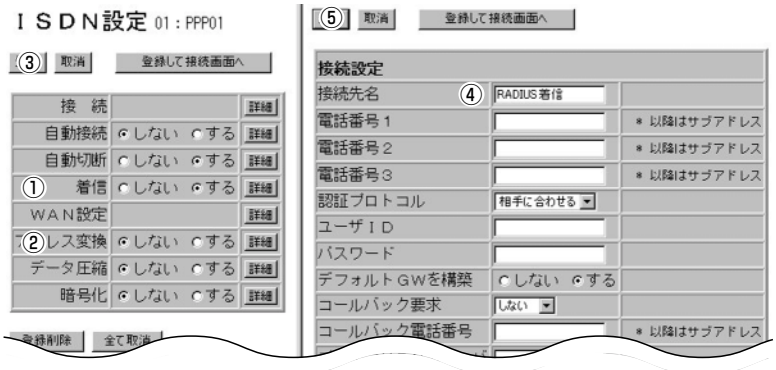
3.着信、アドレス変換、着信ユーザ名称の設定

[操作]

①着信〈する〉をクリック
②アドレス変換〈しない〉をクリック
③〈登録〉をクリック

[設定例]

④RADIUS着信(任意でよい)
⑤〈登録〉をクリック



4.着信詳細設定

[操作]

①〈詳細〉をクリック

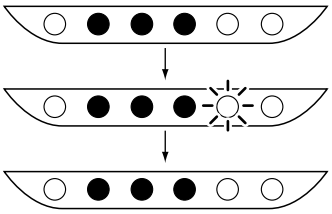
②電話番号チェック〈しない〉をクリック

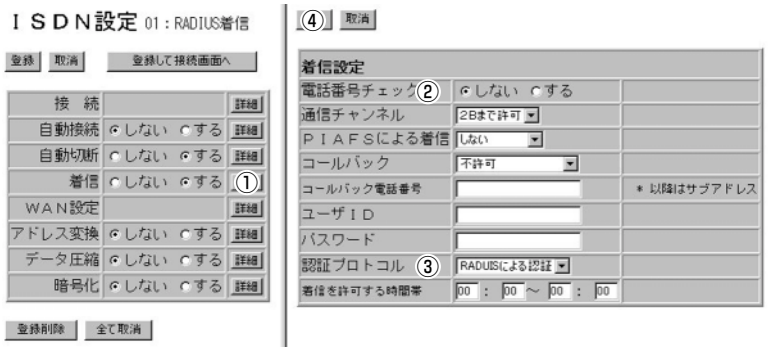
[確認]

③認証プロトコル
RADIUSによる認証
※RADIUSによる認証を選ぶと、この項目の上にあるユーザIDとパスワードを設定しても無効です。

[操作]

④〈登録〉をクリック





登録後、次の画面で、設定内容を確認します。

5.リモートアクセス用IPアドレスの設定

[操作]

①[ネットワーク設定]をクリック

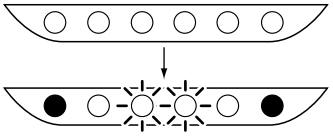
②リモートアクセスサーバを使用〈する〉をクリック

[設定例]

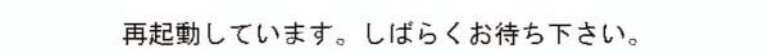
③192.168.0.100

④192.168.0.101

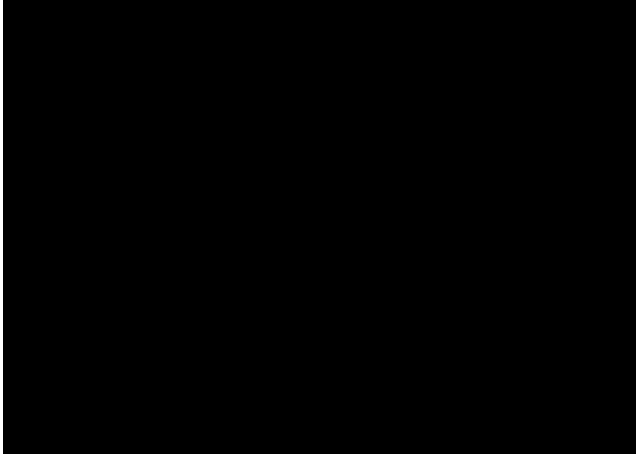
⑤〈登録して再起動〉をクリック



6.設定画面を閉じる。



高品質がテーマです。



アイコム株式会社

本　　社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

● サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5686 I-3J-① © 1999 Icom Inc.